

# 行田市産業交流拠点整備基本計画

平成 29 年 3 月



# 目 次

第1章 はじめに .....	1
1. 計画の背景と目的 .....	1
2. 計画の位置づけ .....	2
第2章 現状把握 .....	3
1. 上位計画及び関連計画の整理 .....	3
(1) 行田市都市計画マスタープラン .....	3
(2) 行田市産業振興ビジョン .....	5
(3) 行田市産業交流拠点整備調査研究 .....	9
(4) 行田市産業交流拠点整備基本構想 .....	11
2. 立地条件の整理 .....	13
(1) 位置 .....	13
(2) 交通条件 .....	14
(3) 産業特性 .....	18
(4) 人口の流動と滞在状況 .....	25
(5) 土地利用状況 .....	26
(6) 生活関連施設の立地状況 .....	27
3. 制約条件の整理 .....	31
(1) 都市計画法関連 .....	31
(2) 災害関連 .....	33
4. 事業者ヒアリング .....	36
(1) ヒアリングの概要 .....	36
(2) ヒアリング意見内容 .....	36
(3) ヒアリングのまとめ .....	38
5. 市民意向調査 .....	39
(1) 調査概要 .....	39
(2) 調査結果 .....	39
6. 市外利用者意向調査 .....	74
(1) 調査概要 .....	74
(2) 調査結果 .....	74
第3章 対象地の選定と課題 .....	95
1. 対象地の選定 .....	95
(1) 対象地の選定 .....	95
(2) 対象地の条件整理 .....	97

(3) 対象地周辺の状況 .....	98
2. 課題の整理 .....	99
(1) ニーズ分析 .....	99
(2) 課題の整理 .....	103
3. ターゲットの設定 .....	105
(1) ターゲットの設定 .....	105
(2) ターゲット別需要量の算出 .....	106
<b>第4章 整備の方針 .....</b>	<b>113</b>
1. 整備にあたっての基本的な考え方 .....	113
(1) 基本的な考え方 .....	113
(2) 道の駅部分の整備手法 .....	115
2. 整備コンセプト .....	116
(1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト .....	116
(2) ソーン別テーマの設定 .....	117
3. 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ .....	118
4. エリアの考え方と施設機能 .....	119
(1) エリアの考え方 .....	119
(2) 施設機能別の整備方針 .....	121
(3) 施設規模の検討 .....	128
<b>第5章 管理運営の方針 .....</b>	<b>132</b>
1. 施設整備・管理運営の手法 .....	132
2. 機能別の管理運営手法 .....	141
<b>第6章 施設配置の方針 .....</b>	<b>142</b>
1. ソーニング・動線の方針 .....	142
2. 施設配置の方針 .....	143
<b>第7章 産業交流拠点の実現に向けて .....</b>	<b>144</b>
<b>資料 .....</b>	<b>145</b>
行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会開催概要 .....	145
(1) 委員名簿 .....	145
(2) 開催日及び検討内容 .....	146
(3) 会議録及び会議資料 .....	147



# 第1章 はじめに

## 1. 計画の背景と目的

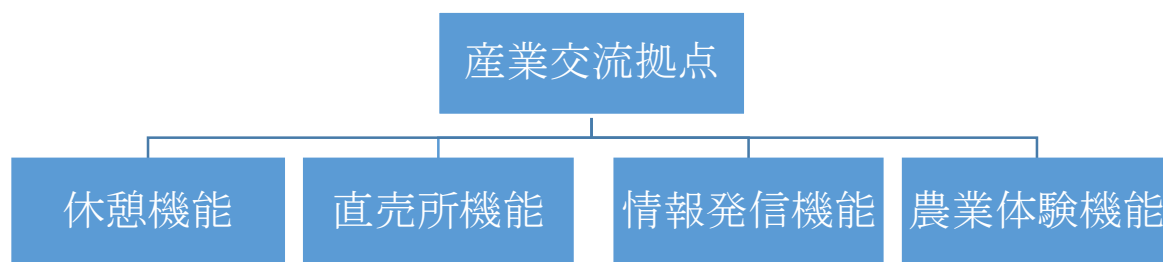
本市では平成 27 年度に、地域商圈を活かした広域交流拠点の整備に向け『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』を実施しました。同調査では前提条件の整理、市民や各種団体への意向調査等を行ったうえで、対象地の選定、産業交流拠点整備の基本的な考え方の整理を行いました。

また、同年度中に、『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』を踏まえて、施設整備方針、運営方針を明確にすることを目的に、『行田市交流拠点整備基本構想』を策定しました。

『行田市産業交流拠点整備基本計画』では、『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』及び『行田市交流拠点整備基本構想』を踏まえ、外部の有識者を交えた検討委員会において、施設整備方針等を再度整理するとともに、運営管理の方針、施設配置の方針を明らかにすることを目的とします。

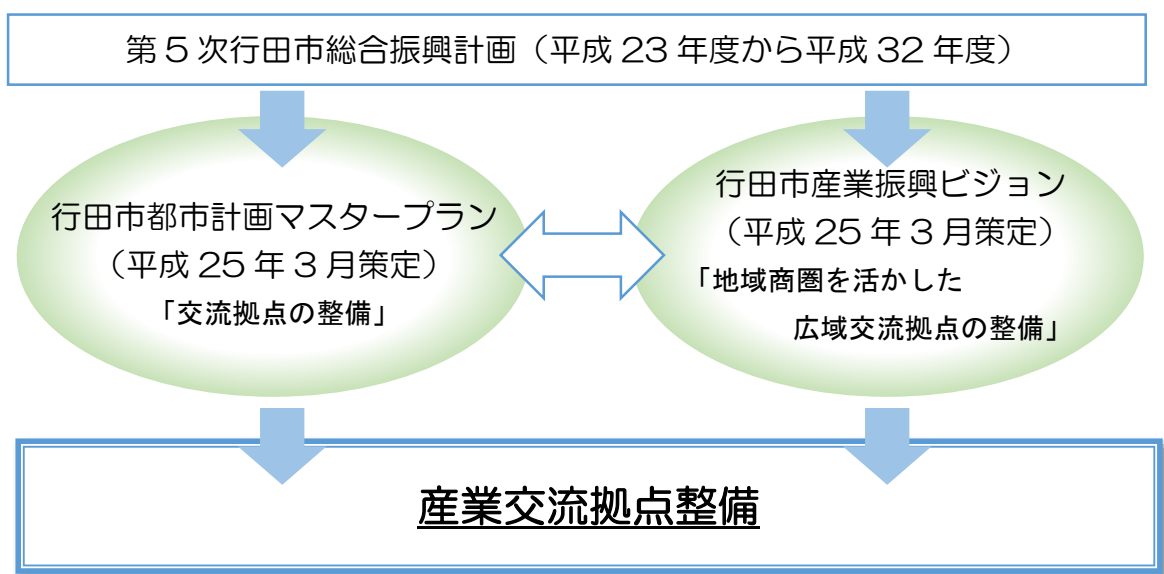
### 産業交流拠点とは・・・

本市では、『行田市産業振興ビジョン（平成 25 年 3 月策定）』において、地域商圈を活かした広域交流拠点の整備を掲げており、新たな雇用や賑わいの創出、地域経済の活性化を図るため、農業・商業・工業・観光等の各産業が有機的に連携・交流する拠点として、道の駅を基本とする多機能な複合施設を「産業交流拠点」と称しています。



## 2. 計画の位置づけ

産業交流拠点は、第5次行田市総合振興計画に基づく個別計画として、『行田市都市計画マスタープラン』において「交流拠点の整備」が位置づけられているとともに、『行田市産業振興ビジョン』において「地域商圏を活かした広域交流拠点の整備」としての位置づけがされています。



## 第2章 現状把握

### 1. 上位計画及び関連計画の整理

#### (1) 行田市都市計画マスタープラン

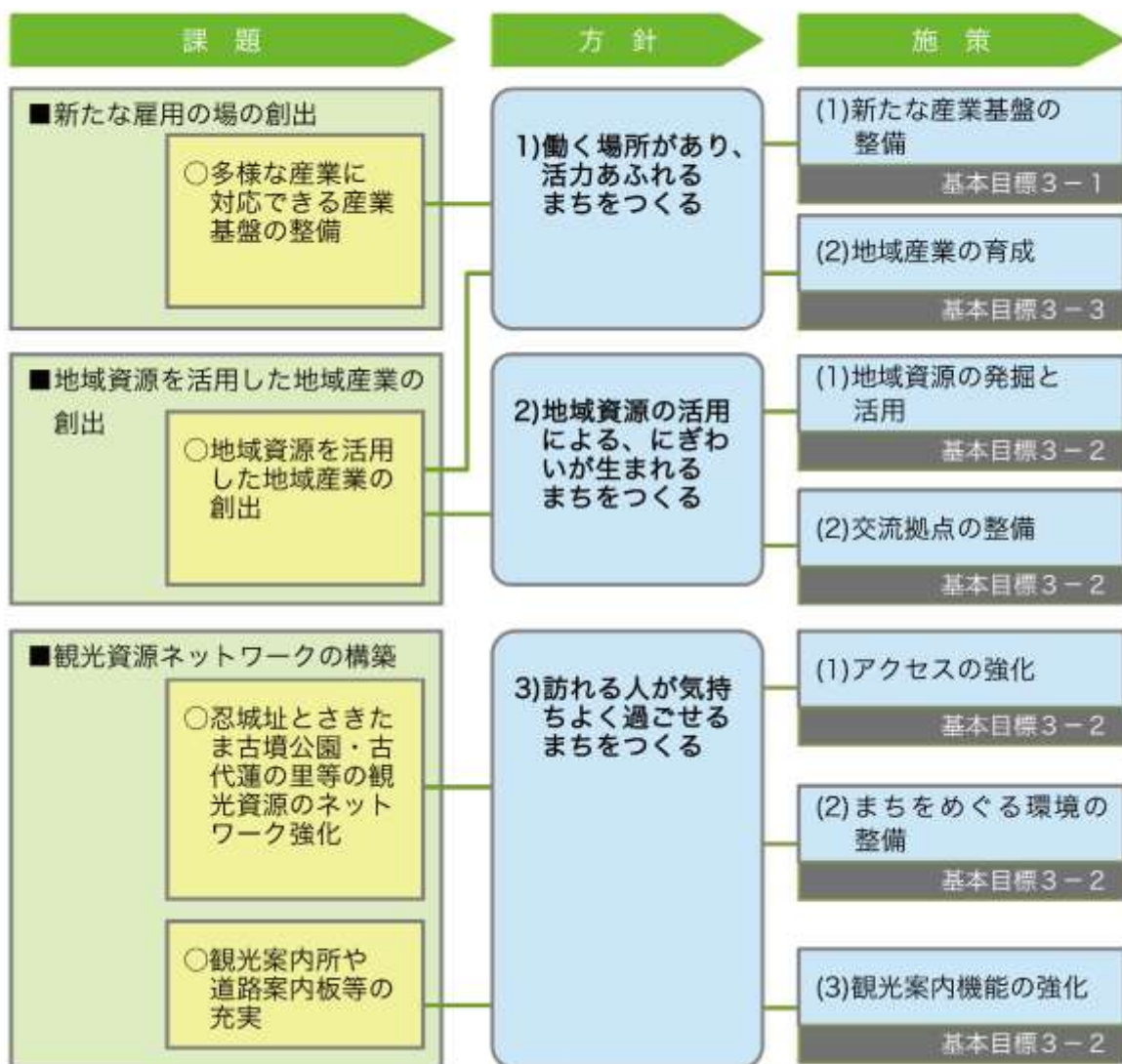
##### 産業振興・交流に関する方針

行田市都市計画マスタープランでは産業振興・交流に関する方針として、

- 1) 働く場所があり、活力あふれるまちをつくる
- 2) 地域資源の活用による、にぎわいが生まれるまちをつくる
- 3) 訪れる人が気持ちよく過ごせるまちをつくる

の3つの方針を掲げ、方針に基づいた具体的な施策及び構想図を示しています。

##### ■ 産業振興・交流に関する体系図



資料：行田市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月）

## 産業振興・交流に関する構想図



資料：行田市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月）

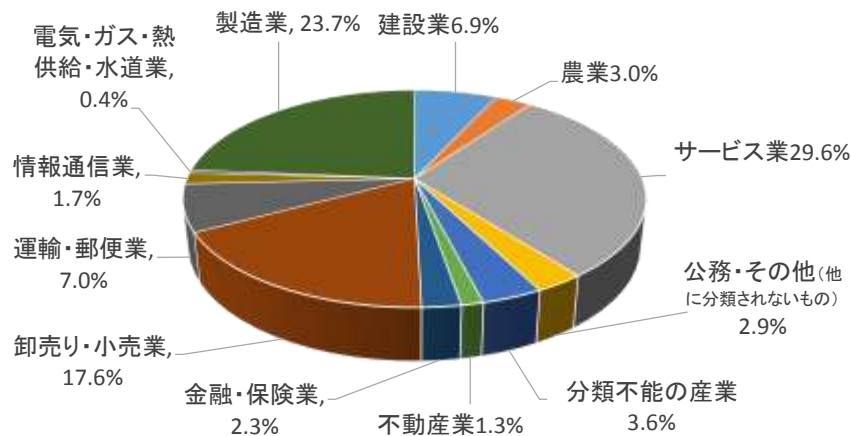
## (2) 行田市産業振興ビジョン

行田市産業振興ビジョンでは、【「ひとの元気」「地域の元気」「まちの元気」】のスローガンのもと、産業振興施策を設定しています。

### 産業の現状

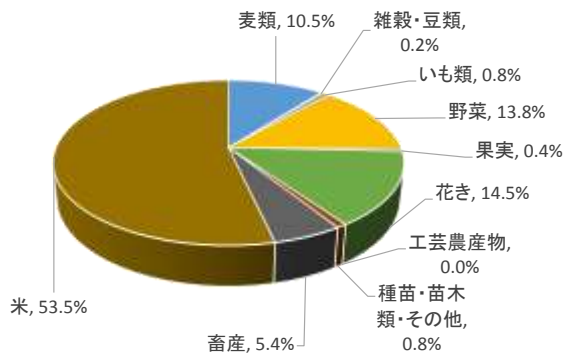
本市の産業構造はサービス業、製造業及び卸売・小売業の3分野で全体の約70%を占めています。また、産業別の従業者数については、増加傾向にあります。2次産業の事業所数及び従業者数は減少傾向にあります。

#### ■行田市の産業別内訳割合



#### ■行田市の地域資源

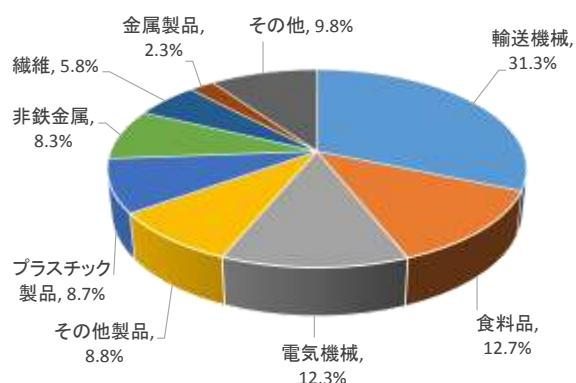
##### □品目別農業算出割合



##### □行田市で毎年開催されるイベント







##### □主な産業別製造品出荷額の割合





## 産業別の将来像と戦略について

農業	商業
<p>○将来像</p> <p>安心・安全な 農産物を供給できる農業の育成</p>	<p>○将来像</p> <p>人の行き交う 賑わいのある商業地区の創出</p>
<p>○戦略</p>  <p>The diagram for Agriculture shows three strategies in a circle. Strategy 1 (orange) is 'Stabilization and Revitalization of Management' (経営の安定・活性化), focusing on strengthening management and training successors. Strategy 2 (green) is 'Strengthening of Production Base' (経営・生産基盤の整備), focusing on improving production efficiency and regional branding. Strategy 3 (purple) is 'Promotion of Local Specialty Products' (特色ある地域産業の推進), focusing on local branding and green tourism. Each strategy has specific implementation measures listed below it.</p>	<p>○戦略</p>  <p>The diagram for Commerce shows three strategies in a circle. Strategy 1 (orange) is 'Revitalization of Existing Stores' (既存商店の活性化), focusing on supporting existing stores and training successors. Strategy 2 (green) is 'Connection with Local Producers' (地場産物との連携), focusing on supporting local producers and utilizing local products. Strategy 3 (purple) is 'Countermeasures for Empty Stores' (空き店舗対策), focusing on supporting empty stores and providing information. Each strategy has specific implementation measures listed below it.</p>
工業	観光
<p>○将来像</p> <p>ものづくり産業を 中心とした地域産業の振興</p>	<p>○将来像</p> <p>歴史と文化、水と緑の 魅力ある観光の振興</p>
<p>○戦略</p>  <p>The diagram for Industry shows three strategies in a circle. Strategy 1 (orange) is 'Strengthening of Existing Enterprises' (既存企業の経営基盤強化), focusing on supporting existing enterprises and training successors. Strategy 2 (green) is 'Enterprise Attraction' (企業誘致), focusing on attracting new enterprises and utilizing vacant industrial sites. Strategy 3 (purple) is 'Promotion of Environment and Energy Industry' (環境・エネルギー産業の育成), focusing on promoting environment and energy industries. Each strategy has specific implementation measures listed below it.</p>	<p>○戦略</p>  <p>The diagram for Tourism shows three strategies in a circle. Strategy 1 (orange) is 'Strengthening of Tourism Infrastructure' (観光体制の整備), focusing on improving tourism infrastructure and understanding local history and culture. Strategy 2 (green) is 'Promotion of Tourism Infrastructure and PR' (観光動線構築とPR), focusing on improving tourism infrastructure and promoting the area. Strategy 3 (purple) is 'Provision of Diverse Content' (多様なコンテンツの提供), focusing on providing diverse content and utilizing local resources. Each strategy has specific implementation measures listed below it.</p>

## 各産業(農業、商業、工業、観光業)の連携について

### 【将来像】

#### 地域資源を活用した農商工連携による新産業の創出

活力ある経済社会を構築するには、地域経済の中核をなす中小企業者や農林漁業者の活性化を図ることが重要です。そのためには、中小企業者や農林漁業者が一次、二次、三次の産業の壁を越えて有機的に連携し、互いの有するノウハウ・技術等を活用することで、両者の有する強みを発揮した新商品の活用や販路開拓等を促進することが重要です。そこで各産業の連携におけるビジョンとして『地域資源を活用した農商工連携による新産業の創出』を掲げ、2つの戦略を挙げます。戦略①として「地域商圈を活かした広域交流拠点の整備」、戦略②として「地域ブランド商品の開発」です。

### 戦略①「地域商圈を活かした広域交流拠点の整備」

#### ア) 核となる施設の整備

農商工連携による新産業の創出のためには、行田市を中心とした地域商圈を対象として、行田市の特性を活かした独自性のある拠点施設の整備を検討する必要があります。そこで国道125号バイパス沿道の土地利用について、125号バイパス沿いに各産業の交流拠点の整備を検討します。

例えば、産直市場、手づくり市、就業体験施設、アート工房等、農・商・工業の枠にとらわれず、観光やNPO団体など、広く連携・交流できる開かれた場所となることを目指します。

コミュニティビジネスを展開することにより、地域の問題解決のために、新しいビジネスの場を提供し、地域における創業の機会や地域の雇用を拡大する効果が生まれます。

さらには、これらのことが地域経済や社会の活性化に繋がることも期待されることから、NPO等と連携し、コミュニティビジネスの支援を図ります。

#### イ) 地域資源の発掘

独自性のある産業拠点を整備するには、消費動向等、市民のニーズを理解した上で、行田市の特性を把握する必要があります。このような消費動向やニーズをもとに、地産地消を目指した地域資源の発掘を推進します。

#### ウ) 連携・交流のための人材発掘

各産業や種々の業種業態の連携・交流を促すためには、これを繋ぐ人材の発掘が必要となります。行田市では、様々な分野から人材を発掘し、産業の連携・交流の促進を図ります。

## ■広域交流拠点検討地域



資料：行田市産業振興ビジョン（平成25年3月）

## 戦略②「地域ブランド商品の開発」

ア) 統一されたコンセプト作り

既存の地域資源（ホンモロコ、青大豆、米、ハス、足袋等）を再評価することで地域資源を発掘し、行田市の新しい特性を見つけます。また地域ブランドの開発は、他の自治体でも推進されており、地域の特性を出して、他の自治体の地域ブランドと差別化を図っていく必要があります。このような既存の地域ブランドや新たな地域ブランドを統一的なコンセプトの下に集約し、まち全体のブランドとして推進します。

## イ) ターゲットの設定

現代の多様な消費者の欲求を満たすには、広く一般受けする商品開発よりも、一部のコアな消費者に満足を与える商品開発が必要となります。そのためには「何を売るか」よりも「誰に売るか」を明確にする必要があります、このターゲットのニーズを調査して満足度の高い商品開発を推進します。

### ウ) 民間との連携による商品開発

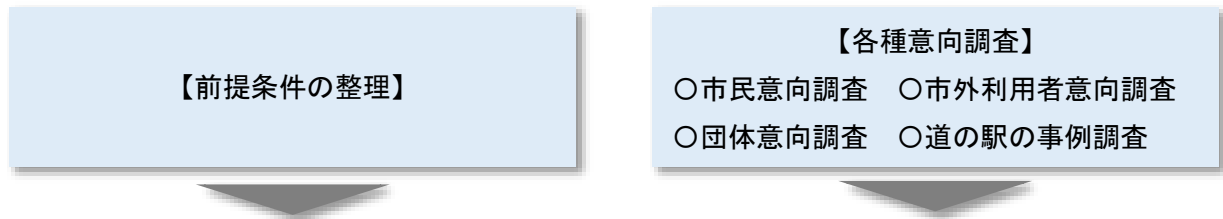
ターゲットの設定によって、消費者の満足度を高めるためには、消費者ニーズを十分に探求し、消費者ニーズに合致した商品開発をしていく必要があります。そのために民間企業や市民との協力関係の下、地域の独自性ある商品の開発を行っていきます。また、民間企業だけでなく、ものづくり大学による学術・技術支援等、産学の連携によって新商品の開発を目指します。



### （３）行田市産業交流拠点整備調査研究

『行田市産業振興ビジョン』に定められた「地域商圈を活かした広域交流拠点の整備」に向けて、立地条件、制約条件といった前提条件の整理に加え、各種意向調査を実施しました。

そこから課題を抽出・整理し、ターゲットの設定、コンセプトの設定等、整備に向けた基本的な考え方の整理を行いました。

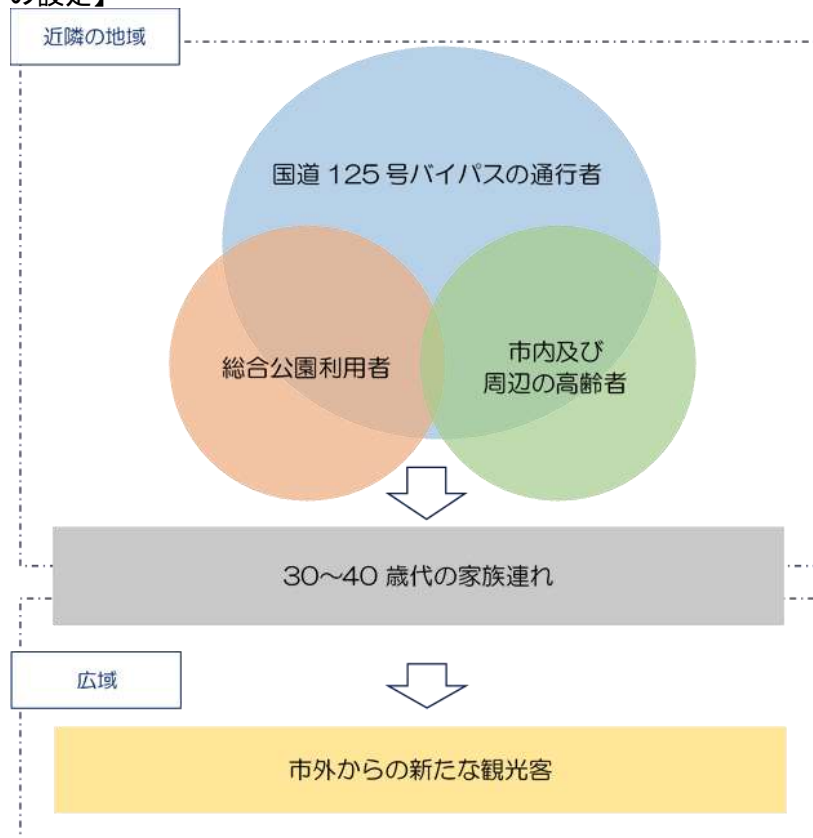


#### ■課題の整理

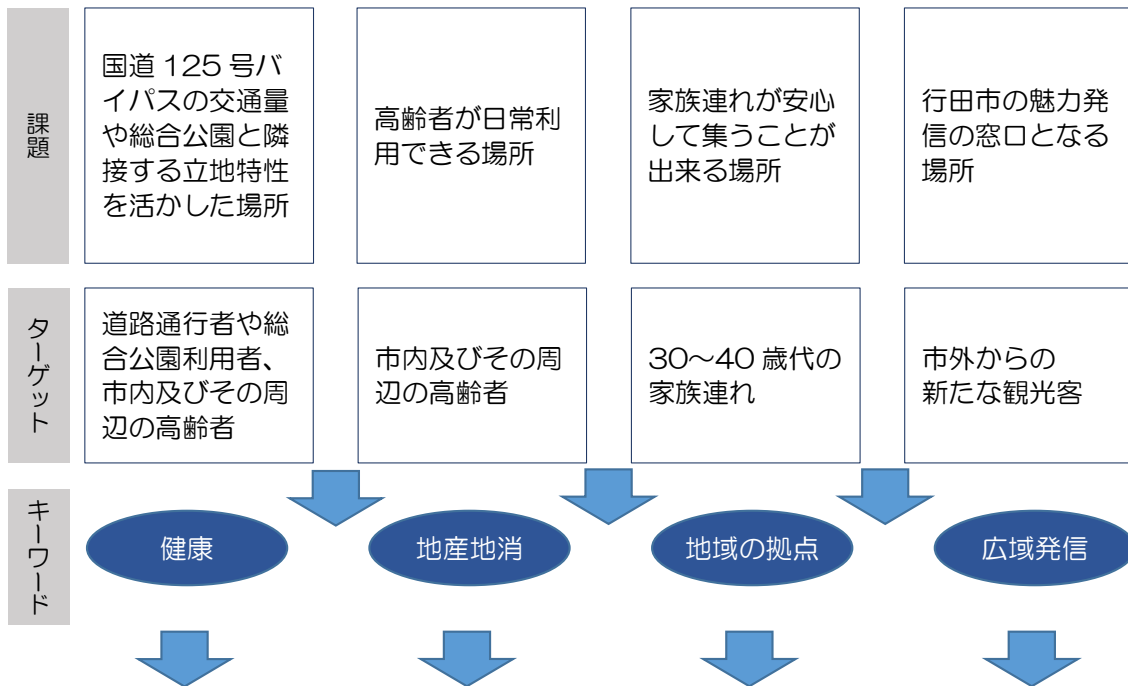
- 前面道路（国道 125 号バイパス）の交通量の多さや  
行田市総合公園と隣接する立地特性を活かした場所が求められます。
- 高齢者が日常から利用できる場所が求められます。
- 家族連れが安心して集うことができる場所が求められます。
- 行田市の魅力発信の窓口となる場所が求められます。

#### ■基本的な考え方の整理

##### 【ターゲットの設定】



## 【コンセプトの設定】



“健康”をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から  
広域的な行田まるごと情報発信拠点へ

“健康”をテーマとし、3つの機能を内包した産業交流拠点を形成します！

- ①地域のひと、もの、かねが循環する産業拠点機能
- ②地域の人の生活・福祉を支援する生活交流拠点機能
- ③広域的な行田まるごと情報発信拠点機能

#### （４）行田市産業交流拠点整備基本構想

『行田市産業交流拠点整備基本構想』では、『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』を踏まえ、施設を「産業交流拠点ゾーン」、「生活交流拠点ゾーン」、「情報発信拠点ゾーン」の３つに分け、それぞれのゾーンの整備方針や導入施設の検討を行っています。

また、本市の強み、弱みを踏まえた経営戦略、運営主体、整備手法等の検討を行っています。

##### ■整備方針

###### 【全体整備方針】

- 周辺の自然と一体となった、ゆとりある空間づくり
- 賑わいあふれる空間づくり
- 行田市総合公園と連携した空間づくり
- 一体感のある空間づくり

###### 【ゾーン別整備方針】

###### ①産業交流拠点ゾーン

- 行田市総合公園との連携を考慮して、休憩施設や飲食施設などを整備し、公園利用後に立ち寄ることができるゾーン
- 遠方から道の駅に立ち寄る方だけでなく、周辺に住んでいる方からも利用される物産館や直売所等の機能をもったゾーン

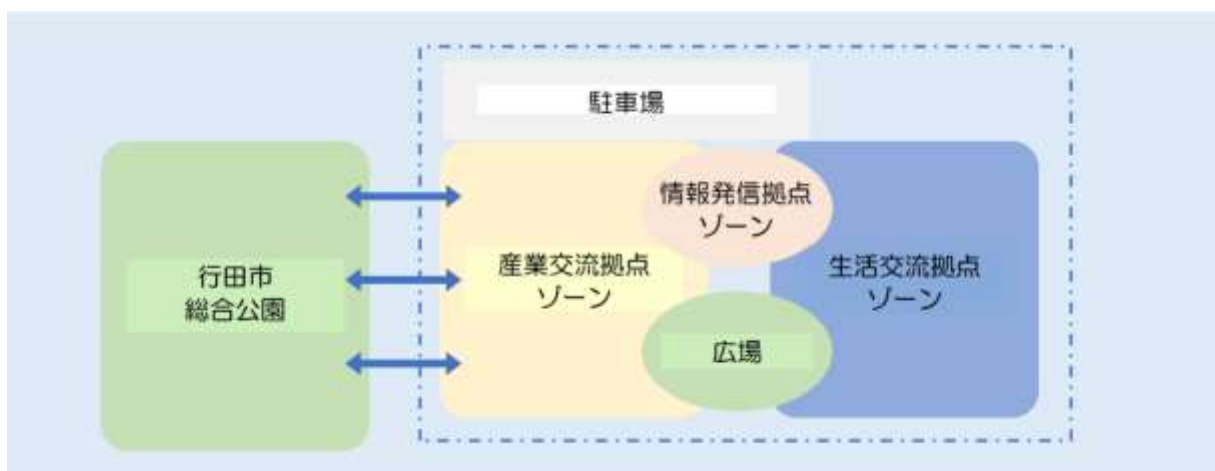
###### ②生活交流拠点ゾーン

- 医療・福祉施設や防災等、市民をはじめとした利用者が安心して毎日を過ごすための機能を整備したゾーン

###### ③情報発信拠点ゾーン

- 市内の観光やイベント情報が集まる窓口となるゾーン

##### ■ゾーンイメージ



## ■検討した経営戦略（抜粋）

### ①施設整備における戦略

- 国道 125 号バイパスの交通量は、23,600 台／日となっており、交通量を活かした休憩や飲食等による日常的な集客力の向上を図ります。
- 対象地が行田市総合公園に隣接している立地特性を活かし、総合公園と連携した取組みや、飲食施設、物販施設、休憩施設等を整備することで、総合公園の利用者からの集客力を高めます。

### ②施設運営における戦略

- 施設の運営は、「商売」が苦手な行政を初めとする公的主体ではなく、経営力のある企業や団体、人材など民間の経営力を活用します。
- 公募により外部から民間の施設運営企業を誘致する方針とします。

### ③商品確保における戦略

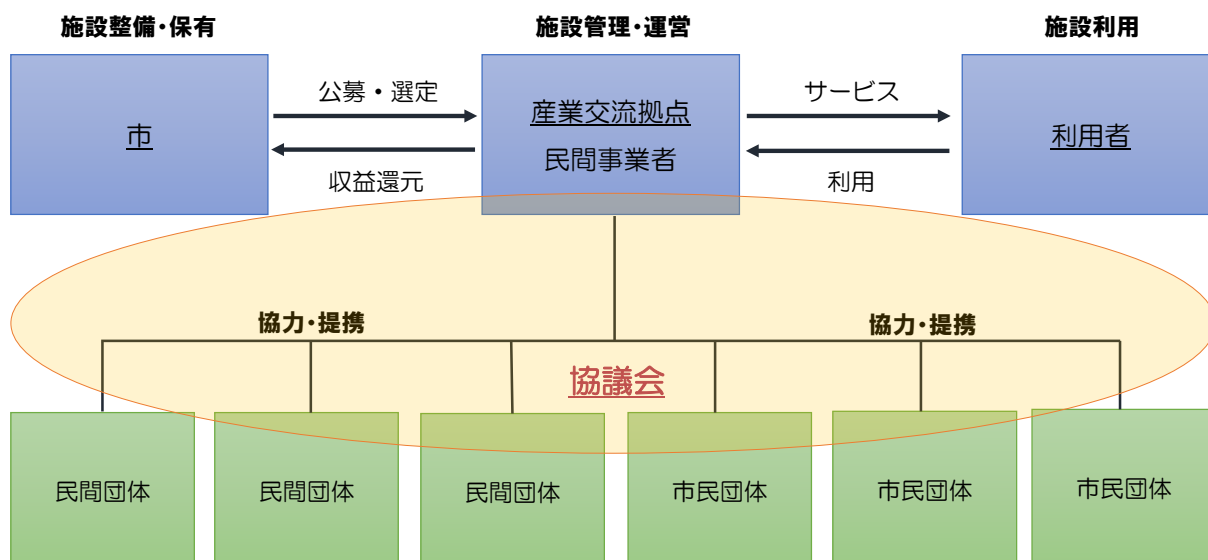
- 農産物の供給に関しては出荷者の対象を広範囲に設定し、需要に応じて供給できる体制を整えます。
- 周辺の道の駅との差別化を図るため地元農家との連携した仕入れ方法、販売方法等を工夫します。

### ④サービスにおける戦略

- 日常的な昼食、夕食等のニーズに対応した商品企画・構成、価格帯とするとともに、テイクアウト等のサービスを提供します。
- 地域情報の発信や広場を活用した地域イベントの開催など、周辺住民のためのサービス展開を重点的に実施します。

等

## ■施設運営体制案

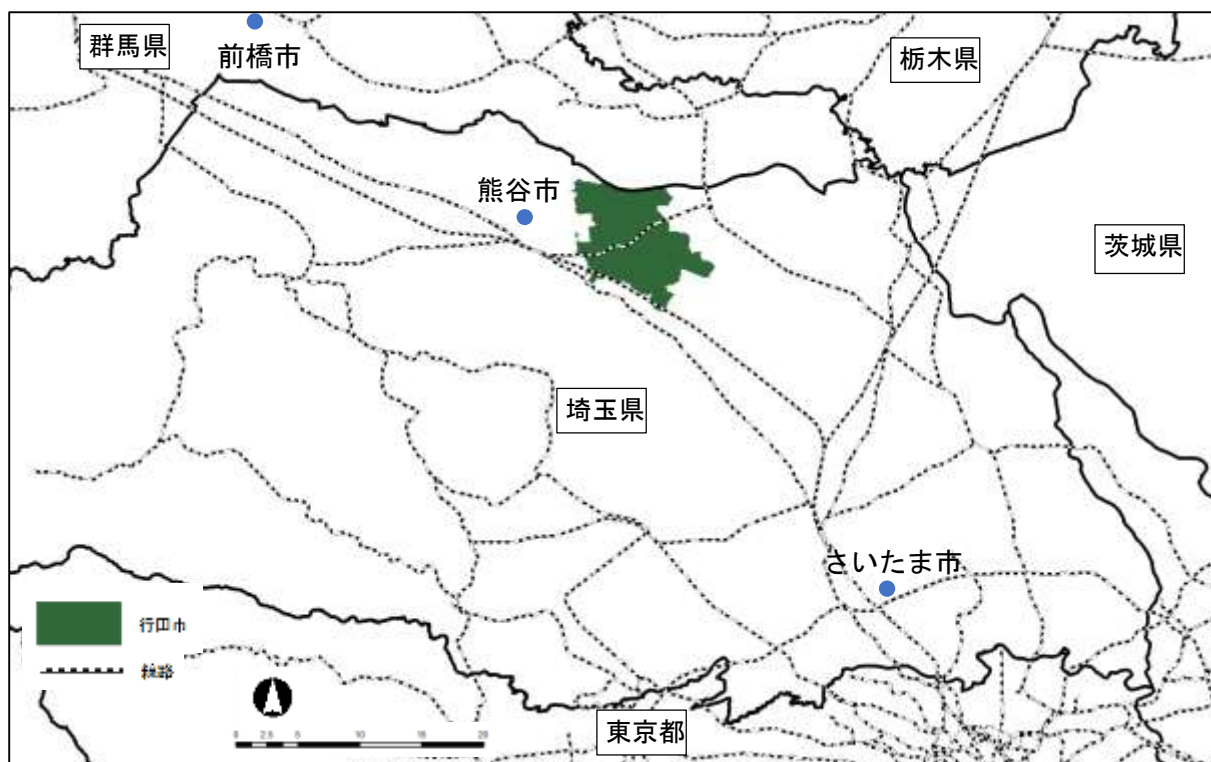


## 2. 立地条件の整理

### (1) 位置

東京都心から北北西に約 60 k m、埼玉県北東部に位置し、北は利根川を境として群馬県に、東は羽生市、加須市、西は熊谷市、南は鴻巣市に隣接しています。平成 18 年 1 月には北埼玉郡南河原村と合併し、市域は東西 11.4km、南北 11.9km、面積は 6,749ha となっています。

■行田市の位置図



## ①交通ネットワーク

道路交通は、国道 17 号バイパスと国道 17 号がさいたま市及び熊谷市、前橋市方面を連絡し、国道 125 号バイパスと国道 125 号が熊谷市、加須市方面を結んでおり、関越自動車道、東北縦貫自動車道、首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という）等へ容易にアクセスできます。

鉄道交通は、J R 高崎線が都心、高崎方面を、秩父鉄道が羽生、秩父方面を連絡しています。

Legend:

- 国道（供用中）
- 県道（供用中）
- 市道（供用中）
- 都市計画道路（計画路線）
- 鉄

Scale: 0 1 2 3 4 5 km

資料：行田市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月現在）



## ②交通量

平成 22 年度道路交通センサス（国土交通省）より市内の主要道路の交通量を比較すると、国道 125 号バイパスの交通量が最も多いことがわかります。特に、7～8 時台と 17～18 時台においては、小型車の交通量が多くなっています。また、大型車は 10～11 時台、14～15 時台の交通量が多くなっています。

### ■交通量調査地点及び上り下り両側交通量総数

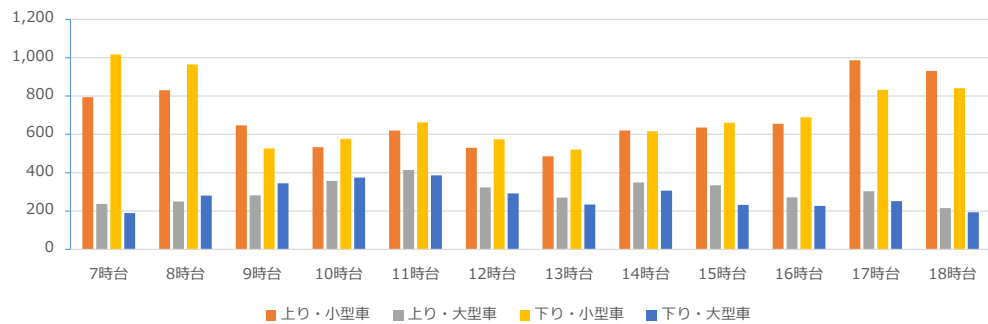


資料：平成 22 年度道路交通センサス（国土交通省）

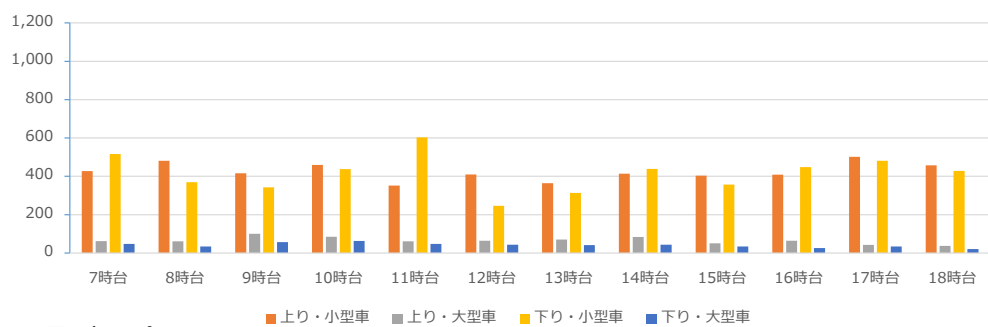
■ 交通量調査地点ごとの時間帯別交通量

① 国道 125 号バイパス

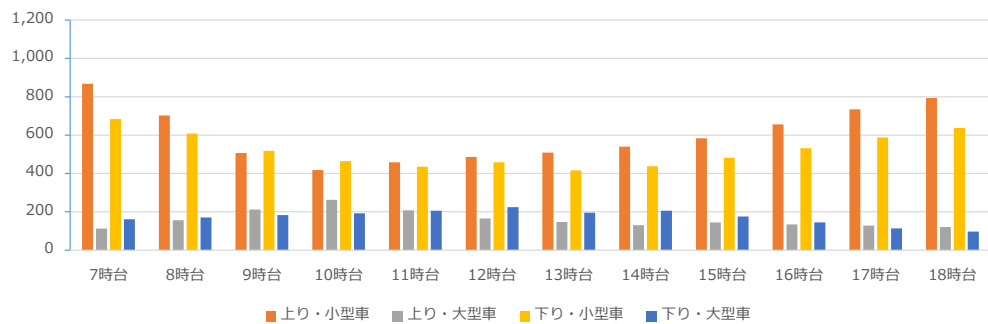
資料：平成 22 年度道路交通センサス（国土交通省）



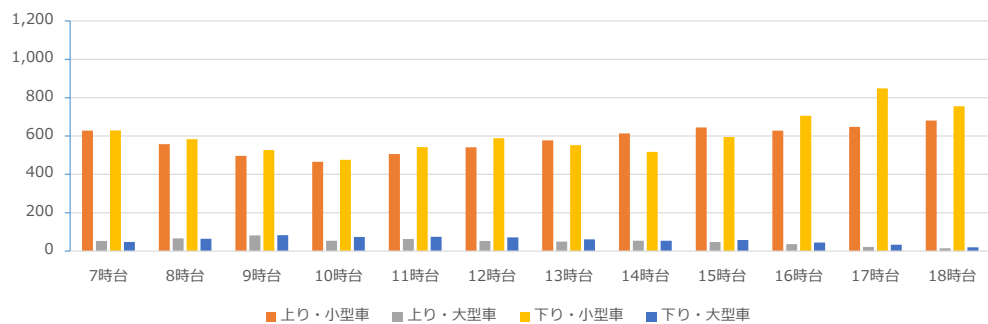
② 国道 125 号



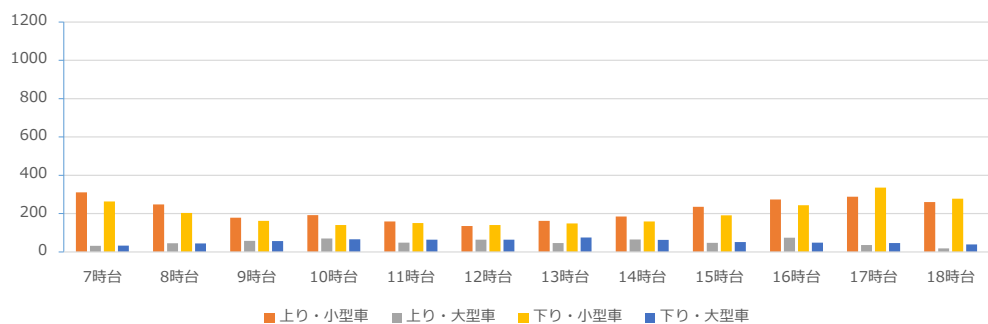
③ 国道 17 号バイパス



④ 国道 17 号



⑤ 羽生妻沼線





### ③市内循環バス 全路線図

本市の市内循環バスは、東循環、西循環、北東循環、北西循環、観光拠点循環及び南大通り線コースの合計6路線が運行しています。

J R行田駅と行田市バスターミナルを拠点として、市内を広く網羅しています。

#### ■市内バス路線図



資料：行田市 市内循環バス 「ぐるっと便利帳」

### (3) 産業特性

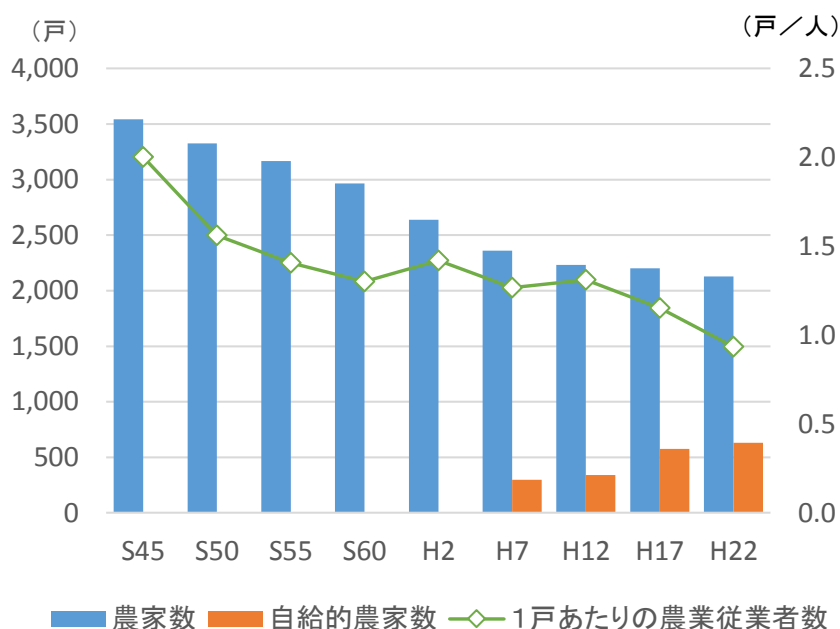
#### ①農業

本市の農業は、農家戸数及び1戸あたりの農業従業者数ともに減少傾向にあり、農業の衰退や担い手不足がうかがえます。一方で、自給的農家数は増加傾向にあることから、生産農家が大幅に減少していることが分かります。

作物の類別収穫面積を見ると、稲・麦の収穫面積が全体の9割以上となっており、近年は特に稲の収穫量が増加傾向にあります。

本市における主要農産物を見ると、夏季には梨や枝豆、冬季にはいちごやミカン、ホンモロコ、年間を通しては椎茸や卵が収穫できる等、多くの種類の野菜や果物を生産していることが分かります。

■農家戸数・農業従業者数の推移

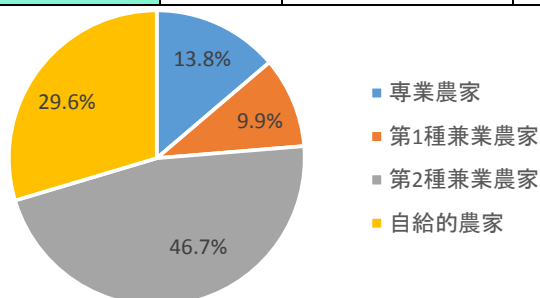


資料：農業センサス（農林水産省）

■平成22年農家数・割合（戸数）

	専業農家	兼業農家		自給的農家
		第1種兼業農家	第2種兼業農家	
平成22年	293	211	993	630

資料：農業センサス（農林水産省）

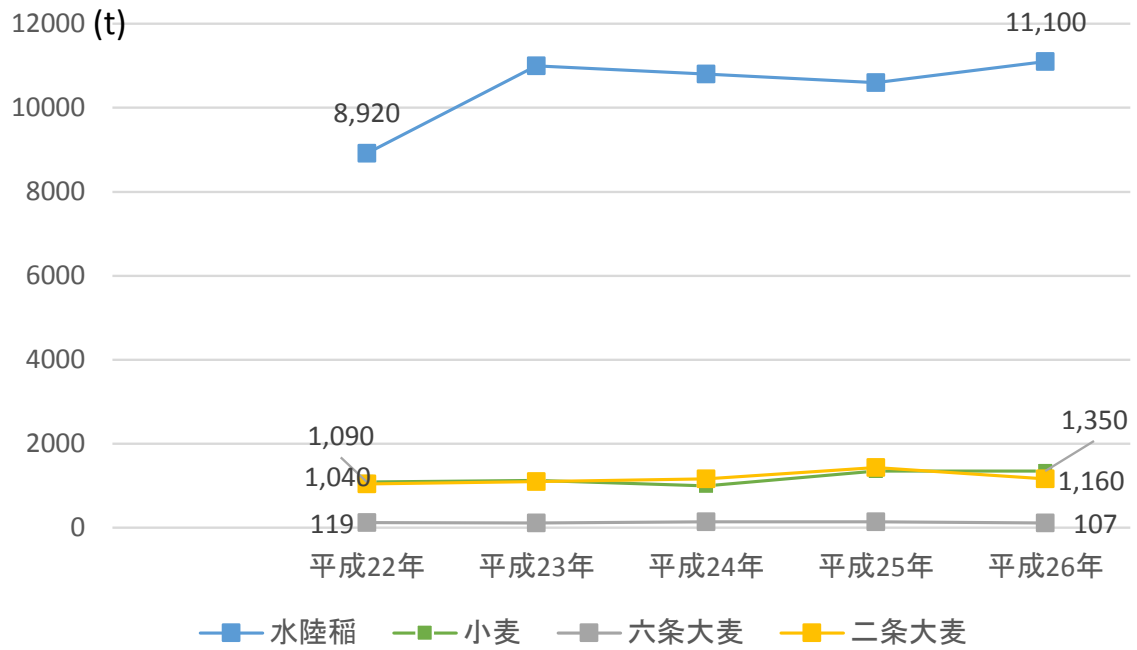


■作物の類別収穫面積（a）

	稲	麦	雑穀	いも類	豆類	工芸 農作物	野菜類	花き類 花木	その他	計
平成 22 年	190,079	45,466	0	52	1,145	0	1,418	242	45	238,477

資料：農業センサス（農林水産省）

■米・麦収穫量の推移



資料：農林水産統計年報



# ■地産地消マップ



資料：行田市地産地消直売所マップ

野菜	① 太田 浩	お花	⑪ 稲葉農園	鶏卵・川魚	⑳ 五十嵐養鶏場	
	② ベリーズファーム・ハセガワ		⑫ 太田園芸		㉑ 筑井養鶏場	
お米	⑬ 岡村ガーデン		㉒ とね自然農園			
くだもの	④ 加藤梨園		⑭ 田島花園		㉓ いまむら養魚場	
	⑤ 輪田農園		⑮ 戸塚園芸		㉔ カザマ養魚場	
	⑥ 長島果実園		⑯ 堀口園芸		㉕ 高沢養魚場	
	⑦ はとり農産		⑰ 清花園		㉖ 野口養魚	
	⑧ 山崎農園土木		⑱ トーマ園芸		きのこ	㉗ 北埼玉菌茸センター
	⑨ (株)はせがわ農園		⑲ 万葉園			
	⑩ 森田ぶどう園					

■農産物適期カレンダー

分 類		品 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主要農産物適期カレンダー	米	米												
	野菜	いちご												
	野菜	枝豆												
	野菜	かぶ												
	野菜	カリフラワー												
	野菜	キャベツ												
	野菜	きゅうり												
	野菜	小松菜												
	野菜	さつまいも・里いも												
	野菜	じゃがいも												
	野菜	大根												
	野菜	とうもろこし												
	野菜	トマト												
	野菜	長ねぎ												
	野菜	なす												
	野菜	白菜												
	野菜	ブロッコリー												
	野菜	ほうれん草												
	くだもの	いちじく												
	くだもの	柿												
	くだもの	梨												
	くだもの	ブルーベリー												
	くだもの	みかん												
	きのこ	椎茸												
	鶏卵	たまご												
	川魚	ホンモロコ												
	草花	サイネリア												
	草花	桜草												
	草花	シクラメン												
	草花	ジュリアン												
	草花	ゼラニウム												
	草花	パンジー												
	草花	ペチュニア												

資料：行田市地産地消直売所マップ

## ②商業

店舗面積が 1000 m<sup>2</sup>を超える小売店舗（食料品売場）は、平成 27 年度現在、市内に 11 店舗（1000 m<sup>2</sup>～3000 m<sup>2</sup>が 9 店舗、5000 m<sup>2</sup>以上が 2 店舗）あり、市中央部から南西部に集中しています。

周辺都市も含めた広域的な立地状況を見ると、鴻巣市や熊谷市など、市南西部の都市に多く立地しており、商圈の重なりも多くなっています。

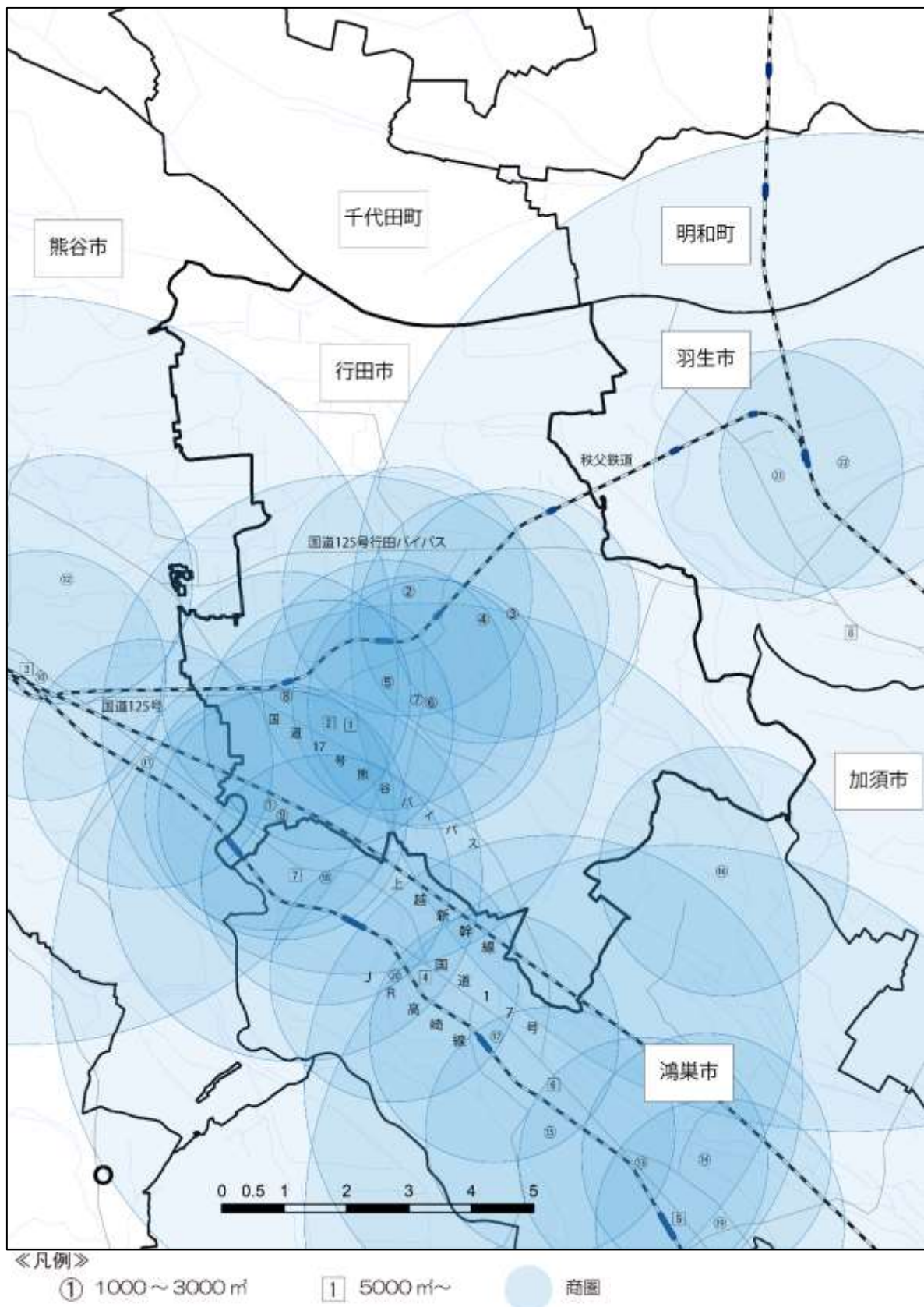
### ■小売店舗リスト

店舗 番号	店舗種類
	店舗面積(m <sup>2</sup> )

1000～3000㎡			1000～3000㎡		
行田市	①	食料品、家庭用品 1,813	鴻巣市	⑩	食料品、家庭用品 1,621
	②	食料品、家庭用品 2,095		⑪	食料品、家庭用品 1,596
	③	食料品、家庭用品 2,028		⑫	食料品、家庭用品 1,488
	④	食料品、家庭用品 2,918		⑬	食料品、家庭用品 1,278
	⑤	食料品、家庭用品 1,738		⑭	食料品、家庭用品 1,216
	⑥	食料品、家庭用品 2,020		⑮	食料品、家庭用品 1,913
	⑦	食料品、家庭用品 1,898	⑯	食料品、家庭用品 2,284	
	⑧	食料品、家庭用品 2,147	5000㎡～		
	⑨	食料品、家庭用品 2,058	行田市	①	食料品、家庭用品、DIY用品 12,470
⑩	食料品、家庭用品 2,584	②		食料品、家庭用品 5,335	
熊谷市	⑪	食料品、家庭用品 2,508	熊谷市	③	食料品、家庭用品 19,612
	⑫	食料品、家庭用品 1,875		④	総合 17,297
鴻巣市	⑬	食料品、家庭用品 1,182	鴻巣市	⑤	食料品、家庭用品 14,880
	⑭	食料品、家庭用品、医薬品・化粧品 2,967		⑥	食料品、衣料品 8,567
	⑮	食料品、家庭用品 1,995		⑦	食料品、家庭用品 6,390
					⑧

※3000～5000 m<sup>2</sup>の小売店舗（食品売り場）は該当無し

■商業施設分布図（規模別）



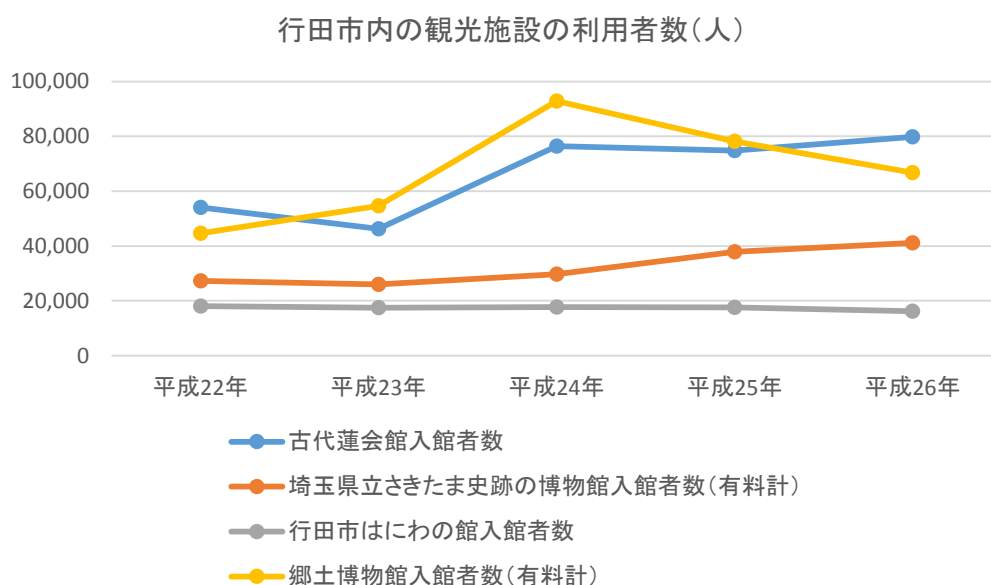
※「共同店舗における複合化商業施設の対応について」の定義を参考に、商圏を設定



### ③観光

平成 22 年から平成 26 年の市内観光施設の利用者の平均は約 18 万人となっており、特に埼玉県立さきたま史跡の博物館や古代蓮会館の入館者数が増加しています。

#### ■主な観光施設への入込客数の推移



資料：平成 27 年度統計ざようだ

#### ■観光案内所利用者数の推移

各年12月31日現在（単位：人）					
年次	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
利用者延べ人数	15,330	14,762	16,574	16,768	13,799
利用者（通常時間帯）	13,101	11,614	12,406	11,155	8,684
利用者（6～8月早朝分）	2,229	3,148	4,168	5,613	5,115

資料：商工観光課

※早朝分は午前7時～9時の間。

#### ■観光レンタサイクル貸出数の推移

各年12月31日現在（単位：台）					
年次	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
貸出数	2,568	2,409	2,637	3,886	4,061

資料：商工観光課

※観光案内所、郷土博物館、はにわの館、古代蓮の里売店、NPO法人さくらメイト事務所、ぶらっと行田で貸し出した数の合計。



## (4) 人口の流動と滞在状況

休日の流動人口をみると、秩父鉄道行田市駅周辺の市街地で流動が見られます。

また、高崎線沿線の流動性も高く、JR 行田駅も東京からの玄関口として高いポテンシャルを有しています。

本市への 2 時間以上の滞在人口をみると、熊谷市や鴻巣市、羽生市からの滞在人口が多く、これは日常生活における行田市への滞在ニーズと考えられます。また、埼玉県外では群馬県や東京都、栃木県からの広域的なニーズも高い状況です。

行田市内人口流動分布図



資料：地域経済分析システム（内閣府）

### ■本市への 2 時間以上の滞在人口

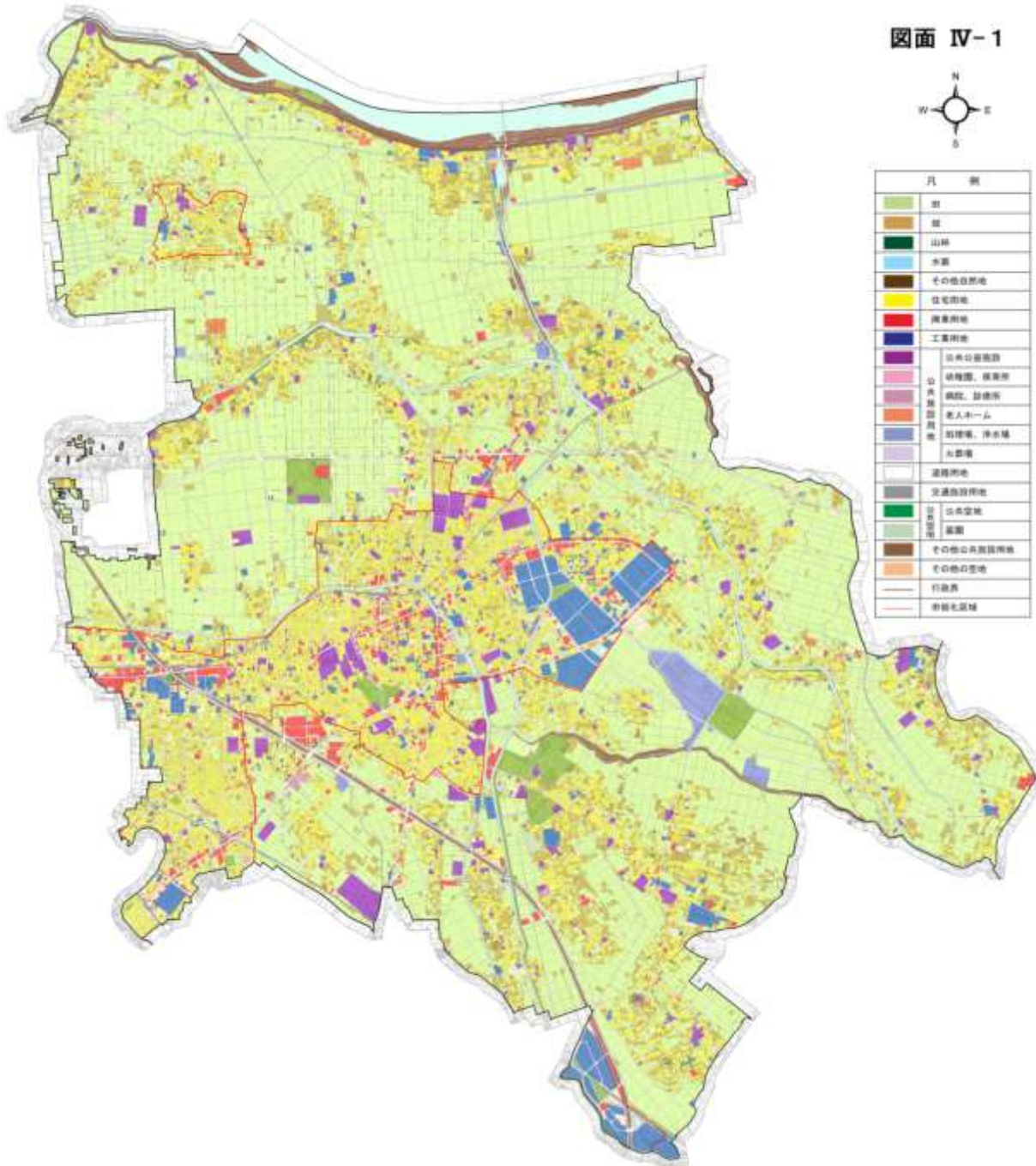


資料：地域経済分析システム（内閣府）

### (5) 土地利用状況

土地利用現況は、自然的土地利用（農地、山林）が 55.7%、都市的土地利用（住宅、商業、工業、公共公益）が 44.3%となっています。なお、行政区域全体に占める農地の面積の割合は 53.3%となっています。

## ■土地利用現況図

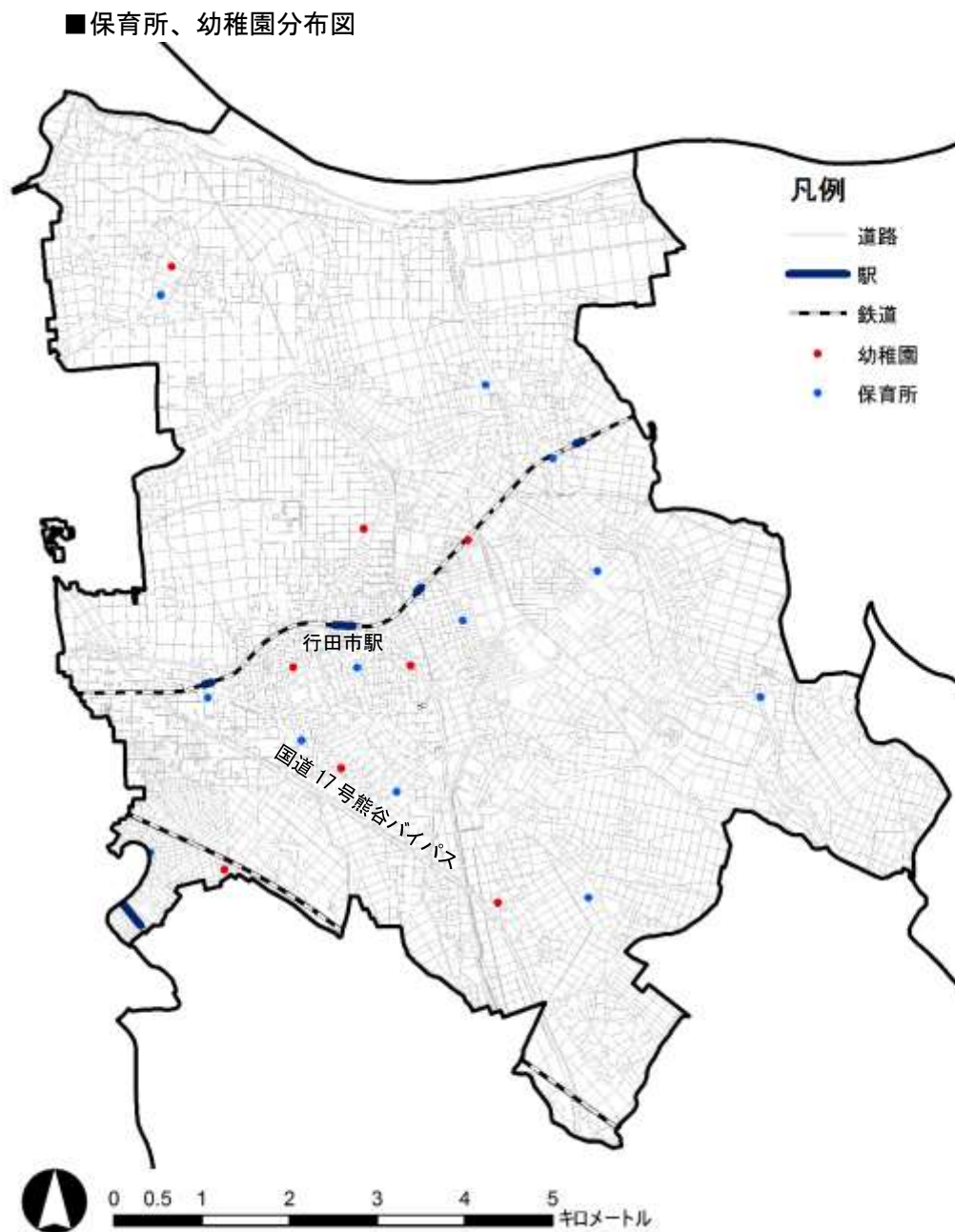


資料：都市計画基礎調査（平成 23 年度）

## （６）生活関連施設の立地状況

### ①保育所、幼稚園

市内には保育所が 12 か所、幼稚園が 8 か所立地しています。行田市駅南側や国道 17 号バイパス沿いなど、市中央部から南西部に多く分布しています。



資料：国土数値情報、都市計画基礎調査（平成 23 年）

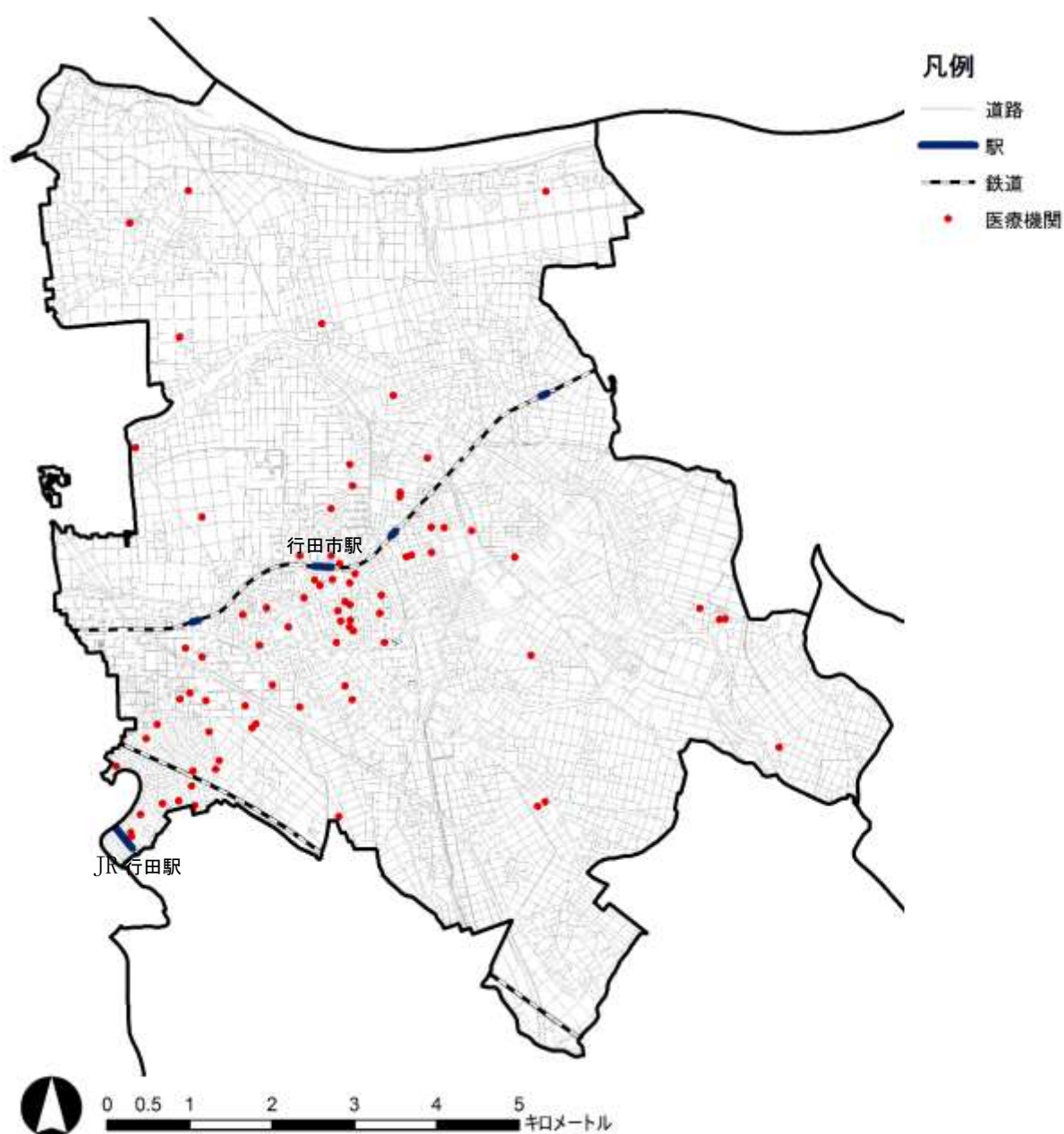


## ②医療施設

本市の医療施設は市中央部及び南西部に多く分布しています。

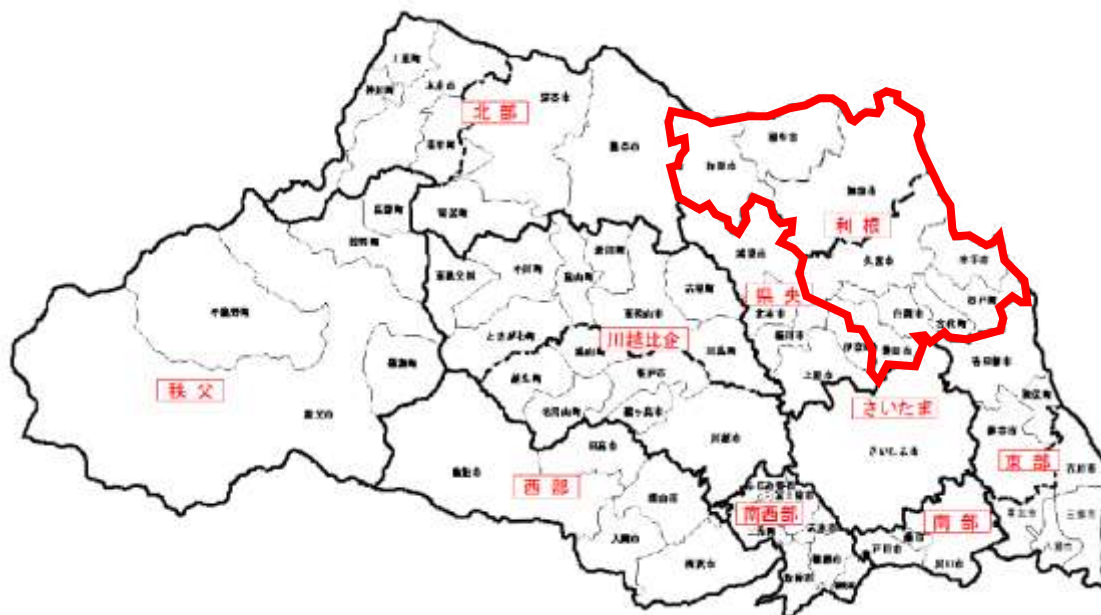
また、埼玉県地域保健医療計画では、病院における入院医療の提供体制を整備することが相当と認められる地域単位として二次保健医療圏を定め、医療圏ごとに療養病床及び一般病床の基準病床数を設定しています。同計画では基準病床数からの加算の上限を 780 と設定しています。行田市を含む利根保健医療圏では基準病床数を 3,445 と設定している中、既存の病床数（平成 26 年末現在）は 4,164 となっており、基準病床数を超過しています。

■ 医療施設分布図



資料：国土数値情報、都市計画基礎調査（平成 23 年）

■ 埼玉県の二次保健医療圏



資料：第6次埼玉県地域保健医療計画(利根保健医療圏)

■ 二次保健医療圏ごとの基準病床数及び既存病床数

二次保健医療圏	加算前の 基準病床数	(参 考)
		既存病床数
南部保健医療圏	4,609	4,355
南西部保健医療圏	4,376	4,376
東部保健医療圏	7,680	7,667
さいたま保健医療圏	7,402	6,976
県央保健医療圏	3,300	3,288
川越比企保健医療圏	6,336	6,781
西部保健医療圏	7,567	7,550
利根保健医療圏	3,445	4,164
北部保健医療圏	3,550	3,567
秩父保健医療圏	578	757
計	48,843	49,481

(平成26年3月末日現在)

病床数の加算の上限	780
-----------	-----

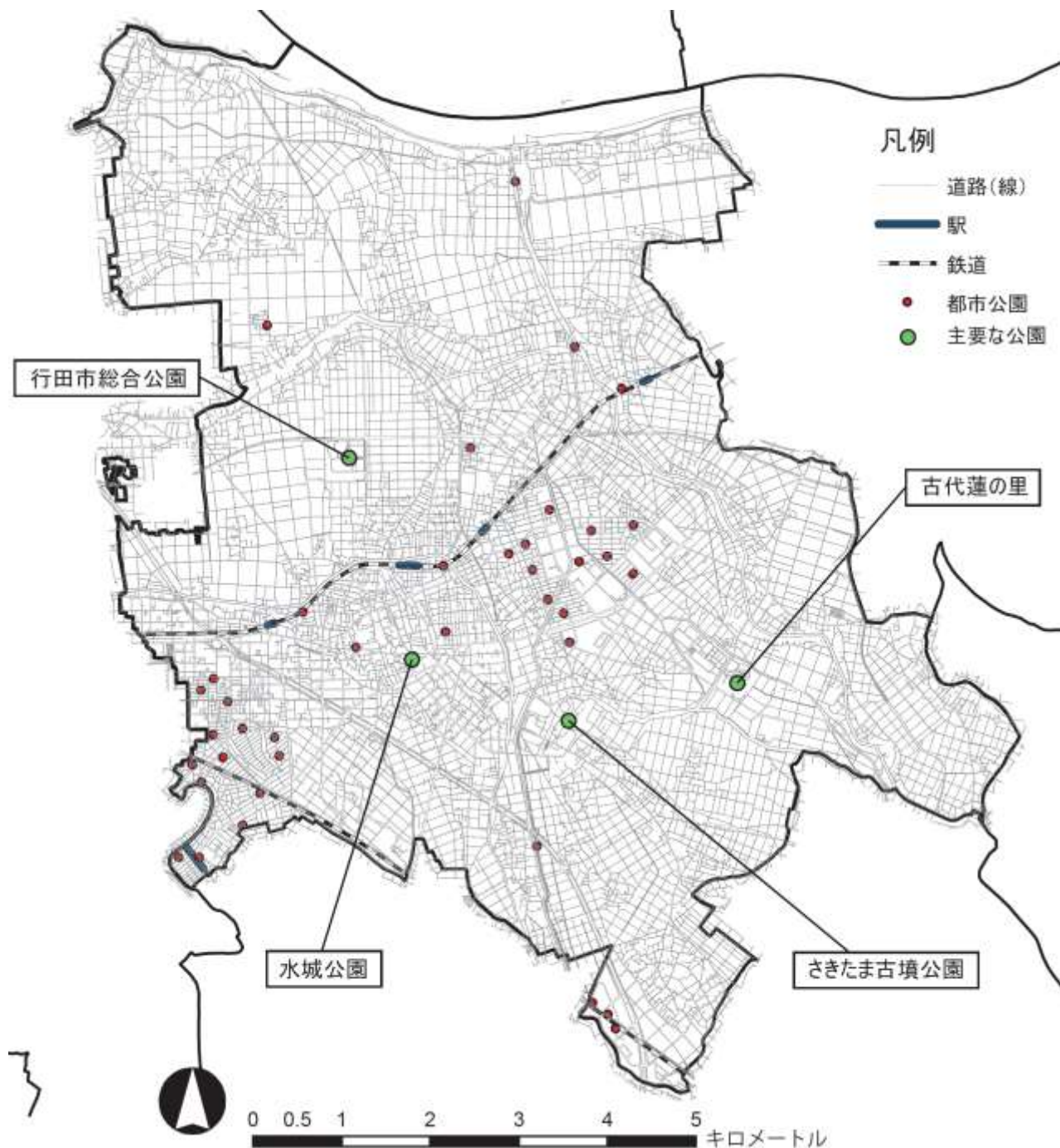
資料：第6次埼玉県地域保健医療計画(利根保健医療圏)

### ③都市公園

本市の都市公園は、市中央部及び南西部に多く分布しており、主要な公園として、行田市総合公園、水城公園、さきたま古墳公園、古代蓮の里があります。

公園は、子どもから高齢者まで多様な世代が集まる場所であるため、産業交流拠点の整備にあたっては、公園位置を踏まえた立地が有効と考えられます。

■都市公園分布図



資料：国土数値情報、都市計画基礎調査（平成 23 年）



### 3. 制約条件の整理

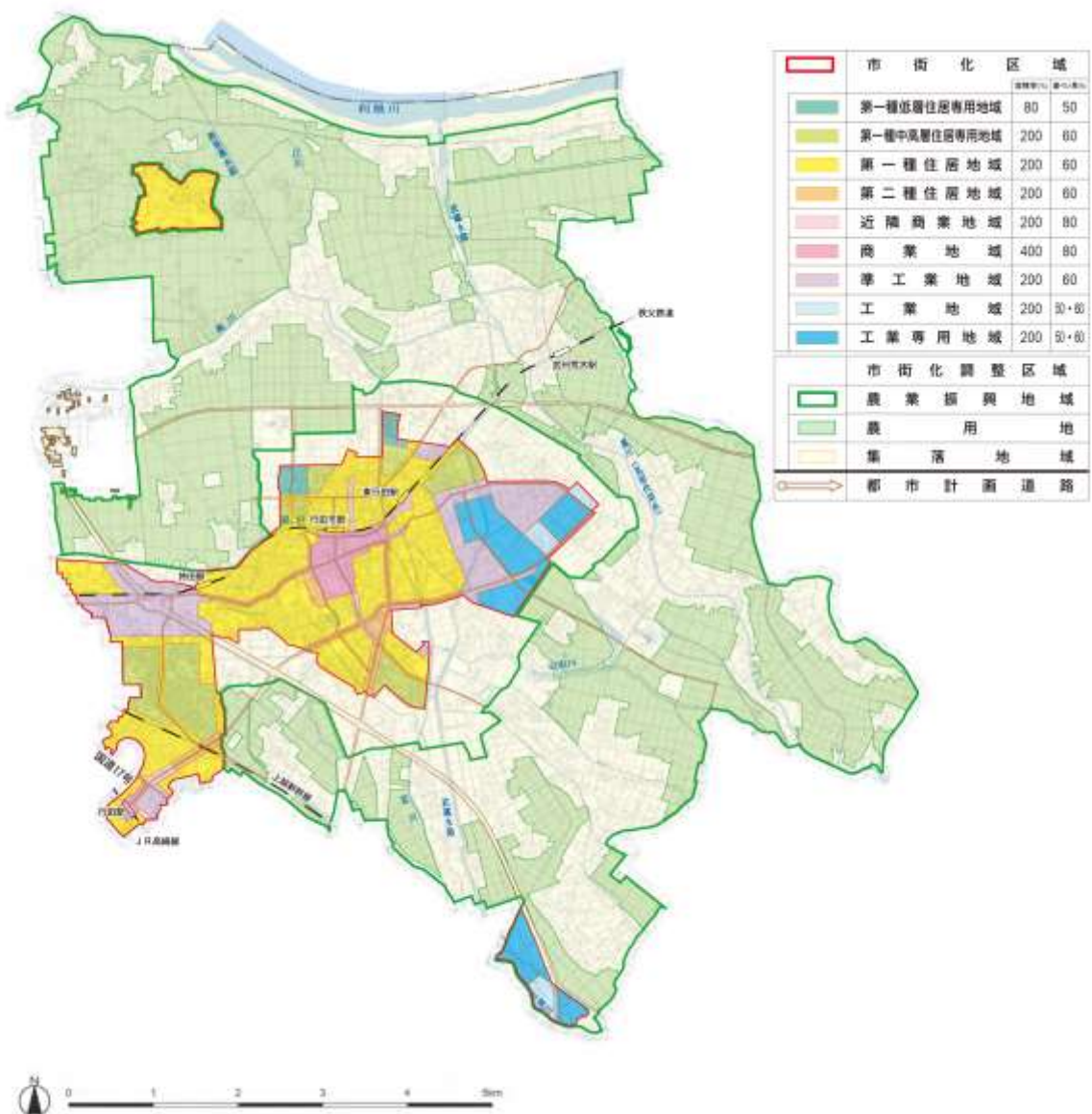
#### (1) 都市計画関連

##### ①土地利用規制

秩父鉄道行田市駅・持田駅・東行田駅周辺、JR 行田駅周辺、南河原支所周辺、行田みなみ産業団地が市街化区域に指定され、その面積は 1,160ha（市域の 17.2%）となっています。

市街化調整区域の大部分は農業振興地域（2,996ha、市域の 44.5%）に指定されており、農業振興地域内のうち集落部以外は農用地区域となっています。また、市街化区域の周囲には農業振興地域に含まれない区域が見られます。

##### ■土地利用規制図



資料：都市計画課・農政課（平成 25 年 3 月）

## ②市街化調整区域の開発規制

市街化調整区域は、市街化を抑制すべき区域とされ、市街化調整区域において許可し得る開発行為は都市計画法第34条各号において定められています。原則として用途地域の指定は行われず、都市施設の整備、市街地開発事業の実施もされませんが、保全することが適当な区域などを除き、市街化を促進するおそれがなく市街化区域内において行うことが困難又は著しく不適当と認められる開発行為や、地区計画等を策定した上でこれに適合した開発行為については、許可を行う場合もあります。

従って市街化調整区域における開発許可の在り方については都市計画法の趣旨に照らし、

- ・開発行為が行われても支障がない区域であるか
- ・予定建築物の用途、目的、規模等が既存コミュニティの維持や社会経済情勢の変化への対応といった観点から必要性があると認められるか
- ・開発予定区域周辺の公共施設の整備状況、開発行為に係る公共施設等の整備予定等から適切な開発と認められるか
- ・既成市街地の空き家・空き地の増加につながらないか

以上について総合的に勘案し、市街化調整区域は市街化を抑制すべき区域であるという原則にも留意して行う必要があります。

以下に、産業交流拠点整備に係る、開発基準を整理します。

法第34条	対象	審査基準
第2号	観光価値を維持するために必要な休憩施設	・観光資源の有効な利用上必要な建築物であること。 ・開発区域は、利用の対象となる観光資源が存在する市街化調整区域内であること。
第4号	農業用施設及び農産物の処理加工等に必要な施設	・日本標準産業分類A－農業に分類される事業であつて、経営耕地面積10アール以上の農地において営まれる農業用施設であること。 ・農産物を集荷、出荷、選別又は貯蔵するための建築物であつて、取り扱う農産物のうち、数量及び金額において過半のものが精算される市街化調整区域内であること。
第9号	休憩所(ドライブイン・コンビニエンスストア)	・開発区域は、市街化調整区域内の現に共用されている国道、県道又はこれらの道路と交差又は接続する幅員12m以上の市道に6m以上接していること。
第10号	地区計画又は集落地区計画の区域内において、当該計画に定められた内容に適合する建築物等	当該地区計画又は集落地区計画に定められた道路等の施設、及び予定計画物の用途が当該計画に正確に一致する建築物であること。
第12号	開発区域の周辺における市街化を促進する恐れがなく、市街化区域内において行うことが困難又は著しく不適当と認められる建築物等	・市の土地利用計画に適合するもので、予定建築物の用途に限り指定した土地の区域内で、予定建築物の用途が当該指定に適合する建築物であること。
第14号	都市計画法第34条第1号から第13号に該当しないもので、開発区域の周辺における市街化を促進する恐れがなく、市街化区域内において行うことが困難又は著しく不適当と認められる建築物等	・都市計画法第34条第1号から第13号までの規定に該当しないもので、開発審査会の議を経て許可されるもの。



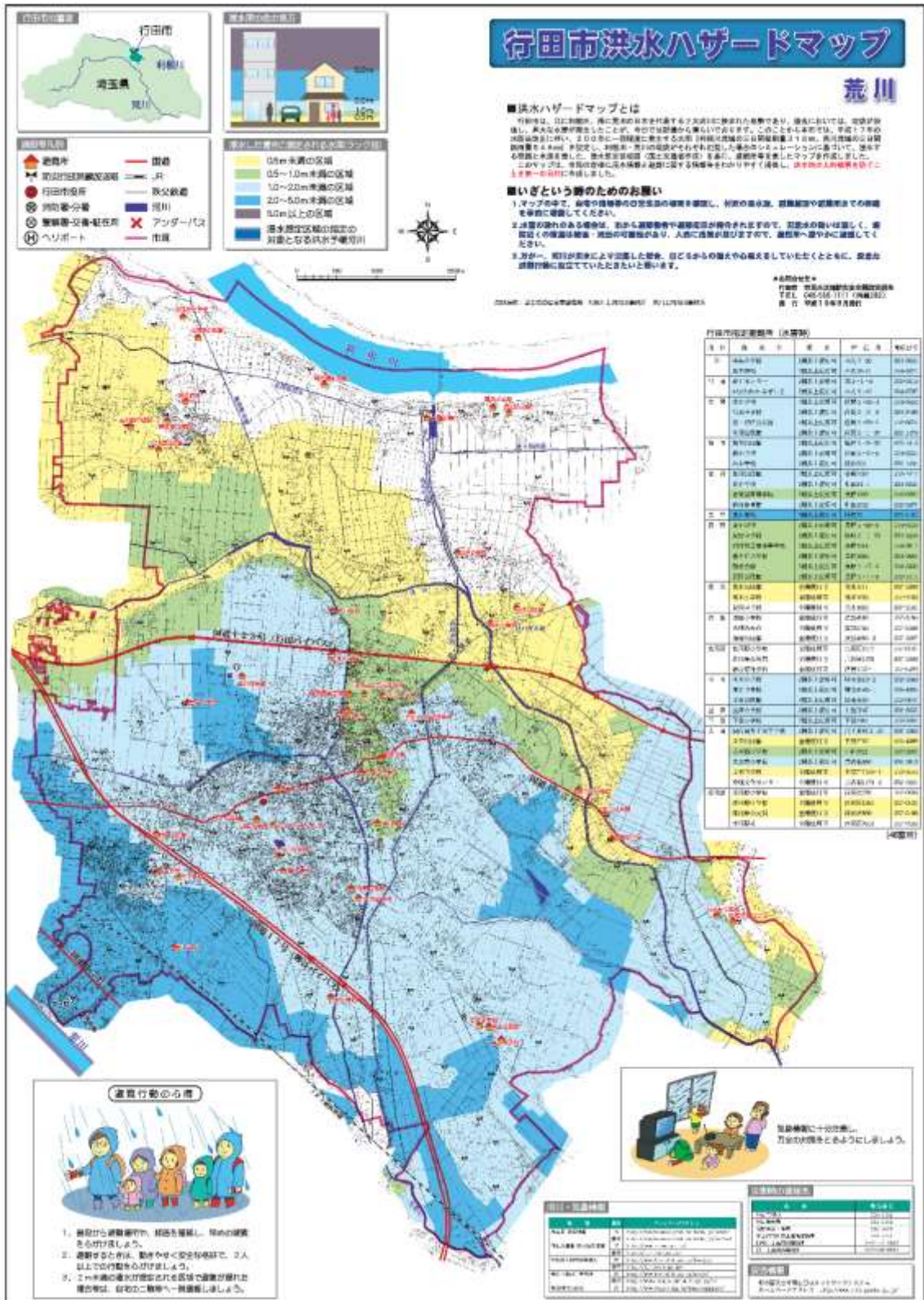
### ①災害危険性

下図は、200 年に 1 回程度に発生する大雨『利根川流域の三日間総雨量 318mm、荒川流域の三日間総雨量 548 mm』を設定し、利根川・荒川の堤防がそれぞれ氾濫した場合のシミュレーションに基づいて、浸水する範囲と水深を表した、浸水想定区域図(国土交通省作成)です。

## ■洪水ハザードマップ（利根川）



## ■洪水ハザードマップ（荒川）



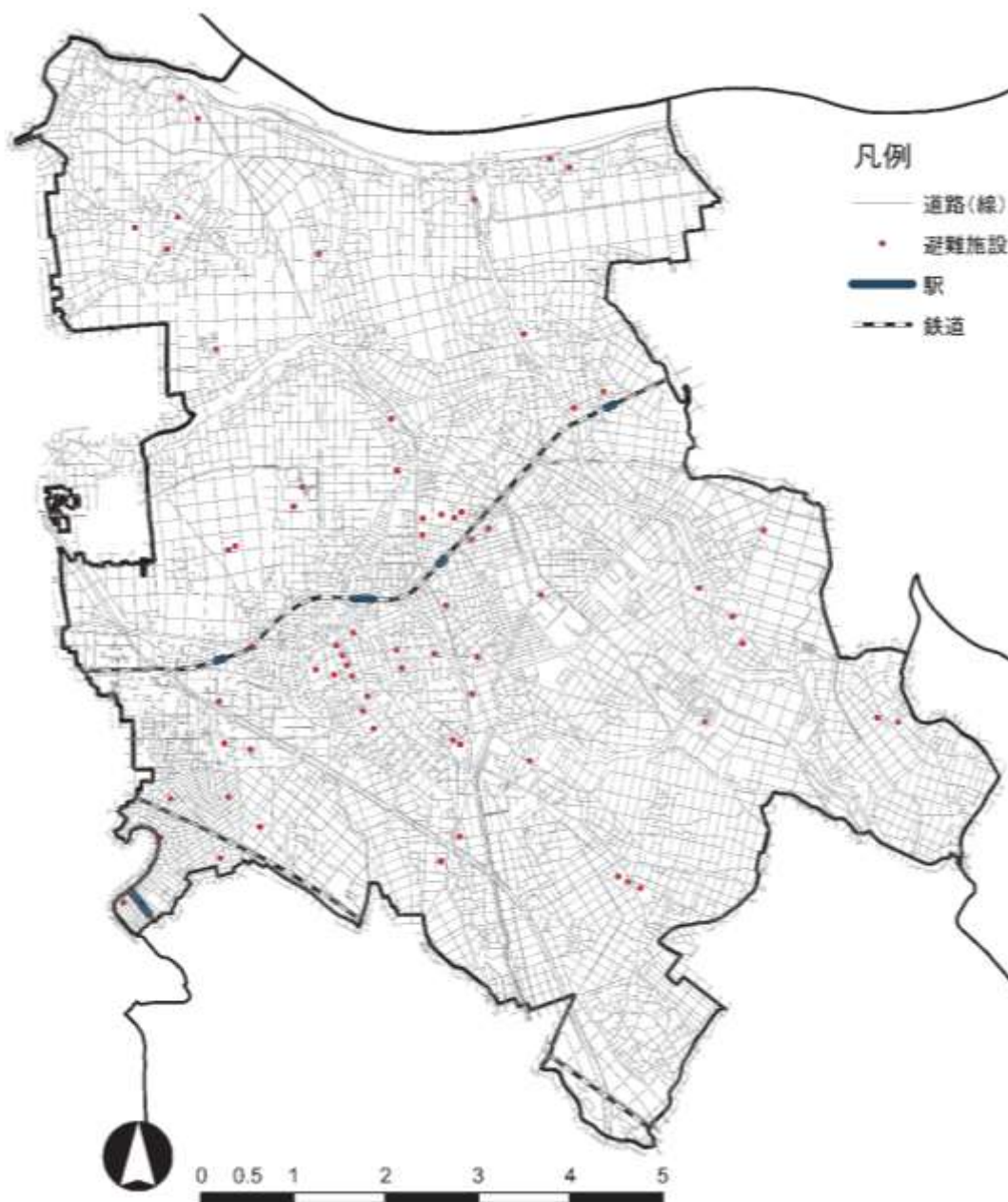


## ②避難施設

本市では、災害の危険から緊急的に避難し、身の安全を守るための場所として、市内の小学校や公園、公民館等を指定緊急避難場所・指定避難所として指定しています。

避難施設は市全体に広く分布しており、特に市中央部に多く分布しています。

### ■避難施設分布図



資料：国土数値情報、都市計画基礎調査（平成 23 年）、行田市 HP

## 4. 事業者ヒアリング

### (1) ヒアリングの概要

地元事業者、生産者、各種活動団体の代表等から、行田市の地域資源、地域特性についてヒアリングを実施しました。

#### ■ 調査概要

調査対象	地元事業者、生産者、各種活動団体の代表等
主なヒアリング項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要</li> <li>・ 行田市の観光資源、特産品について</li> <li>・ 産業交流拠点との連携可能性</li> </ul> 等

### (2) ヒアリング意見内容

対 象	意見内容
和菓子・洋菓子・パンの製造販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化産業の拠点としてほしい。</li> <li>・ 女性客向けで、例えば足袋をテーマにカワイイイメージにしてはどうか。</li> <li>・ 足袋蔵を移築できるとよい。</li> </ul>
業務用生パスタ、生麺の製麺事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県北の情報の発信拠点にしてほしい。</li> <li>・ 県北の道の駅のネットワーク化（まとめてコーナー化等）。</li> <li>・ <u>商品卸は可能、飲食店を出すことも可能性がある。</u></li> </ul>
フライ・ゼリーフライ、カレー・うどん等の飲食店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森や公園にしてしまう等、驚くようなものにしたい。</li> <li>・ テーマとしている「健康」もいいが、子供が遊べる場所にすれば、お金を使う祖父母等も集まるのではないか。</li> <li>・ <u>道の駅へ出店可能。テイクアウト売場としては、4～5坪。</u></li> </ul>
梨・米・行田在来青大豆の生産及び販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できるだけ、多くの人が関わるとよい。</li> <li>・ 1次加工や2次加工の場所、設備機材が市内に無いので、道の駅内に加工場ができるとよい。</li> <li>・ 道の駅で各種フルーツの提供が考えられる。<u>フルーツ農園をリレー形式で栽培するのであれば、提案は可能。</u></li> </ul>

対 象	意見内容
いちごの生産及び販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>アグリファームを作るのであれば、そこで体験や指導をすることは可能。</u></li> <li>・<u>いちごデザートショップ等の出店や卸は可能。</u></li> </ul>
地域の活性化等のNPO法人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、市民が市内で買い物をしていないので、市民を集める場所にしてはどうか。</li> <li>・現状の「通過の街」を逆手に、北関東の日帰り観光の立ち寄り拠点にしてはどうか。125号を通るトラック運転手の立ち寄り&amp;休憩所等。</li> <li>・市民を対象にした、1坪ショップ的なミニショップの集積がよい。風が強いので、建物としては、一棟の中に小路をつくるイメージ等。</li> <li>・総合公園（運動公園）と連携して、子供の遊び場などを作れるとよい。</li> </ul>
生椎茸、干し椎茸の生産及び販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CCRCのために、宿泊施設等を安価なコンテナハウスで作るのはどうか。</li> <li>・屋外にBBQはどうか。その場合の食材（茸）提供は可能。</li> <li>・<u>菌床キットを作って土産品として販売することは可能。</u></li> </ul>
ケーキ、パンの製造販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美味しいものを置いてもらいたい。</li> <li>・建物を行田らしい特徴にしてはどうか（城下町風、蔵の町風等）。</li> <li>・<u>テーマに合わせた商品開発は可能。</u></li> <li>・<u>ラスクやクッキーなど賞味期限2ヶ月のものの卸は可能。</u></li> </ul>
ホンモロコ等の生産及び販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『田んぼ』をテーマに、体験型施設（つり堀等）にしてはどうか（ホンモロコ、なまず、金魚、雷魚等）。</li> <li>・果樹園にし、オーナー制度にすることも考えられる。</li> <li>・行田らしくて他に無い道の駅（施設も内容も）にしたい。</li> <li>・例えば忍城を模すとか、「行田」の発信を。</li> <li>・<u>食堂での「川魚」提供は可能（ホンモロコ、どじょう、なまず等）。</u></li> </ul>
地元農産物を使った商品開発・観光ガイドマップ作成・農商工連携事業のNPO法人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田にしかないテーマを見つけたい。掘り出し観光地、小さな城下町等。</li> </ul>

### (3) ヒアリングのまとめ

ヒアリングを踏まえ、産業交流拠点整備に向けた地元事業者から提供可能性のあるサービスを以下に整理します。

#### ■地元事業者から提供可能性のあるサービス

	サービス内容
物販	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青大豆ショップ</li> <li>○豆腐工房</li> <li>○足袋ショップ</li> <li>○たまごショップ</li> <li>○いちごショップ</li> <li>○城・蔵コーナー（城、蔵をかたどったお菓子や雑貨等の提供）</li> </ul> <p>等</p>
飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行田麺屋（パスタ、うどん）</li> <li>○デザートカフェ</li> <li>○行田定食屋（古代米、冷汁、ホンモロコ定食等の提供）</li> </ul> <p>等</p>
直売所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行田フルーツ</li> <li>○行田の花</li> <li>○川魚</li> <li>○行田野菜</li> </ul> <p>等</p>
テイクアウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フライ・ゼリーフライ</li> <li>○ドリンク、ソフトクリーム、アイス（青大豆やフルーツの加工品）</li> </ul> <p>等</p>
体験施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アグリファーム（野菜、米、椎茸等）</li> <li>○フルーツファーム</li> <li>○釣り堀</li> </ul> <p>等</p>



## 5. 市民意向調査

### （１）調査概要

調査対象	20 歳以上の市民を対象に無作為に抽出（約 3,000 名）
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査時期	平成 27 年 8 月～9 月
配布数	3,051 票
回収数	836 票
回収率	27.4%

### （２）調査結果

#### 【結果概要】

#### (1)回答者について

- 回答者の男女比、地域比は概ね均等となっております。
- 年代比は、50 歳代が約 3 割、20 歳代が約 1 割となっており、その他の年代は概ね均等になっています。
- 回答者の約 9 割が、自動車免許、また自動車を所持しています。

#### (2)行田市の自慢できること

- 行田市の自慢できることについて、主に
  - 自然の多さ
  - 災害の少なさ
  - 田んぼアート、埼玉古墳群、忍城、古代蓮の里といった観光資源
  - ゼリーフライ、フライ等といった特産品の 4 つが挙げられています。

#### (3)道の駅について

- 道の駅の利用頻度について、約 5 割が「年数回程度」と回答しており、その利用目的は約 8 割が「その土地の農産物や特産品が売っているため」と回答しています。
- 若い世代と比較して高齢の世代で、道の駅の利用頻度が高くなっています。
- 最もよく利用する道の駅について、「道の駅 はなぞの」、「道の駅 おかべ」、「道の駅 めぬま」が挙げられており、その理由として
  - 立ち寄りやすさ（近い、よく通る道路沿いにある、周辺施設に立ち寄るついで）
  - 品揃え（特に農産物）の良さ等が挙げられています。

#### (4)農産物直売所、食料品・日用品について

---

- 農産物を購入する際に意識することとして、約 8 割が「新鮮なものを選ぶ」と回答しており、女性、また年齢が高くなるほど「新鮮なものを選ぶ」の回答率が高くなる傾向があります。
- 農産物直売所には、特に若い世代で他の直売所の情報発信や共通のポイントカードの導入等、連携した取組が求められています。
- よく利用する農産物直売所として、「行田農産物直売所」が最も多く挙げられており、その理由として距離が近いことや売られているものが豊富、新鮮で安いこと等が挙げられています。
- 普段、食料品、日用品を購入するお店として、全体の 5 割以上が「ベルク」と回答しており、次いで「ヤオコー」、「ベイシア」となっています。
- そのお店を選ぶ理由として、6 割が「距離が近いから」と回答しており、距離の近さが日用品の購入場所を選ぶ一つの大きな基準と考えられます。
- 普段、食料品、日用品を購入するお店での平均購入金額について、約 5 割が「2500 円以上」と回答しており、女性、また年齢が高くなるほど「2500 円以上」の回答率が高くなる傾向があります。
- 30 歳代、40 歳代は他の年代と比較して、農産物や食料品・日用品の購入に対して安い値段のものを選ぶ傾向にあります。

#### (5)産業交流拠点（物産館及び道の駅）について

---

- 行田市の物産館でほしいサービスとして、約 7 割が「鮮度にこだわった農産物の販売」と回答しており、年齢が高いほど、「鮮度にこだわった農産物の販売」の回答率が高くなっています。
- 産業交流拠点にほしい機能について、約 7 割が「農産物直売所」と回答しており、次いで「飲食店」、「入浴施設」と続きます。
- 若い世代では「レジャー施設」や「コンビニエンスストア」の回答率が高く、他にも「レクリエーション遊具」や「水遊び場」等、子供の遊び場のニーズも高くなっています。一方高齢の世代では、観光案内所や地元加工品・工芸品等の販売所、手作り市場も求められています。
- 求める機能が揃っていた場合の利用方法について、約 7 割が「普段行く買い物の場所として利用したい」と回答しており、女性、また 40 歳～60 歳代で「普段行く買い物の場所として利用したい」の回答率が高くなっています。
- 産業交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベントについて、約 5 割が「いちごやブルーベリー等の摘み取り」と回答しています。  
若い世代では、「イルミネーション」、「屋台祭り」、「ゼリーフライ作り」の割合が高く、高齢の世代では「朝市」の回答率が高くなっています。

## 【集計結果】

### ○回答者について

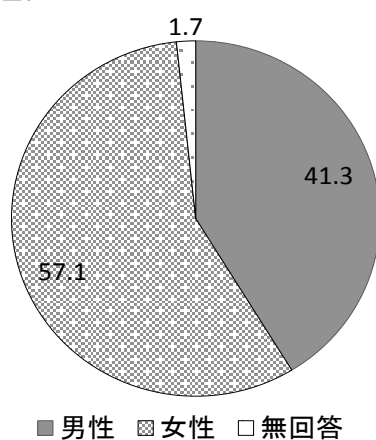
#### ① 性別【問 1】

回答者の性別は、「男性」が 41.3%、「女性」が 57.1%となっています。

年齢別では、「70 歳以上」を除き、各年齢で概ね同様の割合となっています。

自動車の有無別では、自動車「無」で「女性」の割合が、自動車「有」と比べ高くなっています。

#### ■性別（N=836、単一回答）



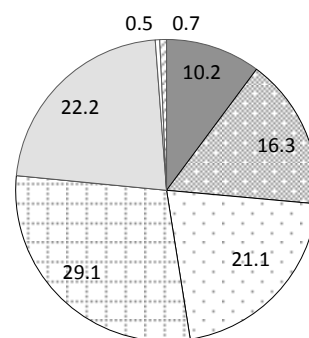
	総数	男性	女性	無回答
総数	836	345	477	14
	100.0%	41.3%	57.1%	1.7%
20歳代	85	36	49	0
	100.0%	42.4%	57.6%	0.0%
30歳代	136	56	80	0
	100.0%	41.2%	58.8%	0.0%
40歳代	176	71	102	3
	100.0%	40.3%	58.0%	1.7%
50歳代	243	103	137	3
	100.0%	42.4%	56.4%	1.2%
60歳代	186	74	108	4
	100.0%	39.8%	58.1%	2.2%
70歳以上	4	3	0	1
	100.0%	75.0%	0.0%	25.0%
無回答	6	2	1	3
	100.0%	33.3%	16.7%	50.0%
自動車有	758	320	431	7
	100.0%	42.2%	56.9%	0.9%
自動車無	60	19	38	3
	100.0%	31.7%	63.3%	5.0%
無回答	18	6	8	4
	100.0	33.3	44.4	22.2

## ② 年齢【問 1】

回答者の年齢は「50 歳代」が 29.1%と最も高く、次いで「60 歳代」が 22.2%となっています。

男女別では、概ね同様の割合となっています。

自動車の有無別では、自動車「有」で「40 歳代」「50 歳代」の割合が高く、自動車「無」で「20 歳代」の割合が高くなっています。



■ 20歳代 ■ 30歳代 □ 40歳代 □ 50歳代  
□ 60歳代 □ 70歳以上 □ 無回答

### ■ 年齢 (N=836、単一回答)

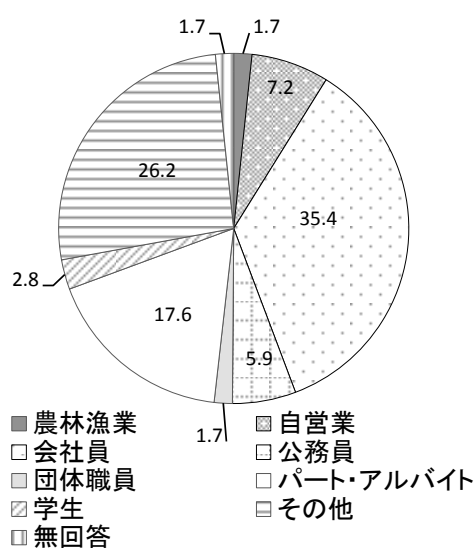
	総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
総数	836	85	136	176	243	186	4	6
	100.0%	10.2%	16.3%	21.1%	29.1%	22.2%	0.5%	0.7%
男性	345	36	56	71	103	74	3	2
	100.0%	10.4%	16.2%	20.6%	29.9%	21.4%	0.9%	0.6%
女性	477	49	80	102	137	108	0	1
	100.0%	10.3%	16.8%	21.4%	28.7%	22.6%	0.0%	0.2%
無回答	14	0	0	3	3	4	1	3
	100.0%	0.0%	0.0%	21.4%	21.4%	28.6%	7.1%	21.4%
自動車有	758	60	127	169	229	166	4	3
	100.0%	7.9%	16.8%	22.3%	30.2%	21.9%	0.5%	0.4%
自動車無	60	23	6	6	9	16	0	0
	100.0%	38.3%	10.0%	10.0%	15.0%	26.7%	0.0%	0.0%
無回答	18	2	3	1	5	4	0	3
	100.0%	11.1%	16.7%	5.6%	27.8%	22.2%	0.0%	16.7%

### ③ 職業【問 1】

回答者の職業は「会社員」が 35.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 17.6%となっています。

男女別では、「男性」で「会社員」の割合が 59.7%と高く、「女性」で「パート・アルバイト」の割合が 27.9%と高くなっています。

■職業（N=836 単一回答）

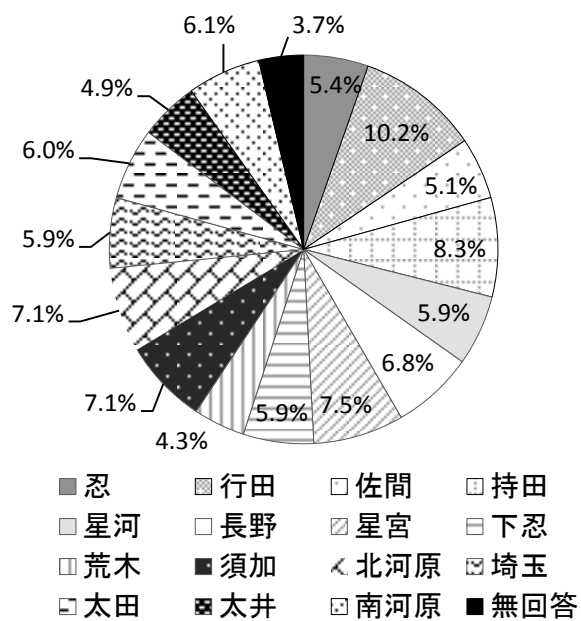


	総数	農林漁業	自営業	会社員	公務員	団体職員	パート・アルバイト	学生	その他	無回答
総数	836	14	60	296	49	14	147	23	219	14
	100.0%	1.7%	7.2%	35.4%	5.9%	1.7%	17.6%	2.8%	26.2%	1.7%
男性	345	7	35	206	23	10	13	13	36	2
	100.0%	2.0%	10.1%	59.7%	6.7%	2.9%	3.8%	3.8%	10.4%	0.6%
女性	477	7	24	87	26	4	133	10	177	9
	100.0%	1.5%	5.0%	18.2%	5.5%	0.8%	27.9%	2.1%	37.1%	1.9%
無回答	14	0	1	3	0	0	1	0	6	3
	100.0%	0.0%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	42.9%	21.4%
20歳代	85	0	0	39	4	0	8	23	9	2
	100.0%	0.0%	0.0%	45.9%	4.7%	0.0%	9.4%	27.1%	10.6%	2.4%
30歳代	136	0	7	60	12	3	23	0	31	0
	100.0%	0.0%	5.1%	44.1%	8.8%	2.2%	16.9%	0.0%	22.8%	0.0%
40歳代	176	0	11	71	8	2	42	0	39	3
	100.0%	0.0%	6.3%	40.3%	4.5%	1.1%	23.9%	0.0%	22.2%	1.7%
50歳代	243	3	18	94	22	7	43	0	54	2
	100.0%	1.2%	7.4%	38.7%	9.1%	2.9%	17.7%	0.0%	22.2%	0.8%
60歳代	186	10	23	30	2	2	31	0	84	4
	100.0%	5.4%	12.4%	16.1%	1.1%	1.1%	16.7%	0.0%	45.2%	2.2%
70歳以上	4	0	1	0	1	0	0	0	2	0
	100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
無回答	6	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	100.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
自動車有	758	14	57	282	48	14	140	9	187	7
	100.0%	1.8%	7.5%	37.2%	6.3%	1.8%	18.5%	1.2%	24.7%	0.9%
自動車無	60	0	2	8	1	0	6	14	27	2
	100.0%	0.0%	3.3%	13.3%	1.7%	0.0%	10.0%	23.3%	45.0%	3.3%
無回答	18	0	1	6	0	0	1	0	5	5
	100.0%	0.0%	5.6%	33.3%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	27.8%	27.8%

#### ④ 居住地区【問 1】

回答者の居住地区は「行田」が 10.2%と最も高く、次いで「持田」が 8.3%となっています。

自動車の有無別では、自動車「無」で「行田」の割合が 18.3%と高くなっています。





	総数	忍	行田	佐間	持田	星河	長野	星宮	下忍	荒木	須加	北河原	埼玉	太田	太井	南河原	無回答
総数	836 100.0%	45 5.4%	85 10.2%	43 5.1%	69 8.3%	49 5.9%	57 6.8%	63 7.5%	49 5.9%	36 4.3%	59 7.1%	59 7.1%	49 5.9%	50 6.0%	41 4.9%	51 6.1%	31 3.7%
男性	345 100.0%	16 4.6%	42 12.2%	15 4.3%	31 9.0%	25 7.2%	26 7.5%	26 7.5%	15 4.3%	18 5.2%	28 8.1%	28 7.5%	21 6.1%	21 6.1%	11 3.2%	16 4.6%	8 2.3%
女性	477 100.0%	28 5.9%	41 8.6%	28 5.9%	37 7.8%	24 5.0%	31 6.5%	36 7.5%	34 7.1%	18 3.8%	29 6.1%	33 6.9%	28 5.9%	26 5.5%	30 6.3%	34 7.1%	20 4.2%
無回答	14 100.0%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	3 21.4%
20歳代	85 100.0%	2 2.4%	12 14.1%	3 3.5%	5 5.9%	3 3.5%	10 11.8%	3 3.5%	5 5.9%	4 4.7%	7 8.2%	4 4.7%	7 8.2%	1 1.2%	4 4.7%	8 9.4%	7 8.2%
30歳代	136 100.0%	9 6.6%	16 11.8%	4 2.9%	16 11.8%	4 2.9%	12 8.8%	11 8.1%	10 7.4%	5 3.7%	7 5.1%	9 6.6%	8 5.9%	5 3.7%	9 6.6%	4 2.9%	7 5.1%
40歳代	176 100.0%	12 6.8%	10 5.7%	15 8.5%	16 9.1%	11 6.3%	11 6.3%	15 8.5%	9 5.1%	3 1.7%	4 2.3%	13 7.4%	13 7.4%	15 8.5%	12 6.8%	11 6.3%	6 3.4%
50歳代	243 100.0%	15 6.2%	26 10.7%	14 5.8%	16 6.6%	18 7.4%	16 6.6%	21 8.6%	12 4.9%	11 4.5%	21 8.6%	22 9.1%	8 3.3%	12 4.9%	11 4.5%	18 7.4%	2 0.8%
60歳代	186 100.0%	7 3.8%	21 11.3%	7 3.8%	15 8.1%	12 6.5%	8 4.3%	13 7.0%	13 7.0%	13 7.0%	17 9.1%	11 5.9%	13 7.0%	15 8.1%	5 2.7%	10 5.4%	6 3.2%
70歳以上	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%
自動車有	758 100.0%	41 5.4%	71 9.4%	41 5.4%	62 8.2%	47 6.2%	51 6.7%	61 8.0%	45 5.9%	32 4.2%	53 7.0%	55 7.3%	47 6.2%	49 6.5%	36 4.7%	50 6.6%	17 2.2%
自動車無	60 100.0%	4 6.7%	11 18.3%	2 3.3%	7 11.7%	1 1.7%	5 8.3%	2 3.3%	3 5.0%	4 6.7%	2 3.3%	4 6.7%	2 3.3%	0 0.0%	4 6.7%	1 1.7%	8 13.3%
無回答	18 100.0%	0 0.0%	3 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%	6 33.3%

## ⑤ 自動車免許の有無、自動車の有無【問 1】

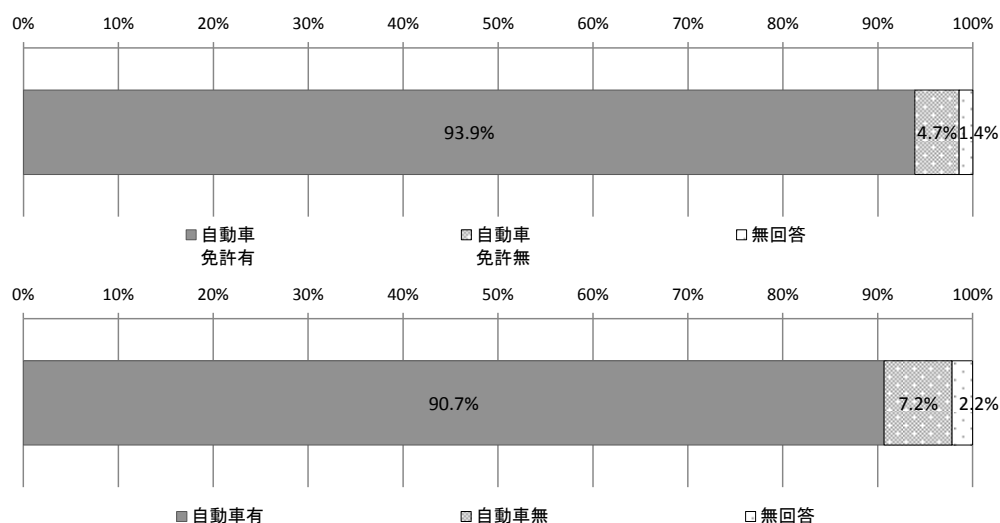
自動車免許を持っているかという設問には、「有」が 93.9%、「無」が 4.7%となっています。

一方自動車を持っているかという設問には「有」が 90.7%、「無」が 7.2%となっており、免許は持っているが自動車は所持していない方がいることが分かります。

年齢別では、「20 歳代」で免許は持っているが自動車は所持していない方が多くなっています。

■上グラフ：自動車免許の有無（N=836、単一回答）

■下グラフ：自動車の有無（N=836、単一回答）



	総数	自動車免許有	自動車免許無	無回答
総数	836	785	39	12
	100.0%	93.9%	4.7%	1.4%
男性	345	332	10	3
	100.0%	96.2%	2.9%	0.9%
女性	477	444	28	5
	100.0%	93.1%	5.9%	1.0%
無回答	14	9	1	4
	100.0%	64.3%	7.1%	28.6%
20歳代	85	75	9	1
	100.0%	88.2%	10.6%	1.2%
30歳代	136	131	3	2
	100.0%	96.3%	2.2%	1.5%
40歳代	176	171	4	1
	100.0%	97.2%	2.3%	0.6%
50歳代	243	231	9	3
	100.0%	95.1%	3.7%	1.2%
60歳代	186	170	14	2
	100.0%	91.4%	7.5%	1.1%
70歳以上	4	4	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答	6	3	0	3
	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%
自動車有	758	752	6	0
	100.0%	99.2%	0.8%	0.0%
自動車無	60	29	31	0
	100.0%	48.3%	51.7%	0.0%
無回答	18	4	2	12
	100.0%	22.2%	11.1%	66.7%

	総数	自動車有	自動車無	無回答
総数	836	758	60	18
	100.0%	90.7%	7.2%	2.2%
男性	345	320	19	6
	100.0%	92.8%	5.5%	1.7%
女性	477	431	38	8
	100.0%	90.4%	8.0%	1.7%
無回答	14	7	3	4
	100.0%	50.0%	21.4%	28.6%
20歳代	85	60	23	2
	100.0%	70.6%	27.1%	2.4%
30歳代	136	127	6	3
	100.0%	93.4%	4.4%	2.2%
40歳代	176	169	6	1
	100.0%	96.0%	3.4%	0.6%
50歳代	243	229	9	5
	100.0%	94.2%	3.7%	2.1%
60歳代	186	166	16	4
	100.0%	89.2%	8.6%	2.2%
70歳以上	4	4	0	0
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答	6	3	0	3
	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%

## ○行田市の自慢できること

### ① 行田市の自慢できること【問 2】

行田市の自慢できることとして、主に

- ・ 自然が多いこと
- ・ 災害が少ないこと
- ・ 田んぼアート、さきたま古墳群、忍城、古代蓮の里といった観光資源
- ・ ゼリーフライ、フライ等といった特産品

が挙げられています。

### ■行田市の自慢できること（抜粋） （N=836、自由回答）

分類	意見概要
生活 利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通の便が良い。（他県にも移動しやすい）。</li> <li>・ 都心へのアクセスが良い。</li> <li>・ 都心のように建物が混雑していないが、スーパーなどもあって不便ではない所。</li> <li>・ ごみ収集の回数、内容が充実している。</li> </ul>
安全、 安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暑いけど山や海がないから大きな自然災害がないので安心して暮らせる。</li> <li>・ 治安が良い。</li> </ul>
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史遺産が多い。</li> <li>・ 忍城跡、のぼうの城の舞台。</li> <li>・ 古代蓮の里の蓮が綺麗。</li> <li>・ 田んぼアート。</li> <li>・ 足袋蔵。</li> </ul>
特産品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔、足袋の一大生産地であったこと。</li> <li>・ B級グルメ（ゼリーフライ、フライ）→土地ならではの物が味わえる。</li> </ul>
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境がよい。</li> <li>・ 田んぼが多く開けていて四方の山々の眺めが良いこと。</li> <li>・ 緑が美しい。</li> <li>・ 空気がきれい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火祭りが楽しい。</li> <li>・ のどかさ。</li> <li>・ 埼玉県名発祥の地。</li> </ul>

## ○道の駅について

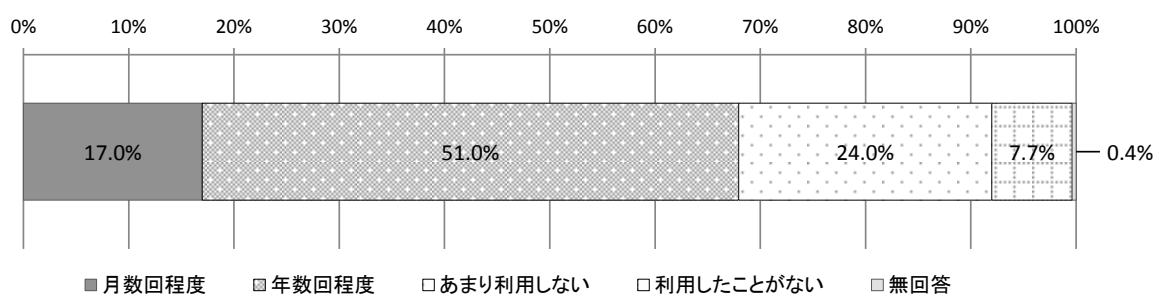
### ① 道の駅の利用頻度【問3】

道の駅の利用頻度は「年数回程度」が51.0%と最も高く、次いで「あまり利用しない」が24.0%となっています。

年齢別では、「60歳代」、「40歳代」で「月数回程度」の割合が高くなっています。また、「20歳代」で「利用したことがない」が24.7%と高くなっています。

自動車の有無別では、自動車「無」で「月数回程度」の割合が0となっています。

#### ■道の駅の利用頻度（N=804、単一回答）



	総数	月数回程度	年数回程度	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
総数	836	142	426	201	64	3
	100.0%	17.0%	51.0%	24.0%	7.7%	0.4%
男性	345	66	168	78	33	0
	100.0%	19.1%	48.7%	22.6%	9.6%	0.0%
女性	477	74	256	117	29	1
	100.0%	15.5%	53.7%	24.5%	6.1%	0.2%
無回答	14	2	2	6	2	2
	100.0%	14.3%	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%
20歳代	85	6	34	24	21	0
	100.0%	7.1%	40.0%	28.2%	24.7%	0.0%
30歳代	136	21	71	36	8	0
	100.0%	15.4%	52.2%	26.5%	5.9%	0.0%
40歳代	176	36	83	44	13	0
	100.0%	20.5%	47.2%	25.0%	7.4%	0.0%
50歳代	243	34	139	57	12	1
	100.0%	14.0%	57.2%	23.5%	4.9%	0.4%
60歳代	186	42	96	37	10	1
	100.0%	22.6%	51.6%	19.9%	5.4%	0.5%
70歳以上	4	1	2	1	0	0
	100.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
無回答	6	2	1	2	0	1
	100.0%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%
自動車有	758	139	396	173	48	2
	100.0%	18.3%	52.2%	22.8%	6.3%	0.3%
自動車無	60	0	22	23	15	0
	100.0%	0.0%	36.7%	38.3%	25.0%	0.0%
無回答	18	3	8	5	1	1
	100.0%	16.7%	44.4%	27.8%	5.6%	5.6%

## ② 道の駅に立ち寄る目的【問4】

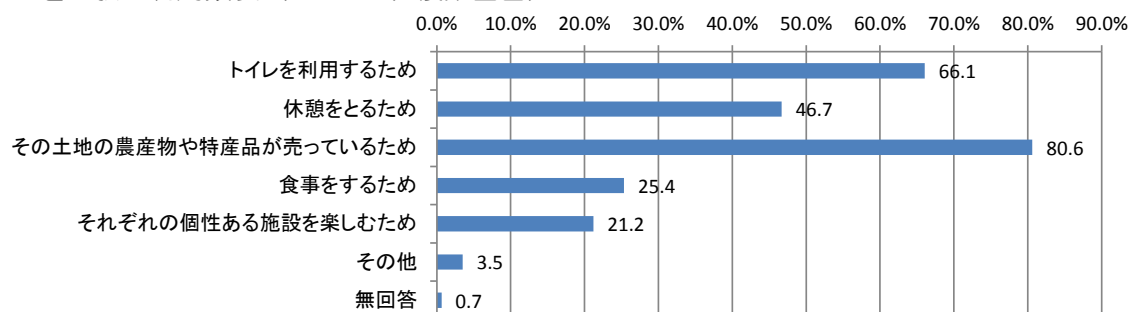
道の駅に立ち寄る目的は「その土地の農産物や特産品が売っているため」が80.6%と最も高く、次いで「トイレを利用するため」が66.1%となっています。

男女別では、「女性」で「その土地の農産物や特産品が売っているため」の割合が86.4%と高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるほど、「その土地の農産物や特産品が売っているため」の割合が高くなる傾向にあります。

自動車の有無別では、自動車「有」で「その土地の農産物や特産品が売っているため」の割合が81.9%と高くなっています。

### ■道の駅の利用頻度（N=769、複数回答）



	総数	トイレを利用するため	休憩をとるため	その土地の農産物や特産品が売っているため	食事をするため	それぞれの個性ある施設を楽しむため	その他	無回答
総数	769	508	359	620	195	163	27	5
	100.0%	66.1%	46.7%	80.6%	25.4%	21.2%	3.5%	0.7%
男性	312	225	169	229	80	59	12	3
	100.0%	72.1%	54.2%	73.4%	25.6%	18.9%	3.8%	1.0%
女性	447	278	186	386	114	104	15	2
	100.0%	62.2%	41.6%	86.4%	25.5%	23.3%	3.4%	0.4%
無回答	10	5	4	5	1	0	0	0
	100.0%	50.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	64	37	34	43	13	10	3	0
	100.0%	57.8%	53.1%	67.2%	20.3%	15.6%	4.7%	0.0%
30歳代	128	96	68	97	39	32	9	1
	100.0%	75.0%	53.1%	75.8%	30.5%	25.0%	7.0%	0.8%
40歳代	163	123	82	129	36	45	5	0
	100.0%	75.5%	50.3%	79.1%	22.1%	27.6%	3.1%	0.0%
50歳代	230	153	108	187	55	42	5	3
	100.0%	66.5%	47.0%	81.3%	23.9%	18.3%	2.2%	1.3%
60歳代	175	95	63	159	49	31	4	1
	100.0%	54.3%	36.0%	90.9%	28.0%	17.7%	2.3%	0.6%
70歳以上	4	1	2	3	2	1	1	0
	100.0%	25.0%	50.0%	75.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
無回答	5	3	2	2	1	2	0	0
	100.0%	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
自動車有	708	474	334	580	180	156	26	5
	100.0%	66.9%	47.2%	81.9%	25.4%	22.0%	3.7%	0.7%
自動車無	45	23	19	30	14	6	1	0
	100.0%	51.1%	42.2%	66.7%	31.1%	13.3%	2.2%	0.0%
無回答	16	11	6	10	1	1	0	0
	100.0%	68.8%	37.5%	62.5%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%



### ③ 道の駅の利用頻度と立ち寄る目的の関係【問3×問4】

道の駅を利用する目的と頻度の関係を見ると、利用頻度が「月数回程度」「年数回程度」で「その土地の農産物や特産品が売っているため」の割合が高くなっています。

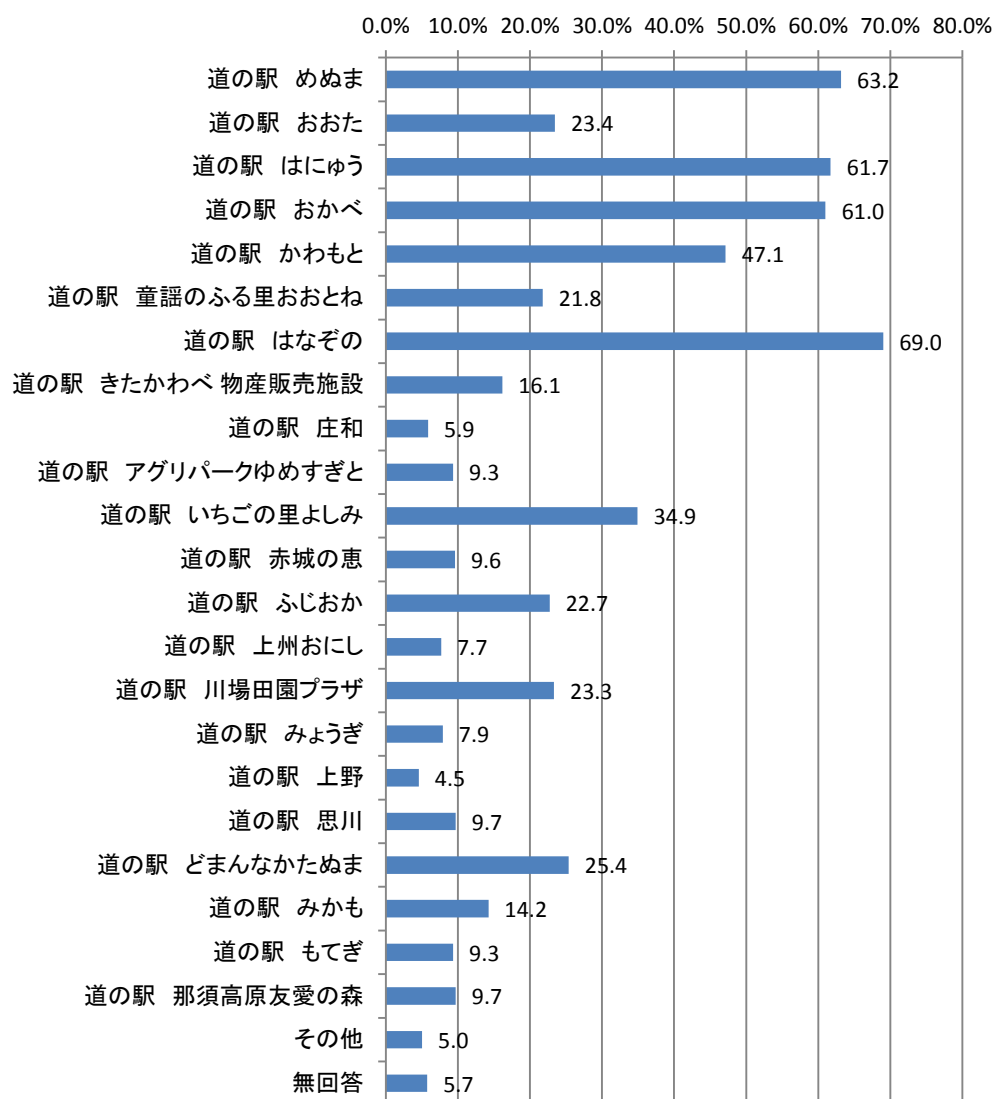
	総 数	る た イ レ を 利 用 す	休 憩 を と る た め	売 物 そ の た が 農 産 品 の た め	食 事 を す る た め	む あ そ れ た め 施 設 を の 楽 し 性	そ の 他	無 回 答
総数	769	508	359	620	195	163	27	5
	100.0%	66.1%	46.7%	80.6%	25.4%	21.2%	3.5%	0.7%
月数回程度	142	87	73	130	44	40	9	1
	100.0%	61.3%	51.4%	91.5%	31.0%	28.2%	6.3%	0.7%
年数回程度	426	293	207	378	120	110	11	0
	100.0%	68.8%	48.6%	88.7%	28.2%	25.8%	2.6%	0.0%
あまり利用しない	201	128	79	112	31	13	7	4
	100.0%	63.7%	39.3%	55.7%	15.4%	6.5%	3.5%	2.0%

#### ④ 立ち寄ったことのある道の駅【問5】

立ち寄ったことのある道の駅は、「道の駅 はなぞの」が 69.0%と最も高く、次いで「道の駅 めぬま」が 63.2%となっています。

男女別では、概ね同様の割合となっています。

#### ■立ち寄ったことのある道の駅（N=836、複数回答）



	総数	道の駅 めぬま	道の駅 おおた	道の駅 はにゅう	道の駅 おかべ	道の駅 かわもと	道の駅 とねふる里おお	道の駅 はなぞの	道の駅 販売た 施か 設わべ	道の駅 庄和	道の駅 アグリ すぎとパークゆめ	道の駅 いちごの里よしみ	道の駅 赤城の恵	道の駅 ふじおか	道の駅 上州おにし	道の駅 川場田園プラザ	道の駅 みようぎ	道の駅 上野	道の駅 思川	道の駅 どまんなかたぬま	道の駅 みかも	道の駅 もてぎ	道の駅 那須高原友愛の森	その他	無回答
総数	836 100.0%	528 63.2%	196 23.4%	516 61.7%	510 61.0%	394 47.1%	182 21.8%	577 69.0%	135 16.1%	49 5.9%	78 9.3%	292 34.9%	80 9.6%	190 22.7%	64 7.7%	195 23.3%	66 7.9%	38 4.5%	81 9.7%	212 25.4%	119 14.2%	78 9.3%	81 9.7%	42 5.0%	48 5.7%
男性	345 100.0%	222 64.3%	90 26.1%	213 61.7%	224 64.9%	173 50.1%	92 26.7%	235 68.1%	68 19.7%	33 9.6%	42 12.2%	117 33.9%	35 10.1%	99 28.7%	33 9.6%	77 22.3%	27 7.8%	20 5.8%	45 13.0%	88 25.5%	56 16.2%	41 11.9%	34 9.9%	15 4.3%	21 6.1%
女性	477 100.0%	300 62.9%	103 21.6%	295 61.8%	280 58.7%	215 45.1%	86 18.0%	336 70.4%	65 13.6%	15 3.1%	34 7.1%	172 36.1%	43 9.0%	89 18.7%	31 6.5%	114 23.9%	39 8.2%	18 3.8%	36 7.5%	121 25.4%	61 12.8%	36 7.5%	46 9.6%	26 5.5%	23 4.8%
無回答	14 100.0%	6 42.9%	3 21.4%	8 57.1%	6 42.9%	6 42.9%	4 28.6%	6 42.9%	2 14.3%	1 7.1%	2 14.3%	3 21.4%	2 14.3%	2 14.3%	0 0.0%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 21.4%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	4 28.6%
20歳代	85 100.0%	37 43.5%	12 14.1%	38 44.7%	28 32.9%	24 28.2%	10 11.8%	47 55.3%	7 8.2%	3 3.5%	6 7.1%	19 22.4%	3 3.5%	5 5.9%	5 5.9%	8 9.4%	4 4.7%	2 2.4%	3 3.5%	12 14.1%	3 3.5%	4 4.7%	5 5.9%	4 4.7%	13 15.3%
30歳代	136 100.0%	84 61.8%	38 27.9%	83 61.0%	78 57.4%	55 40.4%	24 17.6%	85 62.5%	22 16.2%	5 3.7%	12 8.8%	42 30.9%	13 9.6%	34 25.0%	6 4.4%	30 22.1%	13 9.6%	5 3.7%	17 12.5%	34 25.0%	25 18.4%	10 7.4%	11 8.1%	5 3.7%	8 5.9%
40歳代	176 100.0%	117 66.5%	49 27.8%	110 62.5%	113 64.2%	86 48.9%	42 23.9%	127 72.2%	32 18.2%	7 4.0%	14 8.0%	63 35.8%	19 10.8%	50 28.4%	16 9.1%	44 25.0%	9 5.1%	6 3.4%	20 11.4%	43 24.4%	23 13.1%	18 10.2%	16 9.1%	17 9.7%	9 5.1%
50歳代	243 100.0%	155 63.8%	53 21.8%	155 63.8%	156 64.2%	120 49.4%	55 22.6%	171 70.4%	37 15.2%	20 8.2%	19 7.8%	86 35.4%	18 7.4%	49 20.2%	20 8.2%	60 24.7%	17 7.0%	15 6.2%	18 7.4%	60 24.7%	34 14.0%	26 10.7%	27 11.1%	13 5.3%	10 4.1%
60歳代	186 100.0%	129 69.4%	41 22.0%	124 66.7%	128 68.8%	104 55.9%	47 25.3%	140 75.3%	33 17.7%	13 7.0%	26 14.0%	79 42.5%	25 13.4%	50 26.9%	16 8.6%	50 26.9%	22 11.8%	9 4.8%	22 11.8%	61 32.8%	33 17.7%	18 9.7%	22 11.8%	3 1.6%	6 3.2%
70歳以上	4 100.0%	3 75.0%	1 25.0%	4 100.0%	4 100.0%	2 50.0%	2 50.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	6 100.0%	3 50.0%	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%	3 50.0%	2 33.3%	4 66.7%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%
自動車有	758 100.0%	490 64.6%	187 24.7%	481 63.5%	480 63.3%	371 48.9%	172 22.7%	543 71.6%	127 16.8%	46 6.1%	76 10.0%	279 36.8%	73 9.6%	182 24.0%	62 8.2%	187 24.7%	59 7.8%	38 5.0%	80 10.6%	204 26.9%	114 15.0%	72 9.5%	73 9.6%	37 4.9%	33 4.4%
自動車無	60 100.0%	30 50.0%	6 10.0%	23 38.3%	21 35.0%	20 33.3%	6 10.0%	27 45.0%	5 8.3%	1 1.7%	0 0.0%	9 15.0%	5 8.3%	6 10.0%	2 3.3%	4 6.7%	6 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.0%	2 3.3%	5 8.3%	7 11.7%	5 8.3%	11 18.3%
無回答	18 100.0%	8 44.4%	3 16.7%	12 66.7%	9 50.0%	3 16.7%	4 22.2%	7 38.9%	3 16.7%	2 11.1%	2 11.1%	4 22.2%	2 11.1%	2 11.1%	0 0.0%	4 22.2%	1 5.6%	0 0.0%	1 5.6%	5 27.8%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%	4 22.2%

## ⑤ 問5で回答した道の駅の中で最もよく利用する道の駅 またその理由【問6】

最も利用する道の駅は「道の駅 はなぞの」が16.0%と最も高く、次いで「道の駅 おかべ」が14.0%となっており、「問5 立ち寄ったことのある道の駅」と同じ結果となっています。

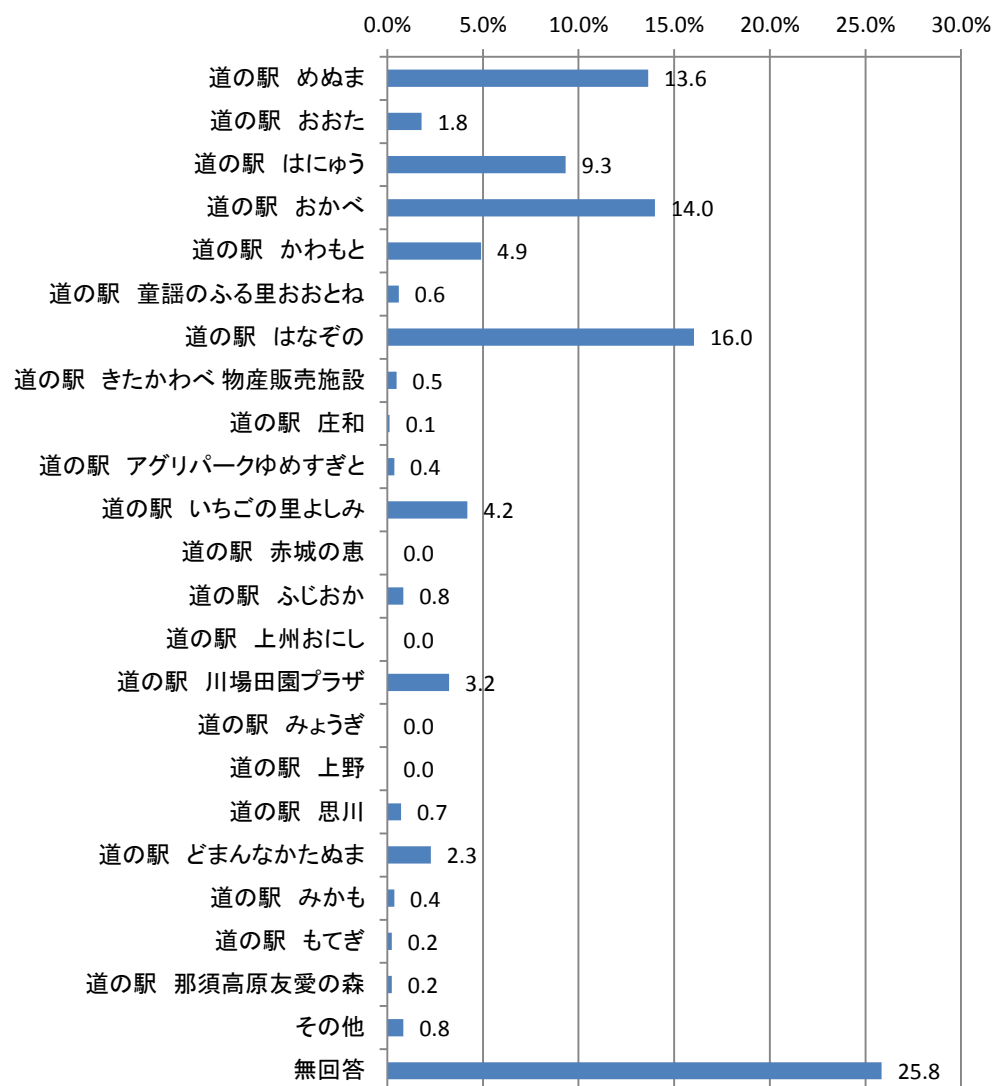
男女別、年齢別では、概ね同様の割合となっています。

最もよく利用する理由は、主に

- ・立ち寄りやすさ（よく利用する道路沿いにある、周辺施設に立ち寄る次いでに寄る）
- ・品揃え（特に農産物）の良さ

が挙げられています。

### ■最もよく利用する道の駅（N=836、単一回答）



	総 数	道の 駅 め ぬ ま	道の 駅 お お た	道の 駅 は に ゆ う	道の 駅 お か べ	道の 駅 か わ も と	道の 駅 お 重 と 謡 の ふ る り お	道の 駅 は な そ の	道の 駅 産 販 売 施 設 た か わ べ 物	道の 駅 庄 和	道の 駅 め す ぎ り と パ ー ク ゆ	道の 駅 い ち ご の 里 よ し	道の 駅 赤 城 の 恵	道の 駅 ふ じ お か	道の 駅 上 州 お に し	道の 駅 川 場 田 園 プ ラ ザ	道の 駅 み よ う ぎ	道の 駅 上 野	道の 駅 思 川	道の 駅 ど ま ん な か た ぬ	道の 駅 み か も	道の 駅 も て ぎ	道の 駅 那 須 高 原 友 愛 の 森	そ の 他	無 回 答
総数	836	114	15	78	117	41	5	134	4	1	3	35		7		27		6	19	3	2	2	7	216	
	100.0%	13.6%	1.8%	9.3%	14.0%	4.9%	0.6%	16.0%	0.5%	0.1%	0.4%	4.2%	0.0%	0.8%	0.0%	3.2%	0.0%	0.7%	2.3%	0.4%	0.2%	0.2%	0.8%	25.8%	
男性	345	41	5	33	58	16	1	63	2	1	2	12		5		8		4	6	2	0	1	1	84	
女性	477	73	10	43	59	23	3	69	2	0	1	23		2		19		2	12	1	2	1	6	126	
無回答	14	0	0	2	0	2	1	2	0	0	0	0		0		0		0	1	0	0	0	0	6	
	100.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	
20歳代	85	10	1	12	9	1	0	13	0	0	2	4		0		2		0	0	0	0	0	0	31	
30歳代	136	24	1	14	21	6	3	20	1	0	0	3		1		7		3	0	0	0	0	2	30	
	100.0%	17.6%	0.7%	10.3%	15.4%	4.4%	2.2%	14.7%	0.7%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.7%	0.0%	5.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	22.1%	
40歳代	176	18	6	11	23	10	2	32	2	0	0	10		3		5		2	2	2	2	0	2	44	
	100.0%	10.2%	3.4%	6.3%	13.1%	5.7%	1.1%	18.2%	1.1%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%	1.7%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	25.0%	
50歳代	243	37	4	23	30	10	0	34	1	1	0	11		1		8		1	11	1	0	2	3	65	
60歳代	186	25	2	18	31	13	0	35	0	0	1	7		2		5		0	4	0	0	0	0	43	
	100.0%	13.4%	1.1%	9.7%	16.7%	7.0%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.5%	3.8%	0.0%	1.1%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%	
70歳以上	4	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0		0		0		0	0	0	0	0	0	0	
	100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0	2	0	0	0	0	3	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
自動車有	758	107	13	68	109	36	4	128	4	1	3	34		7		26		6	18	3	2	2	7	180	
	100.0%	14.1%	1.7%	9.0%	14.4%	4.7%	0.5%	16.9%	0.5%	0.1%	0.4%	4.5%	0.0%	0.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.8%	2.4%	0.4%	0.3%	0.3%	0.9%	23.7%	
自動車無	60	5	1	9	5	5	1	5	0	0	0	1		0		1		0	0	0	0	0	0	27	
	100.0%	8.3%	1.7%	15.0%	8.3%	8.3%	1.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	
無回答	18	2	1	1	3	0	0	1	0	0	0	0		0		0		0	1	0	0	0	0	9	
	100.0%	11.1%	5.6%	5.6%	16.7%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	



■上位 5 施設、道の駅を最もよく利用する理由の抜粋（N=836、自由回答）

道の駅	意見概要
道の駅 はなその	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高速道路に近いこと。観光バスが必ずトイレ休憩すること。</li> <li>・ トラックの運転士をしているので毎日 140 号線を通るため、休憩をとるため利用。</li> <li>・ 秩父、長瀬、寄居方面に行く時立ち入りやすい、となりにフォレストもあるので、たびたびよる。</li> <li>・ 広くて品揃えがよい。</li> <li>・ 家から 1 時間程で行け、植木、草花、農産物などを買い求めるため、利用しやすいから。</li> <li>・ 周囲に農産物直売所、スウィーツフォレスト、飲食店等様々な施設があるので立ち寄る。</li> <li>・ 温泉に行く時などや自分の家で作っていない野菜を見に行くため。</li> <li>・ 規模の大きさ、直売所もあり、アミューズメント的な要素もある。</li> <li>・ 施設、駐車場が広い。</li> <li>・ スペースが広くゆっくりとでき、観光案内の情報が得られる。</li> <li>・ トイレが多く、比較的きれい。</li> <li>・ 最近リニューアルして野菜類がたくさんあってきれいでよい。</li> <li>・ 農作物の販売の他、隣に土産を売る店、食堂等バランスのよい施設だから。</li> <li>・ 公園、自転車乗り場等、子供とあそべる所もあるから。</li> <li>・ 新鮮で質のよい農産物が低価格でたくさん売っているため。</li> <li>・ 花、植木が売られている。</li> </ul>
道の駅 おかべ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つけ物がおいしい。</li> <li>・ 17 号沿い P はコンビニが少ないので休憩で利用します。</li> <li>・ 17 号沿いで行田から約 1 時間のため、休憩、トイレに便利。</li> <li>・ 信号機のある交差点にあること。</li> <li>・ 高速への出入り途中。</li> <li>・ 切花が豊富で値段も農協より安い。川場はまた行きたいと思います。</li> <li>・ 周りが水田のため、看板等が目立ちやすいので立寄ってしまう。</li> <li>・ ドライブを兼ねて昼食と買物。</li> <li>・ 近所に出かける事が多い。</li> <li>・ 農産物が安い、豊富にある。</li> <li>・ いろいろ売っていて楽しいから。</li> <li>・ おいしいうどんが売っているため。</li> <li>・ 生花、野菜を買うため。</li> <li>・ 近いから。</li> <li>・ 行楽に行く途中にある。広い。</li> <li>・ 通勤途中にあるため。</li> </ul>
道の駅 めぬま	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実家の近くだから。野菜の種類が豊富。トマトが美味しい。</li> <li>・ 花がたくさん置いてある。バラ園もよい。</li> <li>・ 近いし農産物も買いやすい。</li> <li>・ 新鮮な農産物が沢山ある。</li> <li>・ 通り道にある、野菜が安いから。</li> <li>・ おいしいラーメン屋があるから。</li> <li>・ お気に入りの商品があるため。</li> <li>・ 大きい通りで入りやすい。</li> </ul>

道の駅	意見概要
道の駅 はにゅう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くて駐車場が広く景観がよい。</li> <li>・ゆるキャラクッキーとか売っているし、可愛い雑貨も結構置いてある。</li> <li>・魅力のある店が数多くあるため。</li> <li>・音楽イベント等、イベントをよくやっているから。</li> <li>・サイクリングをする時の休憩とトイレ。</li> <li>・作りたてのお弁当、お惣菜が豊富で値段も安い。</li> <li>・農産物の買物。</li> </ul>
道の駅 かわもと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秩父、長瀬方面へ行くときに立ち寄る。</li> <li>・高速に入る前のトイレ休憩。</li> <li>・農産物が新鮮で安い。</li> <li>・生花が安く、種類も多い。</li> <li>・子供の学校が近くにあるため。</li> <li>・駐車場が広い。</li> </ul>

## ○農産物直売所、食料品・日用品について

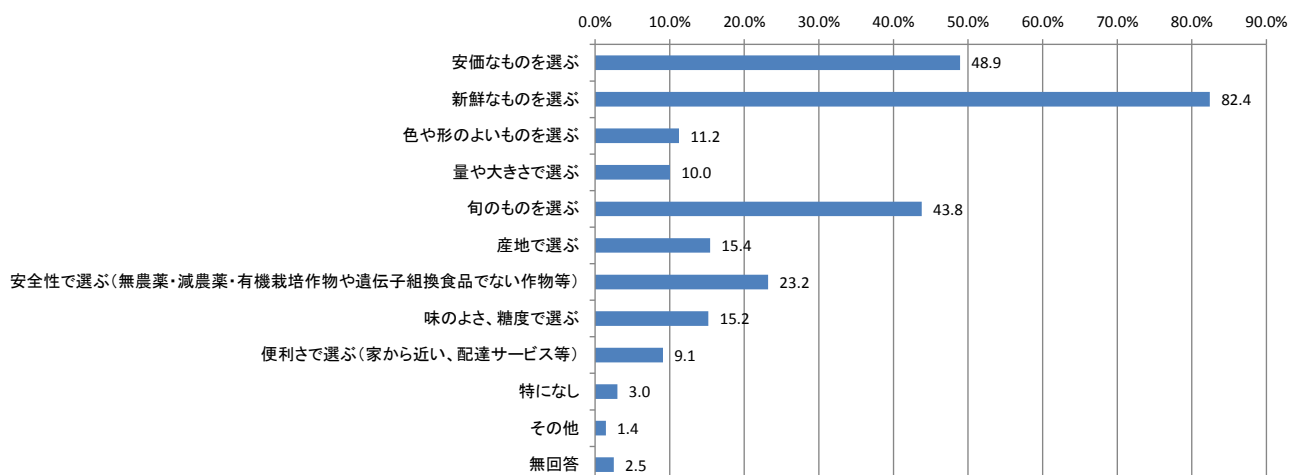
### ① 農産物を購入する際に意識すること【問 7】

農産物を購入する際にどんなことを意識するかという設問には、「新鮮なものを選ぶ」が82.4%と最も高く、次いで「安価なものを選ぶ」が48.9%となっています。

男女別では、「女性」で「新鮮なものを選ぶ」の割合が87.8%と高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるほど、「新鮮なものを選ぶ」、「旬のものを選ぶ」の割合が高くなっています。30 歳代、40 歳代は他の年代と比較して、「安価なものを選ぶ」の割合が高くなっています。

### ■農産物を購入する際に意識すること（N=836、複数回答）



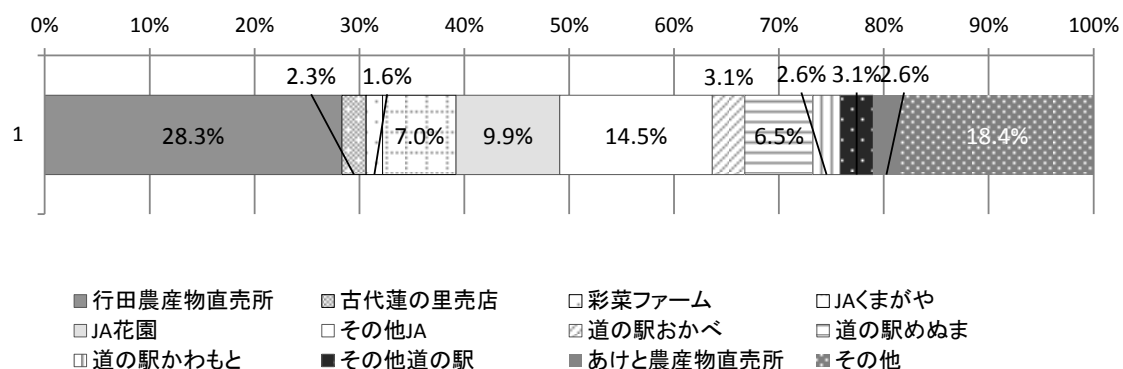
	総数	安価なものを選ぶ	新鮮なものを選ぶ	色や形のよいものを選ぶ	量や大きさで選ぶ	旬のものを 選ぶ	産地で選ぶ	安全性で選ぶ（無農薬・減農薬・有機栽培作物や遺伝子組換え食品でない作物等）	味のよさ、糖度で選ぶ	便利さで選ぶ（家から近い、配達サービス等）	特になし	その他	無回答
総数	836	409	689	94	84	366	129	194	127	76	25	12	21
	100.0%	48.9%	82.4%	11.2%	10.0%	43.8%	15.4%	23.2%	15.2%	9.1%	3.0%	1.4%	2.5%
男性	345	176	258	48	37	128	50	64	63	29	16	5	12
	100.0%	51.0%	74.8%	13.9%	10.7%	37.1%	14.5%	18.6%	18.3%	8.4%	4.6%	1.4%	3.5%
女性	477	230	419	45	47	229	74	126	63	47	8	6	9
	100.0%	48.2%	87.8%	9.4%	9.9%	48.0%	15.5%	26.4%	13.2%	9.9%	1.7%	1.3%	1.9%
無回答	14	3	12	1	0	9	5	4	1	0	1	1	0
	100.0%	21.4%	85.7%	7.1%	0.0%	64.3%	35.7%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%	7.1%	0.0%
20歳代	85	40	52	21	12	16	8	19	17	5	12	1	3
	100.0%	47.1%	61.2%	24.7%	14.1%	18.8%	9.4%	22.4%	20.0%	5.9%	14.1%	1.2%	3.5%
30歳代	136	75	106	15	20	50	25	27	24	15	4	2	4
	100.0%	55.1%	77.9%	11.0%	14.7%	36.8%	18.4%	19.9%	17.6%	11.0%	2.9%	1.5%	2.9%
40歳代	176	96	144	20	26	74	33	38	16	13	3	2	5
	100.0%	54.5%	81.8%	11.4%	14.8%	42.0%	18.8%	21.6%	9.1%	7.4%	1.7%	1.1%	2.8%
50歳代	243	106	210	17	16	119	34	59	43	25	5	3	4
	100.0%	43.6%	86.4%	7.0%	6.6%	49.0%	14.0%	24.3%	17.7%	10.3%	2.1%	1.2%	1.6%
60歳代	186	87	170	19	10	100	27	49	26	17	1	4	5
	100.0%	46.8%	91.4%	10.2%	5.4%	53.8%	14.5%	26.3%	14.0%	9.1%	0.5%	2.2%	2.7%
70歳以上	4	2	2	0	0	3	1	1	1	1	0	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6	3	5	2	0	4	1	1	0	0	0	0	0
	100.0%	50.0%	83.3%	33.3%	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自動車有	758	376	635	83	80	336	120	177	114	66	19	10	17
	100.0%	49.6%	83.8%	10.9%	10.6%	44.3%	15.8%	23.4%	15.0%	8.7%	2.5%	1.3%	2.2%
自動車無	60	26	40	9	4	22	8	14	9	6	6	2	3
	100.0%	43.3%	66.7%	15.0%	6.7%	36.7%	13.3%	23.3%	15.0%	10.0%	10.0%	3.3%	5.0%
無回答	18	7	14	2	0	8	1	3	4	4	0	0	1
	100.0%	38.9%	77.8%	11.1%	0.0%	44.4%	5.6%	16.7%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	5.6%

## ② よく利用する農産物直売所、そこを利用する理由、また購入商品の内容 【問 8】

よく利用する農産物直売所は「行田農産物直売所」が 28.3%と最も高く、次いで「JA 花園」が 9.9%となっています。

その場所を利用する理由として、主に、距離が近いから、品ぞろえがよい、安い、新鮮である等が挙げられています。

### ■よく利用する農産物直売所（N=385、自由回答）



	総数	売産行所物田直農	店の古里代売蓮	ムフ彩ア菜	まJがAやく	園JA花	JそA他	お道かのべ駅	め道ぬのま駅	とか道のわも駅	道そのの駅他	直農あ売産け所物と	その他
総数	385	109	9	6	27	38	56	12	25	10	12	10	71
	100.0%	28.3%	2.3%	1.6%	7.0%	9.9%	14.5%	3.1%	6.5%	2.6%	3.1%	2.6%	18.4%
忍	23	7	1	0	2	1	4	0	1	0	0	1	6
	100.0%	30.4%	4.3%	0.0%	8.7%	4.3%	17.4%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%	26.1%
行田	30	12	2	0	1	1	5	3	1	0	1	0	4
	100.0%	40.0%	6.7%	0.0%	3.3%	3.3%	16.7%	10.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%	13.3%
佐間	19	4	0	0	0	2	5	0	1	0	2	1	4
	100.0%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%	26.3%	0.0%	5.3%	0.0%	10.5%	5.3%	21.1%
持田	33	5	0	0	8	2	3	1	6	0	1	3	4
	100.0%	15.2%	0.0%	0.0%	24.2%	6.1%	9.1%	3.0%	18.2%	0.0%	3.0%	9.1%	12.1%
星河	21	4	0	2	1	2	4	1	1	2	0	0	4
	100.0%	19.0%	0.0%	9.5%	4.8%	9.5%	19.0%	4.8%	4.8%	9.5%	0.0%	0.0%	19.0%
長野	27	14	1	0	1	2	6	0	0	1	0	0	2
	100.0%	51.9%	3.7%	0.0%	3.7%	7.4%	22.2%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	7.4%
星宮	33	8	0	2	3	7	1	2	0	1	0	2	7
	100.0%	24.2%	0.0%	6.1%	9.1%	21.2%	3.0%	6.1%	0.0%	3.0%	0.0%	6.1%	21.2%
下忍	20	6	1	0	1	2	1	1	1	1	1	0	5
	100.0%	30.0%	5.0%	0.0%	5.0%	10.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	5.0%	0.0%	25.0%
荒木	23	9	0	0	0	1	4	2	2	1	0	0	4
	100.0%	39.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	17.4%	8.7%	8.7%	4.3%	0.0%	0.0%	17.4%
須加	20	8	0	0	1	2	4	1	0	0	0	0	4
	100.0%	40.0%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	20.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
北河原	31	6	0	0	1	2	7	0	7	1	1	1	5
	100.0%	19.4%	0.0%	0.0%	3.2%	6.5%	22.6%	0.0%	22.6%	3.2%	3.2%	3.2%	16.1%
埼玉	22	5	2	0	2	3	1	0	1	1	0	1	6
	100.0%	22.7%	9.1%	0.0%	9.1%	13.6%	4.5%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%	4.5%	27.3%
太田	30	15	1	0	0	3	6	0	0	1	1	0	3
	100.0%	50.0%	3.3%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%	0.0%	10.0%
太井	21	2	1	0	3	3	1	0	0	1	4	0	6
	100.0%	9.5%	4.8%	0.0%	14.3%	14.3%	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	19.0%	0.0%	28.6%
南河原	24	3	0	2	3	5	1	1	4	0	1	1	3
	100.0%	12.5%	0.0%	8.3%	12.5%	20.8%	4.2%	4.2%	16.7%	0.0%	4.2%	4.2%	12.5%
無回答	8	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
	100.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

■上位3施設、よく利用する農産物直売所、そこを利用する理由、また購入商品の内容  
(N=385、自由回答)

【行田農産物直売所】

利用する理由	購入商品
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家から近い。</li> <li>・新鮮で安い。</li> <li>・B級品を安く購入できる。</li> <li>・品揃えが多い。</li> </ul>	大根、花、キャベツ、きゅうり、米、スイカ、 トマト、レタス、さつまいも、いちご、なし、 コープ製品（漬物の素、みそ、とうふ、大豆、 にんじん、ネギ）、 珍しい野菜（スーパーにない物等）、あずき、ゴ ーヤ、なす、ウコン粉末、秩父こんにゃく、里 芋、めだか  等

【JA 花園直売所】

利用する理由	購入商品
<ul style="list-style-type: none"> <li>・変わった野菜が売っている。地元で売 っていない野菜がある。B級野菜が売 っている。</li> <li>・いろいろな草花や木、新鮮野菜や生花 が安い価格で買える。</li> <li>・売場面積が広い。</li> <li>・休憩できる、広い。</li> <li>・安くて種類が豊富。</li> <li>・花園インターから近い。</li> </ul>	パクチー、空心菜、ルッコラ、おかひじき、金 時菜、 きゅうり、なす、トマト、すいか、生花、枝ま め、 いちご、ぶどう、キャベツ、ネギ、米、しいた け、 こんにゃく、パン、ウコン、白菜、ほうれん草、 ごぼう、とうもろこし、ブルーベリー、 ブロッコリー、豆類、ゴマ、たかのつめ、しょ うが、 そば  等

【JA くまがや】

利用する理由	購入商品
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も行ったことがあり利用しやすい。</li> <li>・新鮮で安い。種類も豊富。(野菜も花も)</li> <li>・地元の人たちの手作り品が多い。</li> <li>・手づくり料理がおいしいため。</li> <li>・めずらしい野菜が見つかるとうれしい。</li> <li>・近くのスーパーに無いようなものもある。</li> </ul>	漬物の素、うどん、五目ごはん、まんじゅう キムチづけたくわん、いなかまんじゅう、きゅ うり、 なす、じゃがいも、玉ねぎ、ネギ、枝豆、しい たけ、 卵、ブロッコリー、にんじん、大根、ごぼう、 ほうれん草、おいなりさん、雪くま、 焼きとうもろこし、まぜごはん  等

### ③ 普段、食料品・日用品を購入するお店（スーパー・直売所・ドラッグストア等）【問 9】

普段、日用品・食料品を購入するお店として、「ベイシア」、「ベルク」、「ヤオコー」の回答率が非常に高く、「ベルク」の回答率は全体の半分以上となっています。

#### ■ 普段、食料品・日用品を購入するお店（主なもの）（N=836、自由回答）

居住地区	主なお店
忍	エコス、ベイシア、ベルク
行田	エコス、ベルク、ヤオコー
佐間	ベイシア、ベルク、ヤオコー
持田	ベイシア、ベルク（城西）、ヤオコー（門井）
星河	ベルク、ベイシア、マミーマート
長野	ベルク（佐間、長野）、ヤオコー
星宮	ベルク（城西）、ヤオコー、ウェルシア
下忍	ベルク、ベイシア、ヤオコー
荒木	ベルク、ヤオコー
須加	ベルク、ヤオコー、マミーマート
北河原	ベルク、ベイシア、ヤオコー、マミーマート
埼玉	ベルク、ヤオコー、ベイシア
太田	ベルク、ヤオコー
太井	ヤオコー（門井）、ベイシア、ベルク
南河原	ベルク、ベイシア、マミーマート

	総数	ベイシア	ウェルシア	ベルク	ヤオコー	SEIYU	エコス	マミーマート	イオン	カインズホーム	マルエドラッグ	ケンゾー
総数	836	213	136	477	261	67	61	63	40	88	46	19
	100.0%	25.5%	16.3%	57.1%	31.2%	8.0%	7.3%	7.5%	4.8%	10.5%	5.5%	2.3%
忍	45	24	3	21	10	6	19	0	0	9	6	0
	100.0%	53.3%	6.7%	46.7%	22.2%	13.3%	42.2%	0.0%	0.0%	20.0%	13.3%	0.0%
行田	85	13	9	50	22	9	20	9	1	5	1	0
	100.0%	15.3%	10.6%	58.8%	25.9%	10.6%	23.5%	10.6%	1.2%	5.9%	1.2%	0.0%
佐間	43	11	12	21	8	7	3	0	1	3	1	0
	100.0%	25.6%	27.9%	48.8%	18.6%	16.3%	7.0%	0.0%	2.3%	7.0%	2.3%	0.0%
持田	69	23	11	50	20	1	1	1	0	13	12	0
	100.0%	33.3%	15.9%	72.5%	29.0%	1.4%	1.4%	1.4%	0.0%	18.8%	17.4%	0.0%
星河	49	18	13	28	4	1	7	18	2	1	0	1
	100.0%	36.7%	26.5%	57.1%	8.2%	2.0%	14.3%	36.7%	4.1%	2.0%	0.0%	2.0%
長野	57	7	10	37	25	4	1	2	4	3	5	1
	100.0%	12.3%	17.5%	64.9%	43.9%	7.0%	1.8%	3.5%	7.0%	5.3%	8.8%	1.8%
星宮	63	23	16	44	17	5	2	2	3	14	4	1
	100.0%	36.5%	25.4%	69.8%	27.0%	7.9%	3.2%	3.2%	4.8%	22.2%	6.3%	1.6%
下忍	49	18	9	26	15	12	1	0	2	7	3	0
	100.0%	36.7%	18.4%	53.1%	30.6%	24.5%	2.0%	0.0%	4.1%	14.3%	6.1%	0.0%
荒木	36	0	4	24	19	3	1	2	1	0	2	6
	100.0%	0.0%	11.1%	66.7%	52.8%	8.3%	2.8%	5.6%	2.8%	0.0%	5.6%	16.7%
須加	59	2	2	32	17	1	0	5	7	0	0	5
	100.0%	3.4%	3.4%	54.2%	28.8%	1.7%	0.0%	8.5%	11.9%	0.0%	0.0%	8.5%
北河原	59	12	11	25	13	1	0	11	2	6	0	2
	100.0%	20.3%	18.6%	42.4%	22.0%	1.7%	0.0%	18.6%	3.4%	10.2%	0.0%	3.4%
埼玉	49	15	9	25	13	8	2	2	3	6	1	0
	100.0%	30.6%	18.4%	51.0%	26.5%	16.3%	4.1%	4.1%	6.1%	12.2%	2.0%	0.0%
太田	50	4	3	32	30	2	0	0	8	2	5	2
	100.0%	8.0%	6.0%	64.0%	60.0%	4.0%	0.0%	0.0%	16.0%	4.0%	10.0%	4.0%
太井	41	12	5	15	27	3	0	0	1	5	4	0
	100.0%	29.3%	12.2%	36.6%	65.9%	7.3%	0.0%	0.0%	2.4%	12.2%	9.8%	0.0%
南河原	51	18	14	31	9	1	1	9	2	9	0	0
	100.0%	35.3%	27.5%	60.8%	17.6%	2.0%	2.0%	17.6%	3.9%	17.6%	0.0%	0.0%
無回答	31	13	5	16	12	3	3	2	3	5	2	1
	100.0%	41.9%	16.1%	51.6%	38.7%	9.7%	9.7%	6.5%	9.7%	16.1%	6.5%	3.2%

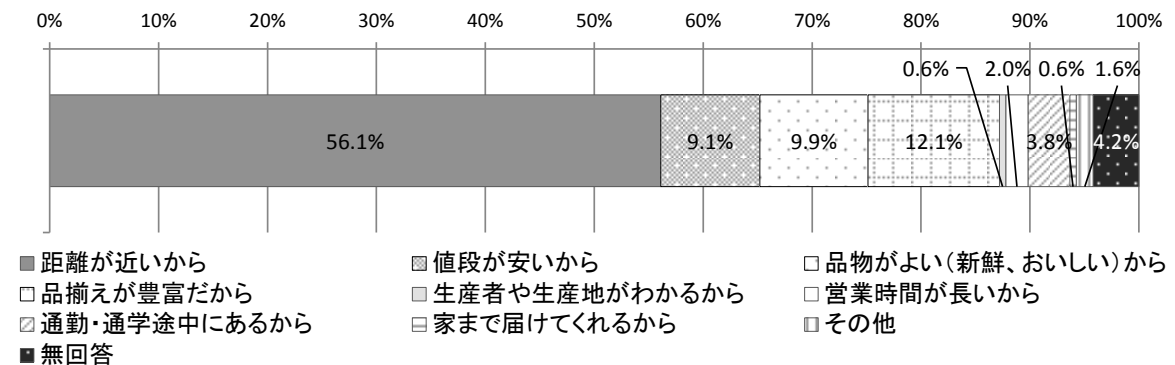


#### ④ 問9で回答したお店を利用する理由【問10】

問9で回答したお店を利用する理由は、「距離が近いから」が56.1%と最も高く、次いで「品ぞろえが豊富だから」が12.1%となっています。

年齢別では、年齢が高くなるほど、「品物がよい（新鮮、おいしい）から」の割合が高くなる傾向があります。

■問9で回答したお店を利用する理由（N=836、単一回答）



	総数	距離が近いから	値段が安いから	品物がよい(新鮮、おいしい)から	品揃えが豊富だから	生産者や生産地がわかるから	営業時間が長いから	通勤・通学途中にあるから	家まで届けてくれるから	その他	無回答
総数	836	469	76	83	101	5	17	32	5	13	35
	100.0%	56.1%	9.1%	9.9%	12.1%	0.6%	2.0%	3.8%	0.6%	1.6%	4.2%
男性	345	184	38	36	43	2	7	9	1	7	18
	100.0%	53.3%	11.0%	10.4%	12.5%	0.6%	2.0%	2.6%	0.3%	2.0%	5.2%
女性	477	277	36	46	57	3	9	23	4	6	16
	100.0%	58.1%	7.5%	9.6%	11.9%	0.6%	1.9%	4.8%	0.8%	1.3%	3.4%
無回答	14	8	2	1	1	0	1	0	0	0	1
	100.0%	57.1%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
20歳代	85	48	7	4	13	0	1	4	0	3	5
	100.0%	56.5%	8.2%	4.7%	15.3%	0.0%	1.2%	4.7%	0.0%	3.5%	5.9%
30歳代	136	85	17	9	6	0	3	7	1	2	6
	100.0%	62.5%	12.5%	6.6%	4.4%	0.0%	2.2%	5.1%	0.7%	1.5%	4.4%
40歳代	176	96	24	17	16	1	4	6	2	2	8
	100.0%	54.5%	13.6%	9.7%	9.1%	0.6%	2.3%	3.4%	1.1%	1.1%	4.5%
50歳代	243	125	17	29	37	3	5	13	0	4	10
	100.0%	51.4%	7.0%	11.9%	15.2%	1.2%	2.1%	5.3%	0.0%	1.6%	4.1%
60歳代	186	111	9	23	27	1	3	2	2	2	6
	100.0%	59.7%	4.8%	12.4%	14.5%	0.5%	1.6%	1.1%	1.1%	1.1%	3.2%
70歳以上	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0
	100.0%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自動車有	758	417	70	79	96	4	14	32	5	11	30
	100.0%	55.0%	9.2%	10.4%	12.7%	0.5%	1.8%	4.2%	0.7%	1.5%	4.0%
自動車無	60	45	3	1	4	1	0	0	0	2	4
	100.0%	75.0%	5.0%	1.7%	6.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	6.7%
無回答	18	7	3	3	1	0	3	0	0	0	1
	100.0%	38.9%	16.7%	16.7%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%

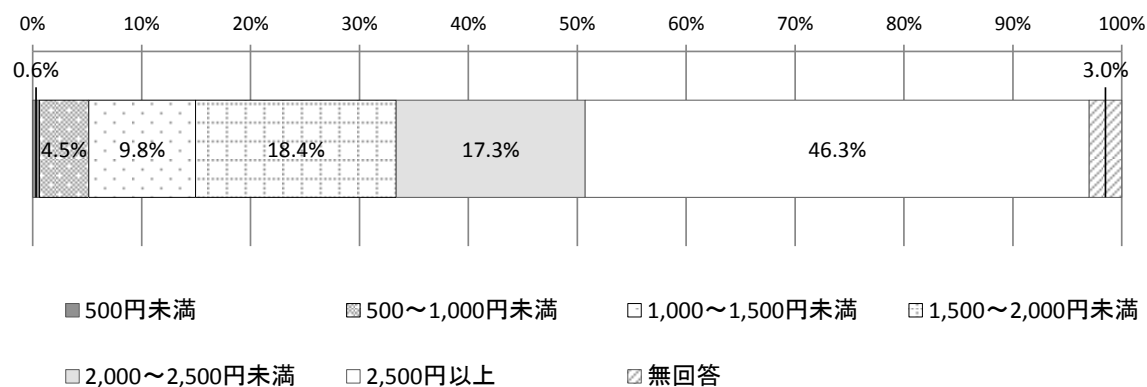
## ⑤ 問9で回答したお店での平均購入金額【問11】

問9で回答したお店での平均購入金額は「2500円以上」が46.3%と最も高く、次いで「1500～2000円未満」が18.4%となっています。

男女別では、「女性」で「2500円以上」の割合が50.5%と高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるほど、「2500円以上」の割合が高くなる傾向があります。

■問9で回答したお店での平均購入金額（N=836、単一回答）



	総数	500円未満	500～1,000円未満	1,000～1,500円未満	1,500～2,000円未満	2,000～2,500円未満	2,500円以上	無回答
総数	836	5	38	82	154	145	387	25
	100.0%	0.6%	4.5%	9.8%	18.4%	17.3%	46.3%	3.0%
男性	345	4	22	42	62	56	140	19
	100.0%	1.2%	6.4%	12.2%	18.0%	16.2%	40.6%	5.5%
女性	477	1	15	39	88	87	241	6
	100.0%	0.2%	3.1%	8.2%	18.4%	18.2%	50.5%	1.3%
無回答	14	0	1	1	4	2	6	0
	100.0%	0.0%	7.1%	7.1%	28.6%	14.3%	42.9%	0.0%
20歳代	85	3	11	14	18	12	21	6
	100.0%	3.5%	12.9%	16.5%	21.2%	14.1%	24.7%	7.1%
30歳代	136	0	8	13	28	24	60	3
	100.0%	0.0%	5.9%	9.6%	20.6%	17.6%	44.1%	2.2%
40歳代	176	1	6	18	35	33	79	4
	100.0%	0.6%	3.4%	10.2%	19.9%	18.8%	44.9%	2.3%
50歳代	243	1	9	18	40	46	122	7
	100.0%	0.4%	3.7%	7.4%	16.5%	18.9%	50.2%	2.9%
60歳代	186	0	3	18	31	30	100	4
	100.0%	0.0%	1.6%	9.7%	16.7%	16.1%	53.8%	2.2%
70歳以上	4	0	0	1	0	0	2	1
	100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%
無回答	6	0	1	0	2	0	3	0
	100.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%
自動車有	758	2	25	72	140	136	361	22
	100.0%	0.3%	3.3%	9.5%	18.5%	17.9%	47.6%	2.9%
自動車無	60	3	11	8	11	7	17	3
	100.0%	5.0%	18.3%	13.3%	18.3%	11.7%	28.3%	5.0%
無回答	18	0	2	2	3	2	9	0
	100.0%	0.0%	11.1%	11.1%	16.7%	11.1%	50.0%	0.0%

## ○産業交流拠点（物産館及び道の駅）について

### ① 行田市の物産館でほしいサービス【問 12】

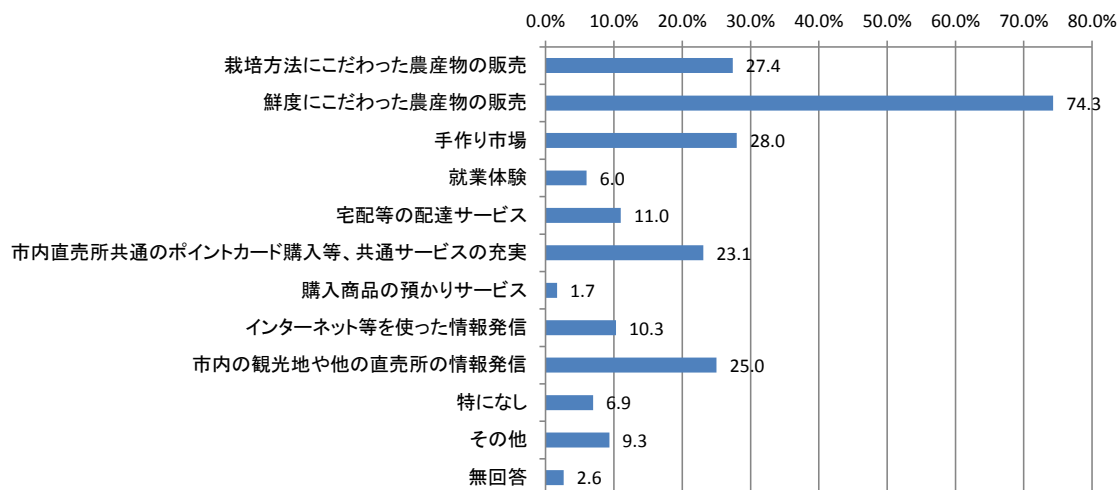
行田市の物産館でほしいサービスは「鮮度にこだわった農産物の販売」が 74.3%と最も高く、次いで「手作り市場」が 28.0%となっています。

男女別では、「女性」で「鮮度にこだわった農産物の販売」、「手作り市場」の割合が高くなっています。

年齢別では、「30 歳代」、「40 歳代」で「市内直売所共通のポイントカード導入等、共通サービスの充実」の割合が高くなっています。

また、年齢が高くなるほど、「鮮度にこだわった農産物の販売」の割合が高くなる傾向があります。

#### ■行田市の物産館でほしいサービス（N=836、複数回答）



	総 数	の 販 売	裁 培 方 法 に こ だ わ つ た 農 産 物	鮮 度 に こ だ わ つ た 農 産 物 の 販	手 作 り 市 場	就 業 体 験	宅 配 等 の 配 達 サ ー ビ ス	市 内 直 売 所 共 通 の ポ イ ン ト ス の 充 実	購 入 商 品 の 預 かり サ ー ビ ス	報 発 信 イン ター ネ ット 等 を 使 つ た 情	市 内 の 観 光 地 や 他 の 直 売 所 の 情 報 発 信	特 に な し	そ の 他	無 回 答
総数	836	229	621	234	50	92	193	14	86	209	58	78	22	
	100.0%	27.4%	74.3%	28.0%	6.0%	11.0%	23.1%	1.7%	10.3%	25.0%	6.9%	9.3%	2.6%	
男性	345	94	243	82	27	41	76	3	40	100	30	37	9	
	100.0%	27.2%	70.4%	23.8%	7.8%	11.9%	22.0%	0.9%	11.6%	29.0%	8.7%	10.7%	2.6%	
女性	477	133	369	145	20	47	116	11	45	106	27	38	13	
	100.0%	27.9%	77.4%	30.4%	4.2%	9.9%	24.3%	2.3%	9.4%	22.2%	5.7%	8.0%	2.7%	
無回答	14	2	9	7	3	4	1	0	1	3	1	3	0	
	100.0%	14.3%	64.3%	50.0%	21.4%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%	21.4%	7.1%	21.4%	0.0%	
20歳代	85	21	48	17	11	13	16	2	17	22	9	6	4	
	100.0%	24.7%	56.5%	20.0%	12.9%	15.3%	18.8%	2.4%	20.0%	25.9%	10.6%	7.1%	4.7%	
30歳代	136	39	92	24	11	17	44	3	11	26	12	14	7	
	100.0%	28.7%	67.6%	17.6%	8.1%	12.5%	32.4%	2.2%	8.1%	19.1%	8.8%	10.3%	5.1%	
40歳代	176	52	134	40	11	17	45	2	23	44	9	28	1	
	100.0%	29.5%	76.1%	22.7%	6.3%	9.7%	25.6%	1.1%	13.1%	25.0%	5.1%	15.9%	0.6%	
50歳代	243	53	188	90	8	20	54	4	19	66	12	18	6	
	100.0%	21.8%	77.4%	37.0%	3.3%	8.2%	22.2%	1.6%	7.8%	27.2%	4.9%	7.4%	2.5%	
60歳代	186	60	152	58	7	24	34	3	15	50	15	11	4	
	100.0%	32.3%	81.7%	31.2%	3.8%	12.9%	18.3%	1.6%	8.1%	26.9%	8.1%	5.9%	2.2%	
70歳以上	4	2	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0%	50.0%	100.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	6	2	3	2	2	0	0	0	1	1	1	1	0	
	100.0%	33.3%	50.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	
自動車有	758	213	576	214	41	77	180	13	73	186	50	72	17	
	100.0%	28.1%	76.0%	28.2%	5.4%	10.2%	23.7%	1.7%	9.6%	24.5%	6.6%	9.5%	2.2%	
自動車無	60	11	34	15	6	14	12	1	11	17	8	5	4	
	100.0%	18.3%	56.7%	25.0%	10.0%	23.3%	20.0%	1.7%	18.3%	28.3%	13.3%	8.3%	6.7%	
無回答	18	5	11	5	3	1	1	0	2	6	0	1	1	
	100.0%	27.8%	61.1%	27.8%	16.7%	5.6%	5.6%	0.0%	11.1%	33.3%	0.0%	5.6%	5.6%	

## ② 産業交流拠点に欲しいと思う機能【問 13】

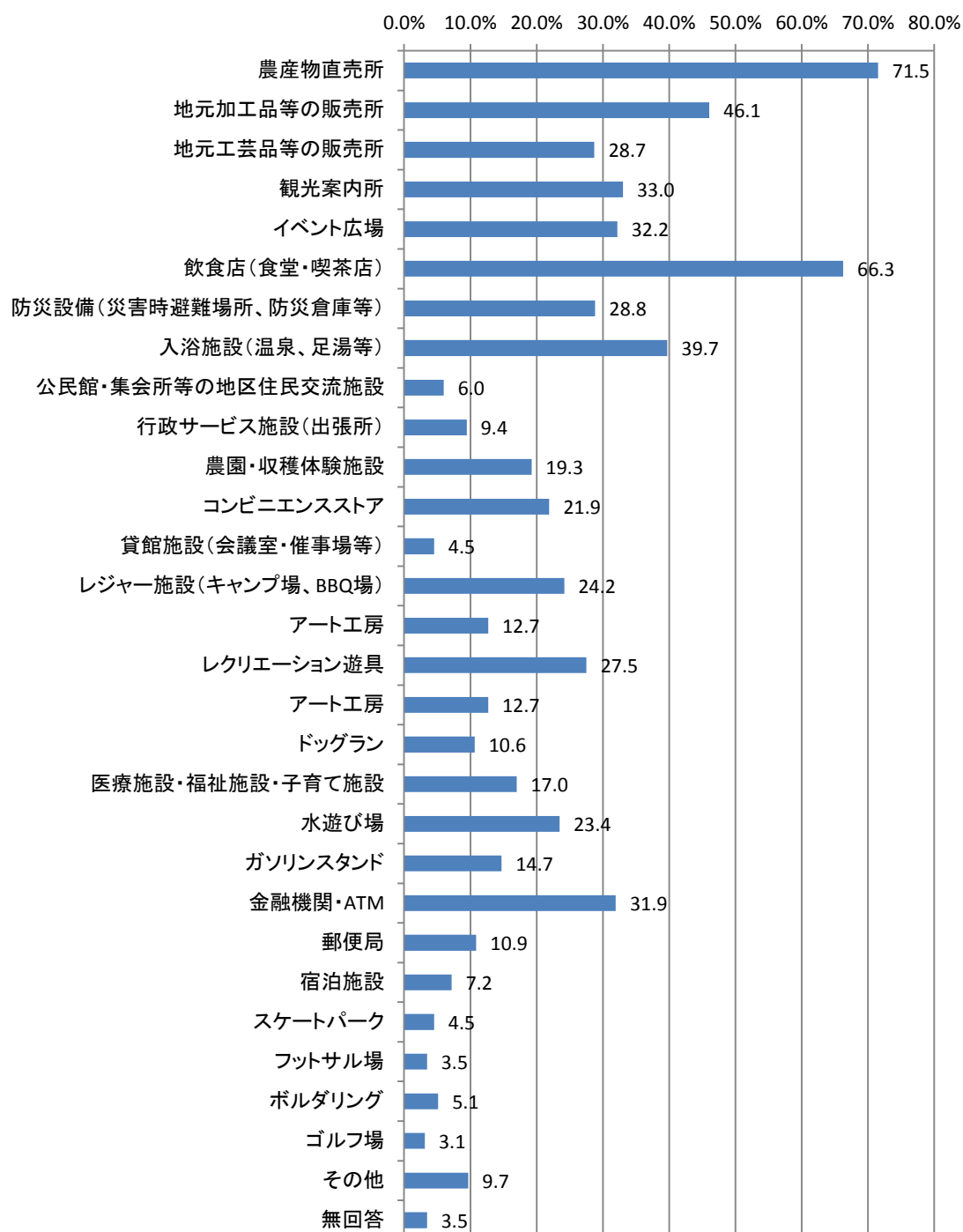
産業交流拠点に欲しいと思う機能は「農産物直売所」が71.5%と最も高く、次いで「飲食店」が66.3%となっています。

男女別では、「女性」で「農産物直売所」の割合が76.1%と高くなっています。

年齢別では、20歳～30歳代の、いわゆる子育て世帯で「レジャー施設（キャンプ場、BBQ場）」、「レクリエーション遊具」、「水遊び場」の割合が高くなっています。

また、年齢が高くなるほど、「農産物直売所」、「地元加工品等の販売所」の割合が高くなっています。

### ■産業交流拠点に欲しいと思うサービス（N=836、複数回答）



	総数	農産物直売所	地元加工品等の販売所	地元工芸品等の販売所	観光案内所	イベント広場	飲食店（食堂・喫茶店）	所、防災設備（災害時避難場所、防災倉庫等）	入浴施設（温泉、足湯等）	交流施設・集会所等の地区住民	行政サービス施設（出張所）	農園・収穫体験施設	コンビニエンスストア	等館施設（会議室・催事場）	BQやレジャー施設（キャンプ場、BBQ場）	アート工房	レクリエーション遊具	ドッグラン	医療施設・福祉施設・子育て施設	水遊び場	ガソリンスタンド	金融機関・ATM	郵便局	宿泊施設	スケートパーク	フットサル場	ボルダリング	ゴルフ場	その他	無回答	
総数	836	598	385	240	276	269	554	241	332	50	79	161	183	38	202	106	230	89	142	196	123	267	91	60	38	29	43	26	81	29	
	100.0%	71.5%	46.1%	28.7%	33.0%	32.2%	66.3%	28.8%	39.7%	6.0%	9.4%	19.3%	21.9%	4.5%	24.2%	12.7%	27.5%	10.6%	17.0%	23.4%	14.7%	31.9%	10.9%	7.2%	4.5%	3.5%	5.1%	3.1%	9.7%	3.5%	
	345	225	149	97	113	122	228	105	140	26	30	50	85	17	77	37	79	44	42	61	64	115	41	32	16	19	21	21	36	15	
	100.0%	65.2%	43.2%	28.1%	32.8%	35.4%	66.1%	30.4%	40.6%	7.5%	8.7%	14.5%	24.6%	4.9%	22.3%	10.7%	22.9%	12.8%	12.2%	17.7%	18.6%	33.3%	11.9%	9.3%	4.6%	5.5%	6.1%	6.1%	10.4%	4.3%	
女性	477	363	230	140	158	141	316	133	187	23	48	106	97	20	120	67	149	43	98	130	55	148	49	26	22	8	21	4	44	14	
	100.0%	76.1%	48.2%	29.4%	33.1%	29.6%	66.2%	27.9%	39.2%	4.8%	10.1%	22.2%	20.3%	4.2%	25.2%	14.0%	31.2%	9.0%	20.5%	27.3%	11.5%	31.0%	10.3%	5.5%	4.6%	1.7%	4.4%	0.8%	9.2%	2.9%	
	14	10	6	3	5	6	10	3	5	1	1	5	1	1	5	2	2	2	2	5	4	4	1	2	0	2	1	1	1	0	
	100.0%	71.4%	42.9%	21.4%	35.7%	42.9%	71.4%	21.4%	35.7%	7.1%	7.1%	35.7%	7.1%	7.1%	35.7%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	35.7%	28.6%	28.6%	7.1%	14.3%	0.0%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%	
20歳代	85	42	20	13	23	23	46	23	37	7	7	12	27	5	28	15	22	9	14	21	10	30	8	9	10	6	14	5	10	3	
	100.0%	49.4%	23.5%	15.3%	27.1%	27.1%	54.1%	27.1%	43.5%	8.2%	8.2%	14.1%	31.8%	5.9%	32.9%	17.6%	25.9%	10.6%	16.5%	24.7%	11.8%	35.3%	9.4%	10.6%	11.8%	7.1%	16.5%	5.9%	11.8%	3.5%	
	136	85	51	23	42	51	88	41	56	6	12	38	36	3	44	13	60	16	32	57	20	49	13	8	13	7	12	4	15	5	
	100.0%	62.5%	37.5%	16.9%	30.9%	37.5%	64.7%	30.1%	41.2%	4.4%	8.8%	27.9%	26.5%	2.2%	32.4%	9.6%	44.1%	11.8%	23.5%	41.9%	14.7%	36.0%	9.6%	5.9%	9.6%	5.1%	8.8%	2.9%	11.0%	3.7%	
40歳代	176	125	81	48	60	56	127	48	83	10	15	38	44	10	64	27	59	24	24	56	33	53	26	16	12	11	10	9	22	1	
	100.0%	71.0%	46.0%	27.3%	34.1%	31.8%	72.2%	27.3%	47.2%	5.7%	8.5%	21.6%	25.0%	5.7%	36.4%	15.3%	33.5%	13.6%	13.6%	31.8%	18.8%	30.1%	14.8%	9.1%	6.8%	6.3%	5.7%	5.1%	12.5%	0.6%	
	243	186	128	83	77	73	164	73	88	17	27	36	47	11	44	26	53	25	37	36	30	74	29	14	3	3	5	6	20	12	
	100.0%	76.5%	52.7%	34.2%	31.7%	30.0%	67.5%	30.0%	36.2%	7.0%	11.1%	14.8%	19.3%	4.5%	18.1%	10.7%	21.8%	10.3%	15.2%	14.8%	12.3%	30.5%	11.9%	5.8%	1.2%	1.2%	2.1%	2.5%	8.2%	4.9%	
60歳代	186	152	100	68	70	60	122	52	65	8	17	31	28	7	19	22	32	14	34	20	28	58	14	10	0	0	1	2	14	8	
	100.0%	81.7%	53.8%	36.6%	37.6%	32.3%	65.6%	28.0%	34.9%	4.3%	9.1%	16.7%	15.1%	3.8%	10.2%	11.8%	17.2%	7.5%	18.3%	10.8%	15.1%	31.2%	7.5%	5.4%	0.0%	0.0%	0.5%	1.1%	7.5%	4.3%	
	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	
	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	6	4	3	3	2	4	5	2	1	0	0	4	0	1	2	2	2	0	0	3	2	2	0	1	0	2	1	0	0	0	
	100.0%	66.7%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	83.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	758	557	357	221	255	247	512	217	301	45	74	147	161	35	190	91	219	82	127	184	117	244	87	52	33	25	38	23	73	25	
	100.0%	73.5%	47.1%	29.2%	33.6%	32.6%	67.5%	28.6%	39.7%	5.9%	9.8%	19.4%	21.2%	4.6%	25.1%	12.0%	28.9%	10.8%	16.8%	24.3%	15.4%	32.2%	11.5%	6.9%	4.4%	3.3%	5.0%	3.0%	9.6%	3.3%	
自動車無	60	31	21	12	17	14	33	20	26	5	4	10	19	2	9	11	5	7	13	10	5	18	4	7	5	2	4	2	7	2	
	100.0%	51.7%	35.0%	20.0%	28.3%	23.3%	55.0%	33.3%	43.3%	8.3%	6.7%	16.7%	31.7%	3.3%	15.0%	18.3%	8.3%	11.7%	21.7%	16.7%	8.3%	30.0%	6.7%	11.7%	8.3%	3.3%	3.3%	6.7%	3.3%	11.7%	3.3%
	18	10	7	7	4	8	9	4	5	0	1	4	3	1	3	4	6	0	2	2	1	5	0	1	0	2	1	1	1	2	
	100.0%	55.6%	38.9%	38.9%	22.2%	44.4%	50.0%	22.2%	27.8%	0.0%	5.6%	22.2%	16.7%	5.6%	16.7%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	11.1%	5.6%	27.8%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	5.6%	5.6%	5.6%	11.1%	



### ③ 問 13 で回答した機能の中で、特に重点をおいてほしい機能【問 14】

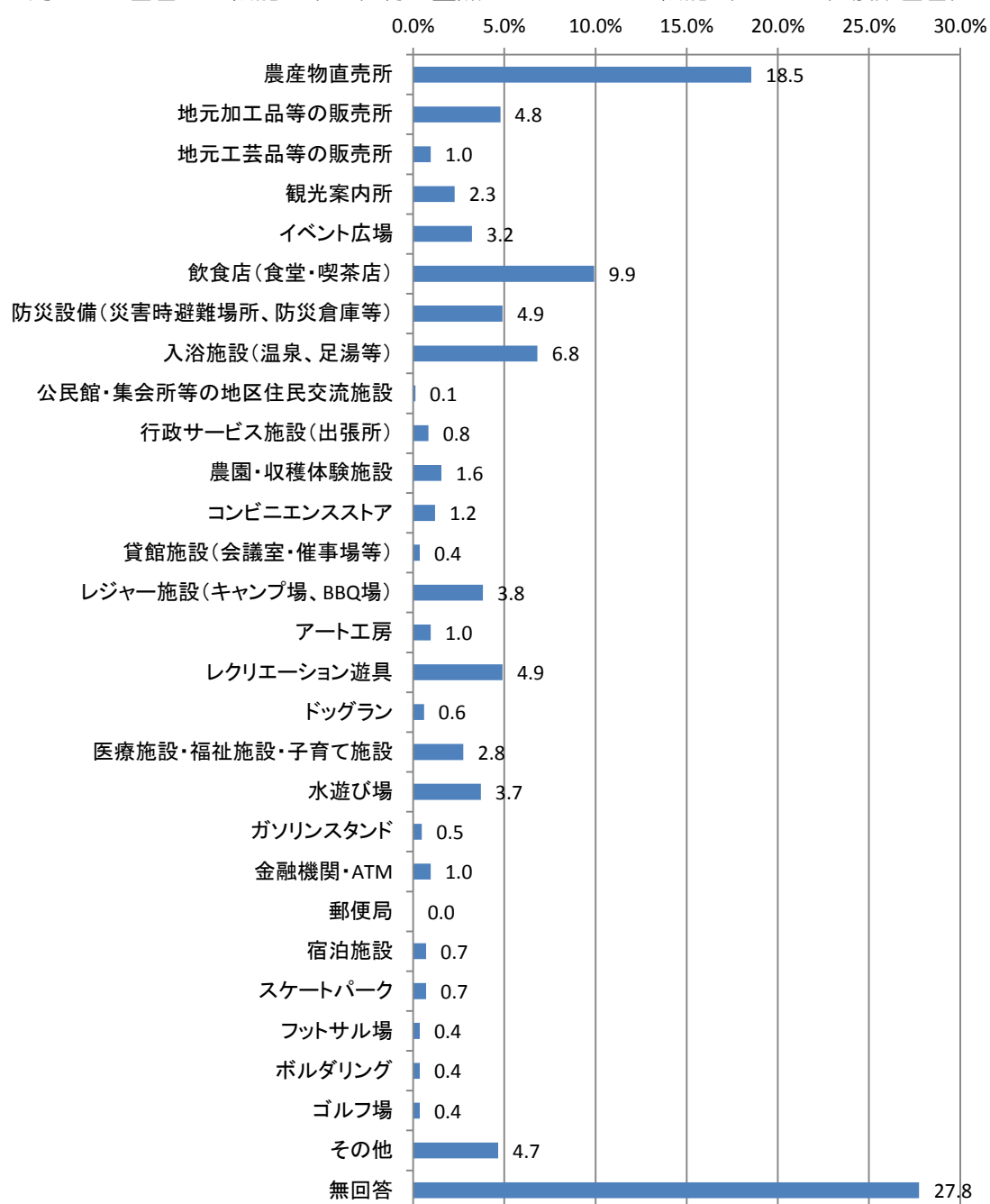
問 13 で回答した機能の中で、特に重点をおいてほしい機能は、「農産物直売所」が 18.5%と最も高く、次いで「飲食店（食堂・喫茶店）」が 9.9%となっています。

男女別では、「女性」で「農産物直売所」の割合が 21.4%と高くなっています。

年齢別では、20 歳～30 歳代の、いわゆる子育て世帯で「レジャー施設（キャンプ場、BBQ 場）」、「レクリエーション遊具」、「水遊び場」の割合が高くなっています。

また、年齢が高くなるほど、「農産物直売所」の割合が高くなる傾向があります。

#### ■問 13 で回答した機能の中で、特に重点をおいてほしい機能（N=836、複数回答）



	総数	農産物直売所	地元加工品等の販売所	地元工芸品等の販売所	観光案内所	イベント広場	飲食店（食堂・喫茶店）	所、防災設備（災害時避難場 所、防災倉庫等）	入浴施設（温泉、足湯等）	民交流館・施設集会所等の地区住	行政サービス施設（出張 所）	農園・収穫体験施設	コンビニエンスストア	等）館施設（会議室・催事場 等）	場、ジャ ー施設（キャンプ 場、BBQ場等）	アート工房	レクリエーション遊具	ドッグラン	て医療施設・福祉施設・子育 施設	水遊び場	ガソリンスタンド	金融機関・ATM	郵便局	宿泊施設	スケートパーク	フットサル場	ボルダリング	ゴルフ場	その他	無 回 答	
総数	836	155	40	8	19	27	83	41	57	1	7	13	10	3	32	8	41	5	23	31	4	8		6	6	3	3	3	39	232	
	100.0%	18.5%	4.8%	1.0%	2.3%	3.2%	9.9%	4.9%	6.8%	0.1%	0.8%	1.6%	1.2%	0.4%	3.8%	1.0%	4.9%	0.6%	2.8%	3.7%	0.5%	1.0%	0.0%	0.7%	0.7%	0.4%	0.4%	4.7%	27.8%		
男性	345	51	17	1	12	13	44	13	20	1	3	4	6	0	16	2	11	1	6	10	2	5		2	4	2	2	19	96		
	100.0%	14.8%	4.9%	0.3%	3.5%	3.8%	12.8%	3.8%	5.8%	0.3%	0.9%	1.2%	1.7%	0.0%	4.6%	0.6%	3.2%	0.3%	1.7%	2.9%	0.6%	1.4%	0.0%	0.6%	1.2%	0.6%	0.6%	5.5%	27.8%		
女性	477	102	23	7	7	13	37	28	36	0	4	9	4	3	14	6	30	4	16	21	1	3		4	2	1	1	0	20	128	
	100.0%	21.4%	4.8%	1.5%	1.5%	2.7%	7.8%	5.9%	7.5%	0.0%	0.8%	1.9%	0.8%	0.6%	2.9%	1.3%	6.3%	0.8%	3.4%	4.4%	0.2%	0.6%	0.0%	0.8%	0.4%	0.2%	0.2%	4.2%	26.8%		
無回答	14	2	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0		0	0	0	1	0	8		
	100.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	57.1%		
20歳代	85	6	1	0	4	2	8	3	10	0	0	1	0	0	7	0	5	0	1	7	0	3		0	2	0	2	0	7	19	
	100.0%	7.1%	1.2%	0.0%	4.7%	2.4%	9.4%	3.5%	11.8%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	8.2%	0.0%	5.9%	0.0%	1.2%	8.2%	0.0%	3.5%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.4%	8.2%	22.4%		
30歳代	136	24	3	1	1	7	14	7	10	0	3	3	4	1	10	1	13	0	7	13	0	1		1	1	1	1	0	6	20	
	100.0%	17.6%	2.2%	0.7%	0.7%	5.1%	10.3%	5.1%	7.4%	0.0%	2.2%	2.2%	2.9%	0.7%	7.4%	0.7%	9.6%	0.0%	5.1%	9.6%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%	4.4%	14.7%		
40歳代	176	32	6	1	4	7	23	7	11	0	0	2	4	1	9	3	10	2	3	5	2	1		1	2	2	0	1	11	43	
	100.0%	18.2%	3.4%	0.6%	2.3%	4.0%	13.1%	4.0%	6.3%	0.0%	0.0%	1.1%	2.3%	0.6%	5.1%	1.7%	5.7%	1.1%	1.7%	2.8%	1.1%	0.6%	0.0%	0.6%	1.1%	1.1%	0.0%	0.6%	6.3%	24.4%	
50歳代	243	51	16	3	6	7	25	13	13	0	3	4	1	0	4	2	7	3	6	4	1	1		2	1	0	0	2	6	84	
	100.0%	21.0%	6.6%	1.2%	2.5%	2.9%	10.3%	5.3%	5.3%	0.0%	1.2%	1.6%	0.4%	0.0%	1.6%	0.8%	2.9%	1.2%	2.5%	1.6%	0.4%	0.4%	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%	0.8%	2.5%	34.6%		
60歳代	186	41	14	3	4	4	13	11	13	0	1	3	1	1	1	1	6	0	5	1	1	2		2	0	0	0	9	62		
	100.0%	22.0%	7.5%	1.6%	2.2%	2.2%	7.0%	5.9%	7.0%	0.0%	0.5%	1.6%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	3.2%	0.0%	2.7%	0.5%	0.5%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	33.3%		
70歳以上	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0		0	0	0	0	0	1		
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
無回答	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	3		
	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%		
自動車有	758	145	38	7	17	25	78	36	49	1	7	13	10	3	28	6	41	5	21	30	4	7		4	5	3	3	2	32	210	
	100.0%	19.1%	5.0%	0.9%	2.2%	3.3%	10.3%	4.7%	6.5%	0.1%	0.9%	1.7%	1.3%	0.4%	3.7%	0.8%	5.4%	0.7%	2.8%	4.0%	0.5%	0.9%	0.0%	0.5%	0.7%	0.4%	0.4%	4.2%	27.7%		
自動車無	60	9	2	0	2	1	3	5	8	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2	1	0	1		2	1	0	0	0	6	13	
	100.0%	15.0%	3.3%	0.0%	3.3%	1.7%	5.0%	8.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	1.7%	0.0%	0.0%	3.3%	1.7%	0.0%	1.7%	0.0%	3.3%	1.7%	0.0%	0.0%	10.0%	21.7%		
無回答	18	1	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	1	9	
	100.0%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	5.6%	50.0%	

■上位 5 つ、特に重点を置いてほしい機能を選んだ理由の抜粋（N=836、自由回答）

機能	意見概要
農産物直売所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーでは買えない新鮮で美味しい野菜や果物を沢山置いてほしいです。</li> <li>・近くに地元の野菜、果物を買える店があるのだが、品数がまだ少ないので、スーパーへ買い物に行ってしまう。地元の新鮮な野菜を買いたいので、つい、熊谷などへ行ってしまふ。</li> <li>・「道の駅を基本とする…」とあったので、それならば農産物直売所が第一ではないかと思ったから。</li> <li>・リピートしたくなる道の駅は共通点として農産物直売所が魅力的で充実しています。</li> <li>・観光客だけでなく、地元の人達が気軽に買い物した方が行田市のためでもあると思う。</li> <li>・行田市の農業を活性化させたい。</li> <li>・市内の各農家と直売所が機能的に結びついて効率的に経営されれば、市内ばかりではなく市外からの客も見込め、それに伴って設置された他の機能も活性化されると考えるため。</li> <li>・そこで販売されているもので、行田の特色がわかる。</li> <li>・主婦としては家族の健康のため野菜は大切。</li> </ul>
飲食店（食堂・喫茶店）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっとした話題となるおいしいメニューがあると、利用する人が増えると思う。また、そのついでに他の出品物やサービスの利用があり、活気や質が落ちないと思うため。</li> <li>・おいしいものが食べたいから。</li> <li>・あると便利だから。家で食べなくても時間を気にせず出掛けられるから。</li> <li>・子供をつれていけて、リーズナブルでおいしいものが食べられる所が行田にないから。</li> <li>・人が集まりやすいから。</li> <li>・地元の農産物を使ったおいしくておしゃれな店ならば入ってみたいと思う。雑多なところでは入りたくない。</li> <li>・<u>行田にはあまり飲食店がない</u>です。おいしいお店、また行きたくなる店がほしいです。</li> <li>・ゼリーフライやフライをもっと宣伝するのによいと思う。</li> <li>・他県に住む知り合いを連れて行きたい。</li> </ul>
入浴施設（温泉、足湯等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者社会、高齢者を集めるために有効だと思うから。「自然が多い」場所でゆっくり湯につかれるのはよい。</li> <li>・市内は茂美の湯のみで選択の余地がなく、買物をしつつ、くつろげる所がほしいです。</li> <li>・若い人からお年寄りまで楽しめるから。</li> <li>・疲れがとれそうなので。</li> <li>・温泉があれば地元の人だけではなく、いろんな所から人が集まって来ると思います。</li> </ul>
防災設備（災害時避難場所、防災倉庫等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在いちばん不安に思うことなので、個人の備えはもちろんのこと市としてもしっかり備えてほしい。</li> <li>・安心できる。</li> <li>・避難場所が少ない。</li> <li>・生命にかかわることなので充実させてほしい。</li> <li>・最近災害が多いから。</li> <li>・早急に必要だと思う。</li> </ul>

機能	意見概要
レクリエーション 遊具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と安全に遊べる場所が近くにあれば、よく利用すると思う。そこに新鮮な食べ物があれば買って帰る。</li> <li>・まずは集客。家族連れを呼ぶこと。</li> <li>・大人だけのものではなく、買い物をしながらファミリーで遊べる所があればよいと思います。</li> <li>・室内で遊べる場所を増やしてほしい。今ある所は狭くて雨の日に行くとギュウギュウであり遊べないから。</li> <li>・<u>行田市には子どもが遊べる施設が少ない。子育て世帯が楽しめる、のびのび安心して遊べる場所がほしい。</u></li> </ul>

#### ④ 問 13 で回答した機能が揃っていた場合、産業交流拠点でしたいこと【問 15】

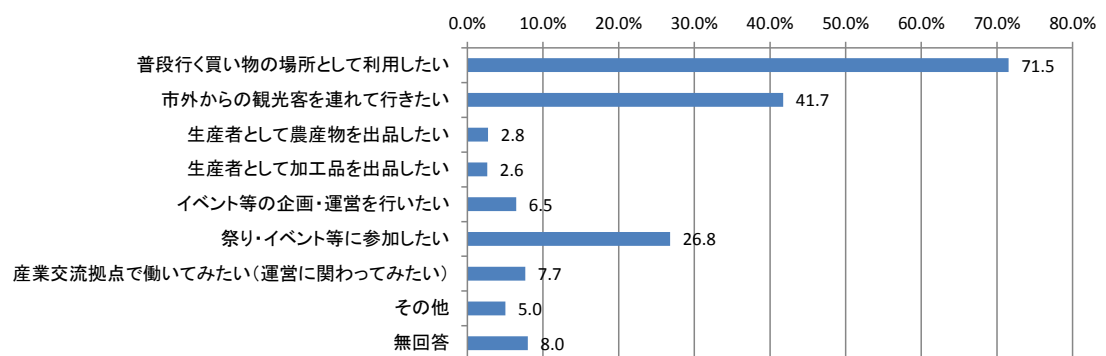
問 13 で回答した機能が揃っていた場合、産業交流拠点でしたいことは、「普段行く買い物の場所として利用したい」が 71.5%と最も高く、次いで「市外からの観光客を連れていきたい」が 41.7%となっています。

男女別では、「女性」で「普段行く買い物の場所として利用したい」の割合が 76.5%と高くなっています。

年齢別では、40 歳～60 歳代で「普段行く買い物の場所として利用したい」の割合が高く、約 75%が回答しています。

また、年齢が低くなるほど、「市外からの観光客を連れていきたい」、「祭り・イベント等に参加したい」の割合が高くなる傾向があります。

#### ■問 13 で回答した機能が揃っていた場合、産業交流拠点でしたいこと（N=836、複数回答）



	総 数	所 普 段と して 行く 利用 したい 場	連 市 外から 行く 観光 客を	を 生 産者 として 農産 物	を 生 産者 として 加工 品	運 イ 営ベン ト等 の企 画・	参 祭 加り・ イベ ント 等に	わ て った みたい たい （運 営に 関い	そ 産 業交 流拠 点で 働い	無 回 答
総数	836	598	349	23	22	54	224	64	42	67
	100.0%	71.5%	41.7%	2.8%	2.6%	6.5%	26.8%	7.7%	5.0%	8.0%
男性	345	224	140	14	13	29	95	24	19	27
	100.0%	64.9%	40.6%	4.1%	3.8%	8.4%	27.5%	7.0%	5.5%	7.8%
女性	477	365	202	9	9	25	125	39	22	40
	100.0%	76.5%	42.3%	1.9%	1.9%	5.2%	26.2%	8.2%	4.6%	8.4%
無回答	14	9	7	0	0	0	4	1	1	0
	100.0%	64.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	7.1%	7.1%	0.0%
20歳代	85	46	38	1	2	11	32	6	7	6
	100.0%	54.1%	44.7%	1.2%	2.4%	12.9%	37.6%	7.1%	8.2%	7.1%
30歳代	136	91	62	1	2	9	47	12	12	11
	100.0%	66.9%	45.6%	0.7%	1.5%	6.6%	34.6%	8.8%	8.8%	8.1%
40歳代	176	133	76	3	5	14	53	15	8	4
	100.0%	75.6%	43.2%	1.7%	2.8%	8.0%	30.1%	8.5%	4.5%	2.3%
50歳代	243	182	94	10	9	13	58	20	10	23
	100.0%	74.9%	38.7%	4.1%	3.7%	5.3%	23.9%	8.2%	4.1%	9.5%
60歳代	186	139	71	7	3	5	30	9	4	23
	100.0%	74.7%	38.2%	3.8%	1.6%	2.7%	16.1%	4.8%	2.2%	12.4%
70歳以上	4	4	4	1	1	1	1	1	1	0
	100.0%	100.0%	100.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
無回答	6	3	4	0	0	1	3	1	0	0
	100.0%	50.0%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
自動車有	758	556	321	23	18	43	204	59	38	56
	100.0%	73.4%	42.3%	3.0%	2.4%	5.7%	26.9%	7.8%	5.0%	7.4%
自動車無	60	33	23	0	4	8	12	5	4	8
	100.0%	55.0%	38.3%	0.0%	6.7%	13.3%	20.0%	8.3%	6.7%	13.3%
無回答	18	9	5	0	0	3	8	0	0	3
	100.0%	50.0%	27.8%	0.0%	0.0%	16.7%	44.4%	0.0%	0.0%	16.7%

## ⑤ 産業交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベント【問 16】

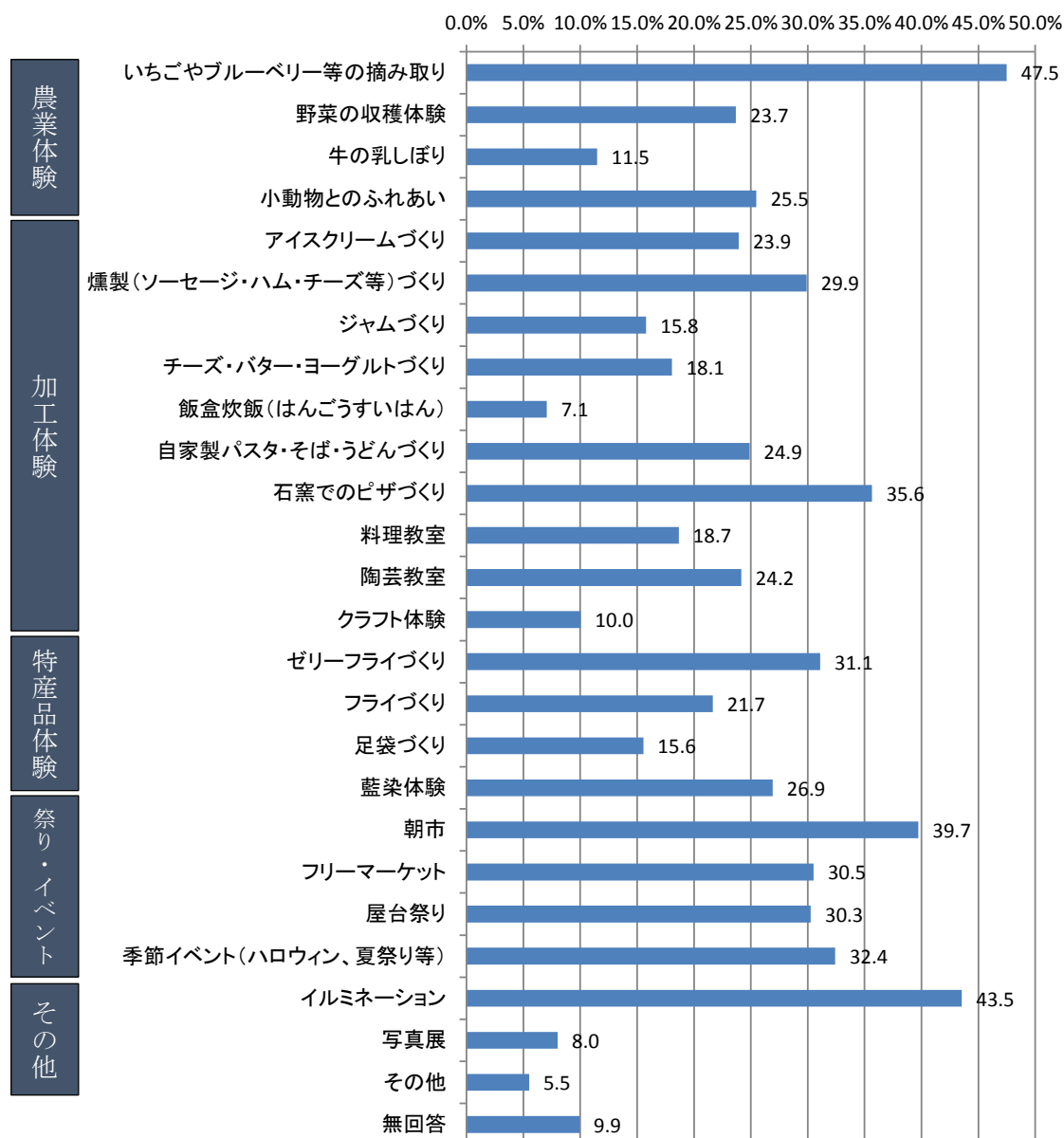
産業交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベントは「いちごやブルーベリー等の摘み取り」が 47.5%と最も高く、次いで「イルミネーション」が 43.5%となっています。

分類別にみると、「祭り・イベント」の割合が全体的に高くなっています。

年齢別では、「30 歳代」で「いちごやブルーベリー等の摘み取り」の割合が 58.1%と高くなっています。

また、年齢が低くなるほど、「ゼリーフライづくり」、「フライづくり」といった「特産品体験」の割合が高くなっています。

### ■産業交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベント（N=836、複数回答）





	総数	いちごやブルーベリー等の摘み取り	野菜の収穫体験	牛の乳しぼり	小動物とのふれあい	アイスクリームづくり	り焼製（ソーセージ・ハム・チーズ等）つく	ジャムづくり	チーズ・バター・ヨーグルトづくり	飯盒炊飯（はんごうすいはん）	自家製パスタ・そば・うどんづくり	石窯でのピザづくり	料理教室	陶芸教室	クラフト体験	ゼリーフライづくり	フライづくり	足袋づくり	藍染体験	朝市	フリーマーケット	屋台祭り	季節イベント（ハロウィン、夏祭り等）	イルミネーション	写真展	その他	無回答
総数	836 100.0%	397 47.5%	198 23.7%	96 11.5%	213 25.5%	200 23.9%	250 29.9%	132 15.8%	151 18.1%	59 7.1%	208 24.9%	298 35.6%	156 18.7%	202 24.2%	84 10.0%	260 31.1%	181 21.7%	130 15.6%	225 26.9%	332 39.7%	255 30.5%	253 30.3%	271 32.4%	364 43.5%	67 8.0%	46 5.5%	83 9.9%
男性	345 100.0%	136 39.4%	65 18.8%	32 9.3%	78 22.6%	74 21.4%	101 29.3%	46 13.3%	50 14.5%	23 6.7%	82 23.8%	104 30.1%	51 14.8%	53 15.4%	23 6.7%	101 29.3%	83 24.1%	50 14.5%	51 14.8%	129 37.4%	110 31.9%	110 31.9%	104 30.1%	124 35.9%	42 12.2%	24 7.0%	46 13.3%
女性	477 100.0%	254 53.2%	127 26.6%	61 12.8%	132 27.7%	121 25.4%	143 30.0%	81 17.0%	96 20.1%	31 6.5%	121 25.4%	189 39.6%	100 21.0%	144 30.2%	58 12.2%	156 32.7%	95 19.9%	75 15.7%	169 35.4%	198 41.5%	141 29.6%	139 29.1%	161 33.8%	233 48.8%	24 5.0%	20 4.2%	36 7.5%
無回答	14 100.0%	7 50.0%	6 42.9%	3 21.4%	3 21.4%	5 35.7%	6 42.9%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	3 21.4%	3 21.4%	3 21.4%	5 35.7%	5 35.7%	5 35.7%	4 28.6%	4 28.6%	6 42.9%	7 50.0%	1 7.1%	2 14.3%	7.1%
20歳代	85 100.0%	38 44.7%	21 24.7%	18 21.2%	29 34.1%	31 36.5%	29 34.1%	11 12.9%	17 20.0%	5 5.9%	15 17.6%	31 36.5%	21 24.7%	22 25.9%	15 17.6%	34 40.0%	27 31.8%	15 17.6%	26 30.6%	28 32.9%	20 23.5%	35 41.2%	39 45.9%	45 52.9%	7 8.2%	4 4.7%	6 7.1%
30歳代	136 100.0%	79 58.1%	36 26.5%	29 21.3%	64 47.1%	49 36.0%	45 33.1%	25 18.4%	27 19.9%	21 15.4%	38 27.9%	59 43.4%	23 16.9%	40 29.4%	19 14.0%	50 36.8%	38 27.9%	24 17.6%	42 30.9%	62 45.6%	52 38.2%	48 35.3%	59 43.4%	73 53.7%	8 5.9%	7 5.1%	5 3.7%
40歳代	176 100.0%	78 44.3%	45 25.6%	23 13.1%	44 25.0%	47 26.7%	57 32.4%	27 15.3%	40 22.7%	12 6.8%	42 23.9%	73 41.5%	32 18.2%	46 26.1%	20 11.4%	56 31.8%	35 19.9%	33 18.8%	48 27.3%	61 34.7%	53 30.1%	65 36.9%	68 38.6%	91 51.7%	11 6.3%	14 8.0%	16 9.1%
50歳代	243 100.0%	110 45.3%	47 19.3%	15 6.2%	44 18.1%	37 15.2%	58 23.9%	36 14.8%	39 16.0%	11 4.5%	57 23.5%	68 28.0%	39 16.0%	50 20.6%	15 6.2%	73 30.0%	51 21.0%	29 11.9%	56 23.0%	104 42.8%	72 29.6%	65 26.7%	57 23.5%	89 36.6%	18 7.4%	13 5.3%	27 11.1%
60歳代	186 100.0%	88 47.3%	46 24.7%	9 4.8%	29 15.6%	32 17.2%	57 30.6%	31 16.7%	24 12.9%	9 4.8%	53 28.5%	62 33.3%	38 20.4%	39 21.0%	13 7.0%	44 23.7%	26 14.0%	28 15.1%	48 25.8%	73 39.2%	55 29.6%	34 18.3%	42 22.6%	61 32.8%	21 11.3%	6 3.2%	28 15.1%
70歳以上	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%
無回答	6 100.0%	4 66.7%	3 50.0%	2 33.3%	3 50.0%	4 66.7%	4 66.7%	2 33.3%	4 66.7%	1 16.7%	3 50.0%	5 83.3%	2 33.3%	4 66.7%	2 33.3%	2 33.3%	3 50.0%	1 16.7%	4 66.7%	2 33.3%	2 33.3%	5 83.3%	5 83.3%	4 66.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0.0%
自動車有	758 100.0%	362 47.8%	176 23.2%	88 11.6%	192 25.3%	179 23.6%	226 29.8%	123 16.2%	135 17.8%	49 6.5%	189 24.9%	272 35.9%	139 18.3%	181 23.9%	71 9.4%	234 30.9%	161 21.2%	116 15.3%	205 27.0%	301 39.7%	235 31.0%	229 30.2%	248 32.7%	334 44.1%	61 8.0%	44 5.8%	74 9.8%
自動車無	60 100.0%	25 41.7%	17 28.3%	7 11.7%	15 25.0%	15 25.0%	18 30.0%	8 13.3%	13 21.7%	8 13.3%	14 23.3%	17 28.3%	12 20.0%	17 28.3%	10 16.7%	21 35.0%	15 25.0%	11 18.3%	14 23.3%	25 41.7%	13 21.7%	18 30.0%	17 28.3%	22 36.7%	6 10.0%	1 1.7%	7 11.7%
無回答	18 100.0%	10 55.6%	5 27.8%	1 5.6%	6 33.3%	6 33.3%	6 33.3%	1 5.6%	3 16.7%	2 11.1%	5 27.8%	9 50.0%	5 27.8%	4 22.2%	3 16.7%	5 27.8%	5 27.8%	3 16.7%	6 33.3%	6 33.3%	7 38.9%	6 33.3%	6 33.3%	8 44.4%	0 0.0%	1 5.6%	2 11.1%

## 6. 市外利用者意向調査

### (1) 調査概要

調査対象	埼玉県（行田市以外）、東京都、群馬県、栃木県、茨城県、神奈川県、千葉県に在住の方 500 名
調査方法	インターネットリサーチ会社に登録しているモニターを対象として、オンライン調査を実施
調査時期	平成 27 年 8 月
配布数	500 票（性別、年齢、居住地が均等となるようにサンプル割付） ・性別（男性：250 票、女性：250 票） ・年齢（20 歳代：100 票、30 歳代：100 票、40 歳代：100 票、50 歳代：100 票、60 歳代：100 票） ・居住地（埼玉県（行田市以外）：70 票、東京都：80 票、群馬県：70 票、栃木県：70 票、茨城県：70 票、神奈川県：70 票、千葉県：70 票）
回収数	500 票

### (2) 調査結果

#### 【結果概要】

#### (1)回答者について

- 回答者の男女比、年齢比、居住地比は概ね同様になるように割付をしています。
- 回答者の約 8 割 5 分が自動車免許を所持しています。また回答者の約 7 割が自動車を所持しています。

#### (2)行田市について

- 行田市について、約 8 割が行田市を知っていると回答しています。
- 20 歳代は行田市を知らない人が約 4 割と割合が高く、高齢になるほど認知度は高くなっています。
- 訪問経験については、利根川、埼玉古墳群、忍城址、古代蓮の里があげられ、フライ・ゼリーフライの認知度も高いです。
- これらの地域資源の観光や料理を味わう、特産品の購入に対して来訪意向が高いです。

#### (3)道の駅について

- 埼玉県内や群馬県などの近隣からの訪問意向が高いです。
- 高齢になるにつれ、また、滞在時間が長くなるにつれ、道の駅での消費金額が多いです。
- 農産物や特産物の購入、飲食を目的とする場合は、1,000 円以上～1,500 円未満程度の消費をしています。

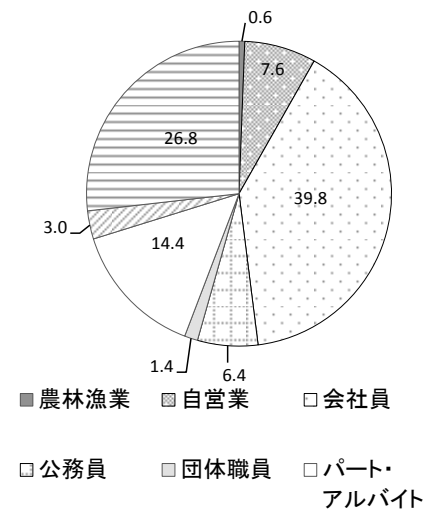
## 【集計結果】

### ○回答者について

#### ① 職業【問1】

回答者の職業は「会社員」が39.8%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が14.4%となっています。

男女別では、「男性」で「会社員」の割合が57.6%と高く、「女性」で「パート・アルバイト」の割合が24.0%と高くなっています。その他の多くは「主婦」の割合が高くなっています。



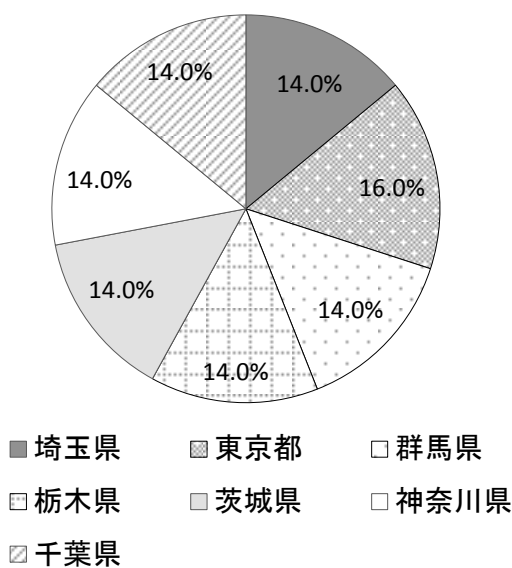
#### ■職業 (N= 500、単一回答)

	総数	農林漁業	自営業	会社員	公務員	団体職員	パート・アルバイト	学生	その他
総数	500	3	38	199	32	7	72	15	134
	100.0%	0.6%	7.6%	39.8%	6.4%	1.4%	14.4%	3.0%	26.8%
男性	250	2	23	144	21	5	12	7	36
	100.0%	0.8%	9.2%	57.6%	8.4%	2.0%	4.8%	2.8%	14.4%
女性	250	1	15	55	11	2	60	8	98
	100.0%	0.4%	6.0%	22.0%	4.4%	0.8%	24.0%	3.2%	39.2%
20歳代	100	1	4	40	6	2	22	15	10
	100.0%	1.0%	4.0%	40.0%	6.0%	2.0%	22.0%	15.0%	10.0%
30歳代	100	0	5	54	7	1	11	0	22
	100.0%	0.0%	5.0%	54.0%	7.0%	1.0%	11.0%	0.0%	22.0%
40歳代	100	1	11	47	7	0	15	0	19
	100.0%	1.0%	11.0%	47.0%	7.0%	0.0%	15.0%	0.0%	19.0%
50歳代	100	0	5	45	10	1	9	0	30
	100.0%	0.0%	5.0%	45.0%	10.0%	1.0%	9.0%	0.0%	30.0%
60歳代	100	1	13	13	2	3	15	0	53
	100.0%	1.0%	13.0%	13.0%	2.0%	3.0%	15.0%	0.0%	53.0%
埼玉県	70	0	5	28	1	0	10	5	21
	100.0%	0.0%	7.1%	40.0%	1.4%	0.0%	14.3%	7.1%	30.0%
東京都	80	0	9	36	6	3	6	3	17
	100.0%	0.0%	11.3%	45.0%	7.5%	3.8%	7.5%	3.8%	21.3%
群馬県	70	1	5	25	8	0	10	1	20
	100.0%	1.4%	7.1%	35.7%	11.4%	0.0%	14.3%	1.4%	28.6%
栃木県	70	2	8	23	3	1	14	1	18
	100.0%	2.9%	11.4%	32.9%	4.3%	1.4%	20.0%	1.4%	25.7%
茨城県	70	0	3	29	7	2	12	1	16
	100.0%	0.0%	4.3%	41.4%	10.0%	2.9%	17.1%	1.4%	22.9%
神奈川県	70	0	3	30	2	1	8	2	24
	100.0%	0.0%	4.3%	42.9%	2.9%	1.4%	11.4%	2.9%	34.3%
千葉県	70	0	5	28	5	0	12	2	18
	100.0%	0.0%	7.1%	40.0%	7.1%	0.0%	17.1%	2.9%	25.7%
自動車有	347	3	26	144	25	5	48	3	93
	100.0%	0.9%	7.5%	41.5%	7.2%	1.4%	13.8%	0.9%	26.8%
自動車無	153	0	12	55	7	2	24	12	41
	100.0%	0.0%	7.8%	35.9%	4.6%	1.3%	15.7%	7.8%	26.8%

## ② 居住地

回答者の居住地区は「東京都」が 16%と最も高く、それ以外が 14%という割付になっています。

■居住地（N= 500、単一回答）



	総数	埼玉県	東京都	群馬県	栃木県	茨城県	神奈川県	千葉県
総数	500	70	80	70	70	70	70	70
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
男性	250	35	40	35	35	35	35	35
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
女性	250	35	40	35	35	35	35	35
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
20歳代	100	14	16	14	14	14	14	14
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
30歳代	100	14	16	14	14	14	14	14
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
40歳代	100	14	16	14	14	14	14	14
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
50歳代	100	14	16	14	14	14	14	14
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
60歳代	100	14	16	14	14	14	14	14
	100.0%	14.0%	16.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%	14.0%
自動車有	347	48	34	65	62	59	37	42
	100.0%	13.8%	9.8%	18.7%	17.9%	17.0%	10.7%	12.1%
自動車無	153	22	46	5	8	11	33	28
	100.0%	14.4%	30.1%	3.3%	5.2%	7.2%	21.6%	18.3%

### ③ 自動車免許の有無、自動車の有無【問2、3】

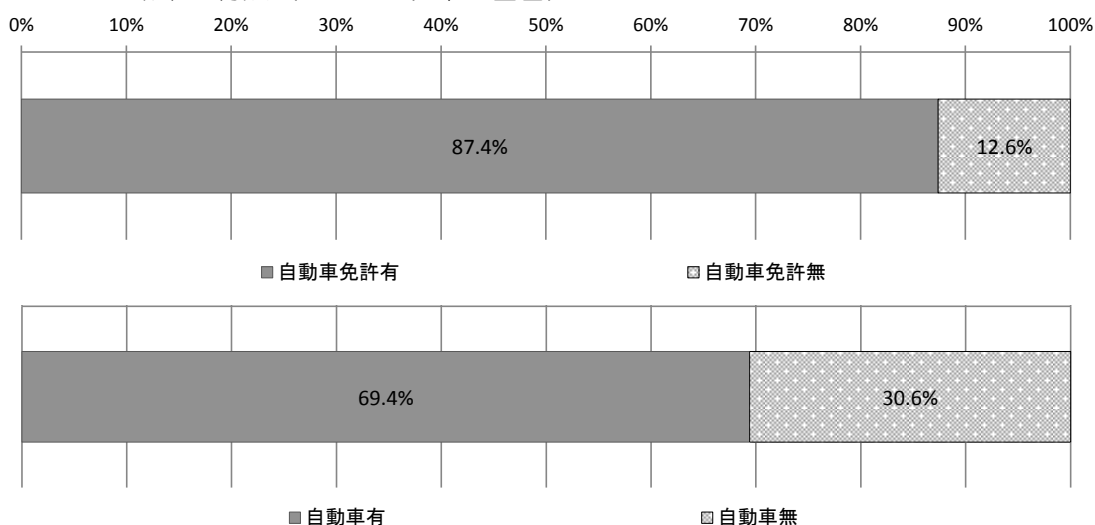
自動車免許を持っているかという設問には、「有」が 87.4 %、「無」が 12.6 %となっています。

一方自動車を持っているかという設問には「有」が 69.4 %、「無」が 30.6 %となっており、免許は持っているが自動車は所持していない方がいることが分かります。

年齢別では、「20 歳代」で免許は持っているが自動車は所持していない方が多くなっています。

■上グラフ：自動車免許の有無（N= 500、単一回答）

■下グラフ：自動車の有無（N= 500、単一回答）



	総数	自動車 免許有	自動車 免許無
総数	500	437	63
	100.0%	87.4%	12.6%
男性	250	234	16
	100.0%	93.6%	6.4%
女性	250	203	47
	100.0%	81.2%	18.8%
20歳代	100	85	15
	100.0%	85.0%	15.0%
30歳代	100	83	17
	100.0%	83.0%	17.0%
40歳代	100	92	8
	100.0%	92.0%	8.0%
50歳代	100	87	13
	100.0%	87.0%	13.0%
60歳代	100	90	10
	100.0%	90.0%	10.0%
自動車有	347	342	5
	100.0%	98.6%	1.4%
自動車無	153	95	58
	100.0%	62.1%	37.9%

	総数	自動車有	自動車無
総数	500	347	153
	100.0%	69.4%	30.6%
男性	250	191	59
	100.0%	76.4%	23.6%
女性	250	156	94
	100.0%	62.4%	37.6%
20歳代	100	53	47
	100.0%	53.0%	47.0%
30歳代	100	60	40
	100.0%	60.0%	40.0%
40歳代	100	80	20
	100.0%	80.0%	20.0%
50歳代	100	79	21
	100.0%	79.0%	21.0%
60歳代	100	75	25
	100.0%	75.0%	25.0%

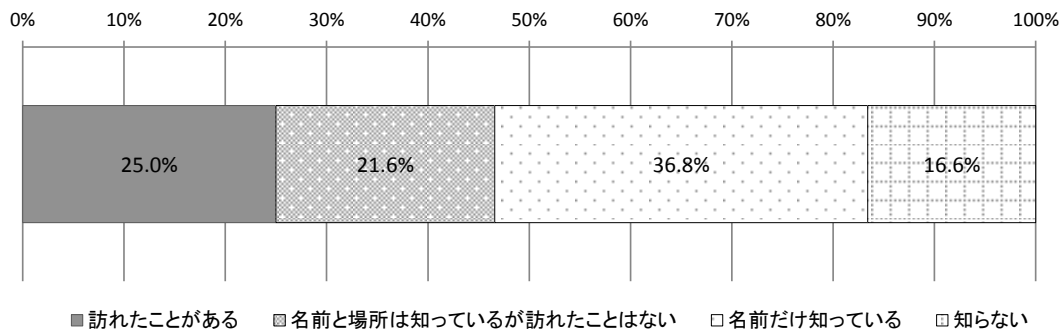
## (2)行田市について

### ① 行田市の認知度【問4】

埼玉県行田市を知っているかという設問には、「名前だけ知っている」が36.8%と高くなっています。

一方、「知らない」と回答している人は16.6%となっています。

#### ■行田市の認知度（N= 500、単一回答）



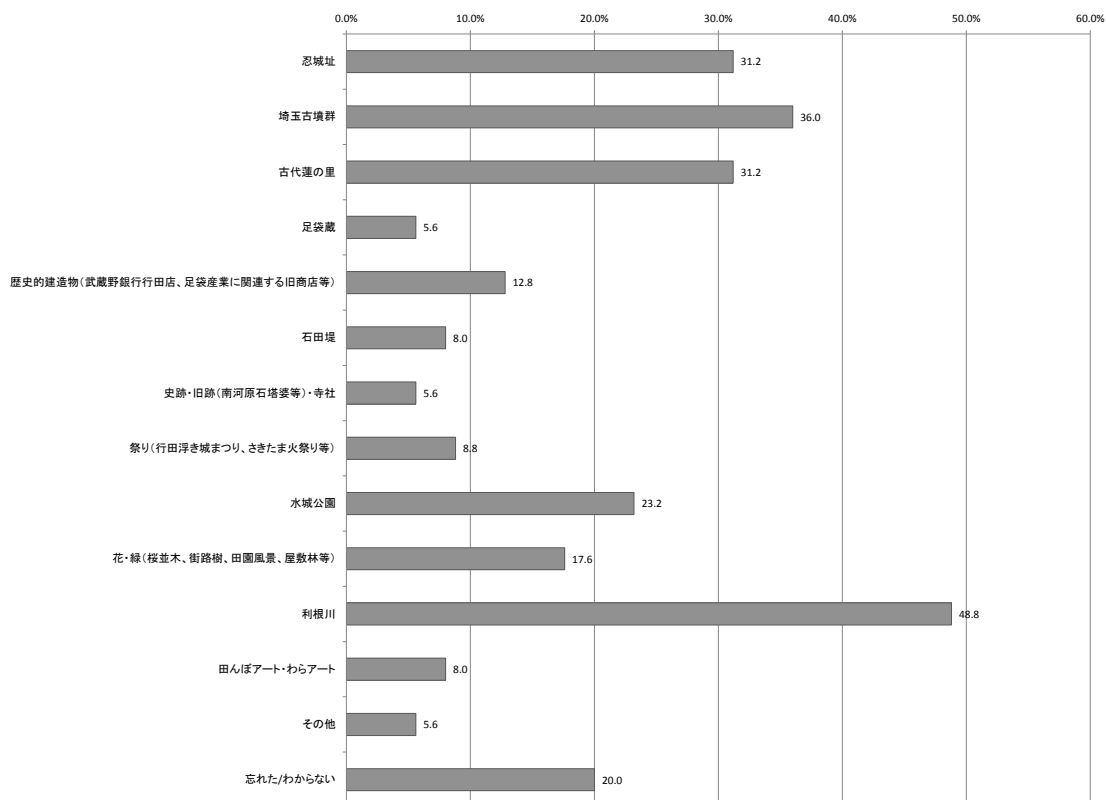
	総数	訪れたことがある	名前と場所は知っているが訪れたことはない	名前だけ知っている	知らない
総数	500	125	108	184	83
	100.0%	25.0%	21.6%	36.8%	16.6%
男性	250	79	55	73	43
	100.0%	31.6%	22.0%	29.2%	17.2%
女性	250	46	53	111	40
	100.0%	18.4%	21.2%	44.4%	16.0%
20歳代	100	15	11	31	43
	100.0%	15.0%	11.0%	31.0%	43.0%
30歳代	100	28	15	37	20
	100.0%	28.0%	15.0%	37.0%	20.0%
40歳代	100	29	15	46	10
	100.0%	29.0%	15.0%	46.0%	10.0%
50歳代	100	29	29	37	5
	100.0%	29.0%	29.0%	37.0%	5.0%
60歳代	100	24	38	33	5
	100.0%	24.0%	38.0%	33.0%	5.0%
埼玉県	70	33	17	17	3
	100.0%	47.1%	24.3%	24.3%	4.3%
東京都	80	10	19	36	15
	100.0%	12.5%	23.8%	45.0%	18.8%
群馬県	70	33	16	15	6
	100.0%	47.1%	22.9%	21.4%	8.6%
栃木県	70	20	14	27	9
	100.0%	28.6%	20.0%	38.6%	12.9%
茨城県	70	12	14	27	17
	100.0%	17.1%	20.0%	38.6%	24.3%
神奈川県	70	9	11	32	18
	100.0%	12.9%	15.7%	45.7%	25.7%
千葉県	70	8	17	30	15
	100.0%	11.4%	24.3%	42.9%	21.4%
自動車有	347	107	78	115	47
	100.0%	30.8%	22.5%	33.1%	13.5%
自動車無	153	18	30	69	36
	100.0%	11.8%	19.6%	45.1%	23.5%



## ② 行田市で行ったことのある場所【問3】

行田市に「訪れたことがある」と回答した方に対して訪問先の設問では、「利根川」が48.8%と最も高く、次いで「埼玉古墳群」が36.0%となっています。

### ■行田市に「訪れたことがある」と回答した方（N= 125、複数回答）

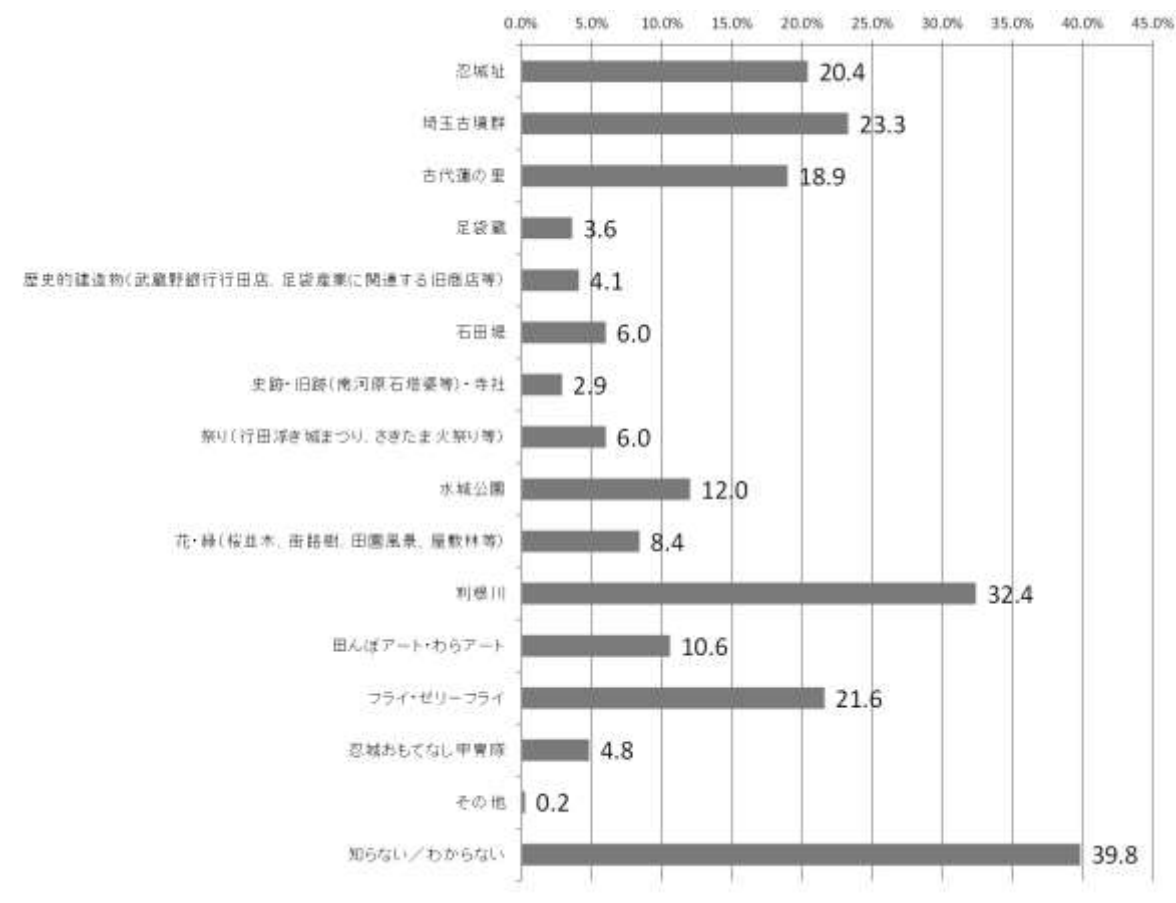


	総数	忍城址	埼玉古墳群	古代連の里	足袋蔵	歴史的建造物 (武蔵野銀行行 田店、足袋産業 に関連する旧商 店等)	石田堤	史跡・旧跡(南 河原石塔婆 等)・寺社	祭り(行田浮き 城まつり、さきた ま火祭り等)	水城公園	花・緑(桜並木、 街路樹、田園風 景、屋敷林等)	利根川	田んぼ・アール・ワ ーアート	その他	忘れた/わから ない
総数	125	39	45	39	7	16	10	7	11	29	22	61	10	7	25
男性	100.0%	31.2%	36.0%	31.2%	5.6%	12.8%	8.0%	5.6%	8.8%	23.2%	17.6%	48.8%	8.0%	5.6%	20.0%
女性	100.0%	34.2%	34.2%	24.1%	7.6%	15.2%	10.1%	7.6%	8.9%	25.3%	19.0%	45.6%	7.6%	3.8%	19
	46	12	18	20	1	4	2	1	4	9	7	25	4	4	6
100.0%	26.1%	39.1%	39.1%	43.5%	2.2%	8.7%	4.3%	2.2%	8.7%	19.6%	15.2%	54.3%	8.7%	8.7%	13.0%
20歳代	15	7	4	4	0	2	2	1	2	4	3	8	2	1	0
100.0%	46.7%	26.7%	26.7%	26.7%	0.0%	13.3%	13.3%	6.7%	13.3%	26.7%	20.0%	53.3%	13.3%	6.7%	0.0%
30歳代	28	8	10	9	2	4	1	1	2	6	4	17	4	1	5
100.0%	28.6%	35.7%	35.7%	32.1%	7.1%	14.3%	3.6%	3.6%	7.1%	21.4%	14.3%	60.7%	14.3%	3.6%	17.9%
40歳代	29	8	8	5	1	4	2	2	1	5	2	12	2	0	12
100.0%	27.6%	27.6%	27.6%	17.2%	3.4%	13.8%	6.9%	3.4%	3.4%	17.2%	6.9%	41.4%	6.9%	0.0%	41.4%
50歳代	29	7	14	9	1	4	2	2	3	9	9	16	1	3	3
100.0%	24.1%	24.1%	48.3%	31.0%	3.4%	13.8%	6.9%	6.9%	10.3%	31.0%	31.0%	55.2%	3.4%	10.3%	10.3%
60歳代	24	9	9	12	3	2	3	2	3	5	4	8	1	2	5
100.0%	37.5%	37.5%	37.5%	50.0%	12.5%	8.3%	12.5%	8.3%	12.5%	20.8%	16.7%	33.3%	4.2%	8.3%	20.8%
埼玉県	33	13	19	16	2	5	5	3	4	8	6	16	4	3	4
100.0%	39.4%	39.4%	57.6%	48.5%	6.1%	15.2%	15.2%	9.1%	12.1%	24.2%	18.2%	48.5%	12.1%	9.1%	12.1%
東京都	10	4	3	1	0	1	0	0	2	0	0	4	0	0	2
100.0%	40.0%	40.0%	30.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%
群馬県	33	7	9	7	1	2	0	0	1	6	4	14	1	3	8
100.0%	21.2%	21.2%	27.3%	21.2%	3.0%	6.1%	0.0%	0.0%	3.0%	18.2%	12.1%	42.4%	3.0%	9.1%	24.2%
栃木県	20	5	5	10	1	5	3	0	2	7	6	13	1	0	4
100.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	5.0%	25.0%	15.0%	0.0%	10.0%	35.0%	30.0%	65.0%	5.0%	0.0%	20.0%
茨城県	12	5	4	2	1	1	0	2	1	3	3	8	2	0	2
100.0%	41.7%	41.7%	33.3%	16.7%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	8.3%	25.0%	25.0%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%
神奈川県	9	3	4	2	1	1	1	1	0	2	0	3	1	1	2
100.0%	33.3%	33.3%	44.4%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	33.3%	11.1%	11.1%	22.2%
千葉県	8	2	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	1	0	3
100.0%	25.0%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	37.5%	12.5%	0.0%	37.5%
自動車有	107	34	36	34	6	15	10	6	11	26	21	53	9	5	22
100.0%	31.8%	31.8%	33.6%	31.8%	5.6%	14.0%	9.3%	5.6%	10.3%	24.3%	19.6%	49.5%	8.4%	4.7%	20.6%
自動車無	18	5	9	5	1	1	0	1	0	3	1	8	1	2	3
100.0%	27.8%	27.8%	50.0%	27.8%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%	0.0%	16.7%	5.6%	44.4%	5.6%	11.1%	16.7%

### ③ 行田市の観光資源の認知度【問6】

行田市に「訪れたことがある」、「名前と場所は知っているが訪れたことはない」、「名前だけ知っている」と回答した方に対して、行田市の観光資源の認知度の設問では、「利根川」が32.4%と最も高く、次いで「埼玉古墳群」が23.3%となっています。

■行田市の観光資源の認知度（N= 417、複数回答）

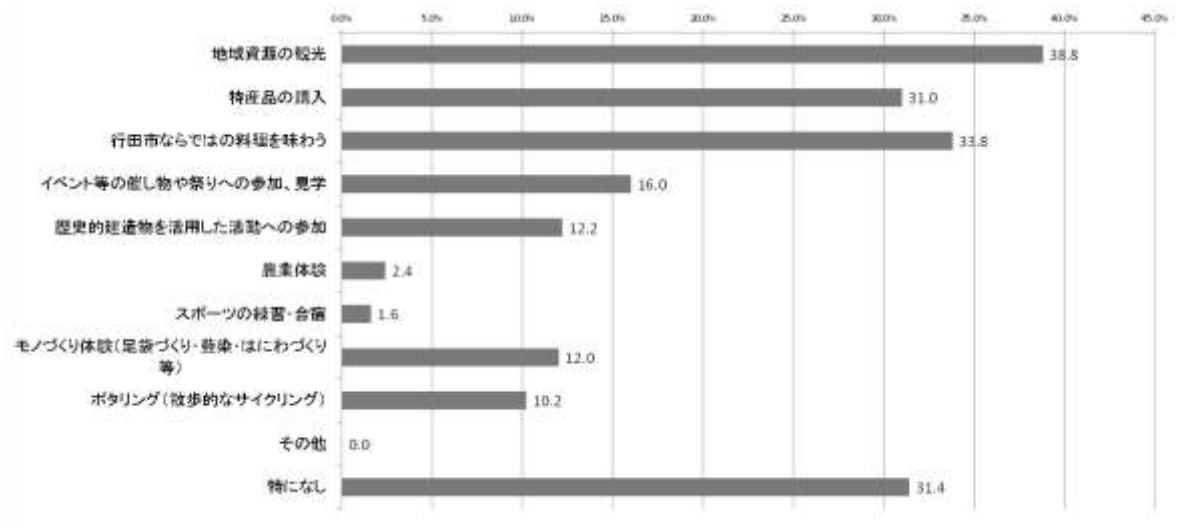


	総数	忍城址	埼玉古墳群	古代蓮の里	足袋蔵	歴史的建造物 (武蔵野銀行行 田店・足袋産業 に関連する旧商 店等)	石田堤	史跡・旧跡(南 河原石塔婆 等)・寺社	祭り(行田浮き 城まつり、さきた ま火祭り等)	水城公園	花・緑(桜並木、 街路樹、田圃風 景、屋敷林等)	利根川	田んぼアート・わ らアート	フライ・ゼリーフ ライ	忍城おもてなし 中胃隊	その他	知らない／わか らない
総数	417	85	97	79	15	17	25	12	25	50	35	135	44	90	20	1	166
	100.0%	20.4%	23.8%	18.9%	3.6%	4.1%	6.0%	2.9%	6.0%	12.0%	8.4%	32.4%	10.6%	21.6%	4.8%	0.2%	39.8%
男性	207	52	50	39	11	12	18	8	18	29	18	73	19	33	11	1	80
	100.0%	25.1%	24.4%	18.5%	5.3%	5.8%	8.7%	3.9%	8.7%	14.0%	8.7%	35.3%	9.2%	15.9%	5.3%	0.5%	38.6%
女性	164	16	20	19	2	1	1	2	4	14	6	41	15	35	5	0	82
	100.0%	9.8%	12.2%	11.6%	1.2%	0.6%	0.6%	1.2%	2.4%	8.5%	3.7%	25.0%	9.1%	21.3%	3.0%	0.0%	50.0%
20歳代	57	11	13	5	1	0	2	3	5	6	4	24	6	11	3	0	16
	100.0%	19.3%	22.8%	8.8%	1.8%	0.0%	3.5%	5.3%	8.8%	10.5%	7.0%	42.1%	10.5%	19.3%	5.3%	0.0%	28.1%
30歳代	80	18	21	17	3	4	5	3	4	10	8	32	9	27	4	0	27
	100.0%	22.5%	26.3%	21.3%	3.8%	5.0%	6.3%	3.8%	5.0%	12.5%	10.0%	40.0%	11.3%	33.8%	5.0%	0.0%	33.8%
40歳代	90	12	15	11	4	3	4	1	5	10	5	25	13	21	6	0	39
	100.0%	13.3%	16.7%	12.2%	4.4%	3.3%	4.4%	1.1%	5.6%	11.1%	5.6%	27.8%	14.4%	23.3%	6.7%	0.0%	43.3%
50歳代	95	23	27	17	4	5	8	2	6	10	11	32	6	19	3	1	41
	100.0%	24.2%	28.4%	17.9%	4.2%	5.3%	8.4%	2.1%	6.3%	10.5%	11.6%	33.7%	6.3%	20.0%	3.2%	1.1%	43.2%
60歳代	95	21	21	29	3	5	6	3	5	14	7	22	10	12	4	0	43
	100.0%	22.1%	22.1%	30.5%	3.2%	5.3%	6.3%	3.2%	5.3%	14.7%	7.4%	23.2%	10.5%	12.6%	4.2%	0.0%	45.3%
埼玉県	67	29	37	30	5	5	8	7	11	16	10	30	14	31	7	0	17
	100.0%	43.3%	55.2%	44.8%	7.5%	7.5%	11.9%	10.4%	16.4%	23.9%	14.9%	44.8%	20.9%	46.3%	10.4%	0.0%	25.4%
東京都	65	12	9	5	2	3	4	0	3	4	1	16	3	9	2	0	33
	100.0%	18.5%	13.8%	7.7%	3.1%	4.6%	6.2%	0.0%	4.6%	6.2%	1.5%	24.6%	4.6%	13.8%	3.1%	0.0%	50.8%
群馬県	64	13	17	11	2	1	4	1	3	5	7	21	7	12	3	0	23
	100.0%	20.3%	26.6%	17.2%	3.1%	1.6%	6.3%	1.6%	4.7%	7.8%	10.9%	32.8%	10.9%	18.8%	4.7%	0.0%	35.9%
栃木県	61	10	13	15	2	4	3	0	4	11	7	21	5	13	1	0	23
	100.0%	16.4%	21.3%	24.6%	3.3%	6.6%	4.9%	0.0%	6.6%	18.0%	11.5%	34.4%	8.2%	21.3%	1.6%	0.0%	37.7%
茨城県	53	7	11	6	1	2	1	2	3	6	9	19	9	13	3	0	19
	100.0%	13.2%	20.8%	11.3%	1.9%	3.8%	1.9%	3.8%	5.7%	11.3%	17.0%	35.8%	17.0%	24.5%	5.7%	0.0%	35.8%
神奈川県	52	7	6	5	1	1	3	0	0	4	0	13	3	6	2	0	23
	100.0%	13.5%	11.5%	9.6%	1.9%	1.9%	5.8%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	25.0%	5.8%	11.5%	3.8%	0.0%	44.2%
千葉県	55	7	4	7	2	1	1	2	1	4	1	15	3	6	2	1	28
	100.0%	12.7%	7.3%	12.7%	3.6%	1.8%	3.6%	3.6%	1.8%	7.3%	1.8%	27.3%	5.5%	10.9%	3.6%	1.8%	50.9%
自動車有	300	67	72	65	13	15	20	10	23	40	32	102	34	59	15	1	116
	100.0%	22.3%	24.0%	21.7%	4.3%	5.0%	6.7%	3.3%	7.7%	13.3%	10.7%	34.0%	11.3%	19.7%	5.0%	0.3%	38.7%
自動車無	117	18	25	14	2	2	5	2	2	10	3	33	10	31	5	0	50
	100.0%	15.4%	21.4%	12.0%	1.7%	1.7%	4.3%	1.7%	1.7%	8.5%	2.6%	28.2%	8.5%	26.5%	4.3%	0.0%	42.7%

#### ④ 行田市でしてみたいこと【問7】

行田市でしてみたいことは、「地域資源の観光」が38.8%と最も高く、次いで「行田市ならではの料理を味わう」が33.8%、「特産品の購入」が31.0%となっています。

#### ■行田市でしてみたいこと（N= 500、複数回答）

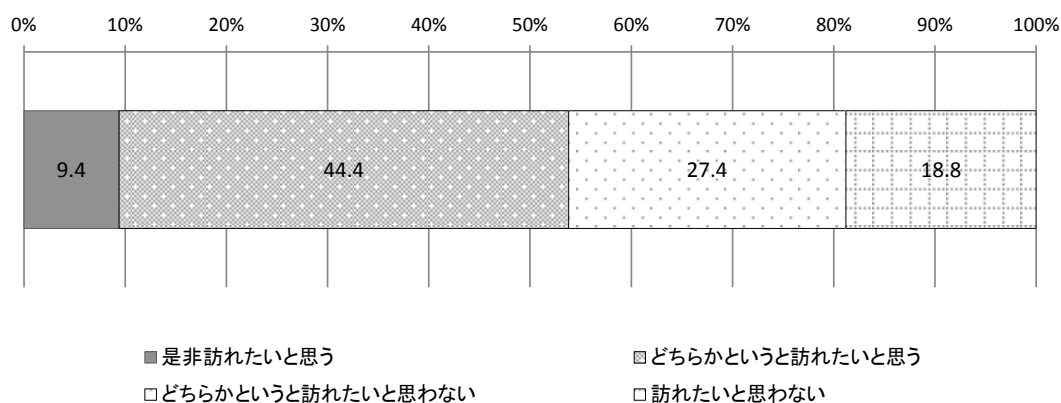


	総数	地域資源の観光	特産品の購入	行田市ならではの料理を味わう	イベント等の催し物や祭りへの参加、見学	歴史的建造物を活用した活動への参加	農業体験	スポーツの練習・合宿	モノづくり体験(足袋づくり・藍染・はにわづくり等)	ボタリング(散歩的なサイクリング)	その他	特になし
総数	500	194	155	169	80	61	12	8	60	51	0	157
	100.0%	38.8%	31.0%	33.8%	16.0%	12.2%	2.4%	1.6%	12.0%	10.2%	0.0%	31.4%
男性	250	99	63	75	30	31	6	7	19	29	0	87
	100.0%	39.6%	25.2%	30.0%	12.0%	12.4%	2.4%	2.8%	7.6%	11.6%	0.0%	34.8%
女性	250	95	92	94	50	30	6	1	41	22	0	70
	100.0%	38.0%	36.8%	37.6%	20.0%	12.0%	2.4%	0.4%	16.4%	8.8%	0.0%	28.0%
20歳代	100	30	30	32	22	14	3	2	17	13	0	37
	100.0%	30.0%	30.0%	32.0%	22.0%	14.0%	3.0%	2.0%	17.0%	13.0%	0.0%	37.0%
30歳代	100	40	30	38	13	9	5	1	12	5	0	35
	100.0%	40.0%	30.0%	38.0%	13.0%	9.0%	5.0%	1.0%	12.0%	5.0%	0.0%	35.0%
40歳代	100	46	27	34	18	10	0	1	14	12	0	25
	100.0%	46.0%	27.0%	34.0%	18.0%	10.0%	0.0%	1.0%	14.0%	12.0%	0.0%	25.0%
50歳代	100	32	35	33	14	12	2	3	7	13	0	32
	100.0%	32.0%	35.0%	33.0%	14.0%	12.0%	2.0%	3.0%	7.0%	13.0%	0.0%	32.0%
60歳代	100	46	33	32	13	16	2	1	10	8	0	28
	100.0%	46.0%	33.0%	32.0%	13.0%	16.0%	2.0%	1.0%	10.0%	8.0%	0.0%	28.0%
埼玉県	70	31	26	28	13	12	2	0	15	9	0	20
	100.0%	44.3%	37.1%	40.0%	18.6%	17.1%	2.9%	0.0%	21.4%	12.9%	0.0%	28.6%
東京都	80	36	25	31	11	12	3	0	9	7	0	25
	100.0%	45.0%	31.3%	38.8%	13.8%	15.0%	3.8%	0.0%	11.3%	8.8%	0.0%	31.3%
群馬県	70	20	19	24	8	7	2	2	6	5	0	22
	100.0%	28.6%	27.1%	34.3%	11.4%	10.0%	2.9%	2.9%	8.6%	7.1%	0.0%	31.4%
栃木県	70	22	21	21	11	4	1	2	6	7	0	20
	100.0%	31.4%	30.0%	30.0%	15.7%	5.7%	1.4%	2.9%	8.6%	10.0%	0.0%	28.6%
茨城県	70	33	28	21	16	11	1	1	9	4	0	22
	100.0%	47.1%	40.0%	30.0%	22.9%	15.7%	1.4%	1.4%	12.9%	5.7%	0.0%	31.4%
神奈川県	70	27	20	19	9	8	0	1	7	10	0	25
	100.0%	38.6%	28.6%	27.1%	12.9%	11.4%	0.0%	1.4%	10.0%	14.3%	0.0%	35.7%
千葉県	70	25	16	25	12	7	3	2	8	9	0	23
	100.0%	35.7%	22.9%	35.7%	17.1%	10.0%	4.3%	2.9%	11.4%	12.9%	0.0%	32.9%
自動車有	347	136	111	120	64	47	6	7	40	32	0	97
	100.0%	39.2%	32.0%	34.6%	18.4%	13.5%	1.7%	2.0%	11.5%	9.2%	0.0%	28.0%
自動車無	153	58	44	49	16	14	6	1	20	19	0	60
	100.0%	37.9%	28.8%	32.0%	10.5%	9.2%	3.9%	0.7%	13.1%	12.4%	0.0%	39.2%

## ⑤ 行田市に訪れたいか【問8】

訪れたいと思うという回答が53.8%、訪れたいと思わないという回答が46.2%となっています。「どちらかというと訪れたいと思う」が44.4%と最も高くなっています。

### ■行田市に訪れたいか（N= 500、単一回答）



	総数	是非訪れたいと思う (47)	どちらかというと訪 れたいと思う(222)	どちらかというと訪 れたいと思わない (137)	訪れたいと思わない (94)
総数	500	47	222	137	94
	100.0%	9.4%	44.4%	27.4%	18.8%
男性	250	23	111	63	53
	100.0%	9.2%	44.4%	25.2%	21.2%
女性	250	24	111	74	41
	100.0%	9.6%	44.4%	29.6%	16.4%
20歳代	100	6	36	28	30
	100.0%	6.0%	36.0%	28.0%	30.0%
30歳代	100	9	45	29	17
	100.0%	9.0%	45.0%	29.0%	17.0%
40歳代	100	7	47	27	19
	100.0%	7.0%	47.0%	27.0%	19.0%
50歳代	100	11	47	27	15
	100.0%	11.0%	47.0%	27.0%	15.0%
60歳代	100	14	47	26	13
	100.0%	14.0%	47.0%	26.0%	13.0%
埼玉県	70	13	30	13	14
	100.0%	18.6%	42.9%	18.6%	20.0%
東京都	80	5	32	29	14
	100.0%	6.3%	40.0%	36.3%	17.5%
群馬県	70	5	37	17	11
	100.0%	7.1%	52.9%	24.3%	15.7%
栃木県	70	5	35	18	12
	100.0%	7.1%	50.0%	25.7%	17.1%
茨城県	70	7	34	17	12
	100.0%	10.0%	48.6%	24.3%	17.1%
神奈川県	70	6	24	27	13
	100.0%	8.6%	34.3%	38.6%	18.6%
千葉県	70	6	30	16	18
	100.0%	8.6%	42.9%	22.9%	25.7%
自動車有	347	39	166	88	54
	100.0%	11.2%	47.8%	25.4%	15.6%
自動車無	153	8	56	49	40
	100.0%	5.2%	36.6%	32.0%	26.1%

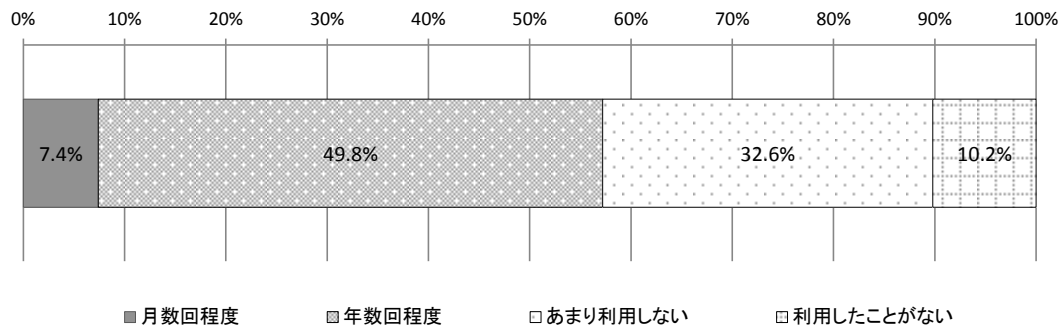


### (3)道の駅について

#### ⑥ 道の駅の利用頻度【問9】

道の駅の利用頻度は「年数回程度」が 49.8 %と最も高く、次いで「あまり利用しない」が 32.6 %となっています。

#### ■道の駅の利用頻度（N= 500、単一回答）

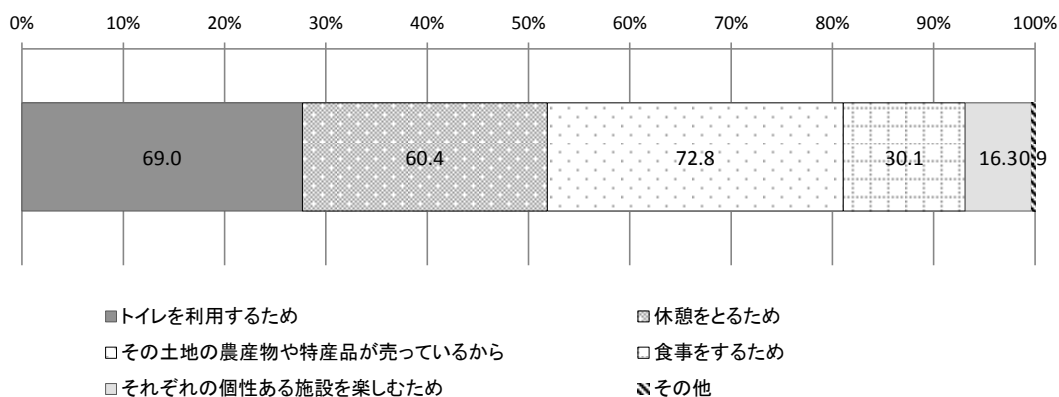


	総数	月数回程度	年数回程度	あまり利用しない	利用したことがない
総数	500	37	249	163	51
	100.0%	7.4%	49.8%	32.6%	10.2%
男性	250	20	126	77	27
	100.0%	8.0%	50.4%	30.8%	10.8%
女性	250	17	123	86	24
	100.0%	6.8%	49.2%	34.4%	9.6%
20歳代	100	7	34	38	21
	100.0%	7.0%	34.0%	38.0%	21.0%
30歳代	100	8	53	31	8
	100.0%	8.0%	53.0%	31.0%	8.0%
40歳代	100	3	52	34	11
	100.0%	3.0%	52.0%	34.0%	11.0%
50歳代	100	8	53	32	7
	100.0%	8.0%	53.0%	32.0%	7.0%
60歳代	100	11	57	28	4
	100.0%	11.0%	57.0%	28.0%	4.0%
埼玉県	70	6	33	23	8
	100.0%	8.6%	47.1%	32.9%	11.4%
東京都	80	4	28	33	15
	100.0%	5.0%	35.0%	41.3%	18.8%
群馬県	70	5	41	21	3
	100.0%	7.1%	58.6%	30.0%	4.3%
栃木県	70	11	37	19	3
	100.0%	15.7%	52.9%	27.1%	4.3%
茨城県	70	5	44	15	6
	100.0%	7.1%	62.9%	21.4%	8.6%
神奈川県	70	3	32	27	8
	100.0%	4.3%	45.7%	38.6%	11.4%
千葉県	70	3	34	25	8
	100.0%	4.3%	48.6%	35.7%	11.4%
自動車有	347	32	203	99	13
	100.0%	9.2%	58.5%	28.5%	3.7%
自動車無	153	5	46	64	38
	100.0%	3.3%	30.1%	41.8%	24.8%

## ⑦ 道の駅に立ち寄る目的【問１０】

道の駅に立ち寄る際はどんなことが目的かという設問には、「その土地の農産物や特産品が売っているため」が80.6%と最も高く、次いで「トイレを利用するため」が66.1%となっています。

### ■道の駅に立ち寄る目的（N= 500、複数回答）



	総数	トイレを利用する ため	休憩をとるため	その土地の農産 物や特産品が 売っているから	食事をするため	それぞれの個性 ある施設を楽し むため	その他
総数	449	310	271	327	135	73	4
	100.0%	69.0%	60.4%	72.8%	30.1%	16.3%	0.9%
男性	223	168	146	147	71	29	2
	100.0%	75.3%	65.5%	65.9%	31.8%	13.0%	0.9%
女性	226	142	125	180	64	44	2
	100.0%	62.8%	55.3%	79.6%	28.3%	19.5%	0.9%
20歳代	79	53	47	43	23	13	1
	100.0%	67.1%	59.5%	54.4%	29.1%	16.5%	1.3%
30歳代	92	60	57	64	30	19	0
	100.0%	65.2%	62.0%	69.6%	32.6%	20.7%	0.0%
40歳代	89	68	48	68	22	13	0
	100.0%	76.4%	53.9%	76.4%	24.7%	14.6%	0.0%
50歳代	93	73	63	73	30	18	0
	100.0%	78.5%	67.7%	78.5%	32.3%	19.4%	0.0%
60歳代	96	56	56	79	30	10	3
	100.0%	58.3%	58.3%	82.3%	31.3%	10.4%	3.1%
埼玉県	62	44	41	43	21	8	2
	100.0%	71.0%	66.1%	69.4%	33.9%	12.9%	3.2%
東京都	65	43	41	54	20	9	0
	100.0%	66.2%	63.1%	83.1%	30.8%	13.8%	0.0%
群馬県	67	46	38	44	16	9	1
	100.0%	68.7%	56.7%	65.7%	23.9%	13.4%	1.5%
栃木県	67	41	34	52	18	15	1
	100.0%	61.2%	50.7%	77.6%	26.9%	22.4%	1.5%
茨城県	64	48	41	47	26	13	0
	100.0%	75.0%	64.1%	73.4%	40.6%	20.3%	0.0%
神奈川県	62	45	43	42	18	7	0
	100.0%	72.6%	69.4%	67.7%	29.0%	11.3%	0.0%
千葉県	62	43	33	45	16	12	0
	100.0%	69.4%	53.2%	72.6%	25.8%	19.4%	0.0%
自動車有	334	239	199	244	105	57	3
	100.0%	71.6%	59.6%	73.1%	31.4%	17.1%	0.9%
自動車無	115	71	72	83	30	16	1
	100.0%	61.7%	62.6%	72.2%	26.1%	13.9%	0.9%

## ⑧ 道の駅の利用頻度と立ち寄る目的の関係【問 9】×【問 10】

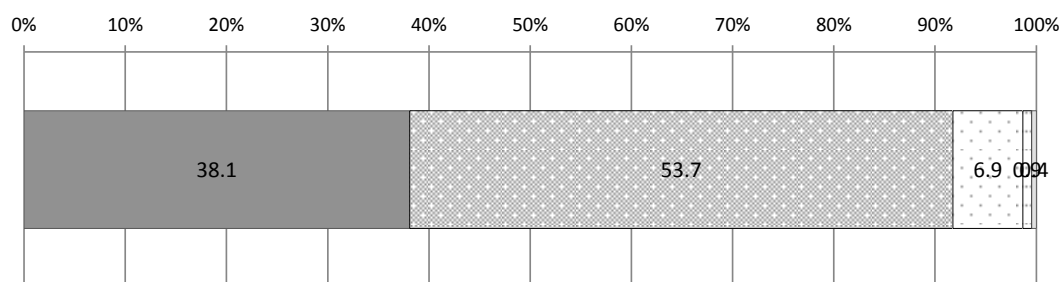
道の駅を利用する目的と頻度の関係を見ると、利用頻度が「月数回程度」「年数回程度」で「その土地の農産物や特産品が売っているから」という回答の割合が高くなっています。

	総数	トイレを利用する ため	休憩をとるため	その土地の農産 物や特産品が 売っているから	食事をするため	それぞれの個性 ある施設を楽し むため	その他
総数	449	310	271	327	135	73	4
	100.0%	69.0%	60.4%	72.8%	30.1%	16.3%	0.9%
道の駅利 用頻度	よく利用する(月 数回程度)	37	28	28	33	17	11
	100.0%	75.7%	75.7%	89.2%	45.9%	29.7%	0.0%
	たまに利用する (年数回程度)	249	184	162	208	90	48
	100.0%	73.9%	65.1%	83.5%	36.1%	19.3%	0.8%
	あまり利用しな い	163	98	81	86	28	14
	100.0%	60.1%	49.7%	52.8%	17.2%	8.6%	1.2%

## ⑨ 道の駅での平均滞在時間【問11】

道の駅の滞在時間は「30分以上～1時間未満」が53.7%と最も高く、次いで、「30分未満」が38.1%となっており、全体の91.8%が1時間未満の滞在時間となっています。

■道の駅での平均滞在時間（N= 449、単一回答）



■ 30分未満    ■ 30分以上～1時間未満    □ 1時間以上～2時間未満    □ 2時間以上～3時間未満    ■ 3時間以上

	総数	30分未満(171)	30分以上～1時間未満(241)	1時間以上～2時間未満(31)	2時間以上～3時間未満(4)	3時間以上(2)
総数	449	171	241	31	4	2
	100.0%	38.1%	53.7%	6.9%	0.9%	0.4%
男性	223	87	115	18	2	1
	100.0%	39.0%	51.6%	8.1%	0.9%	0.4%
女性	226	84	126	13	2	1
	100.0%	37.2%	55.8%	5.8%	0.9%	0.4%
20歳代	79	35	41	3	0	0
	100.0%	44.3%	51.9%	3.8%	0.0%	0.0%
30歳代	92	31	50	9	1	1
	100.0%	33.7%	54.3%	9.8%	1.1%	1.1%
40歳代	89	36	46	7	0	0
	100.0%	40.4%	51.7%	7.9%	0.0%	0.0%
50歳代	93	39	45	7	2	0
	100.0%	41.9%	48.4%	7.5%	2.2%	0.0%
60歳代	96	30	59	5	1	1
	100.0%	31.3%	61.5%	5.2%	1.0%	1.0%
埼玉県	62	23	34	4	0	1
	100.0%	37.1%	54.8%	6.5%	0.0%	1.6%
東京都	65	23	35	4	3	0
	100.0%	35.4%	53.8%	6.2%	4.6%	0.0%
群馬県	67	30	31	5	0	1
	100.0%	44.8%	46.3%	7.5%	0.0%	1.5%
栃木県	67	19	44	4	0	0
	100.0%	28.4%	65.7%	6.0%	0.0%	0.0%
茨城県	64	29	27	7	1	0
	100.0%	45.3%	42.2%	10.9%	1.6%	0.0%
神奈川県	62	19	39	4	0	0
	100.0%	30.6%	62.9%	6.5%	0.0%	0.0%
千葉県	62	28	31	3	0	0
	100.0%	45.2%	50.0%	4.8%	0.0%	0.0%
自動車有	334	125	178	28	2	1
	100.0%	37.4%	53.3%	8.4%	0.6%	0.3%
自動車無	115	46	63	3	2	1
	100.0%	40.0%	54.8%	2.6%	1.7%	0.9%

## ⑩ 平均購入金額【問12】

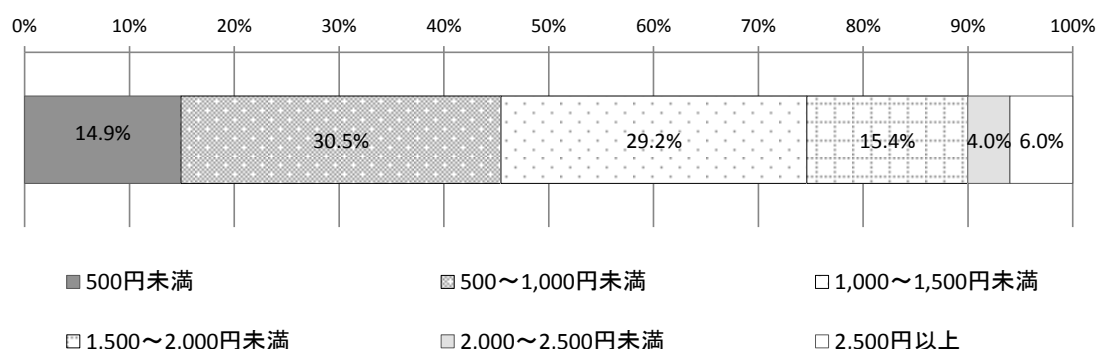
道の駅での平均購入金額は、「500～1,000 円未満」が 30.5%と最も高くなっています。

男女別では、「女性」で「1,000～1,500 円未満」の割合が 33.2%と高くなっています。

年齢別では、「50 歳代」で「500～1,000 円未満」の割合が 35.5%と高くなっています高齢になるにつれ、道の駅での購入金額が高くなっています。

自動車の有無別では、自動車「無」で「500～1,000 円未満」の割合が 31.3%と高くなっています。

### ■お店での平均購入金額（N= 449、単一回答）

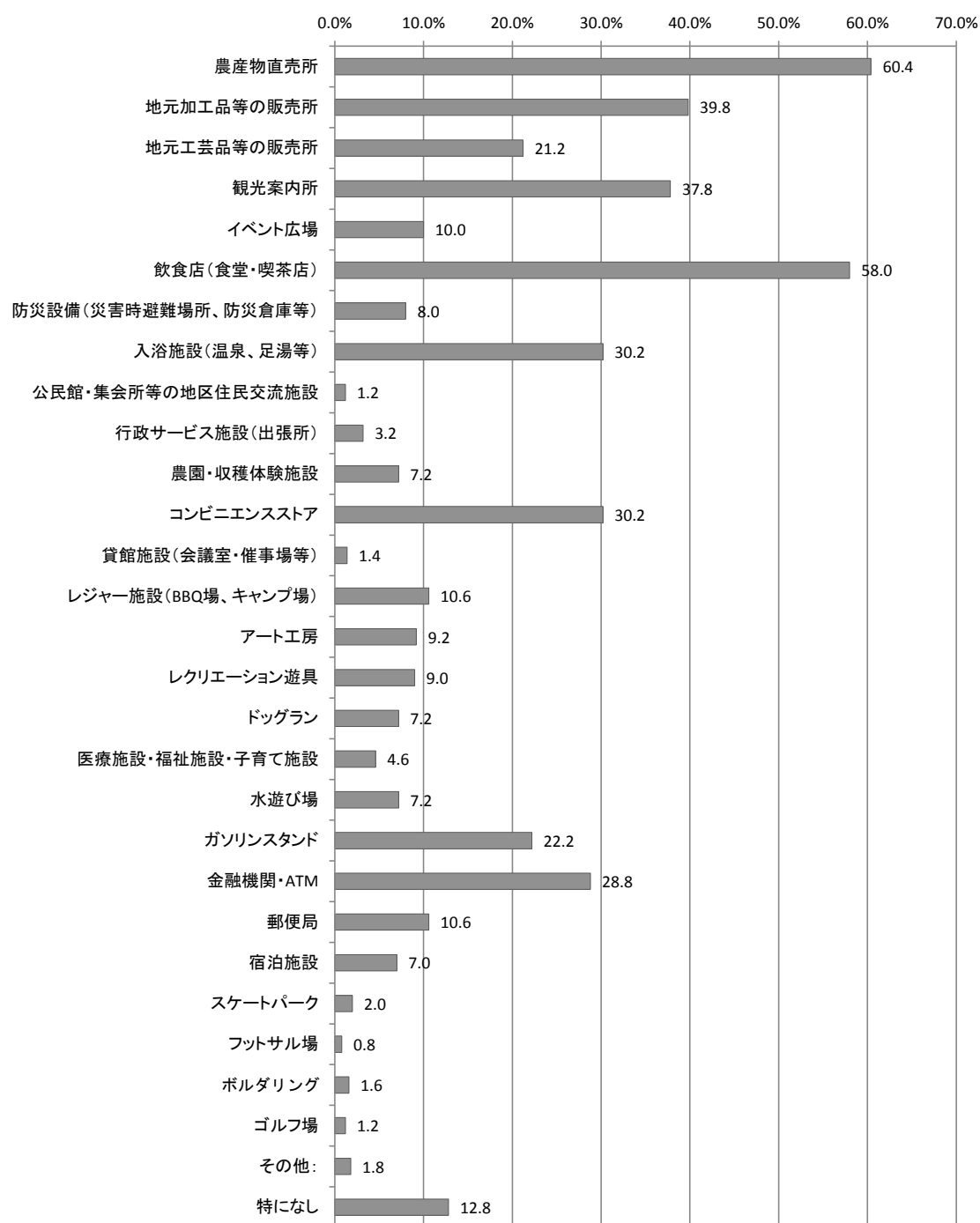


	総数	500円未満	500～1,000円未満	1,000～1,500円未満	1,500～2,000円未満	2,000～2,500円未満	2,500円以上
総数	449	67	137	131	69	18	27
	100.0%	14.9%	30.5%	29.2%	15.4%	4.0%	6.0%
男性	223	45	65	56	39	9	9
	100.0%	20.2%	29.1%	25.1%	17.5%	4.0%	4.0%
女性	226	22	72	75	30	9	18
	100.0%	9.7%	31.9%	33.2%	13.3%	4.0%	8.0%
20歳代	79	20	28	19	8	3	1
	100.0%	25.3%	35.4%	24.1%	10.1%	3.8%	1.3%
30歳代	92	16	25	27	16	3	5
	100.0%	17.4%	27.2%	29.3%	17.4%	3.3%	5.4%
40歳代	89	14	30	29	6	4	6
	100.0%	15.7%	33.7%	32.6%	6.7%	4.5%	6.7%
50歳代	93	11	33	26	16	3	4
	100.0%	11.8%	35.5%	28.0%	17.2%	3.2%	4.3%
60歳代	96	6	21	30	23	5	11
	100.0%	6.3%	21.9%	31.3%	24.0%	5.2%	11.5%
埼玉県	62	13	17	16	6	3	7
	100.0%	21.0%	27.4%	25.8%	9.7%	4.8%	11.3%
東京都	65	8	16	22	11	4	4
	100.0%	12.3%	24.6%	33.8%	16.9%	6.2%	6.2%
群馬県	67	10	23	20	8	2	4
	100.0%	14.9%	34.3%	29.9%	11.9%	3.0%	6.0%
栃木県	67	8	25	19	12	1	2
	100.0%	11.9%	37.3%	28.4%	17.9%	1.5%	3.0%
茨城県	64	11	19	19	9	4	2
	100.0%	17.2%	29.7%	29.7%	14.1%	6.3%	3.1%
神奈川県	62	7	16	18	12	4	5
	100.0%	11.3%	25.8%	29.0%	19.4%	6.5%	8.1%
千葉県	62	10	21	17	11	0	3
	100.0%	16.1%	33.9%	27.4%	17.7%	0.0%	4.8%
自動車有	334	47	101	98	54	14	20
	100.0%	14.1%	30.2%	29.3%	16.2%	4.2%	6.0%
自動車無	115	20	36	33	15	4	7
	100.0%	17.4%	31.3%	28.7%	13.0%	3.5%	6.1%

## ⑪ 道の駅に欲しいと思う機能【問13】

道の駅に求める機能として、「農産物直売所」が60.4%と最も高く、次いで、「飲食店（食堂・喫茶店）」が58.0%となっています。

■道の駅に欲しいと思う機能（N= 500、複数回答）



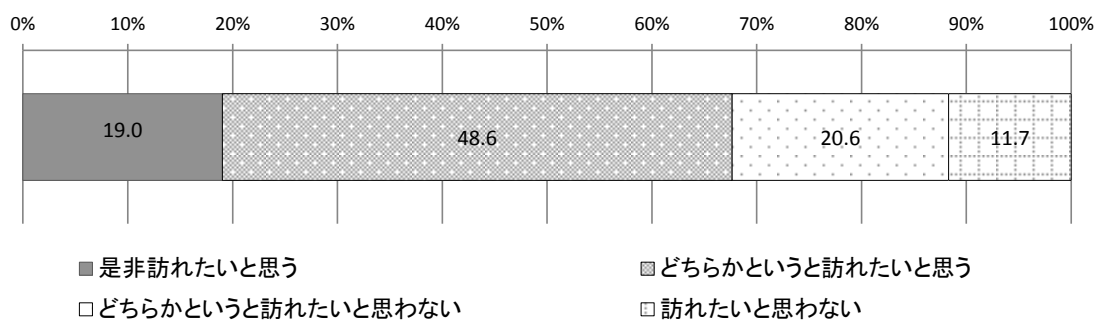
	総数	農産物 直売所	地元加工品等の販売所	地元工芸品の販売所	観光案内所	イベント広場	飲食店 (食堂・喫茶店)	防災設備(災害時避難場所、防災倉庫等)	公民館・集会所等の地区住民交流施設	行政サービス施設(出張所)	農圃・収穫体験施設	コンビニエンスストア	貸館施設(会議室、催事場等)	レジャー施設(BBQ場、キャンプ場)	アート工房	レクリエーション遊具	ドッグラン	医療施設・福祉施設・子育て施設	水遊び場	ガソリンスタンド	金融機関・ATM	郵便局	宿泊施設	スケートパーク	フットサル場	ボートリング	ゴルフ場	その他	特になし		
総数	500	302	199	106	189	50	290	40	151	6	16	36	151	7	53	46	45	36	23	36	111	144	53	35	10	4	8	6	9	64	
1000	1000	604	398	212	378	100	580	80	302	12	32	72	302	14	106	92	90	72	46	72	222	288	106	70	20	08	16	12	18	128	
男性	250	127	76	46	81	27	132	11	65	5	9	13	74	4	27	11	20	13	6	13	59	65	18	17	7	2	5	5	6	39	
女性	1000	508	304	184	324	108	528	44	260	20	36	52	236	16	108	44	80	52	24	52	236	260	72	68	28	08	20	20	24	150	
250	250	175	123	60	108	23	158	29	86	1	7	23	77	3	26	35	25	23	17	23	52	79	35	18	3	2	3	1	3	25	
1000	1000	700	492	240	432	92	632	116	344	04	28	92	308	12	104	140	100	92	68	92	208	316	140	72	12	08	12	04	12	100	
20歳代	100	38	31	16	26	14	54	8	22	2	5	8	37	2	16	8	9	6	6	7	20	39	11	4	2	2	4	1	2	20	
30歳代	1000	380	310	160	260	140	540	80	220	20	50	80	370	20	160	80	90	60	60	70	200	390	110	40	20	20	40	10	20	200	
40歳代	100	65	38	20	42	12	65	9	31	1	3	7	30	1	13	11	13	9	7	17	29	31	10	4	3	0	1	1	12	12	
50歳代	1000	650	380	200	420	120	650	90	310	10	30	70	300	10	130	110	130	90	70	170	290	310	100	40	30	00	10	10	100	120	
60歳代	100	66	41	14	43	8	58	12	39	0	1	8	40	1	11	8	8	9	5	7	21	27	13	12	2	1	2	1	2	9	
70歳代	1000	660	410	140	430	80	580	120	390	00	10	80	400	10	110	80	80	90	50	70	210	270	130	120	20	10	20	10	20	90	
80歳代	100	62	38	26	41	8	58	6	32	2	5	10	23	1	8	10	10	4	2	5	21	30	10	2	3	1	1	2	0	13	
90歳代	1000	620	380	260	410	80	580	60	320	20	50	100	230	10	80	100	100	40	20	50	210	300	100	20	30	10	10	20	00	130	
1000	100	71	51	30	37	8	55	5	27	1	2	3	21	2	5	9	5	8	3	0	20	17	9	13	0	0	0	1	4	10	
埼玉県	1000	710	510	300	370	80	550	50	270	10	20	30	210	20	50	90	50	80	30	00	200	170	90	130	00	00	00	10	40	100	
東京都	70	39	28	20	29	12	41	9	17	3	6	7	20	3	8	8	8	5	5	5	17	24	11	5	2	0	2	0	1	9	
神奈川県	1000	557	400	286	414	171	586	129	243	43	86	100	286	43	114	114	114	71	71	71	243	343	157	71	29	00	29	00	14	129	
千葉県	80	43	31	16	20	2	52	6	22	0	0	5	28	0	4	6	5	8	3	3	5	16	21	6	2	0	0	2	0	14	
東京都	1000	538	388	200	250	25	650	75	275	00	00	63	350	00	50	75	63	100	38	63	200	263	75	25	00	00	25	00	13	175	
東京都	70	48	27	9	25	2	37	5	23	0	2	3	22	0	9	4	5	3	2	6	16	22	5	3	1	0	0	0	2	5	
東京都	1000	686	386	129	357	29	529	71	329	00	29	43	314	00	129	57	71	43	29	86	229	314	71	43	14	00	00	00	29	71	
東京都	70	44	27	14	26	9	41	6	20	1	3	4	18	0	9	6	4	4	1	2	12	14	6	4	0	1	1	2	2	7	
東京都	1000	629	386	200	371	129	586	86	286	14	43	57	257	00	129	86	57	57	14	29	171	200	86	57	00	14	14	29	29	100	
東京都	70	44	31	19	37	12	45	5	24	1	4	7	23	2	12	12	10	8	7	9	23	28	14	6	5	1	1	2	1	8	
東京都	1000	629	443	271	529	171	643	71	343	14	57	100	329	29	171	171	143	114	100	129	329	400	200	86	71	14	14	29	14	114	
東京都	70	37	24	14	23	5	36	3	25	0	0	4	19	1	5	1	4	6	2	3	15	17	3	11	0	1	0	0	1	13	
東京都	1000	529	343	200	329	71	514	43	357	00	00	57	271	14	71	14	57	86	29	43	214	243	43	157	00	14	00	00	14	186	
東京都	70	47	31	14	29	8	38	6	20	1	1	6	21	1	6	9	9	2	3	6	12	18	8	4	2	1	2	2	1	8	
東京都	1000	671	443	200	414	114	543	86	286	14	14	86	300	14	86	129	129	29	43	86	171	257	114	57	29	14	29	29	14	114	
東京都	347	225	137	76	141	40	207	20	112	5	13	27	105	5	41	35	33	26	15	28	85	99	39	25	9	3	4	6	8	30	
東京都	1000	648	395	219	406	115	597	58	323	14	37	78	303	14	118	101	95	75	43	81	245	285	112	72	26	09	12	17	23	86	
東京都	153	77	62	30	48	10	83	20	39	1	3	9	46	2	12	11	12	10	8	8	26	45	14	10	1	1	4	0	1	34	
東京都	1000	503	405	196	314	65	542	131	255	07	20	59	301	13	78	72	78	65	52	52	170	294	92	65	07	07	26	00	07	222	



## ⑫ 前問で選んだ機能を備えた道の駅が、行田市にできたら行きたいか【問14】

訪れたいと思うという回答が 67.6%、訪れたいと思わないという回答が 32.3%となっています。  
「どちらかというと訪れたいと思う」が 48.6%と最も多くなっています。

### ■前問で選んだ機能を備えた道の駅が、行田市にできたら行きたいか（N= 436、複数回答）



	総数	是非訪れたいと思う	どちらかというと訪れたいと思う	どちらかというと訪れたいと思わない	訪れたいと思わない
総数	436	83	212	90	51
	100.0	19.0	48.6	20.6	11.7
男性	211	36	107	43	25
	100.0	17.1	50.7	20.4	11.8
女性	225	47	105	47	26
	100.0	20.9	46.7	20.9	11.6
20歳代	80	14	35	19	12
	100.0	17.5	43.8	23.8	15.0
30歳代	88	16	43	18	11
	100.0	18.2	48.9	20.5	12.5
40歳代	91	14	47	18	12
	100.0	15.4	51.6	19.8	13.2
50歳代	87	19	42	15	11
	100.0	21.8	48.3	17.2	12.6
60歳代	90	20	45	20	5
	100.0	22.2	50.0	22.2	5.6
埼玉県	61	16	32	7	6
	100.0	26.2	52.5	11.5	9.8
東京都	66	12	31	15	8
	100.0	18.2	47.0	22.7	12.1
群馬県	65	12	35	12	6
	100.0	18.5	53.8	18.5	9.2
栃木県	63	9	32	9	13
	100.0	14.3	50.8	14.3	20.6
茨城県	62	19	26	13	4
	100.0	30.6	41.9	21.0	6.5
神奈川県	57	6	26	21	4
	100.0	10.5	45.6	36.8	7.0
千葉県	62	9	30	13	10
	100.0	14.5	48.4	21.0	16.1
自動車有	317	72	156	60	29
	100.0	22.7	49.2	18.9	9.1
自動車無	119	11	56	30	22
	100.0	9.2	47.1	25.2	18.5

⑬ 道の駅に欲しいと思う機能とその機能を備えた道の駅が行田市にできたら行きたいか【問13】×【問14】

訪れたいと思うと回答している方は、道の駅に欲しいと思う機能は「農産物直売所」や「飲食店（食堂・喫茶店）」と回答している割合が高くなっています。

		総数	農産物直売所	地元加工品等の販売所	地元工芸品等の販売所	観光案内所	イベント広場	飲食店（食堂・喫茶店）	防災設備（災害時避難場所、防災倉庫等）	入浴施設（温泉、足湯等）	公民館・集会所等の地区住民交流施設	行政サービス施設（出張所）	農園・収穫体験施設	コンビニエンスストア	貸館施設（会議室・催事場等）	レジャー施設（BBQ場、キャンプ場）
総数		436	302	199	106	189	50	290	40	151	6	16	36	151	7	53
		100.0%	69.3%	45.6%	24.3%	43.3%	11.5%	66.5%	9.2%	34.6%	1.4%	3.7%	8.3%	34.6%	1.6%	12.2%
行きたいか	是非訪れたいと思う	83	66	50	24	46	20	65	10	44	4	5	16	31	3	24
		100.0%	79.5%	60.2%	28.9%	55.4%	24.1%	78.3%	12.0%	53.0%	4.8%	6.0%	19.3%	37.3%	3.6%	28.9%
	どちらかというと思訪れたいと思う	212	150	96	58	108	24	145	21	80	1	8	17	71	4	23
		100.0%	70.8%	45.3%	27.4%	50.9%	11.3%	68.4%	9.9%	37.7%	.5%	3.8%	8.0%	33.5%	1.9%	10.8%
	どちらかというと思訪れたいと思わない	90	56	37	20	30	5	53	6	18	0	2	3	35	0	5
		100.0%	62.2%	41.1%	22.2%	33.3%	5.6%	58.9%	6.7%	20.0%	0.0%	2.2%	3.3%	38.9%	0.0%	5.6%
	訪れたいと思わない	51	30	16	4	5	1	27	3	9	1	1	0	14	0	1
		100.0%	58.8%	31.4%	7.8%	9.8%	2.0%	52.9%	5.9%	17.6%	2.0%	2.0%	0.0%	27.5%	0.0%	2.0%

		アート工房	レクリエーション遊具	ドッグラン	医療施設・福祉施設・子育て施設	水遊び場	ガソリンスタンド	金融機関・ATM	郵便局	宿泊施設	スケートパーク	フットサル場	ボルダリング	ゴルフ場	その他：	特になし
総数		46	45	36	23	36	111	144	53	35	10	4	8	6	9	0
		10.6%	10.3%	8.3%	5.3%	8.3%	25.5%	33.0%	12.2%	8.0%	2.3%	.9%	1.8%	1.4%	2.1%	0.0%
行きたいか	是非訪れたいと思う	17	19	11	8	14	29	33	12	15	4	2	2	3	2	0
		20.5%	22.9%	13.3%	9.6%	16.9%	34.9%	39.8%	14.5%	18.1%	4.8%	2.4%	2.4%	3.6%	2.4%	0.0%
	どちらかというと思訪れたいと思う	25	21	15	10	15	47	68	27	16	5	1	4	3	4	0
		11.8%	9.9%	7.1%	4.7%	7.1%	22.2%	32.1%	12.7%	7.5%	2.4%	.5%	1.9%	1.4%	1.9%	0.0%
	どちらかというと思訪れたいと思わない	3	5	7	5	7	25	30	10	3	1	0	1	0	2	0
		3.3%	5.6%	7.8%	5.6%	7.8%	27.8%	33.3%	11.1%	3.3%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	2.2%	0.0%
	訪れたいと思わない	1	0	3	0	0	10	13	4	1	0	1	1	0	1	0
		2.0%	0.0%	5.9%	.0%	0.0%	19.6%	25.5%	7.8%	2.0%	0.0%	2.0%	2.0%	0.0%	2.0%	0.0%

## ⑭ 道の駅の利用状況

道の駅での平均購入金額は、「500 円以上～1,000 円未満」が 30.5%と最も高くなっていますが、『たまに利用する（年数回程度）』『よく利用する（月数回程度）』の方は「1,500 円以上～2,000 円未満程度」の消費をするという回答の割合が高くなっています。

農産物や特産物の購入、飲食を目的とする場合は、「1,000 円以上～1,500 円未満」程度の消費をしています。

滞在時間が長くなるにつれ、道の駅での消費金額が多くなります。

		総数	500円未満	500円以上～ 1,000円未満	1,000円以上～ 1,500円未満	1,500円以上～ 2,000円未満	2,000円以上～ 2,500円未満	2,500円以上
総数		449	67	137	131	69	18	27
		100.0	14.9	30.5	29.2	15.4	4.0	6.0
道の駅利 用頻度	よく利用する（月数回程 度）	37	2	7	11	15	0	2
		100.0	5.4	18.9	29.7	40.5	0.0	5.4
	たまに利用する（年数回 程度）	249	23	83	79	35	13	16
		100.0	9.2	33.3	31.7	14.1	5.2	6.4
	あまり利用しない	163	42	47	41	19	5	9
		100.0	25.8	28.8	25.2	11.7	3.1	5.5
立寄り目 的	トイレを利用するため	310	49	97	90	46	12	16
		100.0	15.8	31.3	29.0	14.8	3.9	5.2
	休憩をとるため	271	39	82	75	52	8	15
		100.0	14.4	30.3	27.7	19.2	3.0	5.5
	その土地の農産物や特 産品が売っているから	327	18	96	114	58	15	26
		100.0	5.5	29.4	34.9	17.7	4.6	8.0
	食事をするため	135	3	29	51	30	8	14
		100.0	2.2	21.5	37.8	22.2	5.9	10.4
	それぞれの個性ある施 設を楽しむため	73	4	21	22	16	4	6
	その他：	4	2	1	0	0	0	1
立寄り時 間	30分未満	171	60	68	30	7	3	3
		100.0	35.1	39.8	17.5	4.1	1.8	1.8
	30分以上～1時間未満	241	7	68	91	47	12	16
		100.0	2.9	28.2	37.8	19.5	5.0	6.6
	1時間以上～2時間未満	31	0	1	9	13	2	6
		100.0	0.0	3.2	29.0	41.9	6.5	19.4
	2時間以上～3時間未満	4	0	0	0	2	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
	3時間以上	2	0	0	1	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0

## 第3章 対象地の選定と課題

### 1. 対象地の選定

#### (1) 対象地の選定

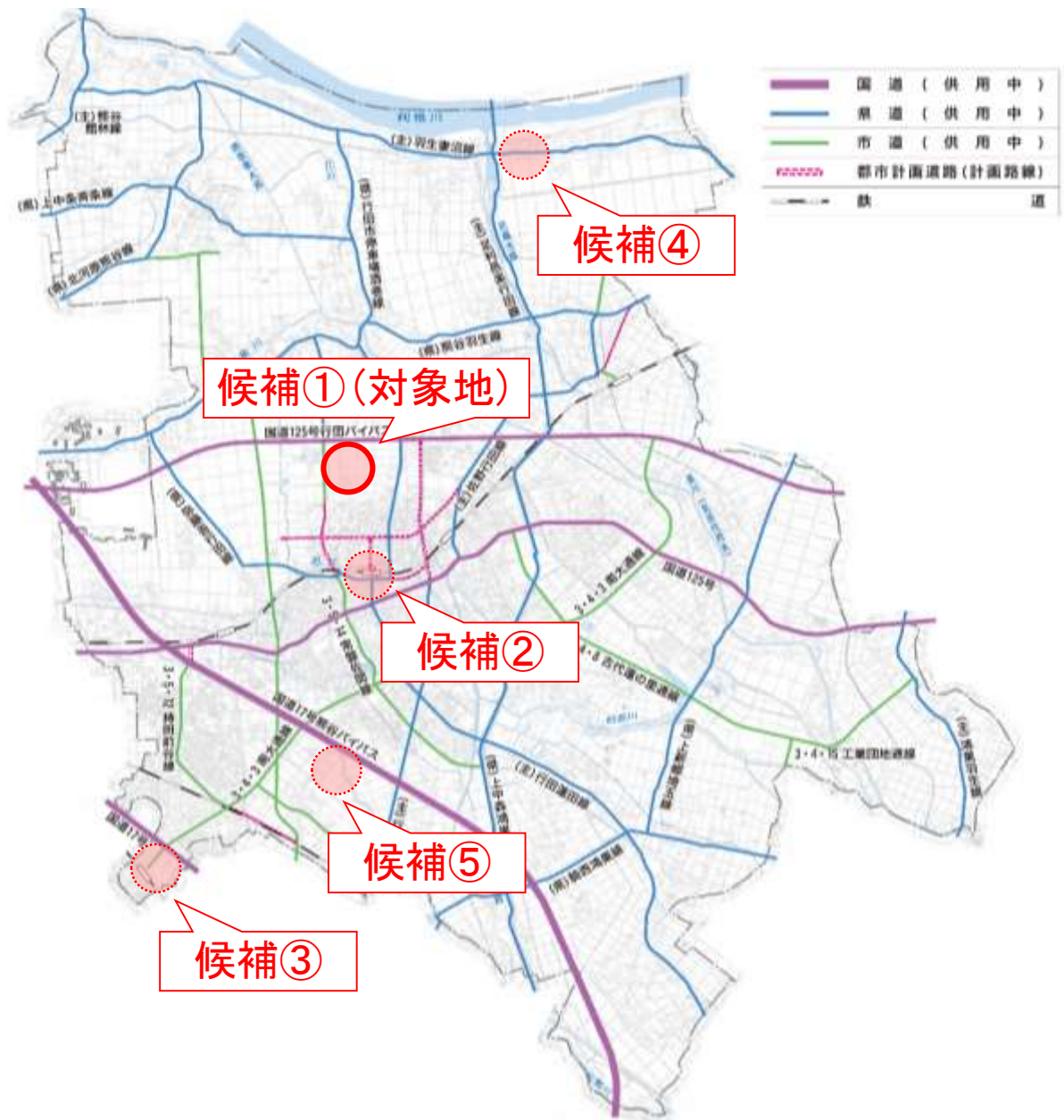
対象地の選定にあたっては、『行田市都市計画マスタープラン』の将来の都市構造で位置づけられている「交流拠点」を考慮し、市内全域から5か所を候補としました。

さらにそこから交通量、広域アクセス、土地利用現況、大規模種地の有無、周辺施設との連携、浸水危険性、景観、周辺商業施設の観点から評価し、候補①を対象地として選定しました。

#### ■ 対象地選定の観点

候補地	交通量	広域アクセス	土地利用現況	大規模種地の有無	周辺施設との連携	浸水危険性	景観	周辺商業施設	備考
①	◎	◎	△	△	◎	△	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道125号バイパスの交通量が多く、車の広域アクセス性が高い</li> <li>・ 現状は農地であるが、手法によっては大規模な土地活用の可能性がある</li> <li>・ 行田市総合公園との連携、周辺の自然景観に優れている</li> <li>・ 周辺商業施設と商圏の重なる部分が少ない</li> </ul>
②	△	○	×	×	○	△	○	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道125号の交通量は他路線と比較して少なく、車の広域アクセス性が低い</li> <li>・ 市街地であるため、大規模な土地活用が困難である</li> <li>・ 忍城址や商店街との連携、周辺の歴史景観に優れている</li> </ul>
③	○	◎	×	×	×	×	×	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道17号の交通量は比較的少ないが、周辺都市からの広域アクセス性は高い</li> <li>・ 市街地であるため、大規模な土地活用が困難である</li> <li>・ 周辺施設との連携、周辺の自然資源に劣る</li> </ul>
④	△	△	△	△	×	×	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 羽生妻沼線の交通量が少なく車の広域アクセス性が低い</li> <li>・ 住宅用地であるため、民間用地買収によって大規模な用地確保は考えられるが可能性は低い</li> <li>・ 周辺施設との連携に劣る</li> <li>・ 周辺の自然資源に優れている</li> <li>・ 周辺商業施設と商圏の重なる部分が少ない</li> </ul>
⑤	○	◎	△	△	×	△	×	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道17号熊谷バイパスの交通量が多く、車の広域アクセス性が高い</li> <li>・ 現状は農地であるが、手法によっては大規模な土地活用の可能性がある</li> <li>・ 周辺施設との連携、周辺の自然資源に劣る</li> </ul>

■対象地候補位置図



## (2) 対象地の条件整理

立地条件及び制約条件から、対象地の条件を整理しました。

### ■対象地の条件

項目		条件整理
立地条件	位置	・対象地は、市の中心よりやや北側に位置し、秩父鉄道行田市駅から直線距離でおよそ 1.5km である
	交通条件	・対象地は国道 125 号バイパス沿道であり、熊谷市と羽生市・加須市を結んでいる ・上下線 1 日約 23,000 台の交通量があり、市内で最も交通量が多い路線である ・特に、朝夕の小型車、昼間の大型車の交通量が多い
	産業特性	・農家戸数、農業従業者数が減少しており、農業の生産性が低下している ・商業施設は国道 125 号、国道 17 号バイパス沿いに多く分布しており、国道 125 号バイパス沿いの商業施設は少ない
	観光ニーズ	・観光の中心である古代蓮の里、さきたま古墳公園、忍城址から対象地まで直線距離でそれぞれ約 5km、3.5km、2km であり、近くに観光施設はない
	土地利用現況	・行田市総合公園に隣接し、広大な農地としての土地利用がされている
制約条件	土地利用規制	・農振農用地となっているため農用地区域の除外、農地転用の手続きが必要である ・市街化調整区域のため開発にあたっての許可が必要である
	災害危険性	・利根川の洪水時に浸水の可能性がある（浸水高 2.0～5.0m）
	自然環境等	・市内の郊外部に、希少な動植物の生息地が分布している ・対象地には、希少な動植物の生息地や埋蔵文化財の指定等はない

### (3) 対象地周辺の状況

対象地は広大な農地となっており、4車線道路の国道125号バイパスに接しています。  
また、行田市総合公園が隣接しており、一体的な活用が可能となります。

#### ■ 対象地周辺の状況

対象地の現況	
	
対象地に接する国道125号バイパス	
	
隣接する行田市総合公園	
	



## 2. 課題の整理

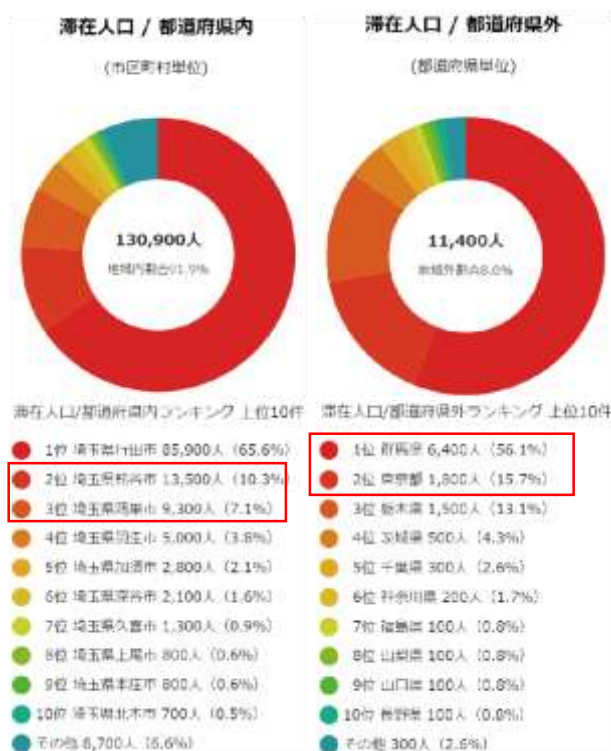
### (1) ニーズ分析

#### ①地域ニーズの分析

産業交流拠点の整備にあたって、市外利用者アンケート調査による「行田市の道の駅利用意向」から、ターゲットの大枠を設定します。また、各機能導入にあたってのターゲットは別途設定することとします。

#### (i) 本市への滞在人口（2 時間以上）

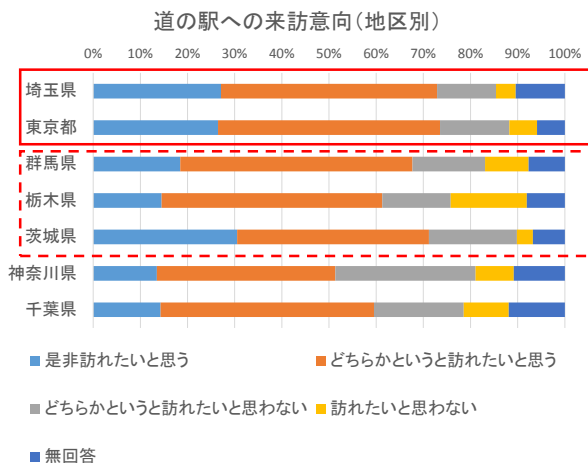
本市への2時間以上の滞在人口をみると、熊谷市や鴻巣市、羽生市からの滞在人口が多く、これは日常生活における行田市への滞在ニーズと考えられます。また、埼玉県外では群馬県や東京都が広域的なニーズとして考えられます。



資料：地域経済分析システム（内閣府）

#### (ii) 市外利用者の地域ニーズ：（自家用車所有者）

埼玉県内と東京都の自家用車所有者のニーズが高くなっており、市外利用者の第一のターゲットとして考えられます。次いで、群馬県、茨城県、栃木県といった北関東圏が第二のニーズとして考えられます。

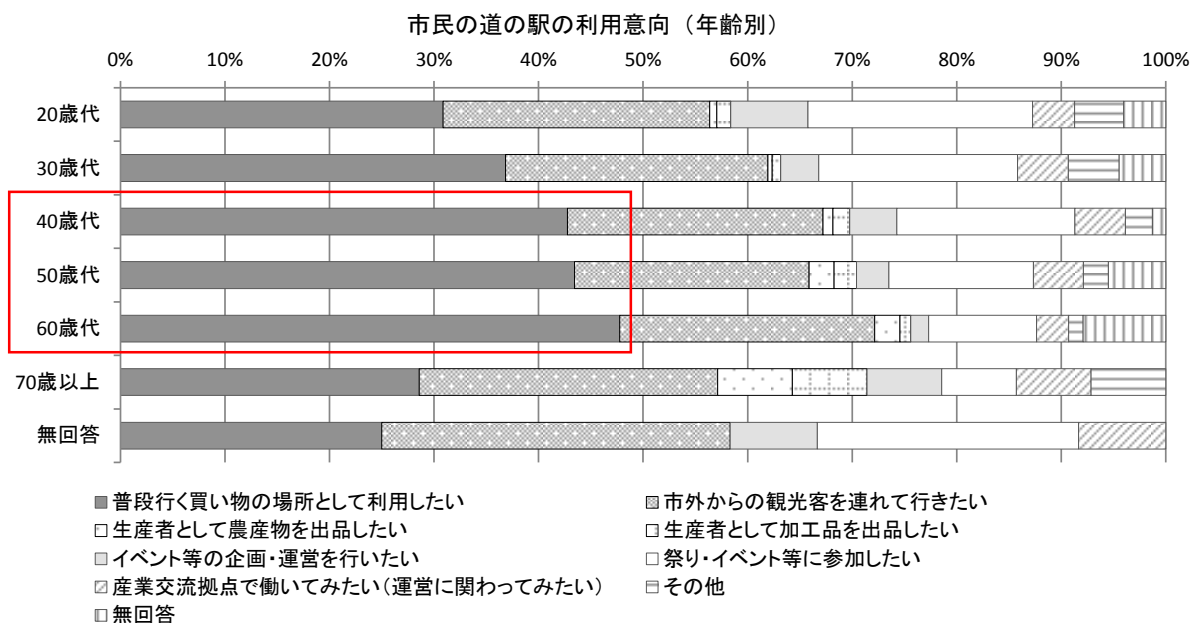


資料：市外利用者アンケート調査

## ②年齢ニーズの分析

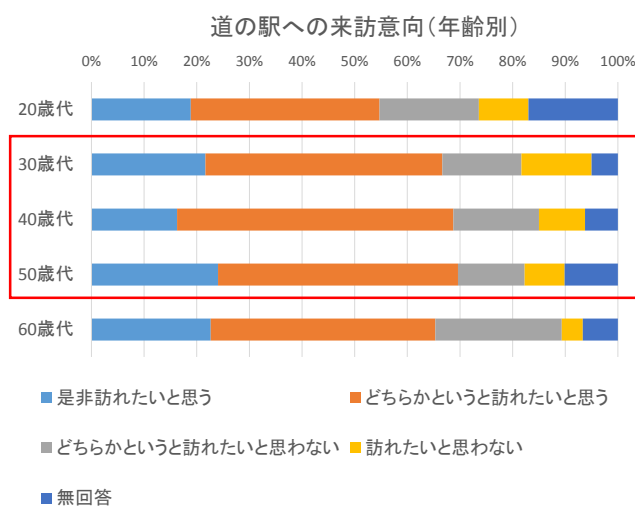
### (i) 市内利用者の年代ニーズ

市民の道の駅の利用意向をみると、40歳代以上で「普段行く買い物の場所として利用したい」意向が多く、年齢があがるにつれ日常の利用ニーズが高くなります。20歳代～30歳代では、「祭り・イベント等に参加したい」が40歳代以上の意向と比較して高くなっています。



### (ii) 市外利用者の年代ニーズ：(自家用車所有者)

行田市の道の駅の来訪意向は、30歳代～50歳代のニーズが高く、市外利用者に対しては、子ども連れなどのファミリー世帯をターゲットとした機能導入が求められます。



### ③日常（平日）の利用ニーズ

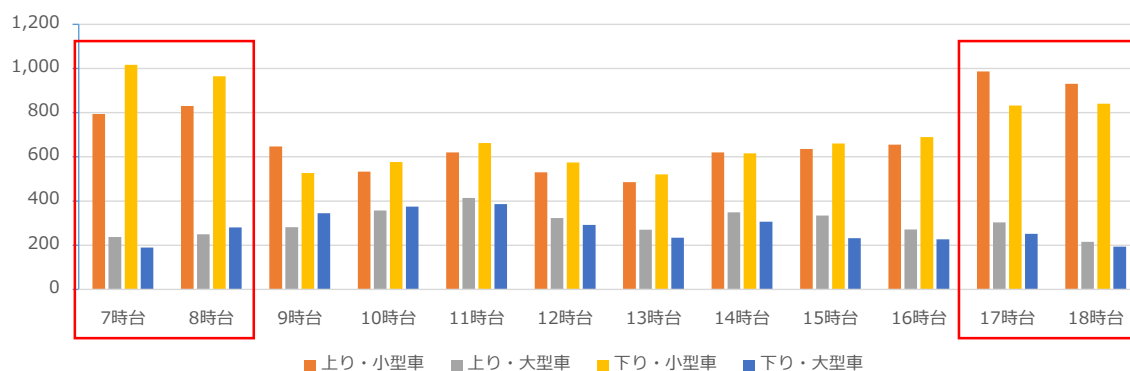
#### （i）アクセス道路の自動車交通

対象地のアクセス道路である国道 125 号バイパスの交通量は、23,674 台/日となっており、特に、7～8 時台と 17～18 時台においては、小型車の交通量が多くなっています。

また、大型車は 10～11 時台、14～15 時台の交通量が多くなっています。

これらは、日常的に休憩や飲食等で立ち寄るニーズとして考えられます。

国道 125 号バイパスの交通量

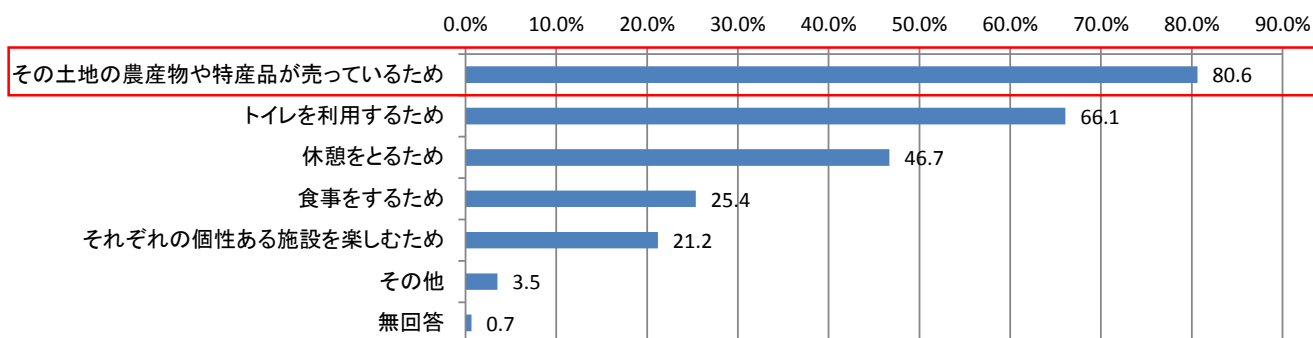


資料：平成 22 年度道路交通センサス

#### （ii）農産物直売所を利用する市民ニーズ

市民ニーズとして、市民が農産物直売所を目的として道の駅に立ち寄る割合が 80.6%と最も多く、日常の買い物の場として、利用することが考えられます。

市民の道の駅を利用する目的

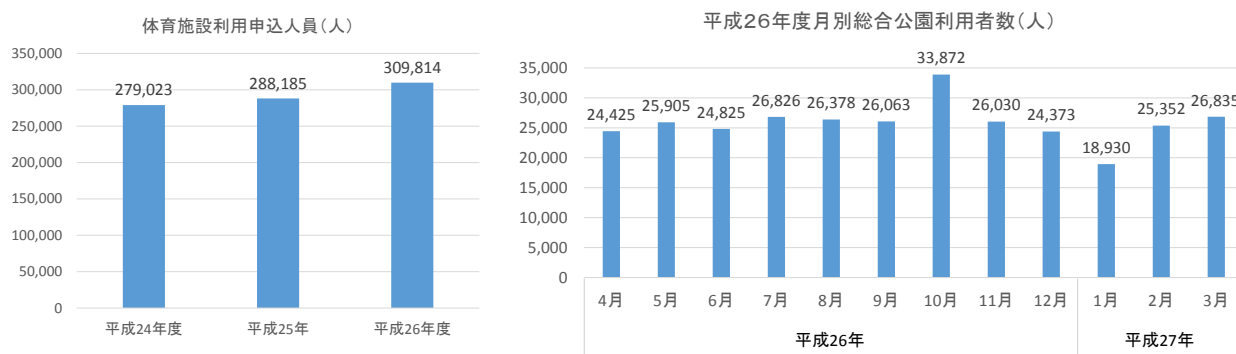


資料：市民意識調査

## ④隣接施設や観光施設との連携によるニーズ

### (i) 隣接する行田市総合公園利用者

対象地と隣接する行田市総合公園の利用者数は、平成24年度から平成26年度の平均で、約29万人となっており、行田市総合公園利用後に買い物や飲食、休憩の場として立ち寄ることが考えられます。平成26年度の利用状況をみると、特に、10月の利用が最も多く、次いで3月や7～8月などの春休み、夏休み時期の利用が多くなっています。

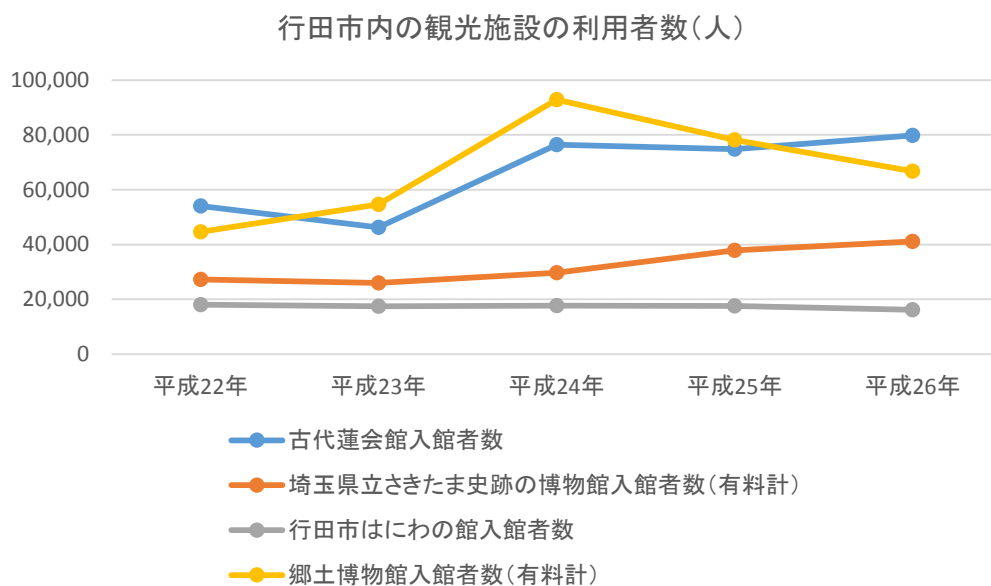


資料：市提供資料

### (ii) 市内観光施設の利用者

平成22年から平成26年の市内観光施設の利用者の平均は約18万人となっており、特に埼玉県さきたま史跡の博物館や古代蓮会館の入館者数が増えており、これらの観光施設を連携することによって相乗的に高めることができるニーズとして考えられます。

また、情報発信機能を強化することで、市内の観光情報の拠点としての役割を担うことも必要です。



資料：平成27年度統計ぎょうだ

## **（２）課題の整理**

### **〈立地に係る課題〉**

**課題①：前面道路（国道 125 号バイパス）の交通量の多さや行田市総合公園と隣接する立地特性を活かすことが求められます**

対象地の前面道路である国道 125 号バイパスは、1 日平均約 23,600 台の交通量があります。この交通量の多さを活かし、情報発信機能や休憩所を整備するとともに、コンビニエンスストア等、道路通行者が気軽に立ち寄ることができる場が求められます。

また対象地は、年間平均 29 万人（平成 24 年～平成 26 年度）が利用する行田市総合公園に隣接しています。この立地特性や、近年の健康に対する意識の高まり（特に高齢者）を活かし、行田市総合公園を利用した後の休憩施設や飲食施設など、公園と連携した機能の整備が求められます。

### **〈行田市の特性に係る課題〉**

**課題②：「行田らしさ」の創造が求められます**

行田市には、水城公園、古代蓮といった豊かな自然や戦国時代の「忍城」を中心とした城下町の形成、近代における「足袋産業」、さらに近年では市内事業者を中心に特産品の開発が行われています。しかし、特色ある歴史・資源を有しているにも関わらず、それぞれが十分に活かされていないことから、本市の歴史・資源を見つめ直し、「行田らしさ」の創造が求められます。

**課題③：地域独自の農産物ブランドの確立が求められます**

行田市の農業分野においては、「米」の産出額に占める割合が極めて大きいこともあり、その他に特徴的な農産物が無い状況です。現在、市内事業者を中心として「青大豆」を活用した特産品や「行田ブランド米」の開発に向けた取組みが進められており、農産物のブランド化の更なる推進が求められます。

**課題④：行田市の魅力発信による地域資源間の回遊性向上とネットワーク化が求められます**

行田市には、ギネス世界記録に認定された田んぼアートや、忍城址、埼玉古墳群等、観光資源が数多くあるものの、認知度は低い状況にあります。観光案内所を整備し周辺の観光施設との連携を深める等、行田市の魅力の発信窓口としての機能を持った場所が求められます。また、現在市内には運営主体となる民間団体が無い状況ですが、将来的には民間が主体となり、持続的に運営していくことが必要です。

### 〈ターゲットに係る課題〉

#### 課題⑤：高齢者が日常的に利用できる場所が求められます

全国的に高齢化が進む中、行田市でも高齢人口割合は 27.7%（平成 28 年度統計ぎょうだ）となっており、この割合は今後増加していくことが予想されます。また、市民アンケートでは 60 歳代の道の駅の利用頻度が最も高くなっており、機能としては農産物直売所のニーズが高くなっています。こうした動向を踏まえ、市内で採れた農産物を販売するなど、地産地消を推進するとともに高齢者が日常から利用できる場所とすることが求められています。

#### 課題⑥：家族連れが安心して集うことが出来る場所が求められます

市外利用者からは 30 歳～50 歳代の利用ニーズが高いことや、全国モデルに選ばれている道の駅では子どものための機能が多く備わっていることを踏まえて、子どもの遊び場や家族向けの飲食店等、行田市内に不足している機能を整備・充実させるとともに、イベント広場や農園・収穫体験施設等、家族連れが利用しやすい場所として整備することが求められます。

### 3. ターゲットの設定

#### (1) ターゲットの設定

『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』において、各種調査結果を SWOT 分析し、課題を整理した上でターゲットを設定しました。

##### Step 1 : ベースとなる近隣需要を確保する

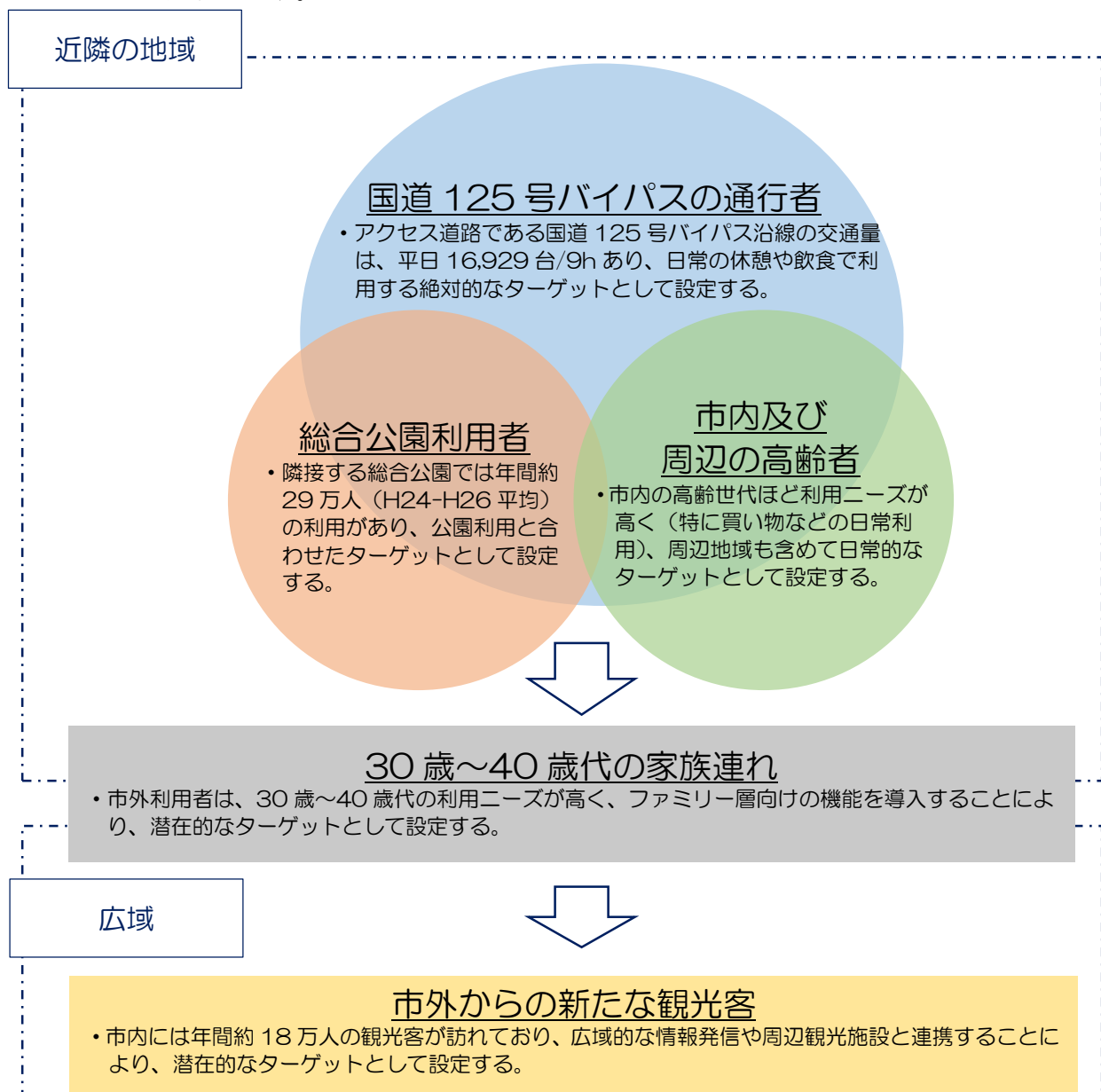
○国道 125 号バイパスの通行者、総合公園利用者、市内及び周辺の高齢者を近隣需要として、ターゲットとします。

##### Step 2 : 近隣需要の拡大を図る

○30 歳～40 歳代の家族連れをターゲットとし、行田市近隣のニーズに対応した産業交流拠点を目指します。

##### Step 3 : 広域需要の取り込み

○市外からの新たな観光客をターゲットに、広域ニーズに対応した産業交流拠点への発展を図ります。





## (2) ターゲット別需要量の算出

### ■需要量算出の考え方

産業交流拠点の整備にあたっては、まず周辺の交通・施設利用者や地域住民のニーズに対応し、短期的に見込まれる需要量を算出します。中期、長期的には、家族連れや広域からの来訪者を想定し、観光ニーズに対応した需要量を算出します。

#### 【短期的に見込まれる需要量算出の考え方】

##### 国道 125 号バイパスの利用者（アクセス道路交通量からの入込み者数）

- 国道 125 号バイパス交通量から平日と休日の交通量に分け、1 日 9 時間の交通量を算出する
- 道の駅の立ち寄り率と乗車人員から、年間の想定入込者数を算出する

##### 行田市総合公園利用者（総合公園との連携による利用見込み）

- 行田市総合公園の平成 24～26 年度の年間利用者数から、平均年間利用者数を算出する
- アンケート調査から飲食利用割合を算出し、平均年間利用者数と掛け合わせて、行田市総合公園利用者の飲食利用ニーズを算出する

##### 市内及びその周辺の高齢者

- 市内の 60 歳以上の人口と車保有率から、対象となる需要を算出する
- 市民意識調査から、産業交流拠点で「普段買い物の場所として利用したい」割合と、利用頻度を掛け合わせて高齢者の利用ニーズを算出する

#### 【中・長期的に見込まれる需要量算出の考え方】

##### 家族連れ・市外からの観光客（市内の観光施設との連携による利用見込み）

- 平成 22～26 年度の市内の観光施設の平均来訪者数を算出する
- 市外利用者アンケート調査から、今後行田市への訪問意向があり、かつ道の駅を「是非利用したい」割合と平均来訪者数を掛け合わせて、市内観光施設との連携による利用見込者数を算出する

## ■ターゲット別需要量の算出

### ①アクセス道路交通量からの入込み者数の想定

#### (i) 国道 125 号バイパス交通量

平成 17 年度道路交通センサスの休日／平日比率をもとに、平成 22 年度の「休日」を推計すると以下ようになります。

【参考】平成 22 年度道路交通センサス（行田市長野 645）

	車 種	台数（台／9：00～18：00）	
平日	小型車	11,375	16,929
	大型車	5,554	
休日	小型車	12,399	14,065
	大型車	1,666	

小型車：平日の交通量×1.09 ※1  
大型車：平日の交通量×0.30 ※2

【参考】平成 17 年度道路交通センサス（上段：行田市下忍 534、下段：行田市持田 2745）

	車 種		台数（台／12h）	
平日	小型車	乗用車	12,171	16,289
			14,575	
		小型貨物車	4,118	18,367
			3,792	
	大型車	バス	70	4,951
			116	
		普通貨物車	4,881	6,573
			6,457	
休日	小型車	乗用車	16,345	17,852
			18,166	
		小型貨物車	1,507	19,912
			1,746	
	大型車	バス	77	1,333
			106	
		普通貨物車	1,256	2,074
			1,968	

$$※1 (17,852+19,912) \div (16,289+18,367) = 1.089 \approx \underline{1.09}$$

$$※2 (1,333+2,074) \div (4,951+6,573) = 0.295 \approx \underline{0.30}$$

## （ii）道の駅立ち寄り率 及び 乗車人数

平成 6 年度道の駅調査（建設省北陸地方建設局）による県境型の道の駅における立ち寄り率を基に、最小の数値を採用します。

	車 種	本施設で設定する 立ち寄り率	乗車人数
平日	小型車	6%	1.2 人
	大型車	2%	2.8 人
休日	小型車	10%	2.7 人
	大型車	3%	10.0 人

## （iii）年間利用者数の算出

1 日の利用台数 = 交通量（台数／9：00～18：00） × 立ち寄り率

	車種	台数／9h	立ち寄り率	利用台数
平日	小型車	11,375	0.06	683
	大型車	5,554	0.02	111
休日	小型車	12,399	0.10	1,240
	大型車	1,666	0.03	50

1 日の利用者数 = 利用台数 × 乗車人数

	車種	利用台数	乗車人数	利用者数
平日	小型車	683	1.2	820
	大型車	111	2.8	311
休日	小型車	1,240	2.7	3,348
	大型車	50	10.0	500

年間利用者数（平日 313 日、休日 52 日として換算）

$$\begin{aligned}
 & (820+311) \times 313 \text{ 日} + (3,348+500) \times 52 \text{ 日} \\
 & = 554,099 \text{ 人}
 \end{aligned}$$

交通量データは上下線の合計であることから、利用者実態は上記利用者の 50%程度と考えられる為、実際の年間利用者数は

$$554,099 \text{ 人} \times 0.5 = 277,050 \text{ 人}$$

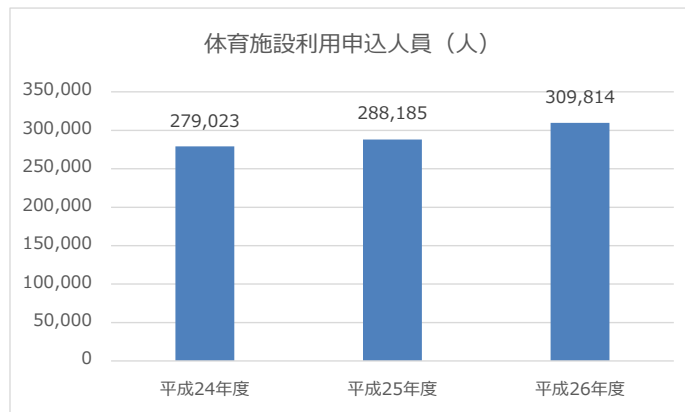
**想定入込み者数：約 28 万人／年**

## ②総合公園との連携による利用見込み

ニーズの考え方：隣接する総合公園利用者のうち、飲食等で道の駅に立ち寄るニーズ

### （ⅰ）年間の総合公園の利用者数

平成 24 年度から平成 26 年度の総合公園の利用者の平均は、29 万人となっています。



### （ⅱ）飲食を「是非利用したい」市外利用者の割合

飲食機能ができたなら「是非利用したい」市外利用者の割合は、13.0%となっています。

	回答数	割合
総数	500	100.0%
飲食を「是非利用したい」回答数 （市外利用者アンケート調査）	65	13.0%

### （ⅲ）総合運動公園と連携した飲食の利用ニーズの算出

$$290,000 \text{ 人} \times 13 \% \div 37,000 \text{ 人}$$

総合公園利用者が飲食で利用するニーズとして、約 3.7 万人/年の利用を見込むこととします。

**総合公園との連携による利用見込み：約 3.7 万人／年**

### ③60 歳以上の市民の利用見込み

ニーズの考え方：60 歳以上の方が日常から利用できる場所として、道の駅に立ち寄るニーズ（市民意識調査より）

#### （i）市内の 60 歳以上の人口

市内の 60 歳以上の人口は、29,672 人となっています。

平成27年12月1日現在（※住民基本台帳人口）			
年齢	男	女	合計
60～64歳	3,249	3,282	6,531
65～69歳	3,779	3,815	7,594
70～74歳	2,574	2,847	5,421
75～79歳	1,934	2,186	4,120
80～84歳	1,203	1,779	2,982
85～89歳	648	1,272	1,920
90～94歳	212	645	857
95～99歳	45	161	206
100～104歳	6	32	38
105歳以上	0	3	3
合計	13,650	16,022	29,672

#### （ii）車保有の割合

市内の 60 歳以上の方が車を所有している割合は、89.5%となっています。

		総数	自動車有	自動車無	無回答
	総数	190	170	16	4
		100.0%	89.5%	8.4%	2.1%
年齢	60歳代	186	166	16	4
		100.0%	89.2%	8.6%	2.2%
	70歳以上	4	4	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%

#### （iii）産業交流拠点を「普段行く買い物の場所として利用したい」割合

産業交流拠点でいたいこととして、「普段行く買い物の場所として利用したい」と回答した市内の 60 歳以上の方の割合は、75.3%となっています。

		総数	所 と 普 段 で 行 く 利 用 し た い 場 所	市 外 か ら 行 き た 観 光 客 を 迎 え る 場 所	生 産 者 と し て 農 産 物 を 販 売 す る 場 所	生 産 者 と し て 加 工 品 を 販 売 す る 場 所	運 送 中 心 の 企 業 ・ 倉 庫 等	参 加 し た い 展 覧 会 ・ 祭 典 等	産 業 交 流 の 拠 点 （ 運 送 中 心 の 企 業 ・ 倉 庫 等 に 関 連 す る 場 所 ）	そ の 他	無 回 答
	総数	190	143	75	8	4	6	31	10	5	23
		100.0%	75.3%	39.5%	4.2%	2.1%	3.2%	16.3%	5.3%	2.6%	12.1%
	60歳代	186	139	71	7	3	5	30	9	4	23
		100.0%	74.7%	38.2%	3.8%	1.6%	2.7%	16.1%	4.8%	2.2%	12.4%
	70歳以上	4	4	4	1	1	1	1	1	1	0
		100.0%	100.0%	100.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%

#### (iv) 道の駅の利用頻度

市内の 60 歳以上の方の割合は、月数回程度（※月 3 回程度とする）が 22.6%、年数回程度（※年 3 回程度とする）が 51.6%、あまり利用しない（※年 1 回程度とする）が 20.0%となっています。

		総数	月数回程度	年数回程度	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
	総数	190	43	98	38	10	1
		100.0%	22.6%	51.6%	20.0%	5.3%	0.5%
年齢	60歳代	186	42	96	37	10	1
		100.0%	22.6%	51.6%	19.9%	5.4%	0.5%
	70歳以上	4	1	2	1	0	0
		100.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%

#### (v) 60 歳以上の市民が日常から利用できる場所として道の駅に立ち寄るニーズの算出

○市内の 60 歳以上の人口 29,672 人 × 車保有率 (89.5%) = 26,556 人

○車を保有した 60 歳以上の市民 26,556 人 × 普段買い物の場所として利用したい市民 (75.3%) = 19,997 人

○上記のうち道の駅利用頻度より 60 歳以上の市民の利用ニーズを算出すると、

利用頻度	割合	年間利用者数	60 歳以上の 市民の利用ニーズ
月数回程度（※月 3 回程度とする）	22.6%	162,696	197,650
年数回程度（※年 3 回程度とする）	51.6%	30,955	
あまり利用しない（※年 1 回程度とする）	20.0%	3,999	

19,997 人 × 22.6 % × 36 回 = 162,696 人

19,997 人 × 51.6 % × 3 回 = 30,955 人

19,997 人 × 20.0 % × 1 回 = 3,999 人

162,696 人 + 30,955 人 + 3,999 人 = 197,650 人

≒ 200,000 人

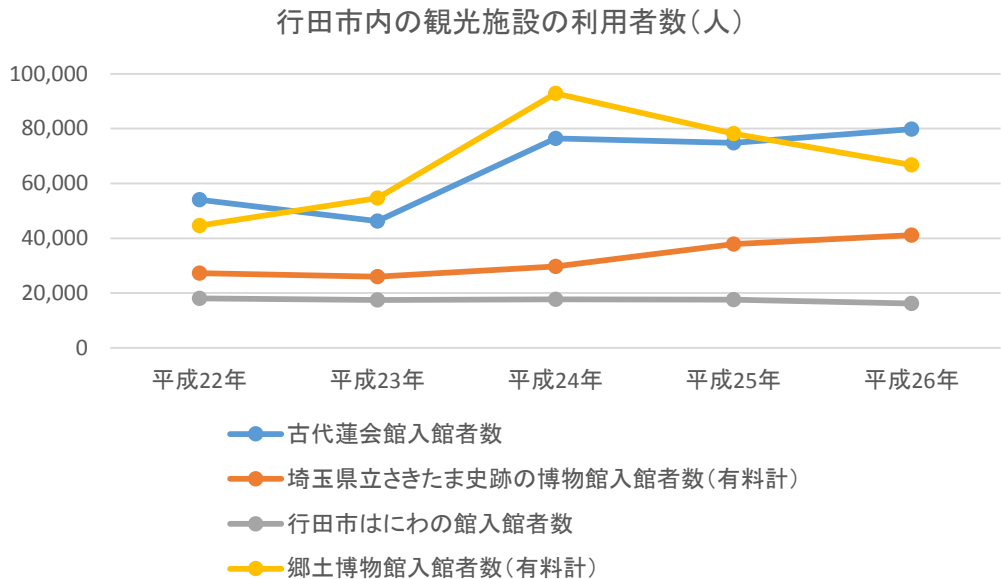
**60 歳以上の市民の利用ニーズ：約 20 万人／年**

④市内の観光施設との連携による利用見込み

ニーズの考え方：来訪者が産業交流拠点を観光施設として立ち寄るニーズ

( i ) 年間の行田市内観光施設の利用者数

平成 22 年から平成 26 年の市内観光施設の利用者の平均は、18 万人となっています。



( ii ) 行田市への来訪者のうち、道の駅を利用する市外利用者の割合

今後行田市への訪問意向がある回答者のうち道の駅を「是非利用したい」割合は、72.3%となっています。

		道の駅の利用意向					総計
		是非利用したい	どちらかという と利用したい	どちらかという と利用したいと 思わない	利用したいと 思わない	無回答	
今後の行 田市への 訪問意向	是非訪れたいと思う	34	11	0	0	2	47
		72.3%	23.4%	0.0%	0.0%	4.3%	100.0%
	どちらかという と訪れたいと思う	47	152	10	3	10	222
		21.2%	68.5%	4.5%	1.4%	4.5%	100.0%
	どちらかという と訪れたいと思わない	1	41	68	10	17	137
		0.7%	29.9%	49.6%	7.3%	12.4%	100.0%
	訪れたいと思わない	1	8	12	38	35	94
		1.1%	8.5%	12.8%	40.4%	37.2%	100.0%
総計		83	212	90	51	64	500
		16.6%	42.4%	18.0%	10.2%	12.8%	100.0%

( iii ) 市内の観光施設を連携した利用ニーズの算出

180,000 人 × 72.3 % ≒ 130,000 人

市内の観光客は波及的に利用するニーズとして、約 13 万人／年の利用を見込みます。

市内観光施設との連携による利用見込み：約 13 万人／年

## 第4章 整備の方針

### 1. 整備にあたっての基本的な考え方

#### （1）基本的な考え方

地域経済の活性化を目的とし、地域における多様な産業の集積を図り、地域経済を牽引する事業を促進させることで、行田市の産業を成長・発展させるための基盤づくりを進めます。

『行田市産業交流拠点整備調査研究業務』において SWOT 分析の結果から、キーワードを基とした基本的な考え方を整理しました。

#### “健康”をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から 広域的な行田まるごと情報発信拠点へ

#### “健康”をテーマとし、3つの機能を内包した産業交流拠点を形成します！

- ①地域のひと、もの、かねが循環する産業交流拠点機能
- ②地域の人の生活・福祉を支援する生活交流拠点機能
- ③広域的な行田まるごと情報発信拠点機能

#### ①『地域のひと、もの、かねが循環する産業交流拠点機能』の方針

- 行田市総合運動公園と連携した取組みや健康な食の提供等、行田市民をはじめとした利用者が心身ともに“健康”でいられるための場所づくりを進めます。
- 採れた野菜や米を地域の直売所として供給し、地域のものとお金が循環する地産地消の仕組みづくりを進めます。

#### 方針1：身体の“健康”、心の“健康”等、心身ともに癒される空間をつくる

- 大型車の運転手や広域からの来訪客が、ゆっくりと休憩し、心身ともに癒すことができます。
- 行田市総合公園利用者が、スポーツ大会等の後に立ち寄り、身体を休めることができます。

#### 方針2：安心して消費できる“健康”な農産物、“健康”な食を提供する

- 市民や周辺地域の人が、地域の新鮮な農産物を購入することができます。
- 近隣の高齢者が、地元産品を食べながら交流し、健康的に過ごすことができます。
- 来訪者が観光の帰りに立ち寄り、地域の特産品を購入することができます。

#### 方針3：交流や体験により“健康”な1日を過ごすことができる場所とする

- 子ども連れが広場として利用し、体を動かしながら1日を健康的に過ごすことができます。
- ファミリーで訪れ、収穫・加工体験等により、年代を越えて楽しむことができます。



## ②『地域の人の生活・福祉を支援する生活交流拠点機能』の方針

- 地域のひとが集まる場として日常生活で利用・交流し市民に親しまれる地域密着の拠点づくりに取り組みます。

### 方針 4：地域住民の日常生活において“健康”で安心して生活できる場所とする

- 日用品売り場や広場等、地域住民の日常利用ができます。
- 災害時には地域の防災拠点として、安心して生活することができます。

## ③『広域的な行田まるごと情報発信拠点』の方針

- 地域の産品や市内の観光資源を活用し、広域的な集客につながる行田ブランドの確立や、市内の回遊性向上を目指し、観光資源と観光客をつなぐワンストップ窓口となる、民間主体の情報発信拠点を整備します。

### 方針 5：市内の観光・イベント情報を一元化し、広域からの来訪者に提供する

- 市内の観光・イベント情報が集まるワンストップ窓口として、来訪者が、最初に立ち寄り、市内観光情報を入手することができます。

### 方針 6：市内の関係団体が連携し、広域からの多様なニーズに対応する

- 来訪者が、行田市の歴史・文化・自然を活かした市内の取組みを体験することができます。
- 市民や市内団体の知恵を結集し、行田ブランドを確立して、来訪者に提供します。

## （２）道の駅部分の整備手法

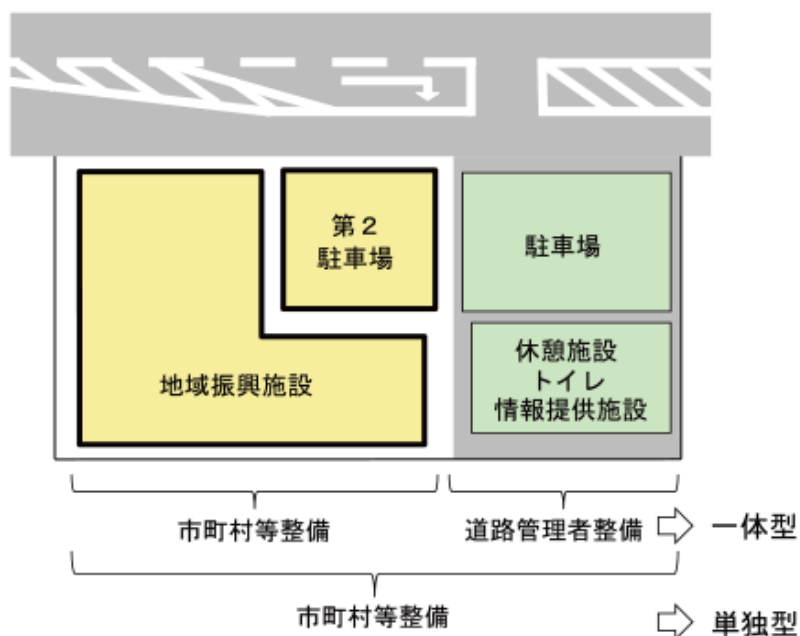
産業交流拠点の核となる道の駅は、「単独型」と「一体型」の２種類の整備手法があります。

「単独型」は、市町村等が道の駅を単独で整備するもので、地域振興施設等に加え、駐車場等も市町村等が整備するタイプです。

「一体型」は、地域振興施設等を市町村等が、駐車場等の一部を道路管理者が整備するタイプです。

産業交流拠点においては、道の駅機能部分を国道 125 号バイパスの道路管理者である埼玉県との「一体型」で整備を進められるよう検討してまいります。

### ■整備主体と整備内容



資料：国交省 HP

### ■「道の駅」の機能と整備主体（一体型の場合）

機能区分	整備主体	
	道路管理者	市町村等
(1) 休憩機能	駐車場、休憩所 トイレ、園地	・ 第二駐車場、トイレ、広場 ・ レストラン、休憩所 等
(2) 情報交流機能	道路情報提供施設	・ 電話、FAX 等、各種情報施設 ・ 案内所、地域情報提供施設 ・ 物産館、郷土資料館、美術館 ・ イベント広場、交流ホール、会議室 等

## 2. 整備コンセプト

### (1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト

これまでの検討経緯と基本的な考え方を踏まえ、産業交流拠点全体の整備コンセプトを『行田のいいところまると発信拠点～行田らしい文化・産業・生活の再発見～』とします。

行田らしい文化とは、古代の「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の「忍城」を中心とした城下町の形成、近代における「足袋産業」の発展等、市内各所に残る歴史を、市民のかけがえない誇りとして継承していくものです。

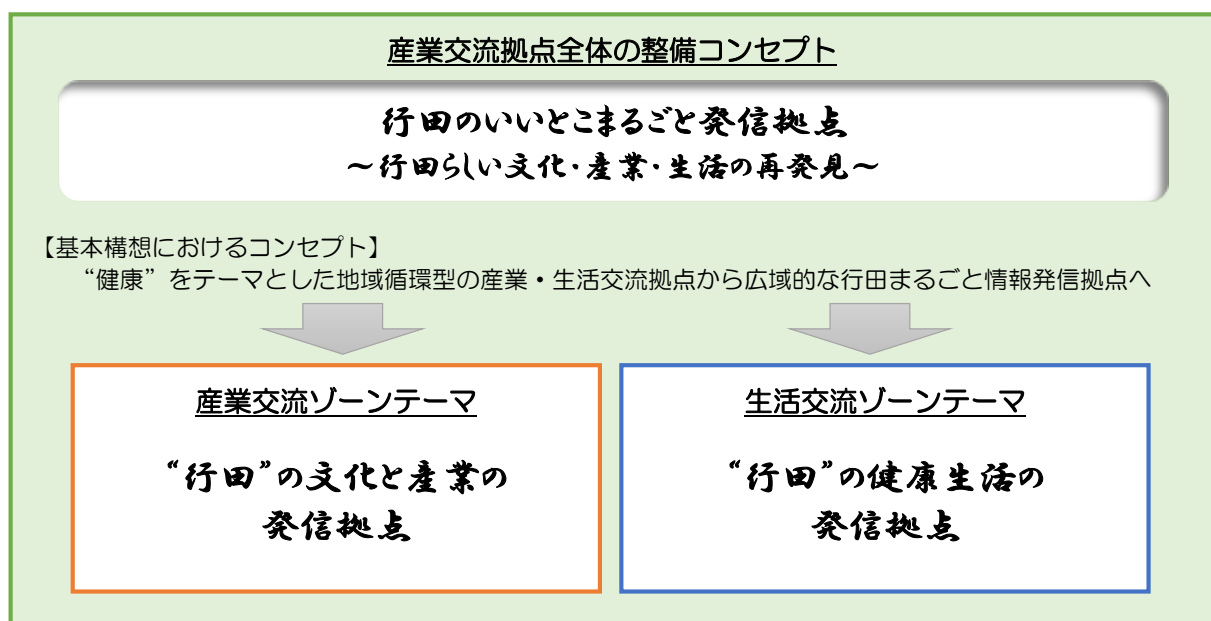
行田らしい産業とは、米や麦等の農業を中心に、農産物の生産や加工、食品づくり等、個々の探求心や創意工夫から生み出される行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と多様な事業者の連携によって新たな6次産業として発展していくものです。

行田らしい生活とは、高齢化が進む中で、産業交流拠点を多くの世代が交流し、多様な機能が集積する小さな拠点として整備することにより、市民が健康で安心した生活を送ることを目指すものです。

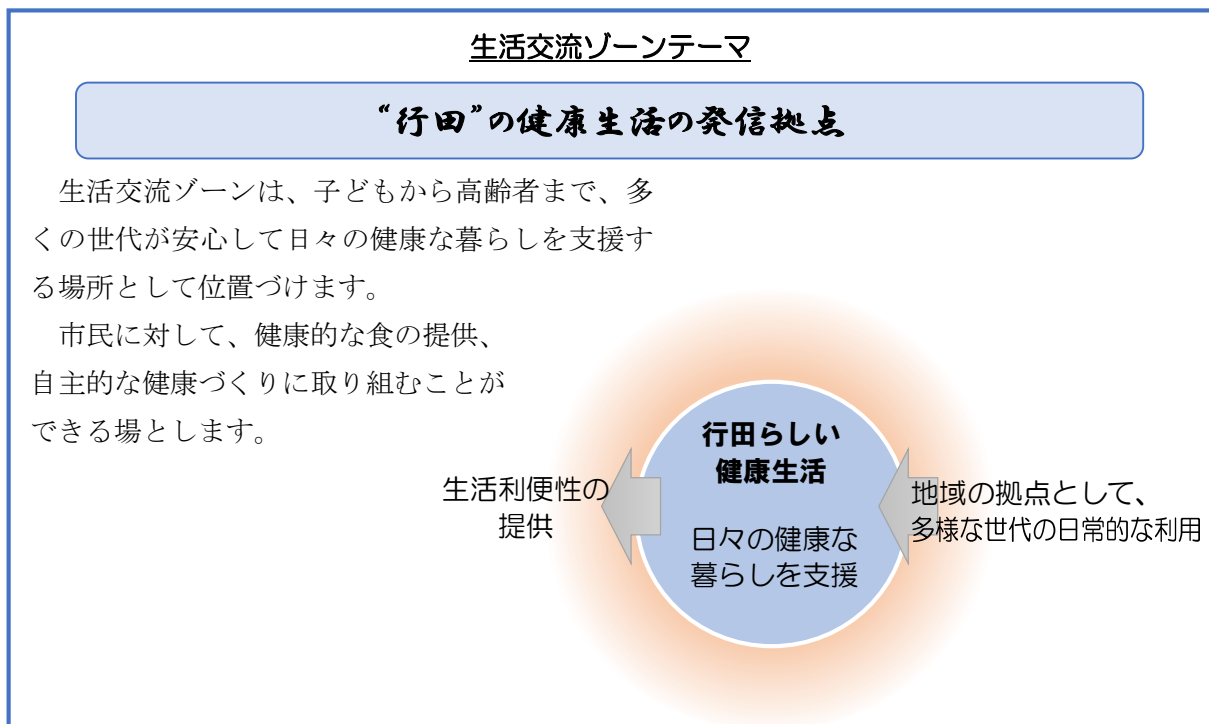
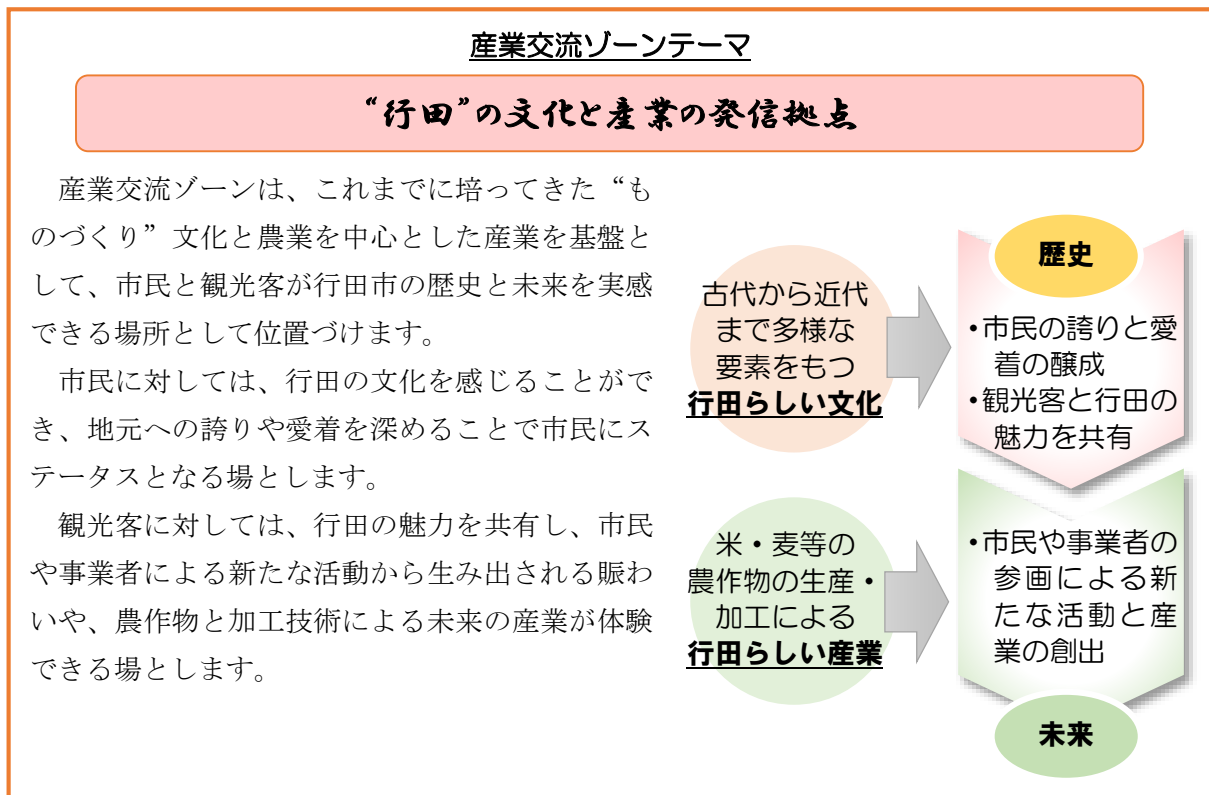
以上を踏まえ、産業交流拠点は、来訪者が行田らしい文化・産業・生活を体験することで“行田らしさ”を再発見することができ、それらの要素をコンパクトに集積、まると発信できる拠点を目指します。

併せて、地域の特性を生かした多様な産業の集積を図ることで、行田市の地域経済を牽引し、成長・発展させるための基盤強化を行います。

さらに、産業交流拠点全体を「産業交流ゾーン」と「生活交流ゾーン」の2つのゾーンに分け、それぞれのテーマを設定し、市民と観光客が交流できる拠点とします。



## (2) ゾーン別テーマの設定



### 3. 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ

「行田の文化と産業の発信拠点」としてのゾーンテーマを実現するためには、行田市の魅力的な歴史を継承し、新たな活動・産業により未来の発展につなげる必要があります。

そのためには、市民にとっては、地元への誇り、愛着を深めてもらう場所として、観光客にとっては「行田」を発見してもらう場所として、整備を進めます。

以上を踏まえ、マーケティングテーマを次のように設定します。

#### ■マーケティングテーマ

##### マーケティングテーマ

### 行田再発見！

古代、戦国から現代、未来へと続く  
“人”と“技”の世界

行田市は「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の関東七名城に挙げられる「忍城」など、日本の歴史を語る上で欠かせない史跡を有し、江戸時代から近年にかけては、「足袋」の一大産地として栄えてきました。現在もその多くの史跡や街並み、大切な自然を残しながら、新しい産業基盤の整備を進めています。

また、行田市の産業交流拠点においては、歴史・文化を発信すると同時に、市民一人一人の積極的な活動を促し、地域振興の場である産業交流拠点だからこそできる事業へと発展させていくことが重要と考えます。

農産物の生産や加工、食品づくりなど、個々の探求心は、古くから培われてきた“行田気質”によるものです。多くの人の“行田気質”を集約・研究していくことで、それぞれの人が日本を代表するオンリーワンとなり、市内産業・経済の活性化、ひいては“行田”そのもののアピールへとつなげてまいります。

## 4. エリアの考え方と施設機能

### （１）エリアの考え方

全体の整備コンセプトである「行田のいいところごと発信拠点～行田らしい文化・産業・生活の再発見～」及び、産業交流ゾーンと生活交流ゾーンのゾーンテーマをもとに、それぞれ特色のある空間を目指します。

#### ウェルカムエリア

施設の玄関口、また、休憩所として利用できる場所として、「ウェルカムエリア」を位置付けます。

また、行田市の地域情報や観光情報の発信拠点として、来訪者がアクセスしやすく利用しやすい空間を目指します。

機能としては、観光案内所、情報コーナー、トイレ等を配置します。

さらに、賑わいエリアとの連携を考慮し、来訪者の滞在時間の増大と賑わいの創出を目指します。



#### カルチャー＆コミュニティエリア

行田市のものづくりや歴史等を体験してもらう場所として、「カルチャー＆コミュニティエリア」を位置付け、観光客に対する行田市の地域資源のPRの場、地域住民の活動の場として、地域の文化を発信し、地域住民・来訪者同士がふれあうことができる空間を目指します。

機能としては、多目的スペース、体験キッチン等を配置します。

体験キッチンは、アグリパークの生産物も加工することができる場所とし、多目的スペースは、市内の各種団体と連携しながら、行田ブランドの創造を図るためのPRや行田市の文化に触れることができ、体験できる場として検討します。



## 賑わいエリア

市民と観光客、高齢者と子どもなど、様々な人々が集い、賑わいが生まれる場所として、賑わいエリアを位置付けます。

また、イベントスペースとも一体となって賑わいを生み出す場とします。

機能としては、行田市の特産品、オリジナル商品を取り扱うレストランやフードコート、直売所、一坪ショップ、物販、テイクアウトコーナー等を配置します。

賑わいエリアは、レストランや直売所を含む地域振興施設として産業交流拠点の中心的な役割を担うため、ウェルカムエリア、カルチャー&コミュニティエリア、イベントスペース・広場、アグリパークとの連携に配慮した配置とします。



## イベントスペース・広場

賑わいエリアと一体となって、文化の発信や朝市等、多様な催しが開催できる場所として、イベントスペースを位置付けます。

様々なイベントに対応できるように整備し、イベントスペースと広場が一体的に利用できる賑わいのある空間を目指します。



## アグリパーク

農業振興の場として、アグリパークを位置付けます。

地元の農業者と連携しながら運営することを想定し、農業振興・人材育成に資する場、農業体験による交流の場を目指します。

農業体験等で収穫した農産物を加工することも考慮して、カルチャー&コミュニティエリアの加工キッチンと近接した位置に配置します。



## 生活交流エリア

地域住民の日々の健康な暮らしを支えるためのウェルネスサポート施設や、子育て世代を支援するための場として、生活交流エリアを位置付けます。

地域住民の利便性を第一に考え、安心して生活するための施設を配置し、子どもから高齢者まで、世代を超えて交流できる場を目指します。



## (2) 施設機能別の整備方針

### ウェルカムエリア

#### ①エントランス（玄関口）・ロビー（案内受付）・ラウンジ（休憩所）

- 来訪者を迎える施設の入り口として、また、休憩することができる場所として、吹き抜け空間を設ける等、開放的な魅力ある空間を目指します。
- 施設内の賑わいが見えるよう、視認性が高く、アクセスしやすい配置を想定します。
- 地域の気候（冬季における凍結等）や日照条件等に配慮した位置に入口を配置します。
- 観光庁が定めた「外国人観光案内所の設置・運営のあり方指針」に基づき、外国人観光客に向けた多言語表記やサイン、パンフレットの設置を想定します。

#### ②バスターミナル

- 市の東西南北を結ぶ交通結節点として、住民の生活利便性の向上を目指します。
- 市内循環バス・市外からの観光バス・民間路線バスの利用を想定します。
- 市内循環バスの発着点として、バスの駐停車が可能なスペース確保を想定します。
- デマンド交通の拠点として、デマンドタクシー乗降スペースを想定します。
- バス及びタクシー等の乗降場について、利用者の快適性を上げるために屋根及びベンチを想定します。
- 利用者及び周辺歩行者の安全性を確保します。

#### ③地域情報・観光情報発信機能

- 広域からの来訪者に対し、行田市内の観光情報等を分かりやすく伝えられる観光案内所を目指します。
- 市内情報を分かりやすく発信し、回遊性を高めます。
- 他の直売所等と連携し、地域住民の日常生活に必要な情報の提供を想定します。
- 情報発信機能と合わせて、来訪者が休憩できるスペースを設けることを想定します。
- 外国人観光客を見据えて、フリーWi-fiの整備を想定します。



#### ④トイレ

- 道路利用者をはじめ、施設を訪れた誰もが安心して快適に利用できるトイレを目指します。
- 24時間対応とし、国道125号バイパスの交通量や施設利用者数に応じた便器数を想定します。
- バリアフリーの観点から、車いす利用者に対する配慮のみならず、オストメイト機能、乳幼児のおむつ交換台等を設置し、多目的に利用できるトイレの設置を想定します。
- 自動洗浄等、最新式便器を想定し、節水に考慮します。
- 施設イメージに調和し、特に女性に配慮した機能的な洗面空間を想定します。



## ①多目的スペース

- 足袋作り等の地場産業体験といった行田市の「ものづくり」文化に触れる場とするとともに、世代を超えて楽しむことができる場として「行田らしさ」のPRを目指します。
- 会議室としての利用も考慮し、パーティションや可動壁等で仕切れるレイアウトを想定します。
- 様々な体験教室で活用可能なスペースとして想定します。

## ②体験キッチン

- 行田ブランドの創造を図るため、フライ・ゼリーフライづくり等の地域グルメや新たな地元製品の研究開発及び提供をすることができるとともに、地域住民が料理教室もできる施設を目指します。
- アグリパークと連携した加工施設・体験施設の整備により、農業振興と人材育成を目指します。
- 農産物加工の開発研究が進んだ場合には、安定的に生産できる加工施設の整備を検討します。



出典：道の駅しもつけ HP より



### ■想定される具体的な施設機能

食品加工キッチン、地場産業体験コーナー、フラワーアレンジメント教室、料理教室、フライ・ゼリーフライ教室、昔遊び体験施設、アート工房、ダンススタジオ、室内遊具場、文化・歴史紹介ブース、ギャラリー 等

## ①飲食店

- 地元産品を中心とした地産地消メニューの提供を想定します。
- 子どもやお年寄りも安心して食べることができる、健康に配慮した自然食を提供する飲食施設を目指します。
- 市民や市内事業者が参入しやすいよう、間仕切りによる省スペース店舗『一坪ショップ』を整備し、商品のテイクアウトもできるよう想定します。
- 民間の飲食施設は、直売所等の地域振興施設と一体的に利用でき、レストラン等で使用している地元食材を購入しやすい配置を想定します。



出典：田園プラザ川場 HP より

### ■想定される具体的な施設機能

レストラン、フードコート、テイクアウトコーナー、一坪ショップ（スイーツ販売、菓子製造販売、パン工房、ピザ工房、たまごショップ、青大豆ショップ）	等
---	---

## ②物販施設

- 市内産業の活性化のため、市民や市内事業者が参入しやすいよう、間仕切りによる省スペース店舗『一坪ショップ』の整備を想定します。
- 『一坪ショップ』は、地域振興施設のレイアウトに配慮し、店舗面積や位置を変更可能な施設を想定します。
- 地域振興施設として、周辺の民間開発による施設の拡大・連携と、利用者の利便性に配慮します。

### ■想定される具体的な施設機能

菓子製造販売、地元加工品販売、ハンドメイド販売、足袋販売、姉妹都市提携店	等
--------------------------------------	---

### ③直売所

- 市民に日常利用していただくため、安価で質のよい商品と購買意欲を促す陳列を想定します。
- 地産地消の拠点として、地元物産を中心とした広域の生鮮品や加工品の提供を想定します。
- 行田特有の農産物等を活用した商品提供により、「行田らしさ」の販売を目指します。
- 地域ごとに産品を分けて陳列する等、各地域の物産を紹介・普及する店舗とします。
- 円滑な商品の搬入が行われるよう、搬入動線を考慮した施設内配置を想定します。
- 施設管理運営者と調整し、出荷者団体として、既存団体の活用を想定します。
- 農産物等について、商品の価格や出荷量などは直売所職員の助言を受けて、生産者が決定できる体制を想定します。
- 直売所整備にあたり、市内直売所等との調整を行います。



### イベントスペース・広場

#### イベントスペース・広場

- 市内の団体との連携も視野に入れたイベントを実施できる空間を目指します。
- 季節ごとのイベントや子ども向けのイベント等、産業交流拠点の魅力をさらに高めるイベントを実施できる空間を目指します。
- 様々なイベントに対応可能な、ゆとりある広場を想定します。
- ベンチやテーブルを設置し、施設利用者が休憩できるスペースをできるだけ多く確保するとともに、周辺の田園風景に調和した空間を目指します。
- BBQ や水遊び場など、家族連れの利用や誘客を促進する施設の整備を検討します。
- 隣接する総合公園の機能を考慮した上で、子ども連れが公園として利用しやすい空間を目指します。

#### ■想定される具体的な施設機能

芝生広場、BBQ 場、アスレチック広場、芝生広場、水遊び場  
等



## アグリパーク

### アグリパーク

- 行田市の農業振興に資するアグリパークを目指します。
- 加工施設との連携により、市民をはじめとする来訪者が農業や行田市のものづくり文化に触れる機会を創出し、農業振興と人材育成を目指します。

#### ■想定される具体的な施設機能

日帰り体験農園、観光農園、市民農園（クラインガルデン）、南国フルーツ園	等
-------------------------------------	---

## 生活交流エリア

### ①ウェルネスサポート施設

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して健康的に生活できるサポート拠点を目指します。
- 市内の子育てや福祉に関する情報を一元化し、ワンストップ窓口として、市民に対して情報を提供できる場を想定します。
- 子どものための施設の拡充を目指し、関係機関との調整を検討します。
- 公設の老人福祉センター整備により、既存施設を包括できる施設規模・機能を想定します。
- 民設のデイサービス施設（地域密着型居宅サービス系事業所）等の整備を想定します。
- 隣接する行田市総合公園を考慮した上で、運動器具等の健康増進に資する機能の整備を想定します。
- 行田市民のニーズにあった施設を取りそろえることにより、地域住民の生活利便性の向上を目指します。

### ②公共的施設

- 地域住民の生活拠点として、市役所出張窓口等の公共機能を想定します。
- 地域住民の利便性を図るため、郵便局やＡＴＭ等のサービスを想定します。
- 防災拠点として、消防署分署等の整備を想定します。

## ①駐車場

- 国道 125 号バイパスの交通量に対応し、施設利用に応じた十分な駐車場台数を確保します。
- 誰もが停めやすい、ゆとりある駐車スペースを確保します。
- 産業交流拠点ゾーンと生活交流拠点ゾーン等、利用目的ごとに駐車スペースを確保します。
- 大型車と小型車の動線が交わらないように配慮します。
- 歩行者の安全を確保するため、歩車分離を図った通行スペースを確保します。
- バイク、自転車の駐車スペースの確保に努めます。
- 駐車場から円滑に移動が行われるよう、通行スペースをバリアフリーとします。
- 身障者用駐車スペースを施設に近い位置に整備します。
- 地球温暖化対策や道路利用者へのサービスの充実を図るため、電気自動車の充電施設（電気自動車充電スタンド）の整備を検討します。
- 施設の反対車線である国道 125 号上り車線におけるアクセスを考慮した配置を想定します。
- 駐車場は、建物の陰にならないように日当たりのよい配置に努めます。
- 行田市総合公園との連携を考慮し、相互交通の安全確保のため、横断歩道、歩道橋、地下道の整備を検討します。

## ②防災機能

- 行田市内だけでなく、道路利用者に対する広域防災拠点としての整備を想定します。
- 市民だけでなく、市外被災者の受け入れ場所としても想定します。
- 災害発生時に防災拠点とするため、防災備蓄倉庫、貯水槽（災害時の飲料水確保）等の必要施設の整備を想定します。
- 防災遊具やかまどベンチ等の防災施設を設置し、災害時だけでなく平常時の活用も見越した機能となるよう努めます。
- 隣接する指定緊急避難場所である総合公園と、指定避難所である総合体育館との用途・役割を区分し、効果的な活用を目指します。
- 施設管理運営者との防災協定の締結を考慮し、調理施設・加工キッチン施設の炊き出しや被災者への物品支給、福祉複合施設への要配慮者及びその家族の受け入れ、傷病者への応急措置等を想定します。



### ■想定される具体的な施設機能

防災備蓄倉庫、貯水槽（循環型）、マンホールトイレ（下水道直結型及び貯留槽型）、非常用電源装置、防災遊具、かまどベンチ、特設公衆電話（NTTと調整）	等
---	---

### ③コンビニエンスストア

○前面道路からの利用者を考慮して、コンビニエンスストアの整備を想定します。

### ④調整池

○調整池の計画・設計は、「埼玉県雨水流出抑制施設の設置等に関する条例」（平成 19 年 4 月埼玉県県土整備部河川砂防課）に準拠して実施することとし、開発工区ごとに整備を行います。

○規模が大きい調整池においては、広場等と連携し、多目的の利用やレクリエーション機能として活用することに配慮します。

### ⑤緑地帯

○敷地内の中心を通る動線として、車でのアクセスのしやすさや歩行者の安全性確保に配慮し、歩道と車道を分ける空間として緑地帯を整備します。

○建物との一体性や周辺の景観との調和に配慮した空間を目指します。

### （３）施設規模の検討

#### ①産業交流ゾーンにおける想定面積

他市の道の駅等の規模を参考に、産業交流ゾーンにおける施設の規模を以下のように想定します。

##### ○本棟

施設名	㎡	坪数
ショップ（直売＆物販）	200	60.5
レストラン（地場産）	160	48.4
エントランス・ロビー・ラウンジ	100	30.3
トイレ（屋内）	100	30.3
事務室 （ロッカー、従業員休憩所）	80	24.2
多目的スペース（50㎡×2室）	100	30.3
バックヤード	80	24.2
計	820	248.2

##### ○別棟（24時間利用可能）

施設名	㎡	坪数
トイレ	200	60.5
情報コーナー	50	15.1
計	250	75.6
小計	1,070	323.6

##### ○全体敷地面積

施設名	㎡	坪数
建物敷地（本棟＋別棟）	1,500	453.7
駐車場（乗用250台、大型10台）	9,000	2,722.5
広場 （野外ステージ、水遊び場、ドッグラン）	7,500	2,268.8
合計	18,000	5445.0

※建物敷地は、2棟の建物が並ぶため、通常より広めに設定。



## ②面積算出の根拠

### (i) 駐車場

#### ○駐車車のマス算定

旧日本道路公団休憩施設設計要領（昭和 62 年 4 月）における駐車マスの算定方法により、以下のように算出する。

$$1 \text{ 日の利用台数} \times (\text{ラッシュ率} / \text{回転率}) = \text{駐車マス数 (片側)}$$

$$\cdot \text{交通量 (台数/9h)} \times \text{立ち寄り率} / 2 = 1 \text{ 日の利用台数}$$

交通量データは上下線の合計であることから、利用台数は 50%程度とする。

交通量の多い休日の小型車と、平日の大型車の交通量を採用する。

	車種	台数/9h	立ち寄り率	利用台数
平日	小型車	11,375	0.06	683
	大型車	5,554	0.02	111
休日	小型車	12,399	0.10	1,240
	大型車	1,666	0.03	50

ラッシュ率・回転率について、大型車は大型バスの回転率を採用する。

	車種	ラッシュ率	回転率
サービスエリア	小型車	0.10	2.40
	大型バス	0.25	3.00
	大型貨物車	0.075	2.00

$$\text{【小型車】 } 1,240 \text{ 台} \times (0.10 / 2.40) = 52 \text{ 台} \approx \underline{55 \text{ 台}}$$

$$\text{【大型車】 } 111 \text{ 台} \times (0.25 / 3.00) = 9 \text{ 台} \approx \underline{10 \text{ 台}}$$

行田市総合公園との連携を図るため、小型車駐車マス数は算定台数の倍とする。

必要駐車マス数 : 小型車 110 台、大型車 10 台

#### ○駐車場の広さ算定

$$\text{【小型車】 } 110 \text{ 台} \times 30 \text{ m}^2 = \underline{3,300 \text{ m}^2}$$

$$\text{【大型車】 } 10 \text{ 台} \times 120 \text{ m}^2 = \underline{1,200 \text{ m}^2}$$

$$3,300 \text{ m}^2 + 1,200 \text{ m}^2 = \underline{4,500 \text{ m}^2}$$

必要駐車場面積 : 4,500 m<sup>2</sup>

※上記の必要駐車マス数・必要駐車場面積に加え、隣接する総合公園のイベント時の利用者も見込み、駐車場面積 9,000 m<sup>2</sup>として想定する。

想定駐車場面積 : 9,000 m<sup>2</sup>



## (ii) 広場

広場については、委員会等のご意見をもとに優先度が高い「野外ステージ」、「水遊び場」、「ドッグラン」を想定して面積を算出します。

なお、参考規模の面積は、類似施設の面積をもとに、導入が想定される機能について、おおよその規模を算出します。

共 通	①広場		参考規模(m <sup>2</sup> )
	(ア)イベント広場	野外ステージ(音響含む)	3,000
		BBQ場	1,500
		スケボーリンク	1,500
		キャンプ場	3,500
		サイクリングロード	1周2,000m 巾3.0m
		ふれあい動物園	2,500
		ボルダリング	500
		ゴーカート場	6,000
	(イ)緑地広場	水遊び場	2,500
		ふわふわドーム	2,000
		フットサルコート(夜間照明つき)	1,000
		レクリエーション遊具広場	10,000
		巨大迷路	4,000
		ドッグラン	2,000
		ゴルフ場	20,000

野外ステージ 3,000 m<sup>2</sup> + 水遊び場 2,500 m<sup>2</sup> + ドッグラン 2,000 m<sup>2</sup> = 9,000 m<sup>2</sup>

想定広場面積 : 9,000 m<sup>2</sup>

### (iii) トイレ

#### ○立ち寄り人数ピーク時の算定

駐車マス、車種別乗車人員、平均駐車時間より、単位時間あたりの立ち寄り人数ピーク時間を算出します。

	小型	バス	貨物車
駐車マス	250.00	1.00	9.00
車種別乗車人員	2.30	27.00	1.30
ピーク時立ち寄り人数(人)	575.00	27.00	11.70
平均駐車時間(h)	0.25	0.25	0.33
立寄人数(人/h)	2300.00	108.00	35.10

	駐車マス		車種別乗車人員		ピーク時
小型車	250	×	2.3	=	575
バス	1	×	27	=	27
貨物車	9	×	1.3	=	11.7

	ピーク時		平均駐車時間		立寄人数
小型車	575	×	0.25	=	2300
バス	27	×	0.25	=	108
貨物車	11.7	×	0.33	=	35.1

※大型車の駐車マス数は国道125号バイパスにおけるバス及び貨物車の交通量の割合を基に算出。

※出典：車種別乗車人数：東日本高速道路株式会社 設計要領 休憩用建築施設

**立ち寄り人数(人/h)の合計≒2300+108+35=2443人/時間**

#### ○トイレ基数の算定（※参考：建築資料研究社 建築設計資料 道の駅）

男女比率、利用率、便器専用時間より、トイレ器具数を算定する。

立寄人数(人/h)	2443
男女比率	2:1
利用率	80%
便器占有時間(男子)	53秒/人
便器占有時間(女子)	2分/人

【男子】※男子大便器数は、小便器×0.3とする。

- ・(小)  $2443 \times \frac{2}{3} \times 0.8 \div 60/0.87519 \div 19$
- ・(大)  $19 \times 0.3 \div 6$

【女子】

- ・  $2443 \times \frac{1}{3} \times 0.8 \div 60/2 \div 22$

以上より、

**【男子】25器（小：19、大：6） 【女子】22器 【多目的トイレ】1器**

※身障者用トイレは、日本道路公団設計要領 公衆トイレ標準規模表より抜粋

## 第5章 管理運営の方針

### 1. 施設整備・管理運営の手法

本格的な少子高齢化社会が到来する中、市は厳しい財政状況や将来の財政負担等を考慮し、公共投資額を出来る限り抑制しつつ、「選択と集中」の考えに基づき、効率的かつ効果的に必要な社会資本整備と、質の高い公共サービスを提供することが求められています。

こうした中で、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に民間の有する資金やノウハウを活用する「PFI（Private Finance Initiative）」は財政負担の平準化や、民間事業者の新たな事業機会の創出等の効果が期待できることから、社会資本整備を促進する有効な手段となっています。

最近では、多様化する行政需要に対応するために、民間企業・NPO・住民等の多様な主体の参画・連携を促し、行政と民間との協働により、効率的な公共サービスの提供を行う、「PPP（Public Private Partnership）」の活用も求められています。

このため、「最小の経費で最大の効果を出す」「民間で可能・得意な分野は民間に任せる」という認識のもと、公共施設等の整備運営にあたっては、「PFI」だけでなく「PPP」の考えも取り入れながら、様々な事業手法の導入が進められています。

施設整備・管理運営の手法としては、市が施設の設計から建設・管理運営まで行う「公設公営」、市が施設の設計から建設まで行い、施設完成後は指定管理者などを選定して管理運営を行う「公設民営」、施設整備段階から管理運営まで包括的に民間事業者に任せる「民設民営」等があります。

#### （1）公設公営

施設整備・管理運営ともに地方公共団体が直接担う直営方式。管理運営に関する責任は行政が負い、清掃・警備等の一部業務を民間に委託する場合も公設公営に含まれます。

施設を設置している地方公共団体に属する施設長が管理運営の責任者にあたり、直接業務上の指示を行うため、管理運営業務、事業執行の実施主体と責任主体が一致します。

ただし、施設長や職員は必ずしも、常勤一般公務員である必要はなく、非常勤特別職公務員や嘱託職員、臨時職員等を主体とした職員構成とすることができます。

施設長や職員の雇用・勤務条件は地方公共団体の条例・規定に従うため、能力や実績に応じて臨機応変に職員を処遇する等、柔軟な運営は難しく、定型的な業務以外の対外的なネットワークやノウハウを活用した企画立案、事業実施で効果を発揮することが難しい面もあります。

## **（２）公設民営**

### **①指定管理者委託**

施設を地方公共団体が建設整備し、その管理運営を民間に委託する方式。平成１５年の地方自治法の改正により、「指定管理者制度」が導入され、「公の施設」の管理を株式会社等の民間に委託できるようになりました。

指定管理者制度は、管理運営に係る費用負担の仕方によって、公共団体が委託費として民間に支払う「委託費支払型」、民間が施設利用料金収入から負担する「利用料金型」、両方の「併用型」の３つに区分されます。

施設の利用許可や利用料金の收受等の包括的な管理運営権限を民間に付与することから、指定にあたっては地方公共団体の議会の議決が必要となっており、通常の実務委託契約とは別に、行政処分として、民法上の契約が適用されない特別契約となっています。

管理運営を中長期的に安定的にかつ円滑に進めるために、複数年の指定期間を設定することが可能となっており、自主事業の展開についても裁量権を有します。

委託事業者の選定は、競争入札で行うので、条件によって委託金額が低くなります。

ただし、指定管理者へ管理運営委託を行っていても、管理運営責任は委託元の地方公共団体にあるので、業務内容の範囲を契約書・協定書等によって明確にし、業務が適正に実行されているかどうか監督する必要があります。

### **②施設貸与方式**

施設を地方公共団体が建設整備したのち、民間に有償または無償で貸与し、管理運営を委ねる方式。管理運営に係る費用は、原則、民間が利用料金収入から負担します。

平成１８年の地方自治法の改正により、行政財産の貸し付け範囲の適用が拡大され、空きスペース等を民間に目的外でも貸し付けられます。

### **③DBO (Design-Build-Operate)**

施設の設計 (Design)、建設請負工事 (Build)、管理運営 (Operate) を一体的に民間に委ねる方式。

施設の細かな仕様まで指定せずに、地方公共団体が求める施設内容やサービスの水準を指定する性能発注とすることにより、民間の創意工夫を活かした効率的な建設工事が可能となります。

また、管理運営コストを低減できる施設内容として設計することも可能となることから、設計・建設・管理運営を通じた全期間の総事業費、施設のライフサイクルコストを抑制し、より財政負担の軽減とサービス水準の向上が図られます。

この手法はPFIに近似していますが、PFIでは民間が建設主体となり、建設資金の調達も行うのに対し、DBOでは建設主体は地方公共団体で、資金調達も地方公共団体が担うこととなるため、PFIとは異なります。

### **(3) 民設民営**

#### **①BTO (Build-Transfer-Operate)**

民間で独自に資金調達し、設計・建設を行い、施設完成後に所有権を地方公共団体に移譲、公共が所有権を持ったまま、民間が管理運営を行う方式。

管理運営を行う民間は、軽微な修繕等は可能だが、施設の所有権は地方公共団体にあるため、施設の大規模改修や管理責任は地方公共団体が負うこととなります。

#### **②BOT (Build-Operate-Transfer)**

民間で独自に資金調達し、設計・建設・管理運営を行い、事業期間満了後に、所有権を地方公共団体に移譲する方式。

事業期間中の所有権は民間にあるため、施設改修や管理責任などは民間が負うこととなります。

#### **③BOO (Build-Own-Operate)**

民間で独自に資金調達し、設計・建設・管理運営を行い、事業期間満了後も民間が所有権を持ち、事業を継続するか、施設撤去する方式。

施設内容の目的が期間限定のものや、施設耐用年数が短い場合の採用が多くみられます。


#### **④定期借地権方式**

民間事業者に土地活用の企画（政策と合致する民間事業）と併せて、施設等の設計・建設・管理運営を委ねる方式。

公共施設等の整備ではないため、民間開発事業として、公有地の低未利用地の有効活用を図る場合等に民間活力の導入手法として採用されます。

#### （４）公共・民間の役割分担

下表の右側に表記する事業方式ほど、民間の役割が大きくなります。

項目	公設公営 方式	指定管理者 委託方式	施設貸与 方式	ＤＢＯ方式	ＢＴＯ方式	ＢＯＴ方式	ＢＯＯ方式	定期借地権 方式
民間寄与度	小							大
計画策定	公共	公共	公共	公共	公共	公共	公共	民間
資金調達	公共	公共	公共	公共	民間	民間	民間	民間
設計・建設	公共	公共	公共	公共/民間	民間	民間	民間	民間
運 営	公共	民間	民間	民間	民間	民間	民間	民間
施設の所有 (事業期間中)	公共	公共	公共	公共	公共	民間	民間	民間
施設の所有 (事業終了後)	公共	公共	公共	公共	公共	公共	民間	民間

## (5) 各方式の導入による効果

以下に各方式のメリット・デメリットを整理します。

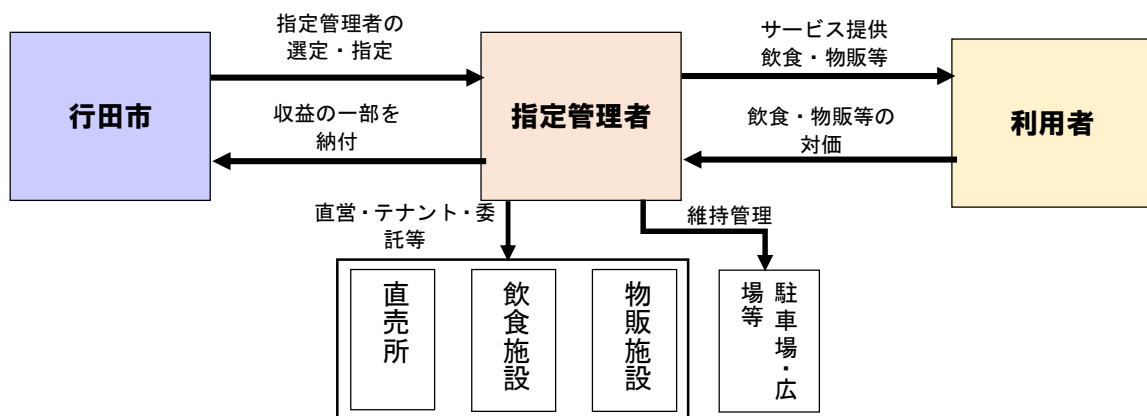
区分		メリット	デメリット
(1) 公設公営	直営方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方公共団体の行政意向が発揮できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営ノウハウに乏しく維持管理経費の削減が期待できない。</li> <li>・民間導入型と比べコストが高くなり易い。</li> </ul>
(2) 公設民営	指定管理者委託 施設貸与方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的なノウハウをもつ民間業者を選定することによって、質の高いサービスの提供、採算性の高い管理運営が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務範囲や仕様等を詳細に協定等により定めるため、弾力的な管理運営が見込めない。</li> <li>・事務手続きについて地方公共団体に確認するため、時間を要する。また運営開始後もモニタリング（運営評価）を行う必要がある。</li> <li>・「施設貸与方式」は、建設整備された施設の目的外利用の場合に貸付するものであり、新しい施設の場合は採用が難しい。</li> </ul>
	DBO方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的なノウハウをもつ民間業者を選定することによって、質の高いサービスの提供、採算性の高い管理運営が期待できる。</li> <li>・管理運営コストを考えた設計により、設計、建設、管理運営を通じた全期間の総事業費、施設のライフサイクルコストの抑制が図られる。</li> </ul>	
(3) 民設民営	BTO方式 BOT方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間資本によって施設建設することにより、公共投資が抑えられる。</li> <li>・専門的なノウハウをもつ民間業者を選定することによって、質の高いサービスの提供、採算性の高い管理運営が期待できる。</li> <li>・管理運営コストを考えた設計により、設計、建設、管理運営を通じた全期間の総事業費、施設のライフサイクルコストの抑制が図られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化に莫大な時間を要する。</li> </ul>
	BOO方式		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化に莫大な時間を要する。</li> <li>・施設所有権を民間がもつため、長期にわたり必要となる施設には向かない。</li> </ul>
	定期借地権方式		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業期間終了後、更地にして地方公共団体に返還しなければならない。</li> <li>・契約の更新、延長が基本的にできないため、施設の持続性が低い。</li> </ul>

(参考) 市による施設整備後に民間が施設運営を行う手法

【手法の概要】

施 設 整 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が基本設計及び実施設計をそれぞれ発注し、設計業者が、基本設計及び実施設計を実施する。</li> <li>・施設設計終了後、市が建築、電気、機械の各工事を分割発注する。</li> </ul>
施 設 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が指定管理者を選定し、議会手続きを踏まえて指定管理者として指定する。</li> <li>・指定管理者は、独立採算で施設運営業務を実施する。</li> </ul>
対 価 の 支 払	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設計料、建築工事費は、業務終了後に支払う（中間支払いを含む）。</li> </ul>
事 業 者 の 選 定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計業務については、入札又は設計プロポーザルによる選定を行う。</li> <li>・工事業者については、金額のみの入札又は総合評価方式による事業者の提案を含めた入札による選定を行う。</li> <li>・指定管理者については、市が公募条件を定め、プロポーザルによる民間事業者からの提案を踏まえ選定する。</li> </ul>
施 設 の 所 有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が施設の所有権を持つ。</li> </ul>
施設の修繕・改修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕については、一般的に市と指定管理者との協定に基づき一定額までは指定管理者が負担し、一定額以上の修繕は、市が負担する。</li> <li>・施設改修等の工事については、市が負担する。</li> </ul>

【事業スキーム概要】



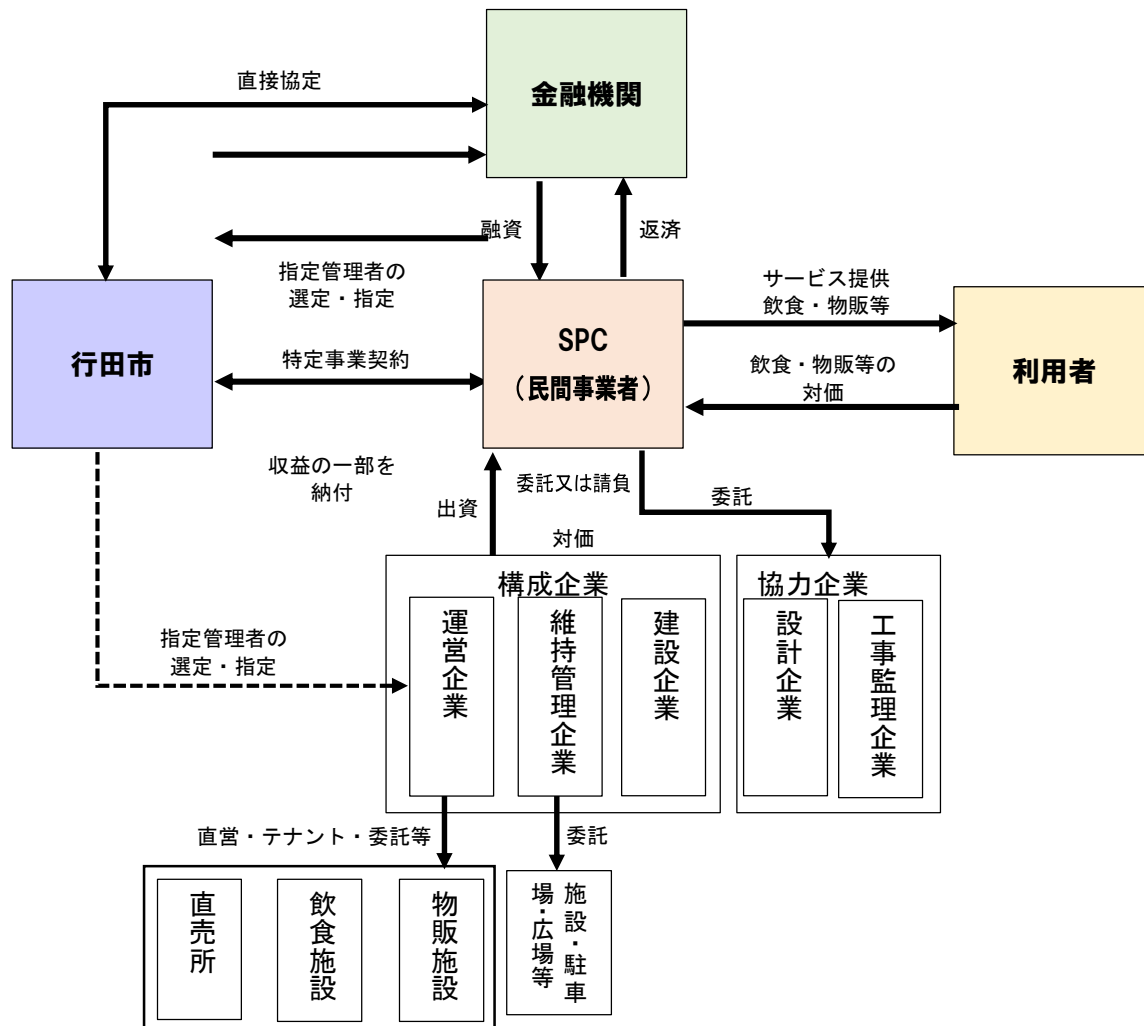


## （参考）施設整備と施設運営を一体的に民間事業者が行う手法

### 【手法の概要】

施 設 整 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が PFI 法に基づいて施設設計、施設整備、施設の維持管理運営まで包括的に発注し、施設を整備する。</li> <li>・民間事業者は、市が提示する業務要求水準に基づいて施設計画を提案し、提案に基づき、施設の基本設計・実施設計を行う。</li> </ul>
施 設 運 営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者は、市が提示する業務要求水準に基づいて施設運営方法を提案し、事業者の提案及び PFI 事業契約に基づき施設を運営する。</li> <li>・PFI 事業契約とは別に、PFI 事業者又は施設運営を行う構成企業を指定管理者として指定し、施設運営を行う。 ※指定管理者制度は、地方自治法に基づく制度であるため、PFI 事業の議会手続きとは別に指定の議決等の手続きが必要。</li> <li>・民間事業者は、独立採算で施設運営業務を実施する。</li> <li>・テナントにより施設運営を行う部分は、以下のいずれかの手法でテナント施設の運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設設置管理条例においてテナント料（利用料金）の上限を設定し、その範囲内で民間事業者（指定管理者）がテナント料を収受する。</li> <li>■PFI 法に基づく行政財産の貸付を行い、賃貸によりテナントに床を貸付、民間事業者が賃借料収受する。</li> </ul> </li> </ul>
対 価 の 支 払	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備費は、事業期間中に平準化して毎年一定額を支払う。</li> </ul>
事 業 者 の 選 定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般競争総合評価方式又は公募型プロポーザル方式により PFI 事業者の選定を行う。</li> <li>・PFI 法に基づく選定手続きにより事業者を選定する。</li> </ul>
施 設 の 所 有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設については、代表的なものとして施設整備後市が所有権をもつ BT0（Build-Transfer-Operate）方式と民間事業者が事業期間中に施設の所有権を持つ BOT（Build-Operate-Transfer）方式が考えられる。</li> </ul>
施設の修繕・改修等	<p><b>【BT0 方式の場合】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設所有が市にあるため、建物不良に伴う修繕は瑕疵担保の範囲内となる。修繕業務をどこまで含めるかは、発注時の条件で定める。大規模改修等の改修工事は、PFI 事業範囲外とすることが一般的である。</li> <li>・施設運営のための改装等を実施したい場合は、事業者は、施設所有者である市の承諾を得て実施する。</li> </ul> <p><b>【BOT 方式の場合】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者が施設所有者であるため、建物不良に伴う修繕も修繕業務も原則、民間事業者の責任となる。大規模改修等の改修工事は、PFI 事業範囲外とすることが一般的である。</li> <li>・施設運営のための改装等を実施したい場合は、事業者は、市に届け出た上で実施する。</li> </ul>

# 【事業スキーム概要】



## （参考）関係法令及びガイドライン

国においては、平成１１年７月に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（ＰＦＩ法）」が公布され、平成１２年３月には「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の事業の実施に関する基本方針（ＰＦＩ基本方針）」が制定されました。

このＰＦＩ基本方針の制定に伴い、自治省は「地方公共団体におけるＰＦＩ事業について」を通達し、都道府県及び市区町村においてもＰＦＩ事業の円滑な実施の促進に努める旨の周知を行っております。

そのほか、以下に列記するガイドラインなどを定め、ＰＦＩ事業の実施に関する一連の手続きについて、その流れを概説すると共にそれぞれの手続きにおける留意点を示しております。

内容		年月日
法律等	民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（ＰＦＩ法）	平成１１年７月３０日公布 平成２６年６月２７日改正
	民間資金等の活用による公共施設等の整備等の事業の実施に関する基本方針（ＰＦＩ基本方針）	平成１２年３月１３日告示 平成２５年９月２０日閣議決定
通達等	地方公共団体におけるＰＦＩ事業について（自治省）	平成１２年３月２９日通達
	民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成１１年法律第１１７号）に基づいて地方公共団体が実施する事業に関する地方財政措置について（自治省）	平成１２年３月２９日通達
ガイドライン	ＰＦＩ事業実施プロセスに関するガイドライン	平成１３年１月２２日公表 平成２６年６月１６日改定
	ＰＦＩ事業におけるリスク分担等に関するガイドライン	平成１３年１月２２日公表 平成２５年９月２０日改定
	VFM（Value For Money）に関するガイドライン	平成１３年７月２７日公表 平成２６年６月１６日改定
	契約に関するガイドライン —ＰＦＩ事業契約における留意事項について—	平成１５年６月２３日公表 平成２５年９月２０日改定
	モニタリングに関するガイドライン	平成１５年６月２３日公表 平成２５年９月２０日改定
	公共施設等運営権及び公共施設等運営事業に関するガイドライン	平成２５年６月 公表 平成２５年９月２０日改定

## 2. 機能別の管理運営手法

機能別に、想定される管理運営手法を整理します。

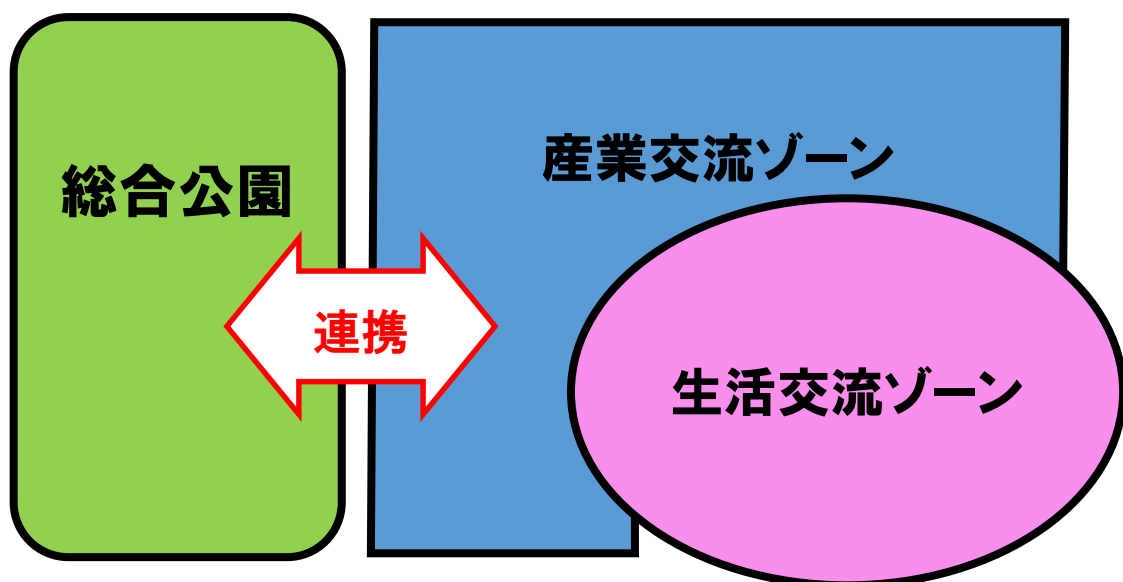
機能	想定される 管理運営	想定理由
エントランス ロビー ラウンジ	公営 指定管理者委託 D B O方式 B T O方式 B O T方式 B O O方式	民間が収益を得られる機能ではなく、市からの委託等（利用料金収入含む）によって管理運営を行う必要があるため。
バスターミナル		
情報発信機能		
トイレ		
多目的スペース		
体験キッチン		
イベントスペース・広場		
公共的施設		
防災機能		
飲食店	D B O方式 B T O方式 B O T方式 B O O方式	民間が収益を得ることが可能であり、民間主体のもと管理運営することが望ましいため。
物販施設		
直売所		
アグリパーク		
ウェルネスサポート施設	指定管理者委託 D B O方式 B T O方式 B O T方式 B O O方式 定期借地権方式	公共の施設機能と民間の施設機能が含まれており、細かな施設機能ごとに最適な管理運営方法を検討する必要があるため。
コンビニエンスストア	B T O方式 B O T方式 B O O方式 定期借地権方式	公共による設計は考えられず、民間で設計することが望ましいため。

## 第6章 施設配置の方針

### 1. ゾーニング・動線の方針

『第4章 整備の方針』に基づき、以下のようにゾーニング・動線についてまとめます。

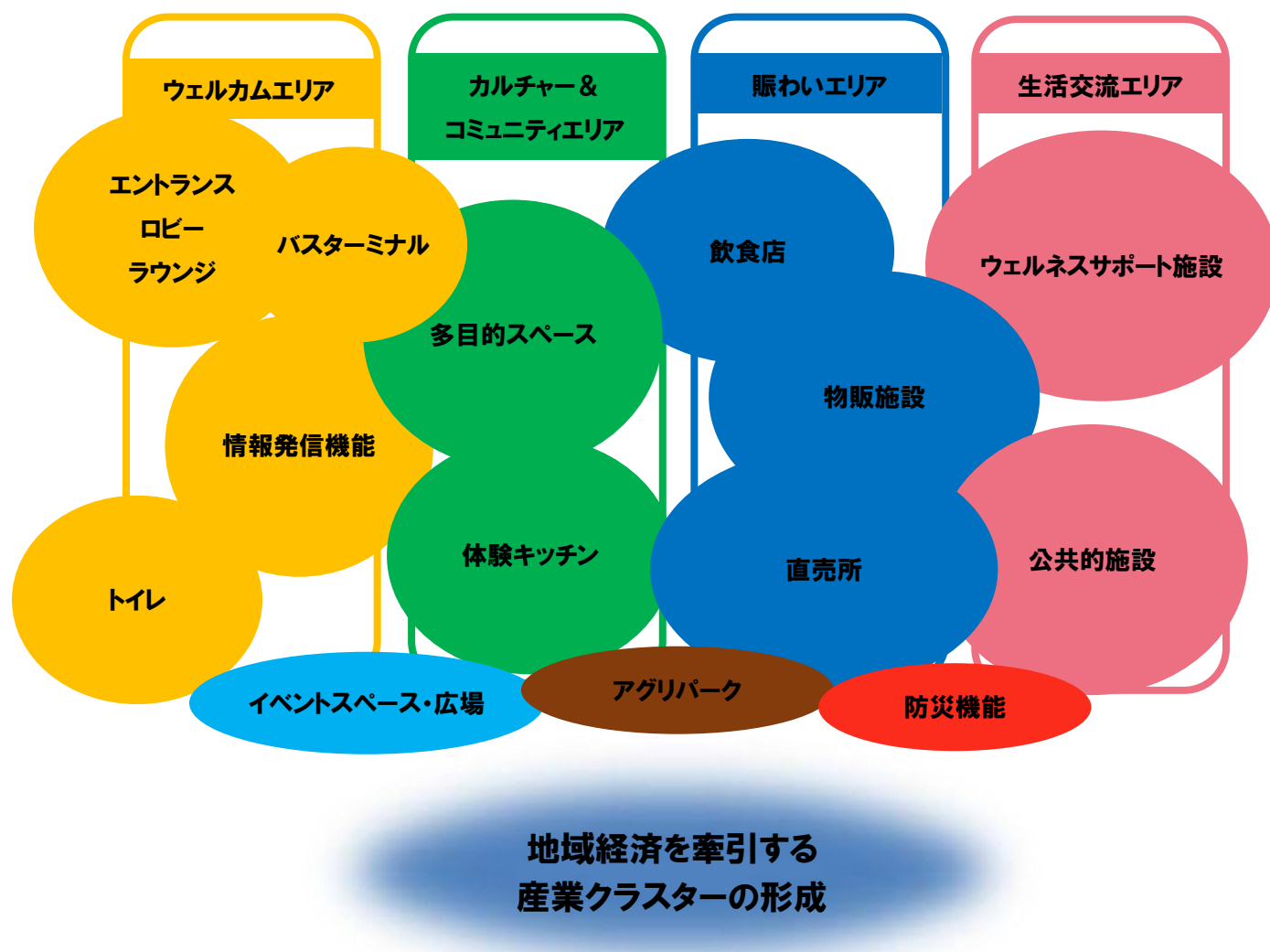
- ・産業交流拠点は、産業交流ゾーン（ウェルカムエリア、カルチャー&コミュニティエリア、賑わいエリア）と生活交流ゾーン（生活交流エリア）で構成し、隣接する行田市総合公園との連携を図ります。
- ・産業交流ゾーンにおいては、行田市総合公園との連携を考慮し、各エリア及び建物を西側に配置します。
- ・生活交流ゾーンにおいては、地域住民の利用アクセスを考慮し、建物を東南部に配置します。
- ・自動車の動線は国道 125 号バイパスからのアクセスをメインに考え、東の羽生方面、西の熊谷方面、東西両方向共に、行田市総合公園との間にある道路（行田都市計画道路 3.5.14 常盤通佐間線）、『総合公園前交差点』からのアクセスを主要動線とします。
- ・生活交流ゾーンには、東の羽生方面からアクセスしやすいように現状の道路を拡幅し、動線を確保します。
- ・駐車場出入口は、交差点からできる限り離れた位置に配置し、交差点付近の混雑に繋がらないように配慮します。



## 2. 施設配置の方針

ゾーニング・動線の方針を基に、施設配置は以下のような方針とします。

- ・ウェルカムエリアは、別棟として24時間利用出来る情報コーナーとトイレを想定し、駐車場や広場に近い位置に配置します。
- ・カルチャー&コミュニティエリア、賑わいエリアは本棟として、直売所や物販（一坪ショップ等）を配置します。
- ・アグリパークは、本棟南側に配置し、本棟内の多目的スペース・体験キッチンで、収穫した農産物を加工・料理体験できるように利便性を考慮します。
- ・生活交流エリアは、地域住民の利用を第一に考え、南側からアクセスしやすい位置に、ウェルネスサポート施設等を配置します。
- ・地域経済の活性化を目的に、将来にわたり行田市の産業を成長・発展できるよう、施設拡張や企業誘致を見据えた配置とし、多様な産業の集積を図るなど、地域経済を牽引する産業クラスターの形成につなげていきます。



## 第7章 産業交流拠点の実現に向けて

今後の産業交流拠点整備事業については、関係機関との調整を行いながら、サウンディング市場調査、民間事業者からの事業計画案の公募を行います。

また、行政と民間事業者が連携しながら、設計・建設に取り組むとともに、市内の各種団体や農業者等と連携して開業に向けた管理運営体制を検討します。

開業は平成35年度を目標とし、段階的な整備を行ってまいります。

整備スケジュール	
S t e p 1	関係機関との調整
S t e p 2	サウンディング市場調査 事業計画案（計画付事業予定者）公募
S t e p 3	用地の確保 施設詳細決定 実施設計 管理運営計画の策定
S t e p 4	建設 運営準備
S t e p 5	オープン

## 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会開催概要

### (1) 委員名簿

	氏名	団体名	備考
1	小林 乙三	行田市環境経済部長	委員長
2	飯嶋 隆夫	行田フライ・ゼリーフライ友の会	
3	小池 利昌	行田市商店会連合会	
4	大野 真理	(公社)行田青年会議所	
5	戸塚 昌利	NPO 法人 行田観光物産会	
6	町田 光	NPO 法人 魅力創造倶楽部	
7	西田 信子	行田軽トラ朝市実行委員会	
8	泉 達也	関東道の駅連絡会	
9	大篠 一也	埼玉県行田県土整備事務所	
10	伊藤 徹哉	立正大学地球環境科学部	
11	大橋 菜央	リクルートじゃらん統括編集部	
12	堀口 貴子	星河地区自治会連合会	
13	市川 ひろみ	星宮小学校 PTA	
14	大澤 和美	長野中学校 PTA	
15	長谷川 浩	農業従事者	
16	太田 彰	公募市民	
17	告 広子	公募市民	
18	吉田 明夫	環境経済部農政課長	
19	岩田 樹一良	総合政策部企画政策課長	



## (2) 開催日及び検討内容

会議の名称	開催日時	検討内容
第1回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年6月23日(木) 開会：18時30分 閉会：20時30分	1) 検討委員会の年間の流れについて 2) 産業交流拠点整備事業のこれまでの流れについて
第2回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年7月26日(火) 開会：18時30分 閉会：20時30分	1) 事例紹介 2) コンセプトの位置づけについて 3) 導入機能について 4) コンセプトの検討について
第3回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年8月17日(水) 開会：18時00分 閉会：20時00分	1) 検討委員会の開催回数の変更について 2) 第2回委員会のまとめと事業者ヒアリング結果の報告 3) コンセプトについて 4) 導入機能について
第4回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年9月29日(木) 開会：18時00分 閉会：20時30分	1) 全体コンセプトの確認について 2) 施設機能とゾーニングの確認について
第5回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年10月18日(火) 開会：18時00分 閉会：19時30分	1) 施設機能の確認について 2) 管理運営手法の比較・確認について
第6回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年11月18日(金) 開会：18時00分 閉会：19時30分	1) 重点「道の駅」について 2) 企画提案書の確認について
第7回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年12月14日(水) 開会：18時00分 閉会：20時00分	1) 施設配置図について 2) 概算事業費について 3) 収支計画について
第8回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年1月30日(月) 開会：18時00分 閉会：19時30分	1) 行田市産業交流拠点整備基本計画素案の確認について
第9回 行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会	平成28年2月23日(木) 開会：18時00分 閉会：19時00分	1) パブリックコメントの結果について 2) 産業交流拠点整備事業の今後について
パブリックコメント	平成29年2月6日(月)から 平成29年2月17日(金)まで	行田市産業交流拠点整備基本計画素案に対する意見募集

### (3) 会議録及び会議資料

#### ①第1回会議録

会 議 の 名 称	第1回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成28年6月23日(木) 開会：18時30分 閉会：20時30分
開 催 場 所	産業文化会館2階2A会議室
出席委員 氏 名	小林乙三(行田市環境経済部長) 飯嶋隆夫(行田フライ・ゼリーフライ友の会) 小池利昌(行田市商店会連合会) 大野真理((公社)行田青年会議所) 戸塚昌利(NPO法人 行田観光物産会) 町田 光(NPO法人 魅力創造倶楽部) 西田信子(行田軽トラ朝市実行委員会) 泉 達也(関東道の駅連絡会) 大篠一也(埼玉県行田県土整備事務所) 伊藤徹哉(立正大学地球環境科学部) 堀口貴子(星河地区自治会連合会) 市川ひろみ(星宮小学校PTA) 大澤和美(長野中学校PTA) 長谷川浩(農業従事者) 太田 彰(公募市民)
欠席委員 氏 名	大橋菜央(リクルートじゃらん統括編集部) 告 広子(公募市民) 吉田明夫(環境経済部農政課長) 岩田樹一良(総合政策部企画政策課長)
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：水嶋、石村、福島
会 議 内 容	・市長あいさつ ・委嘱状交付 ・委員紹介 ・議 事 1) 検討委員会の年間の流れについて 2) 産業交流拠点整備事業のこれまでの流れについて ・その他
会 議 資 料	・次第 ・委員名簿 ・席次表 ・産業交流拠点基本計画に係わる検討の流れ ・行田市産業交流拠点整備調査研究・基本構想概要
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者7名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
工藤市長	市長あいさつ
工藤市長	委任状交付
各委員	委員自己紹介
小林委員長	議題（１）「検討委員会の年間の流れについて」事務局より説明を求める。
事務局	資料説明 「検討委員会の年間の流れについて」
小林委員長	事務局からの説明に質問はあるか。 議題（２）「産業交流拠点整備事業のこれまでの流れについて」、事務局より説明を求める。
事務局	資料説明 「行田市産業交流拠点整備調査研究・基本構想概要」
小林委員長	事務局からの説明に質問はあるか。
小池委員	以前、15 年前に道の駅の検討が没になった理由を調べて、今後の参考にさせていただきたい。
事務局	確実なことは言えないが当時は国道 17 号バイパス沿い、さきたま古墳公園の近くで検討し、市でまとめていたが、埼玉県と調整した結果、さきたま古墳のところは難しいと折り合いがつかなかったため調整が難航して話が流れてしまったと聞いている。
小池委員	私は当時委員として参加したが、市職員やコンサルタントと他自治体の道の駅を何箇所か見学して、その結果赤字であるというのが結論だった。 土地は国で用意してもらえて、建物は市で建てるということだったが、汚水処理費等が 6,000～7,000 万円年間かかるので採算が合わないということになった。 4 ヶ月かけて没になった経緯があるので、よく調べて厳しい情勢のなかで、せめて赤字にならないように検討いただきたい。 公共施設は高速道路のパーキング等をとっても個性的になっているので、どこにでもあるものでは振り向いてもらえないと思う。その辺も踏まえてよい知恵を出してほしい。
伊藤委員	過去を踏まえての新しい物が重要である。 道の駅ができることになって市のプラスになること、中心市街地に対する全体のメリットを紹介してもらえると建設的な話ができると思う。
事務局	ターゲットとして、国道 125 号バイパスの利用者を設定した。 昨年度行った市民懇話会の際に、参加された女性の方々から行田市には友達をつれていける飲食店がなく、羽生市や熊谷市に流れてしまうという意見をいただいた。 こういう場所に行田の名所として設置できたらと考えている。 また、総合公園の利用者が年間 29 万人いるが、周辺には店舗がないとご意見をいただいている。総合公園の利用者向けの飲食店もできると考えている。 他には、市の北側になると周辺に店舗がないため、周辺、市内の高齢者をターゲットによい店づくりができないかと考えている。 またファミリーで遊べるような施設を導入することによってさらにターゲットを拡

	<p>大でき、将来的には市外から新たな観光客も呼べる施設として整備することを考えている。</p> <p>国土交通省大宮国道事務所に伺った際に、基本構想の導入機能で医療・福祉・子育て施設が付属されている道の駅は珍しいということで、重点道の駅の候補として、さらに絞りこみ磨き上げていけば候補になりえるとご意見をいただいております、行田市にプラスになると考えている。</p>
伊藤委員	<p>単なる商業施設ができるというのではなく、新しい外からの人や、潜在的にある人の流れをそこに呼び込むことで、相乗効果で町の中にも人を呼び込むようなひとつのきっかけになる施設を作るという考え方でよいか。</p>
町田委員	<p>国からどのくらいの補助金がでて、行田市にどのくらいの負担がかかるのか分からないし、設備の規模にもよると思うが、赤字だけ出す、人が来ないとなるとマイナスイメージにしかない。</p> <p>全国の道の駅で利益を出しているところはわずかだと思う。</p> <p>花園の場合は、高速道路のインターチェンジが近くにあり、東京方面の人々が農家の野菜を出すことで栄えて、周辺にケーキ屋など商業施設が出来て人が集まるようになったと思う。</p> <p>国道 125 号バイパスにポツンと綺麗な施設が出来て、施設によっても違うが、60 歳以上の人がそこに買い物にくるのか疑問である。どの程度のものを、どのくらいの規模で作っていくのか。どのくらいならやっていけるかの目安が見えてこない部分がある。</p> <p>もう一つは、周辺の開発は可能なのか。利用者は人が来ているか来てないかしか見えていないと思う。5 年後、ポツンとあるだけでは意味がない。周辺の開発が出来るのか、それに伴って商業施設が出来、栄えるのかが見えてこない、規模だけを見ているとこわい。これだとモノを売っていくのと、商売をしていく前の段階とは、ズレている気がする。</p> <p>道の駅の特徴である地元野菜を売るとなった場合、行田市はほとんど水田だと思うが、実際に野菜がどのくらい供給できるのか。</p> <p>飲食店も複数店舗ないと人は集まらないと思うが、どのくらいの規模の施設を思い描いていて、国からの補助金がどのくらい出て、行田市がどのくらい負担して、民間企業がやっていけるのか見えてこない。</p> <p>私はコンビニエンスストアを経営しているが、全国平均で 1 日 1000 人以上、年間 36 万人来ている中で、本部と各店舗が利益を分配する。</p> <p>子育て支援もよいが施設を運営していくとなると、行田市としてプラスになるのかマイナスになるのか境目が分からない。</p> <p>規模をはっきりさせないと、このままでは怖い。</p> <p>集客力が必要で、何があるか、今後何が出来てくるのか、どういう施設が周りを囲んでくれるのか、この施設をどのように運営して、どう利益を出し、どう集客していくのか考えていかないと成り立たない。何かしらの特徴を考えていかないといけない。</p> <p>あまりにも規模が大きすぎるので、規模を支える人間を呼ぶにはどうすればいいのかを後で考えないといけないので、もう少しコンパクトに考えていく必要がある。こ</p>

	<p>のままいくと壮大すぎるのではないかな。</p>
事務局	<p>お金の話だが、整備はPFIでいこうと市内部ではある程度固まっている。</p> <p>民間に作ってもらい最終的に所有権を行政に戻してもらおう方法や、作って10年運営した後、所有権を返してもらい、また別の業者を募集する形もある。またずっと続けてもらうやり方もある。作る時にあまり税金を投入しようとは考えていない。</p> <p>医療・子育て・健康づくりの機能も熊谷のさめじまボンディングクリニックのように、多種多様なクリニックを呼べればと考えている。</p> <p>飲食店も、1店舗ではなく複数店舗入っていただく。</p> <p>市民からも多数の店舗があり、選択肢がないと、市外に流れてしまうと言われている。商業集合体のような道の駅のイメージで。</p> <p>補助金については、国道125号バイパスは埼玉県管理となるので、一緒にやっていただくという話になれば、駐車場とトイレ、道路の接続の整備をしていただく。その他の地域振興施設に関しては、すべて民間事業者となる。民間事業者のヒアリング先もある程度固まっており、これから事務局とコンサルタントでヒアリングに伺いたいと考えている。参加の意向を伺った上で話をしていきたい。</p>
事務局	<p>道の駅の場合、公共施設なので、地方公共団体か地方公共団体が出資した会社でないと施設申請者、所有者にはなれない。</p> <p>道の駅といっても、国土交通省の言う道の駅は駐車場とトイレと休憩施設でしかない。国の直轄事業として補助金ではなく整備を代わりに行ってもらえる。産直や加工の施設等は農水省の補助を引っ張ってきてお金を入れていくのが手法としてはある。</p> <p>施設に関しては、運営部分は民間が独立採算でやってもらうことが多い。道の駅は公共施設の中でも稼げる施設なので、できるだけ民間に稼いでもらい人を集めてもらうという考え方が多くなっている。</p>
伊藤委員	<p>心配なところは人が来なかったらどうするのか。</p> <p>市としては、公共的な役割としてどのように定義していくのか。物販や飲食を中心とする道の駅をイメージするのか、公共的な施設が強いのか。公共的な施設が強ければ、ある程度いろいろな機能をつけられればよいのではないかな。</p>
小林委員長	<p>あくまで産業交流拠点で道の駅の機能を持たせている。</p> <p>総合公園は125号バイパスを利用する観光バスのトイレ休憩所となっている。行楽時期になると平日もかなりの台数が利用されている。もともと潜在的なものがある。</p> <p>市としては道の駅だけではなく、機会をつくり、街の活性化を考えている。現時点では周辺は水田ばかりなので開発は難しいと考える。</p> <p>土地は市で用意し、上物は民間が作るという方式がよいと考えている。</p>
町田委員	<p>事前に、道の駅の役割については聞いている。本来、休憩所、トイレ、また防災拠点としての機能などが主であることは理解している。しかし、この場所にお店が入っても利益がなければなくなってしまう。お店が入ることで、賑わいが生まれるわけで、お店がなければ意味がない。</p> <p>この施設しかないのか、今後、他の開発の許可ができるのか。行政として道の駅で商業活動をするにあたって、残るために周りの開発をしないのか。</p>

	<p>行田市として、水田を開発して他のいろいろな店舗を取り入れていかないのか。行田市の業者ではなくても道の駅を中心として活性化を考えていかないのかを聞きたい。</p>
小林委員長	<p>将来的にはそのようにしたい。</p> <p>この検討委員会で、様々な意見を出してもらい、どのような施設がいいのか、どんな複合施設があればいいのか揉んでいきたい。基本構想はあくまでたたき台であるので、基本計画を検討し具体化する中で、減る機能もあれば、増える場合もあり、これから揉んで変わっていけばよいと考える。</p> <p>少なくとも道の駅の部分は、土地と建物の資金はいらないということになっている。そこに複合して他の施設を作りたいと考えている。なので、道の駅の機能のある産業交流拠点として位置付けている。</p>
町田委員	<p>たとえ公共施設だとしても、店を出したらそこで生きていかなければならない。生きていく為にはどういう形をとるのが必要である。</p>
小林委員長	<p>どうやったら人が呼べるのか、どういう施設を作ればよいのかを議論していただきたい。</p>
町田委員	<p>やはり行田市で友達と行く場所がない。言い方は悪いが、行田市の施設は衰退しているところが多い。</p>
小林委員長	<p>行田で子供が産める施設がない。現在、市で医者呼んで来てもらっている状況である。産める施設まで作ってしまうのはどうか。</p>
小池委員	<p>そういうのは可能か。産業道路にも何箇所かお医者さんの土地があるが、1箇所も入らない。何箇所かそういう場所があっても、現にいっぱいになっていない。そういう状態のところそういう施設を作っても入ってくれるところはあるのか。</p> <p>まわりの状況を考えて、どういう施設が入るべきか。場所もすでに決まってしまう。様々な意見を聞きたい。プールがなくなってからという考えに思える。</p>
事務局	<p>プールの跡地に作る訳ではない。農地のところにできればと考えている。</p>
西田委員	<p>熊谷で道の駅が出来た場合や、国土交通省から道の駅の認可がおりなかった場合、場所を変えてでもやろうと思っているのか、道の駅でなくても採算がとれる範囲で進めていく意図が市ではあるのかを知りたい。</p>
小林委員長	<p>国土交通省には私が行って直談判してきた。道の駅の距離的条件はなく、特殊性で決まる。確定ではないが、熊谷の道の駅には青果市場が移転する予定である。また、17号本線のため接道が違う。国土交通省から、距離的な条件は考えなくてよいと聞いている。</p>
飯嶋委員	<p>道の駅といえば直売所のイメージになるが、行田は畑がないので農産物がない。行田産の産物だけで間に合うのだろうか。</p>

長谷川委員	<p>花園の周辺は桑園だったが、新たな野菜の生産地に変えていった。私は田んぼで大豆を作っている。水田だからといって、米しか作れないわけではない。</p> <p>開業まで年数があるのでこれから野菜を作ることは可能であると考え。今、米が余っている状況の中で米を作り続けるのではなく、地元の活性化にも繋がるような、新たな農産物の可能性を探れるのならチャレンジする人はいると思う。農業は土地から離れられないのでチャンスと捉えるかは分からないが、取り込むことは考えられる。</p>
太田委員	<p>本来は産業交流拠点で、市の経済活性化を目的としているはず。行田の中心部、新町通りなんて誰も歩いていない。商店街にいかにして客を呼ぶかをまず考えないと行田の発展はないと思う。仮に交流拠点を国道 125 号に作ったとしても恐らく失敗すると思う。商店街の自己努力が足りない。</p> <p>深谷のアウトレットの中央のゾーンには、キューピーが工場・体験工房を造ることになっている。</p> <p>この計画の 8 年後の経済情勢はかなり変わることになる。8 年後を見据えて立案しないと必ず失敗する。</p> <p>道の駅に入ると言っても市内の個人の方だと入れない。</p> <p>今、成功しているのは全部東京の大手のブランド化に成功したところで、入った瞬間に買いたいという気持ちにさせる店内のコンセプトもしっかりしている。そういったことをしていかないと立ち行かないと思う。</p> <p>農産物は必要だと思うが低価格である。ケーキ等なら、いくらでもお金を出す人がいる。野菜はそうはいかない。ブランド化等をすれば別だと思うが、消費者は安くて新鮮なものを求めてくる。</p> <p>完成時には今の道の駅の形態とは違ってくると思う。それを念頭に置いて話をしていった方がよいと思う。</p>
大篠委員	産業交流拠点施設と道の駅を一緒に整備するメリットはなにか。
事務局	<p>広く考えると道の駅には駐車場、トイレ、農産物直売所があり、地域の振興を図る施設ということで事務局としても考えている。その他の機能を含め、産業交流拠点として農業・商業・工業・観光要素の施設を考えた結果が、道の駅を核とした産業交流拠点という形。</p>
大篠委員	中の人からすると産業交流拠点を中心とした道の駅。駐車場、トイレは総合公園にある。
事務局	総合公園は小中学校の大会等が重なると駐車場が足りない状況なので、それを受けて道の駅等も併設できればという考えがある。
大篠委員	公園の利用者の車が止まれないからという、本来の目的ではない気がする。
事務局	<p>あくまで総合公園との連携性を考えた利用形態の一つ。今回整備するのは産業交流拠点。候補地は 125 号バイパスが難しければ 17 号バイパスの話も出てくると思う。しかし我々の調査結果では 17 号バイパスは商業施設としては難しい。茨城県古河市の道の駅では反対車線から見えず運営会社からどうにかできないか、と道路管理者と調整したいという話を聞いている。それを是正するために大きな看板やのぼりで出来る限り反対車線から見えるような形で整備できないかと考えている。125 号バイパス沿いで</p>

	も総合公園ありきではなく、自由広場がへのの発着場になっているので、防災的な位置付けからも考えた上で併設したほうがよいという結論に至った。
町田委員	商売の話をしてしまって混乱を招いて申し訳ない。市としては、道の駅本来の駐車場と休憩スペース等を中心にここがよいという話と、まず公共施設を作るということで、あくまで商業施設はプラスのもので民間がやるという考えでよいか。売るもの等は後々の話ということでよいか。
事務局	そうである。今後 MD（マーチャンダイジング）の検討の中で、何を、誰に、どういった方法で売っていくかを、事務局で検討した上で第 2 回、第 3 回の委員会で皆様に示したいと考えている。
泉委員	<p>国交省として進めているのが、道の駅を小さな拠点として防災機能など全部含めて整備して、活性化されて中心として人が集まるということである。</p> <p>道の駅でも物産があると売り上げは大事である。特に 6 次産業をやっているところが繁盛している。体験や加工があり、リピーターが集まるような機能を持った施設が成功している。こういったコンセプトを組み込んでいくことが大事であり、商売の話も避けては通れないと考えている。</p>
大野委員	行田市には 2 つの友好都市があり、そのメリットを生かして、行田のものだけでなく友好都市の相互の良いものを取り入れて活用できるのではないかな。
長谷川委員	歴史等に関連させると物語性もできる。
西田委員	<p>行田が田んぼアートでギネス記録をとって、軽トラ市もそこで出張開催できたらと市に相談すると、第三者に運営を任せているので無理という答えが返ってきた。たくさんの方の来客があるのにまかないきれしていない。チャンスを活かしかねなかったと思う。器を作るだけがコンサルタントなのか、今後の管理運営までを見据えてもらえるのか。それによって変わるものと実感している。</p> <p>例えば、妻沼の道の駅が成功したのは、JA の運営管理の方がよい物しか売らせないような仕組みを作り、それによりどんどん商品が良くなっていった今ではお断りするほど商品がたくさん集まる状態になっている。管理をしっかりしてきたからだという話を聞いている。計算上で建物を建てても、その後の管理次第でも変わっていくものだと思う。今後を見据えて、維持・運営を共有していける会社に管理運営を託したい。</p>
長谷川委員	供用開始までの短縮の可能性があるという話があったが、具体的な数字は出せるのか。
事務局	基本設計から実施設計が並行できれば可能と考えている。
長谷川委員	8 年後なのか、少しは短縮できるのか。短縮できるところはして、早く形にしたい。
太田委員	コンサルタントに聞きたいが、国道 125 号バイパスの地理的条件はどう考えるか。
事務局	<p>人が集まる場所としては、この中では大型の物流トラック車が多いので、商売を考えると飲食事業が考えられる。</p> <p>市内からの利用として交通量が多く、視認性もとれて、総合公園の利用者も多い、立地としては一番良いという認識。</p> <p>そこをどのような形にしていくのが大切と考えている。</p>



	<p>病院に関しては、病床数のエリアの割り当てがあり、行田はエリア内で病床数を増やせないという状況もあり問題がある状況である。</p>
伊藤委員	<p>今後のコンセプトとして、具体的な商品開発や、中心となる物品を見つけていかなければいけない。</p> <p>キーワードにある健康を象徴するような、何が行田の中で健康が該当するのか。目に見えた形でないと商売としてリピーターを作れない。リピーターを呼び込めるような仕掛けを考えていかなければいけない。</p> <p>次回以降、そういったことを提案・説明いただくと議論が深まると思う。</p>
小池委員	<p>最近工場を見学させるようなことが流行っている。旬となるものをみつけてほしい。赤字になるような計画にはしてほしい。色々な可能性を見ながら行田の売らなくてはいけないものを見つけなければいけないと思う。</p> <p>なぜ行田でやらなくてはいけないのか、コンセプトや目的が見えていない状況である。</p> <p>農産物が多いのならよいが、ないとなると。</p>
小林委員長	<p>意見交換ということで、特に意見をまとめるということはない。</p> <p>以上をもって、本日の議事を終了させていただく。</p> <p>ありがとうございました。</p>
事務局	その他、事務連絡

## ②第1回会議資料

# 第1回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

## 次 第

日時：平成28年6月23日（木）

午後6時30分～

場所：産業文化会館2階2A会議室

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 委員紹介
5. 議 事
  - 1) 検討委員会の年間の流れについて
  - 2) 産業交流拠点整備事業のこれまでの流れについて
6. その他
7. 閉 会

■行田市産業交通拠点整備調査研究・基本構想 概要

立地条件の整理

交通量

■平成22年度道路交通センサ

平成22年度市内の主要道路の交通量を比較すると、国道125号行田バイパスの交通量が最も多いことがわかります。特に、7～8時台と17～18時台において、小型車の交通量が多くなっています。また、大型車は10～11時台、14～15時台の交通量が多くなっています。

■交通量調査地点及び交通量概数



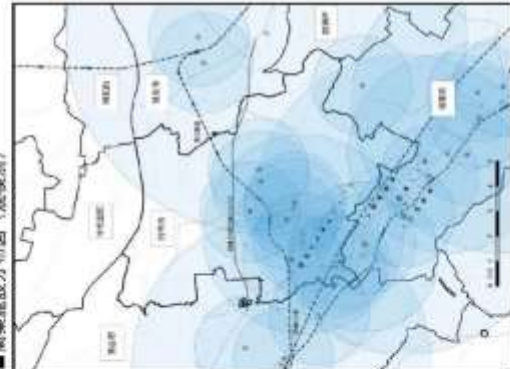
(平成22年度道路交通センサ)

産業特性(商業)

店舗面積が1000㎡を超える小売店舗(食料品平場)は、市内に11店舗(1000㎡～3000㎡が9店舗、3000㎡以上が2店舗)あり、市南部に集中しています。

周辺都市も含めた広域的な立地状況を見ると、現都市や熊谷市など、市南西部の都市に多く立地しており、市南の重なりも多くなっています。

■商業施設分布図(概観図)



※「共同広域における南北軸沿線の形成について」の記載を参考に、概観を記述

対象地の選定

対象地の選定にあたっては、行田市都市計画マスタープランの将来の都市構造で位置づけられている「交流拠点」を考慮し、市内全域から候補地を選定しました。

そこから交通量、広域アクセス、土地利用現況、大規模緑地の有無、周辺施設との連携、浸水危険性、景観、周辺商業施設の観点から評価し、候補①を対象地として選定します。

■対象地選定の観点

候補地	交通量	広域アクセス	土地利用現況	大規模緑地の有無	周辺施設との連携	浸水危険性	景観	周辺商業施設	備考
①	◎	◎	△	△	◎	△	○	○	・国道125号行田バイパスの交通量が多く、車の広域アクセス性が高い。 ・現状は農地であるが、平田によっては大規模な土地利用の可能性が高い。 ・行田市総合公園との連携、周辺の自然環境に恵まれている。 ・周辺商業施設と密着した部分が少ない。
②	△	○	×	×	○	△	○	×	・国道125号の交通量は比較的高い。 ・市街地であるため、大規模な土地利用が困難である。 ・周辺商業施設との連携、周辺の自然環境に恵まれている。
③	○	◎	×	×	×	×	×	×	・国道17号の交通量は比較的高い。 ・市街地であるため、大規模な土地利用が困難である。 ・周辺商業施設との連携、周辺の自然環境に恵まれている。
④	△	△	△	△	×	×	○	◎	・羽生新緑の交通量が少なく、車の広域アクセス性が低い。 ・住宅用地であるため、民間用地買収によって大規模な土地利用は考えられる可能性は低い。 ・周辺施設との連携に劣る。 ・周辺の自然環境に恵まれている。 ・周辺商業施設と密着した部分が少ない。
⑤	○	◎	△	△	×	△	×	×	・国道17号熊谷バイパスの交通量が多く、車の広域アクセス性が高い。 ・現状は農地であるが、平田によっては大規模な土地利用の可能性が高い。 ・周辺施設との連携、周辺の自然環境に劣る。

■対象地候補位置図



対象地の現況



対象地に接する国道125号行田バイパス



## 二、一、二分析

1000000

◆建築交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベント

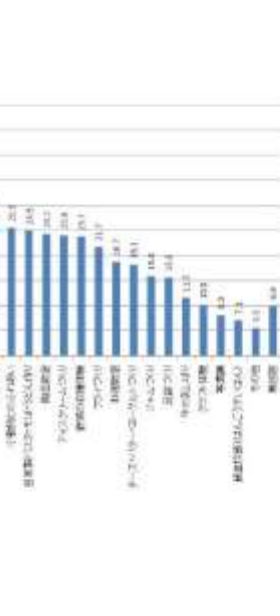
・建築交流拠点で体験してみたいこと　参加してみたいイベントは「いちごやぶなべーりー」の割合が最も高く、次いで「イルミネーション」が43.6%となっています。

■建築交流拠点で体験してみたいこと、参加してみたいイベント（N=836、複数回答）

体験してみたいこと / 参加してみたいイベント	割合 (%)
いちごやぶなべーりー	50.7
イルミネーション	43.6
お祭り	39.4
フェスティバル	36.0
その他(映画鑑賞、アートなど)	24.3

100

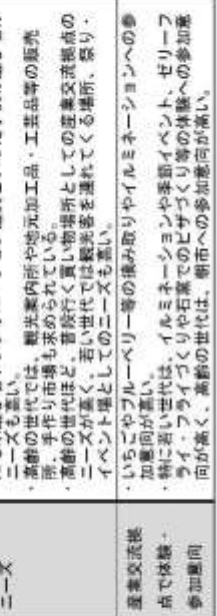
国名	2010年	2011年
日本	100	100
中国	100	100
インド	100	100
ブラジル	100	100
ロシア	100	100
米国	100	100
EU	100	100
韓国	100	100
オーストラリア	100	100
ニュージーランド	100	100
シンガポール	100	100
香港	100	100
台湾	100	100
韓国	100	100
オーストラリア	100	100
ニュージーランド	100	100
シンガポール	100	100
香港	100	100
台湾	100	100

[illegible]

39. 行田市誌

産業交流促進  
品の購入に対して安い値段のものを運ぶ傾向にある。  
・農産物直売所、飲食店、入浴施設が多く、農産物直売所は特に50歳代以上でニーズが高い。

陳利周律師是台灣人民



1000000

と、40歳代以上、



## X

物質を以て、



利用人数	市内	市外
利用人数	約80,000	約20,000

$$x = -x$$

国の利用者に数  
あり、行田市議  
想定されます。  
く、決いでる  
上。

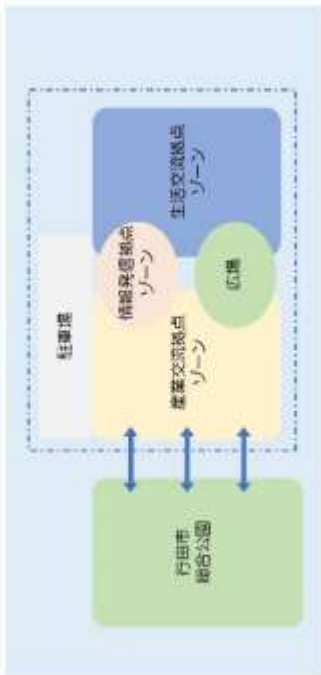


0017-9068/00/0000-0000\$10.00/0



導入機能

10



- 

5

- |    |    |
|----|----|
| は、 | は、 |
|----|----|

10



品名	購入者は	考え方	想定される用途
広場	道交委、地元の協力者を高めるための催しが開催できるようなイベントスペースや地元住民が日常的に利用できるオープンスペースなど、実効性の高い、交流の場となります。		野外ステージ、夜間照明、スケボーリンク、キャンプ場、サイクリングロード、ふれあい植物園、ボールドーム、フットサルコート、水遊び場、ふれあいドーム、ドッグラン、ゴルフ場 など
休憩施設	来訪者が心地よくもにもリフレッシュできる、癒しの場となります。		貴賓施設（会議室、集客場）、休憩スペース、反渇、大浴場、サウナ、宿泊施設 など
飲食店・風情売所	農産物や加工品、工芸品等の販売を行います。		農産物直売所、飲食市場、地産加工品・工芸品等の販売所、コンビニエンスストア など
加工施設	行田ブランドの創造を図るため、地域グルメや新たな食文化等の研究開発を行います。		行田特産品加工所、パン工場、ピザ工場、そば・うどん工場 など
飲食施設	地元の特産品を使用した料理や、健康に配慮した食の提供を行います。		フードコート、流通加工レストラン、フライ・ゼリーフライ専門店、喫茶店 など
体験施設	収穫体験や加工体験により、世代を超えて楽しめる場とします。		ピザターセーター、木材加工場、体験・観光農園、ダンススタジオ、アーチェリー など
駐車場	多くの人に利用してもらうため、十分な規模を確保するとともに、新築や改修の利用に配慮した駐車場とします。		
トイレ	子どもから高齢者、子育て世代の誰もが安心して快適に利用できる施設とします。		
防災施設	東日本大震災以降、道の駅には地震防災拠点としての役割が期待されていることから、防災機能を整備します。		防災備蓄倉庫、貯水場、非常用電源装置 など
診療・福祉・子育て施設	市民が安心して日常生活を送ることが出来るように医療・福祉・子育て施設を整備します。		産婦人科小児科クリニック、保育園、老人ホーム、学童保育所、病児保育所 など
健康づくり	運動役員など、健康増進に資する機能を整備します。		
地域情報発信施設	地域の情報や、市内回外の運動情報など、日常生活の情報拠点として整備します。		観光案内所、地域情報案内所 など
観光情報発信施設	市内の観光施設の情報発信を行います。		



コンサバト及び職員の整備方針に基づき、ゾーニングの検討を行います。



○駐車場、歩道の間に建物と広場があり、駐車場の敷地に緑地が広がる。  
○南北に広く、施設と一体的な利用が可能である。  
○大小、様々なイベントに対応が可能である。  
○道路からわかりやすい。  
○行田市総合公園との関係性を重視し、出ることが出来る。  
○生活交流ゾーンの広場と分離する可能性はある。  
○駐車場、建物は、車庫に一体的な拡張が可能である。  
○生活交流拠点ゾーンの駐車場を拡張する場合、分離する可能性がある。  
○建物が広場の手前にあるため、広場の幅は狭くなる可能性がある。  
○ほぼ正方形で広く、施設と一体的な利用が可能。  
○大小、様々なイベントに対応が可能。  
○駐車場と分離され、安全にイベント等が行うことができる。  
○広場へは建物を通り越して行くアクセスとなる。  
○低圧エリアと隣接しており、拡張時に一体的な利用が可能である。  
○広場と駐車場との間に建物があり、行田市総合公園と一体的な幅わい感を出すことが出来るが、駐車場からアクセスしにくい。  
○生活交流拠点ゾーンの広場と一体的に幅わいを創出することが可能である。  
○駐車場、建物、広場ともに東側に一体的な拡張が可能である。  
○駐車場の間に建物と広場があり、駐車場の敷地に緑地が広がる。  
○建物が道路に近いので、建物の視認性は高い。  
○駐車場からのアクセスがよい。  
○低圧エリアと隣接しており、拡張時に一体的な利用が可能である。  
○行田市総合公園との関係性を重視し、行田市総合公園と一体的な幅わい感を出すことが出来る。  
○生活交流拠点ゾーンの広場と一体的に幅わいを創出することが可能である。  
○建物、広場は、南側と東側に一体的な拡張が可能である。  
○生活交流拠点ゾーンの駐車場を拡張する場合、分離する可能性がある。

組織に施設の運営主体となる組織や団体がいることが望ましいですが、地方組織・団体は施設運営の能力はしても運営資本として参画する意図は平しくないところから、公称により同様の施設運営・経営の承擔をもつ民間企業を決定し、民間資本による施設運営を行うこととする。

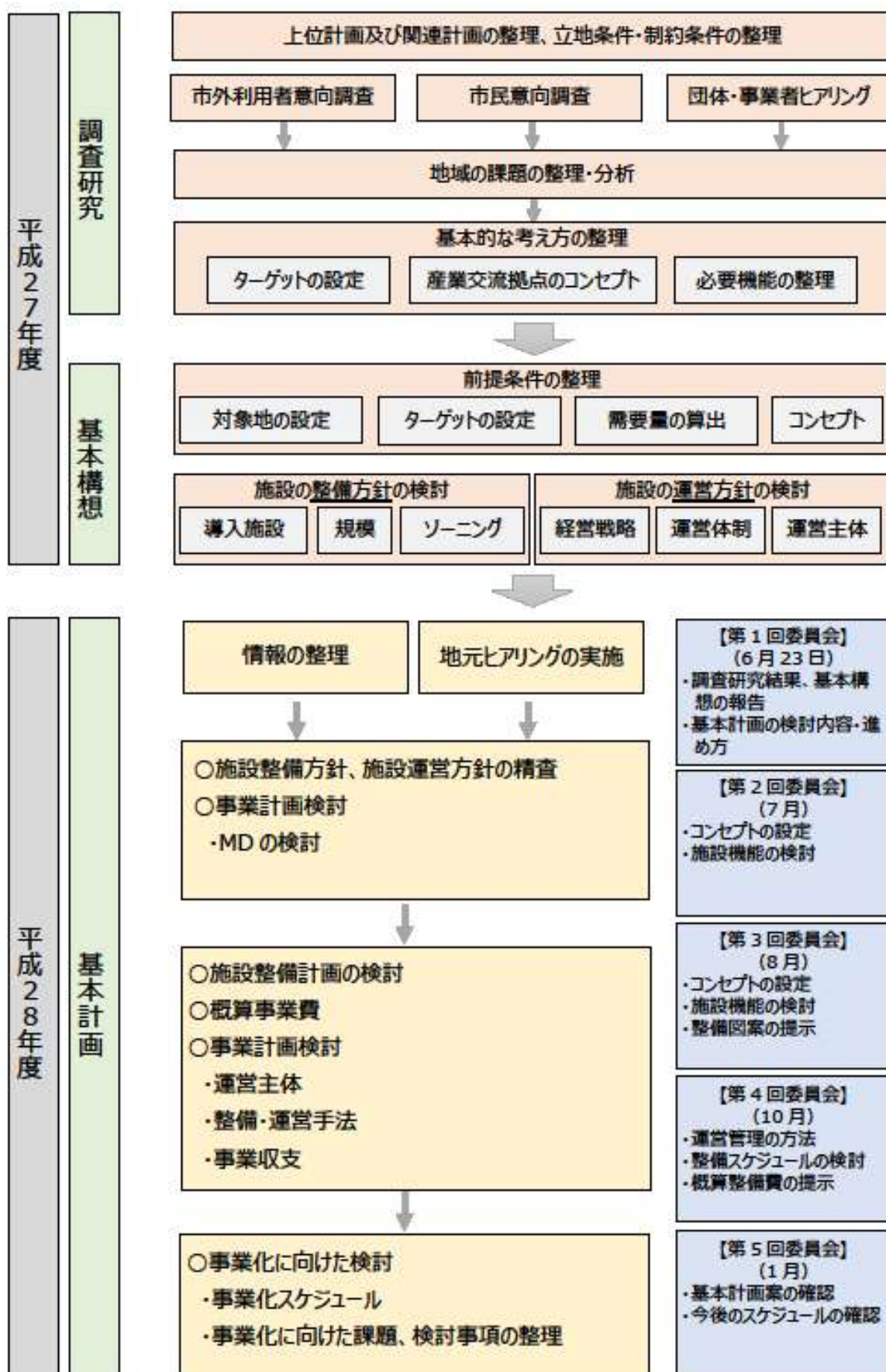
[illegible]

○本造デザイン





## ■産業交流拠点基本計画に係わる検討の流れ



### ③第2回会議録

会 議 の 名 称	第2回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成28年7月26日（火） 開会：18時30分 閉会：20時30分
開 催 場 所	産業文化会館2階第2会議室
出席委員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 市川ひろみ（星宮小学校 PTA） 長谷川浩（農業従事者） 太田 彰（公募市民） 告 広子（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
欠席委員 氏 名	小池利昌（行田市商店会連合会） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会） 大澤和美（長野中学校 PTA）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島、野沢
会 議 内 容	・議 事 1) 事例紹介 2) コンセプトの位置づけについて 3) 導入機能について 4) コンセプトの検討について ・その他
会 議 資 料	・次第 ・委員名簿 ・道の駅事例紹介 ・委員会で検討するコンセプトの位置づけ ・産業交流拠点としての強み・弱み
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者11名



発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	開会 資料確認 委嘱状交付（第一回欠席者のみ）
各委員	自己紹介（第一回欠席者のみ）
小林委員長	議題（１）「事例紹介について」関東道の駅連絡会、泉委員より栃木県の道の駅もてぎの紹介を求める。
泉委員	事例紹介「道の駅もてぎ」
小林委員長	続いて、ランドブレインより群馬県の川場田園プラザと、千葉県の道の駅とみうらの紹介を求める。
事務局	事例紹介「川場田園プラザ」、「道の駅とみうら」
小林委員長	質問等はあるか。
西田委員	丁寧な説明をいただいたが、スタートして現在に至る中で失敗だった、良くなかった等のマイナス点や、反対にこうしたら上手くいった点を説明していただきたい。手を尽くした中で上手くいったことなどが参考になると思う。
事務局	直接ヒアリングをさせていただいた道の駅とみうらの枇杷倶楽部は現在では集客が増えてきているが、開設当初から知られていたわけではなく、地道にPRをした苦労があったと聞いている。 自分達（運営会社）だけのネットワークだけでなく、行政と一緒に地元に入っていくことが出来たことが良かったと聞いている。 また、枇杷を含めた商品開発で、試作品などを作ったが上手くいかなかったものもあった。地道に周知することで商品が売れるようになったと聞いている。
事務局	昨年度、とみうらの創設者に、国の支援アドバイザーとして助言いただいた。第三セクターの運営といっても、公共（行政）で設計をした建物が、お客様の動線と商品を入れる動線を考えていなかったのも、マーチャンダイジング、マーケティングの視点を取り入れて施設の設計をした方が良いとのアドバイスを受けている。
泉委員	道の駅とみうらは、商品価値の無い枇杷を今までは廃棄していたが、それを活用して上手くいった事例である。どのように上手く販売にもっていけるか、という体制を確立した。 また、南房総市は合併した市町村なので、合併後に道の駅間の格差があり、苦労をしたと聞いている。 上手くいくためには、自然とお客様が入ってくるわけではなく、広い範囲でPRすることが必要だと思う。商品開発を重ねながらPRすることで、浸透し人気が出た。
伊藤委員	東京に近い所は道の駅の登録が少ない。今回紹介されていた道の駅もてぎの関東の北の辺りは、日帰り旅行の目的地となる場所である。 そういった点では、行田市は外部からの流入は通過交通のため、目的地と

	<p>してはマイナスになっている。</p> <p>また、成功事例の道の駅はコンセプトがはっきりしている。</p> <p>徐々にでも来客者に対して訴求力となるようなコンセプトが必要だと思う。例えば千葉県にある「発酵の里」や埼玉県の「イチゴの里」という名前を付けた道の駅がある。コンセプトと、それを還元した商品開発が上手く連動していないといけないと思う。</p> <p>駅長だけでなく、店舗を出店する人等もリスクを背負う。成功するであろうという前提のもと、リスクを背負ってでも協力していただく。</p> <p>最近は道の駅の数が増えているので差別化を図るという意味でも地域連携、つながりを作っていくと競争が激しい。</p>
飯島委員	<p>事例紹介で書かれている販売額は、レストランやお土産等、すべての商品を入れた額か。例えば道の駅もてぎの場合、販売額 7 億 2000 万円だが、一人頭 500 円ということか。年間利用者を増やし、食事をしてお土産を買っていただければそれ以上の額になるということか。</p>
告委員	<p>川場田園プラザに行ったが、平日のお昼で多くの人がいた。レストランでは食事ができず、野菜も売り切れており、買うものがなかった。</p> <p>また、ミート工房の商品の値段が決して安くはなく、ワンコインで食べられるものがない。そのせいか、来客がある割には人が少ない印象を受けた。</p> <p>滞在時間が二時間くらいあると子どもにとっては嬉しいかもしれないが、中高齢の人が使える施設が少ない。中高齢が楽しめるものを付加価値としてつけていくことが必要。</p> <p>訪れたとしても買い物はしない、長い時間もいられないとなると、また川場田園プラザに訪れようとは思わない。</p>
泉委員	<p>川場田園プラザは、東京の世田谷と姉妹都市であり、世田谷の子供が年一回は行くことになっている。そういった面で利用者が一定程度はいる。</p>
太田委員	<p>川場田園プラザは場所的な条件が非常に大きい。川場というのは他に観光地があれば成功しないと思う。関越道から 30 分かかり立地が良いとは言えない。</p> <p>また、商品が高いと思う。中高年にとっては広すぎる、疲れる。人工芝があるが、夏は暑くてたまらない。スチームもあるが効いていない。</p> <p>また、条件がすごく良い。食事をして日光方面に下って、東京に帰るという目的地までの中継地点としてはちょうどよい。</p> <p>行田に産業交流拠点として作るということか。作るということが決定していなければ、議論をする意味がなくなってしまう。それをはっきりさせてからの議論を交わさないと意味がない。</p> <p>行田は埼玉県の中でも地理的条件が悪い場所である。各インターから遠く、中央に位置する。それらを一本の線につなげるために産業交流拠点を作るのであれば、紹介いただいた田園プラザの事例は、地理的条件が違い参考にならない。東京から道の駅の行田にわざわざ来るとは思わない。作るのであれば、独創的なものでないと成功しないのではないかな。</p>

西田委員	その意見は意見交換で出したほうがよいのではないかな。
町田委員	川場田園プラザは、株式会社の運営管理になっているが、他のところはどうかになっているのか。また、道の駅は株式会社で運営していることが多いのか。
事務局	公共が出資して会社を作る場合と、指定管理などの民間事業者に運営管理を委託するということがある。
泉委員	道の駅もてぎは第三セクター。 民間の方が運営をして成長しているものもある。そのため、どこまでできるのかという問題があると思う。
小林委員長	事例は参考として紹介いただいた。これが行田に当てはまるわけではない。町との関わり方の参考になればと思う。 次に議題（２）「委員会で検討するコンセプトの位置づけ」、事務局より説明を求める。
事務局	議題（２）「委員会で検討するコンセプトの位置づけ」資料説明
小林委員長	内容について質問はあるか。
長谷川委員	今回と次回のみで、議論がまとまるのか、委員としては荷が重いと感じる。例えば、広場ひとつでもどのような機能を持たせるのか具体的に検討しなければいけない事項もある。これだけの量を残り二回の議論でまとまるのか。
事務局	今回の議論で施設の方針が決まったからといって、第三回で修正できないわけではない。もう一度考え直した結果、新たな意見があれば修正が必要であり、残り二回の議論では足りない場合、第四回の場を検討していくことも考えられる。
長谷川委員	紆余曲折しながらも議論を出し尽くさないと、この委員会が終わった次の段階の際で委員会の意見の食い違いが起きると思い、このようなお話しをした。
大橋委員	コンセプトの意味は多くあるが、役割や目的としてのコンセプトだと認識してよいのか。 若い顧客に対してのコンセプトなのか、行田市として道の駅が誰に対して、どのような目的のために作られるべきなのかによってゴールが異なる。
町田委員	休憩施設、駐車場等が本来の道の駅であるということを利用客は知らないと思う。売店があって、直売所があって、レストランがあってというのが利用者にとっての道の駅だと思う。防災機能が本来の道の駅の役割だということを利用者は知らない。そのため、我々が考えるとすると、道の駅は物産、飲食を入れていかないと利用客がいない、少なくなると思う。 行田市としての位置づけでPRしていくというのはどうなのだろうか。 今後の話になると思うが、例えば、隣にある総合公園を高校野球予選ができる規格や硬式テニスの試合ができるようにし、利用客を高めた上で、隣の施設との行き来ができれば、年間の利用客が増えるのではないかなと思う。

	<p>都市計画課の職員を交えて、一つの計画だけでなく周りの学校や施設を活用していくことが、行田の弱さの改善に繋がるのではないかと。</p> <p>体系を民間に委託するのか、行田市が株式会社をつくり運営していくのか、という部分が見えてこない。民間がやるとしたら、民間のやりやすいようにやるべきだが、行田の特産など関係なく、売れるものを売ようになると思う。それが一番運営していく上で問題ないかもしれないが、その部分が見えてこないと分からない。民間も入れながら検討すれば、行田市の特産物の売り場を作る検討ができる。</p> <p>運営を行政出資の株式会社で行う場合や、民間で行う場合などの幅を持たないと内容が進まないのではないかと。</p>
事務局	<p>施設としてどういったものを作るかというコンセプトであって、顧客に対するコンセプトではない。伊藤先生のお話にあった「発酵の里」、「イチゴの里」のようなコンセプトは顧客に対する売りとなる。まずは、施設としてどのようなものをつくるのかといったコンセプトを出した後に、行田市の売りを考えていきたいと思う。行田市に必要な強み弱みを見ていただきながら、必要な施設を考えていただきたい。</p> <p>長所を生かす、短所を補うことも考えられるが、まずは施設としてどのようなものがあるのかを考えていただければと思う。その後に、意見にもあった利用客を、どう集客していくかということに繋がっていくのではないかと考えている。</p>
太田委員	<p>公共をメインにして造るなら、北に造る必要はない。市内に造ればよいと思う。私は埼玉地区に住んでいるが、遠い場所にはいかない。公共施設を作るなら、ここ（市役所周辺）だと思う。</p>
飯島委員	<p>飲食施設や直売所は周りに多くある。集客を考えたら、敷地全体で考えて、例えば、野外活動センターにコテージ、森があって、私の考えとしては敷地を森にすればいいと思う。森の中に直売所があり、遊べる、泊まれるようなもの。夏休みに子どもに体験させることもできる。</p>
町田委員	<p>直売所や飲食施設は、行田市の方に使ってもらおうと考えるのではなく、コンセプトとしては行田市に寄ってもらう人という考えがよいと思う。二時間じゃなくてもよいので、行田市に寄ってもらうだけで十分だと思う。行田市は通過する街だと思っていて、通過する人に上手く寄ってもらおう考え方がよいと思う。行田市は、観光というよりは見学として寄ってもらおうところだと思う。</p> <p>インターから離れていることは弱みではなく、通過客を捕まえることに意味がある。会社だろうが携わる人間の努力。直売所や飲食施設は、コンセプトで言えば行田市を通過する方に使ってもらう部分だと思う。防災機能だとすれば、何かあったら行田市の人のためになると考えれば良いかと思う。</p>
小林委員長	<p>どういう機能でどういうものを行田で求められているかというところからコンセプトが生まれてくる。</p>

事務局	<p>ポストイットに事前に考えてきていただいた内容を記入願いたい。赤にイメージ、青に具体的な施設。ポストイットは何枚使っても良い、1つずつ書いてもらいたい。枚数が合わなくてもよい。</p>
	休憩
事務局	<p>今日全部まとめる時間はないと思う。「どんな」というところでキーワードが整理出来れば。次回に検討頂きたい。</p>
	<p>「コンセプト導出に係る事前記入シート」を基に、①施設のイメージと②機能について各委員より発表</p>
大野委員	<p>高速道路と高速道路の間なので、夜間停泊の出来る場所。キャンピングカーに対応した場所。災害時に各飲食店の機材を出せる。</p>
西田委員	<p>終の棲家の街として、C C R Cにしたらどうか。宿泊施設にお金をかけないで、住宅展示場で提供してもらう等。</p> <p>古民家が魅力。ビルではなく点在する施設。</p> <p>外国人を呼べる和や歴史の魅力。九州パンケーキのような、ブランドを作り上げて喫茶店で出す等。</p> <p>さきたま古墳などの魅力ある施設を繋げる。自転車では不可能なので市営バス等で、はとバスのように。</p>
岩田委員	<p>行田の強みである農業に着目。ありきたりかもしれないが、市内農産物を使ったレストランや直売所、食品加工センターのような施設。</p> <p>差別化を図るため、新たな農産物の開発。販売目的と合わせて観光農業の提案。マンゴーなどビニールハウスを使って南国フルーツ園。他にはない生産物、観光物をつくり、強みになれば。</p> <p>交通利便性が弱いという市民意識調査結果。125号バイパスに高速バスのターミナルを検討。</p> <p>緑に囲まれたコンパクトなイメージから、日帰り体験農園、クラインガルデン、温泉、足湯、BBQ場等。</p>
吉田委員	<p>ぜひ地元が普段使いできる飲食店も入れて欲しい。</p>
泉委員	<p>市の防災計画に踏み入れた施設として、避難所や待避所にしていただければよい。</p>
大橋委員	<p>カスタマーが求めるものを導入すべき。</p> <p>直売所では農産物生産者の顔が見える、食育・野菜ソムリエがいると安心感がある。</p> <p>飲食店はSNSでの拡散性が高いので、地域イメージやコンセプトに近いものを盛り込んだテイクアウトメニューの開発が必要。</p> <p>若い層をターゲットにするならレジャー施設が必要。基本無料にし、付随施設や飲食店でお金を落としてもらう方がよい。</p> <p>観光案内所にはパンフレットを並べるだけではなく、街に行きたくするような仕掛けが必要。</p> <p>加工品販売所ではインターネット販売も同時にやっていく。</p>

	<p>ハードは変えられないがソフトは変えられるので、体験ができるイベントを作り続けることが必要。</p>
太田委員	<p>行田は米づくりが盛ん。昨年田んぼアートがギネス認定された。今年はドラゴンクエスト30周年の絵をやっている。今のところ展望台にもかなりの人が来ている。道の駅周辺にも巨大迷路やオーナー制度も考えてよいと思う。</p>
告委員	<p>今人気の甲冑隊のステージで人を呼び込む。          女性がお花を楽しめる体験。ターゲットは女性がよいと考える。          健康増進、体力テストができる。食事の合間に体験できるものがよい。          フードコートのゾーンは、ありきたりな道の駅にあるものと飽きられてしまう。リピーターが大事なので、そこに行かないと食べられないものの商品化の強化が必要。</p>
市川委員	<p>地元の人が利用する道の駅として考えた。天気が悪くても安心・安全に室内で遊べる場所。小学生も中学生も幅広い層が遊べる場所。ついでに役所の手続きができる出張所があると便利。          行列が出来るようなメイン商品があればよい。          コンビニは欲しい。全体的にリーズナブルなお店がよい。</p>
堀口委員	<p>歴史をアピールする、小さい子供が遊べるアスレチックを古墳の形にする等。          地域交流、甲冑隊のイベントができる野外ステージがあるとよい。          24時間休憩できる場所と夜間閉鎖するところを区別して造る必要がある。          避難施設としては立地がよい場所になるのではないかな。          料理を教える機会があるが、みんな自分で料理をすることを喜んでいる。ぜひ料理の体験ができる調理室が欲しい。車いすでも使えるようになるとよい。</p>
大篠委員	<p>きれいなトイレ休憩施設があればよい。</p>
長谷川委員	<p>女性がターゲットになってくると思う。楽しい・美味しい・美を求めることで消費行動へ。全体のコンセプトは女性の欲求に訴えるものがよいと思う。          RVパークが全国に展開されている。泊まれる車で来ればゴミ捨て、お風呂も入れて、駐車場が宿泊場になる。道の駅に併設されているところもある。電源が取れるのがよい。          行田は観光地の手前でもない。通過点であるけど、朝早くに蓮の花を見に行くとしたら夜泊まる。そういうときによいと思う。          温浴施設、スーパー銭湯のようなところでスタンプラリー等。水が豊かなところなので、地下水源を上手に使ったコンセプト。          田んぼアートが昨年ギネス認定されたが、足袋はまだギネスにないので、足袋も世界一の記録をつくり、仕掛けをしながら足袋を楽しんでもらえると良い。足袋は行田の名産品で、夏でも快適である。暑い行田と快適な足袋というPRが出来ると考える。</p>

	<p>粉で作る文化があるので、米粉・小麦粉・大豆粉のベストミックスを作る。</p> <p>二次的食品加工施設で、見学ができて食べられる施設。今後、すぐでなくてもよいので。</p>
町田委員	<p>何千人単位の自転車の大会がある。自転車族のたまり場となるような、横丁のように両側に広いスペースに店舗を配置し、地元の商店街が出店できたらありがたい。</p>
小林委員長	<p>本日出た意見を細かく分類して、事務局で取り纏めたものを皆さんに送る。次回意見を一覧表にして、機能と施設の関連付けをする。</p> <p>本日はたくさんのご意見を頂いた。また帰宅して面白い発想が思い付いたら、次回聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>事務連絡。</p> <p>今回は8月17日（水）を予定。時間・場所は追って通知する。</p>

## 第2回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

### 次 第

日時：平成28年7月26日（火）

午後6時30分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

1. 開 会

2. 議 事

1) 事例紹介（道の駅もてぎ：関東道の駅連絡会 泉氏）

（道の駅川場田園プラザ：ランドブレイン）

（道の駅とみうら：ランドブレイン）

2) コンセプトの位置づけについて（事務局説明）

3) 導入機能について（意見交換）

4) コンセプトの検討について（意見交換）

3. その他

4. 閉 会



## 全国モデル 道の駅」 全 6 箇所

(地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型)

主な機能	都道府県	市町村	設置年度	駅名	主な特長
観光総合	群馬県	川場村	H8	川場田園プラザ	農業プラス観光」で人口約 3,700 人の村に年間約 120 万人が来訪。リピート率は 7割。
	栃木県	茂木町	H8	もてぎ	真岡鉄道の SL やサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能。
	千葉県	南房総市	H5	とみうら	ピワ狩り体験企画など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売。観光バス 3,000 台誘致。

(地域の元気を創る地域センター型)

主な機能	都道府県	市町村	設置年度	駅名	主な特長
産業振興	山口県	萩市	H13	萩しーまーと	隣接する漁港から新鮮な海産物が直接店頭 に並び、地産地消にも貢献。地元加工業者と高付加価値商品を開発し、地域に貢献。
	愛媛県	内子町	H8	内子フレッシュパークからり	生産者自らが運営に携わり、特産品を活かした加工食品の開発販売等、約 60 名の雇用を創出。
防災	岩手県	遠野市	H10	遠野風の丘	東日本大震災時は、後方支援拠点として機能。広域防災拠点として高度な防災機能を分担。

- 柚子、エゴマ等の特産品を加工する「もてぎ手づくり工房」を整備し、「道の駅」を核とした6次産業化を推進。
- 「道の駅」が、農産物の生産指導から全量買取、33種類のオリジナル商品を開発、販売まで実施。
- 地域ならではの地場産品の提供、真岡鉄道のSLやサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとして、**地域センター機能とゲートウェイ機能を兼ねるにぎわいの核として定着。**
- 既往災害(昭和61年洪水)の教訓から、**地域に根差した防災啓発のために茂木町防災館を備え防災井戸を設置。**

年間利用者: 約144万人 販売額: 約72億円 雇用: 73名



- 「農業プラス観光」で自立する群馬県川場村の産業、情報、交流の核として人気の道の駅「川場田園プラザ」。
- 農産物や観光名所など、豊富な地域資源へのアクセスポイントとして、「道の駅」を目的地とする新たなニーズを掘り起こし、**人口約3700人の村で、利用者数約120万人(リピーターが7割)を誘致。**
- 駅での販売(約10億円)、雇用創出(80名)に加え、**ファーマーズマーケットの出荷登録(420名:村内農家の93%)などを通じて経済・地域活性化の効果は、地域に広く波及。**

年間利用者: 約120万人 販売額: 約10億円 雇用: 80名





- 地域特産のピワを道の駅が中心となり、加工、オリジナル商品を開発(ピワ関連商品50種類)。従来の規格外品の活用や需要安定により生産農家の経営安定に貢献。
- ピワ狩りや体験企画、菜の花など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売、観光バス3000台を誘致するとともに、地域の100事業者に効果が波及。
- 人形浄瑠璃などの地域文化の発信や、地元産野菜・花卉のマルシェ、観光案内人の常駐、非常用電源などの防災設備など、地域の拠点として多様な機能を発揮。

年間利用者：約50万人 販売額：約5億円 雇用：約60名



## 「道の駅」を核とした6次産業化

「道の駅」が中心となり特産のピワを加工、オリジナル商品(50種類)を開発、販売



## 地域固有の観光資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み

観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売  
(道の駅が旅行業資格を取得)



## 地域の伝統・文化の継承、交流のための取り組み

富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用



# 道の駅「川場田園プラザ」 群馬県川場村 平成8年開駅

- 「農業プラス観光」で自立する群馬県川場村の産業、情報、交流の核として人気の道の駅「川場田園プラザ」。
- 農産物や観光名所など、豊富な地域資源へのアクセスポイントとして、「道の駅」を目的地とする新たなニーズを掘り起こし、人口約3700人の村で、利用者数約120万人（リピーターが7割）を誘致。
- 駅での販売（約10億円）、雇用創出（80名）に加え、ファーマーズマーケットの出荷登録（420名：村内農家の93%）などを通じて経済・地域活性化の効果は、地域に広く波及。



道の駅「川場田園プラザ」  
群馬県川場村  
人口約3,700人  
面積約85km<sup>2</sup>  
(主)平川横塚線(単独型)

## 田園プラザ構想

### <基本理念>

川場村の産業、情報、交流の核であるタウンサイトの形成を目指す

- 地場産品PR・直販による消費促進
- 村民・来村者の交流・情報交換の場
- 来村者の飲食・購入ニーズに応え、村内消費拡大
- スキー場へのシャトルバス等、村内交通ターミナル機能
- 若者就業機会を増やし、定住、U・Iターンの促進

株式会社 田園プラザ川場(平成5年4月1日設立)

年間利用者: 約120万人 販売額: 約10億円 雇用: 80名

## 農業プラス観光

・園内では朝取り野菜・ブルーベリーや乳製品などの地域資源を活かし、果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供。



## 地域のゲートウェイ

・観光協会スタッフがビジターセンターに常駐し、宿泊、体験施設など、地域全体の観光案内

「道の駅」を入口に  
地域の魅力をネットワーク



川場村の  
観光資源



## 特産品の開発

- ・ミルク工房  
飲むヨーグルト
- ・ミート工房  
ハムソーセージ各種
- ・ビール工房  
地ビール各種
- ・パン工房  
食パン、菓子パン、食事パン  
等各種、アップルパイ
- ・ブルーベリー館  
おきりこみ(あかくら)、各種  
ジュース、ジャム類等販売
- ・そば処  
自粉を使用した手打ちそば  
(減反政策、川場村産そば粉  
の付加価値のアップ)
- ・レストラン  
川場産農産物を活用した料理  
を提供



道の駅「川場田園プラザ」 群馬県川場村 平成8年開駅



## 道の駅「川場田園プラザ」の概要

## 入口外觀



## ファーマーズマーケット内観



## 物産センター





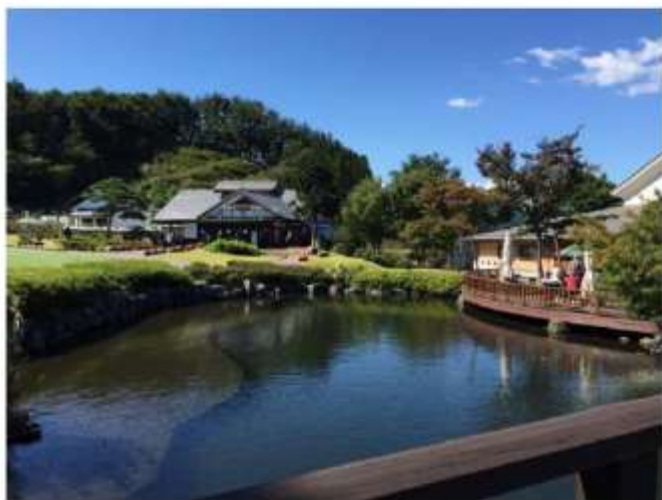
## ピザ工房



## ミート工房



## レストラン周辺



## プレイゾーン





## 情報発信



● このページの先頭へ

## 「株式会社 田園プラザ川場」の概要

### 会社概要

設立	平成5年4月1日
資本金	90百万(うち主な出資団体名 川場村 出資割合60% 他9団体)

### 活力ある地域社会の形成に貢献

1. 就業機会の拡充
2. 地場産品のPRや村内消費が促進
3. 村の交通のターミナル機能を有するようになった。
4. 新たな特産品の開発と販売促進が実現された。
5. 農地の遊休化の防止が図られている。
6. 村来者と村民の交流場所の提供

### 事業経過

- ・平成05年 株式会社田園プラザ川場発足
- ・平成06年 ミルク工房営業運転開始
- ・平成07年 ミート工房営業運転開始、**ファーマーズマーケット営業開始**、公衆便所完成
- ・平成08年 プラザセンター、研修施設、ふれあい橋(**道の駅の登録**)
- ・平成09年 そば処営業開始
- ・平成10年 ビール工房、パン工房、レストラン、物産センター営業開始(**田園プラザランドオープン**)
- ・平成14年 ブルーベリー館、ブルーベリーの丘 開設
- ・平成20年 食事処あかくら
- ・平成21年 **ホテルSL業務開始**

# 道の駅「とみうら」 千葉県南房総市 平成5年開駅

- 地域特産のビワを道の駅が中心となり、加工、オリジナル商品を開発(ビワ関連商品50種類)。従来の規格外品の活用や需要安定により生産農家の経営安定に貢献。
- ビワ狩りや体験企画、菜の花など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売、観光バス3000台を誘致するとともに、地域の100事業者に効果が波及。
- 人形浄瑠璃などの地域文化の発信や、地元産野菜・花卉のマルシェ、観光案内人の常駐、非常用電源などの防災設備など、地域の拠点として多様な機能を発揮。



年間利用者: 約50万人 販売額: 約5億円 雇用: 約60名  
敷地総面積: 8,600㎡(うち駐車場面積3,200㎡)



マルシェ

インフォメーション  
カウンター

ショウパレの展示

## 「道の駅」を核とした6次産業化

「道の駅」が中心となり特産のビワを加工、オリジナル商品(50種類)を開発、販売



地域特産のビワを加工



オリジナル商品の開発

## 地域固有の観光資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み

観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売  
(道の駅が旅行業資格を取得)



地域の様々な観光資源

例)日帰りバスツアー誘致



観光バス立寄り台数  
約3000台(9万人)

(※観光バス立寄り台数は2019年度実績)

びわ狩り  
いちご狩り  
レストラン  
体験教室  
観光名所 等

地域100事業者

## 地域の伝統・文化の継承、交流のための取り組み

富浦人形劇など、地域の伝統・文化の継承の場としても活用



富浦人形劇



自然観察 土曜学校



## 運営・管理

- ・ 南房総市の直営施設、「株式会社ちば南房総」(第三セクター)

## 周辺の施設や団体と連携

### ・ 安房道の駅連絡会

南房総市、館山市、鴨川市、鋸南町の12駅で構成し連携をとっている。各道の駅でお金を出し合いスタンプラリー付のパンフレットをつくって各道の駅をまわってもらえるようにしている。また、共同でオリジナル商品開発をして販売をしている。

### ・ 南房総市内道の駅連絡会

【花のBtoB】市内の道の駅の花をまとめて、東北の道の駅へ卸している。東北から南房総市の花をアピールしている。

### ・ ポケットパンフレット

地域の飲食店や観光施設の情報を名刺サイズのパンフレットにまとめ、入口の手の取りやすい場所に設置している。道の駅に集まるお客様を地域へ行ってもらうように促している。

- ・ 体験プログラムは地域と連携して、枇杷狩り、いちご狩り、花摘み等を行っている。
- ・ NPOと連携して、ガイドと一緒に地域をまわり地域を紹介するツアーを行っている。
- ・ 体験メニューは手数料として3%~10%をもらっている。
- ・ JRを誘致している。中吊りなどで宣伝をしてくれるので、お客様が集まる。



道の駅「とみうら」 千葉県南房総市

## 外観・周辺道路



## 内観



## テラス



## 足湯





## 売店・レストラン



## 商品



## ウォーキングコース

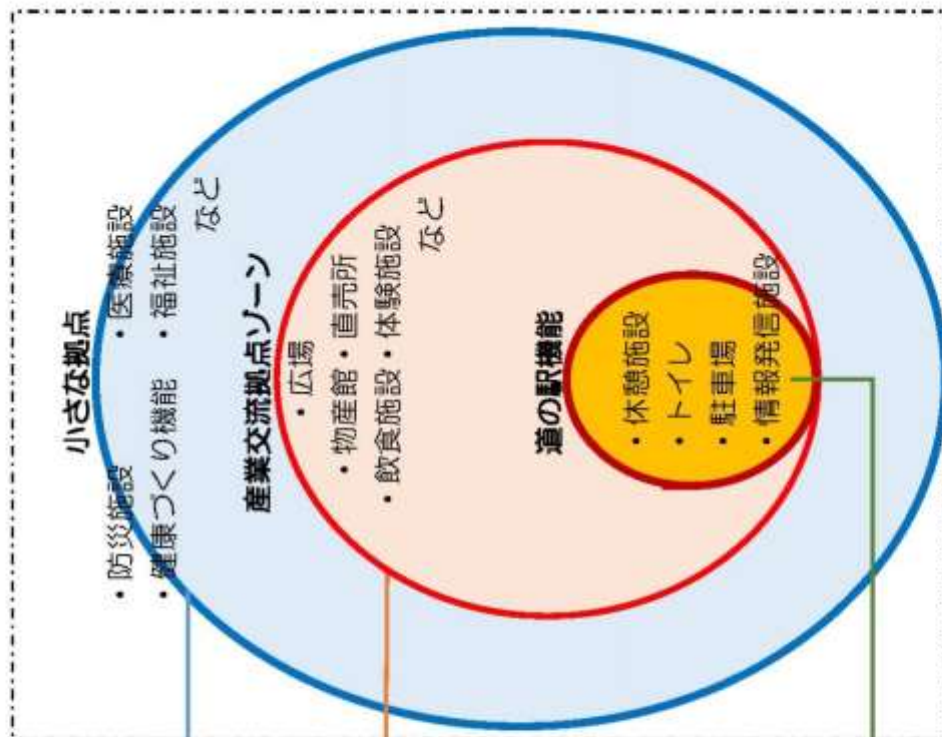


## 委員会で検討するコンセプトの位置づけ

国土交通省がすすめる小さな拠点としての役割	
道の駅機能等に加え、医療・福祉機能等を含めた複合拠点。	
コンセプト キーワード	“健康”をテーマとした地域循環型の産業・生活 交流拠点から広域的な行田まるごと情報発信拠点へ
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災施設</li> <li>・医療施設</li> <li>・子育て施設</li> <li>・健康づくり機能</li> <li>・福祉施設</li> </ul> など

産業交流拠点ゾーン	
小さな拠点の中に含まれる。	
コンセプト キーワード	<b>第2～3回委員会での検討事項</b>
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広場</li> <li>・物産館・直売所</li> <li>・飲食施設</li> <li>・体験施設</li> <li>・加工施設</li> </ul> など
↑具体的な機能について、第2～3回委員会で検討	

道の駅としての機能	
産業交流拠点の中に含まれる。	
コンセプト キーワード	-
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩施設</li> <li>・トイレ</li> <li>・駐車場</li> <li>・情報発信施設</li> </ul>





## 産業交流拠点としての強み・弱み

## ①産業交流拠点としての『強み』

## 【現状・立地】

- 通勤時間等の交通量が多く、大型車の交通も多い。
- 行田市総合公園と隣接しており、イベント時の利用者が多い。
- 市内には苅城址、古代蓮の里、田んぼアートなどの観光資源に恵まれている。

## 【市民意識調査】

- 道の駅には、立ち寄りやすさや品揃えの良さ（特に農産物）が求められている。
- 農産物販売所には、他の販売所の情報発信や共通のポイントカードの導入（特に若い世代）など、連携した取組も求められている。
- 喜捨食料品、日用品を購入する場所には、距離の近さ、品揃えの良さ、扱う品物の良さが求められている。
- 高齢の世代ほど、品揃えの良さが求められる。
- 農産物販売所、飲食店、入浴施設、観光案内所、イベント広場、金融機関・ATMのニーズが高く、農産物販売所のニーズは高齢の世代ほど高い。
- 若い世代では、入浴施設、レジャー施設、コンビニエンスストアなどのニーズが高く、他にも水遊び場やレクリエーション遊具、イベント広場、農園・収穫体験施設といった子どもの遊び場や昼食・子育て施設などの地域拠点機能ニーズも高い。
- 高齢の世代ほど、観光案内所、地元加工品・工芸品の販売所や手作り市場のニーズが高い。
- 産業交流拠点でのイベントとして、いちごやブルーベリーの摘み取り、イルミネーション、柿市、石窯でのピザ作り、季節イベントのニーズが高い。
- 若い世代ほどイルミネーション、屋台祭り、ゼリーフライ作りのニーズが高い。
- 高齢の世代では、普段行く買い物場所としてのニーズが高く、若い世代では観光客を連れていく場所、祭り・イベント場としてのニーズが高い。

## 【団体意向調査】

- 産業交流拠点との連携について、イベントでの連携ニーズが高い。

## 【市外利用者意識調査】

- 利根川、埼玉古墳群、苅城址、古代蓮の里などの観光資源や、フライ・ゼリーフライの認知度が高い。
- 埼玉県内、栃木県、茨城県、群馬県からの来訪ニーズが高い。
- 地域資源の観光、行田市ならではの料理、特産品の購入に對しての来訪ニーズが高い。
- 若い世代と比較して、高齢の世代の道の駅での利用頻度、滞在時間、消費金額が高い。
- 農産物販売所、飲食店、地元加工品の販売所、観光案内所、入浴施設、コンビニエンスストアのニーズが高く、農産物販売所のニーズは高齢の世代ほど高い。
- 若い世代ほど、金融機関・ATMやコンビニエンスストア、レジャー施設のニーズが高く、高齢の世代では地元加工品・工芸品も求められている。
- 行田市の道の駅の来訪意向は、30～50歳代のニーズが高い。

## ②産業交流拠点としての『弱み』

## 【現状・立地】

- 周辺の観光施設との連携、情報発信が少ない。
- 行田市を代表する特産品がない。
- 市街化調整区域に位置し、周辺の日常生活を行う地域住民が少ない。
- 運営主体となる民間団体がなく、地産活動団体の連携が少ない。
- 農産の衰退と担い手が不足している。
- 農家の高齢化が進んでいる。

## 【市民意識調査】

- 高齢の世代と比較して、若い世代の道の駅の利用頻度が低い。
- 市内に気軽に入れる飲食店が少ない。
- 市内に子供の遊び場が少ない。

## 【先進施設ヒアリング】

- 農家の高齢化。
- 労働人口減少による人材不足。
- 運営方法の確立（第3セクター、指定管理等）。
- 継続的な収益の確保。

## 【市外利用者意識調査】

- 高齢者と比較して、若い世代の行田市への来訪意向が低い。
- 高齢者と比較して、若い世代の道の駅の利用頻度が低い。
- 行田市及び観光資源の認知度が低く、特に若い世代が低い。



## ⑤第3回会議録

会 議 の 名 称	第3回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成28年8月17日（水） 開会：18時00分 閉会：20時00分
開 催 場 所	産業文化会館2階第2会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 小池利昌（行田市商店会連合会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会） 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 市川ひろみ（星宮小学校PTA） 大澤和美（長野中学校PTA） 長谷川浩（農業従事者） 太田 彰（公募市民） 告 広子（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
欠 席 委 員 氏 名	大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：水嶋、石村、福島、野沢 M&D研究所：濱田、杉村
会 議 内 容	・議 事 1) 検討委員会の開催回数の変更について 2) 第2回委員会のまとめと事業者ヒアリング結果の報告 3) コンセプトについて 4) 導入機能について ・その他
会 議 資 料	・（資料1）次第 ・（資料2）平成28年度 行田市産業交流拠点基本計画検討委員会の変更について ・（資料3）第2回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会-結果概要 ・（資料4）ヒアリング結果概要 ・（資料5）事業者ヒアリング、第2回委員会を踏まえたコンセプト及び機能の整理 ・（資料6）コンセプトの基づいた機能の整理 ・（資料7）整備イメージ
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者6名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	開会 資料確認
小林委員長	議題（１）「検討委員会の開催回数の変更について」説明をお願いします。
事務局	資料説明（資料２）
小林委員長	議題（２）「コンセプトについて」説明をお願いします。
事務局	資料説明（資料５）
小林委員長	コンセプトについて意見はあるか。
事務局	以前に送った資料の中から、裏面にコンセプト案等、簡単なものを書いていただけたらと思う。そちらを参考にしてもらうか、他社のコンセプト案を参考に出していただけたらと思う。
事務局	<p>資料５について、どういう意図でこのようなキーワードが出てきたか詳しく説明をしたい。和や城下町という意見があった。健康や農業というテーマもあり導入機能にもなるのではないか。</p> <p>事業者のヒアリングの中でも、城下町や足袋といった和のイメージがあったこと、事業者たちの取組を聞いていると農業というのが産業交流拠点としては大きなテーマになってくるのではないか。</p> <p>歴史文化、未来の発信拠点と書かせてもらっている。これまで行田が成り立ってきた経緯も含めて産業の中では農業が中心になっていると思うが、それを融合させて新しい拠点を作っていく必要があるのではないかというイメージでキーワードを出している。</p> <p>大きく二つ、「城下町」と「アグリ」と書いているが、これは皆さんの意見から挙げさせてもらったキーワードである。</p> <p>今後の様々なキーワードや融合できるコンセプトを考えていかないといけない。特に産業交流拠点なので「アグリ」については、農業の振興だけでなく、そこで観光や体験でき、行田市の農産物を育てるだけではなく体験を通じて人材が育成でき、今後の行田市の産業の発展に繋がるといった意味も込めて「アグリ」というキーワードを出している。</p> <p>大きく二つのキーワードで皆様に共有してもらえるのか、他にもキーワードがあれば出してもらいたい。</p>
小林委員長	ご意見はあるか。
西田委員	コンセプトの中で歴史はどこから始まるのかと思うと、もう少し古いさきたまの文化や古墳などから始まってよいのではないか。
大野委員	<p>行田は足袋の町であり、ものづくり大学がある。</p> <p>この二つ（城下町・アグリ）の分野プラス、新たな足袋の分野やものづくりの分野を入れる。ものづくり大学の木造建築は素晴らしいのでそれをコンセプトに、新たに三つ目のサークルを作って入れていただくのはどうか。</p>
告委員	羽生のパーキングは鬼平犯科帳のテーマであるが、上物だけで中はなにもなく期待外れだった。体験してお金を落としていかないと道の駅として役割を果

	<p>たせないと思う。建物だけではなくこれに伴って付随した城下町を謳うなら、プラス体験や足袋を入れていく等、また来たくなるような場になればと思う。</p>
長谷川委員	<p>これからこういった機能を入れるかというときのコンセプトの考え方で、全体的には集客をするためのコンセプトを立てているところがあり、最終的にはうまく融合するのがよいが、行田にしかない歴史もたくさんあるので、コンセプトだけでワクワクするような内容があれば。それは体験なのかもしれないが、より未来に向かって楽しそうな物ができればよい。他市の道の駅のコンセプト例には行きたくなるような内容はなかった。</p>
伊藤委員	<p>前回の話で印象に残ったのは、通過するだけの場所という話があったが、悪い意味で捉えることもできるが、よい意味で捉えられるとよいと思う。人が行き交う場所、通過するだけではなく、途中の通過点でしかないような特徴が出せればよい。場所の通過点だけではなく歴史の行き交う場所という位置づけもできるかもしれない。コンセプトは抽象的なものでもいいかもしれない。</p>
町田委員	<p>行田市自体は、古墳や田んぼアート、古代蓮等あるが、一泊するようなところではないので、昔で言うドライブインのようなイメージ。125号バイパスを通ると必ず寄りたくなる場所为好いと思う。</p> <p>行田市の入り口、玄関というイメージ。行田市全体が博物館のような感覚である。古代の蓮が咲いて、古代の古墳が残っていて、お城があり、足袋がある。博物館が市内に点々とある。街の歴史博物館の入り口というコンセプトはどうかと思う。</p> <p>ここに書いてあるもの全部を入れると大変なものになる。その大きな入り口というイメージがよいのでは。</p>
小池委員	<p>特徴のない県であるが、行田市がさいたまの名前の発祥であることを使って、埼玉県全体を考えて、行田市に全部取り入れてしまう。物産でも埼玉県で有名なものがあればそれを取り入れてしまう。</p> <p>リピーターを作れるように、行って喜ばれる物にしないと。それが何かは分からないが、変わった物にしないと、道の駅自体がダメだというのが私には根底にある。採算度外視することは出来ないので、皆さんに何が喜ばれるのか考え採算が取れるものをコンセプトにもっていくのはどうか。</p>
戸塚委員	<p>忍城で物産品の販売をしているが、観光客は「忍城（おしじょう）」が読めない事が多い。「忍」の字が外国人にうける。忍者のことを取り入れてほしい。観光として、外国人に向けた時に面白いと思う。</p>
西田委員	<p>昔はもっと農業が栄えていたが、最近は野菜が少ないと感じている。農業が古いものではなく未来のビジネスとして捉えている方がいるので、育成や方向性を出す。安定したものを作るのは大変だが、中古のコンテナで苗をつくっているのを見た。もともとはビニールハウスで作っていて、温度管理が難しく安定してなかったが、中古のコンテナは1個100万円ぐらいだが、それを導入したら安定して収穫できるのでだんだん増やしていき、今は年商30億と言っていた。苗を買おうとしたとき、地元の苗はなかなかなく、群馬の物や他所の物</p>

	<p>が多い。事業として「アグリ」と見たときに、苗から作って育成していけば、農家も増えていくのではないかなと思う。</p>
小林委員長	<p>資料5でお示ししているのは、行田の歴史と未来。皆さんの意見から出て来たもの。城下町の歴史と産業では「アグリ」。</p> <p>農業と行田市の繁栄という考え方、それ以外にも意見が出ているが、今日決定をするわけではない。ある程度方向性を出してターゲットを絞って最終的なコンセプトを出したい。</p>
伊藤委員	<p>資料も前回の話を良くまとめられていてよいが、城下町、実際の施設の機能は問題ないが、将来を考えていくとこれをメインに、コンセプトの二本柱に押し出していくのはどうなのかなと思う。</p> <p>今日の話を踏まえてもう少し工夫してもよいのではないかな。</p>
告委員	<p>北津軽市でりんごとメロンの一坪オーナーというのがあった。りんごやメロン、ひとつ五千円ぐらいする物が収穫した時に送られてくる。魅力的であったのは、一坪オーナーに申請すると収穫ツアーに東京から青森まで2泊3日で3万円以上かからないとなっていて、往復新幹線だけでも3万円以上かかる中、25人体験できるとなっていた。</p> <p>りんごの方で申請したら再々抽選で当たったので、参加してりんごの木を見てきた。そこでメロンを収穫し試食したら美味しかったので、8人にお中元で贈ったら、大変喜ばれた。普通に広告しても今はインターネット等もあるので、それだけではなくプラスαになる収穫ツアー等で人を集め、実際に食べてもらって人から人へ口コミで伝わっていく。人間がピーアールマンになることがあると思う。道の駅に来てもらうことはもちろん、プラスで何か連動して行っていくといいかな。東京駅から行田青大豆収穫ツアーやオーナー制度をつくる等、何かやり方があるのでは。</p>
小林委員長	<p>東京や全国的な活動を受け入れるという発想は面白い。都市との交わりもあり、東京の人を呼べるのが一番いい。</p>
長谷川委員	<p>自分で収穫して食べたいという欲求は皆さん多くもっているようで、数年前に青大豆の体験ツアーを請け負った経験があるが、美味しい物の体験を併せていると、人を呼べるのではないかな。</p> <p>田植え体験もしているが、植えたり種を蒔いたり最初から最後までできるとよいが、年間何回も足を運ぶのは難しく集客は期待できない。</p> <p>農業＝食べるもの、食べる＝健康につながる。食べて健康になって楽しくなるようなものがワンセットにできるとよい。行田に来られない人でもパッケージで特別に呼べるような仕組みがあればよい。国道を走る人だけがターゲットではなく。</p> <p>農業を体験したいと考えている人は多いと感じる。子供や孫に体験させたいということもある。そうすると孫1人に対して大人が4人来てしまうこともある。子供に体験させると集客力はある。</p>

堀口委員	<p>学校が荒れたことがあり、学校で青大豆の収穫を行ったことがある。植えるところから始め、様々な工程を踏んで、最後食べるまでの体験をさせるのは良い経験だったと思う。</p>
飯嶋委員	<p>自然をつくるというのはおかしいが、体験して収穫したものをコテージ等で調理して食べられる。遊びのキーワードがあったらよい。</p> <p>総合公園の周りは田んぼに囲まれていて、街に比べると3度くらい気温が違う。水があつて木や森があると過ごしやすい。</p> <p>確かに行田は通過点だが、目的になる遊びのような、軸になるものがあつた方がよい。</p> <p>総合公園は試合でたくさんの人があるが、小学生、中学生の試合じゃないとお金は落ちない。おじいちゃんおばあちゃんが孫の試合をみにきて、お金を使う。お父さんお母さんはお金を落とさない。子供が遊べる場所ではないとお金は落ちない。</p>
小林委員長	<p>まとめるわけにはいかないが、柱だては必要である。いろいろなご意見があつた中で、歴史的な部分と産業的な部分の二本の柱でコンセプト作りをしたい。遊びや体験ということも踏まえて、次回にはコンセプトを示せるようにはしたい。</p> <p>議題の（２）はここで終了としたい。</p> <p>議題（３）「コンセプトについて」説明をお願いします。</p>
事務局	<p>今日の意見をまとめて、事務局の方である程度の案を固めてきたい。</p>
事務局	<p>ひとつ注文をつけたい。行田市の売りがまだわからない。「歴史的な資源」と「アグリ」と「ものづくり」の基盤があつてよい。取材をしていき行田市は人材が優れている。それを事業の中でどう落とし込めるのか、それを売りにつなげられるのか。全国に行田市の明確な売りをどのように作っていくのか一番悩ましいところである。施設のイメージは作れるが、根っこの売りの部分が何か未だにわからない。125号バイパスは行田市の玄関口で、玄関として何を売りにしたらよいか。行田の歴史と未来への産業の育成をインキュベーターする感じでまとめればよいのかと思う。</p> <p>皆さんの話はほとんどが観光である。体験にしても集客のための観光拠点の役割を見合わないといけない。行田は観光で決めてよいのか。アグリも観光の一部として位置づける方法はある。持っている資源はすべて観光である。はにわ、蓮、ものづくり、足袋、城も全て観光である。観光で行ったらよいのか、それによってアグリ的位置づけが変わる。観光メニューでこなすことはできる。新しい観光、売りとなるキーワードがひとつ欲しい。</p> <p>温故知新と未来をうまく結びつける道の駅と位置付ける。そして、あとで観光をやることになるのかと考える。</p>
戸塚委員	<p>10年後に施設ができ、それから観光になるのか。</p>
事務局	<p>そうなる。</p>
町田委員	<p>行田市には売りが無い、観光地ではないので。観光等の特徴はない、それで</p>

	<p>も行田市としてどのようにしていくのか考える必要がある。コンセプトにしても曖昧なものでよいと思う。</p> <p>道の駅が何を扱うということではなく、長期に滞在してもらうのか、数時間の滞在か、購入したらすぐに帰ってよいのか。125号バイパスに作るにはその特徴を選んで、無理して行田市に合わせなくてもよいのではないか。行田市に合わせようとするとう無理がある。</p> <p>利益を生むためには、行田市の特徴を探すのではない。125号バイパスに作る意味合いと、どのような道の駅にするのか。常に寄ってもらうのか、わざわざ東京から来てもらうのか。その辺のイメージをしっかりとすれば、おのずと中に入るものは何がよいのか見えてくる。例えば体験の田植えであれば、すでに田んぼはあるのだから道の駅にではなく、周辺の農家は利益が出ると思えば開放しそこで体験をすればよい。それが経済の活性化になる。道の駅だから道の駅で行うわけではなく、道の駅ができ、集客できるようになり、農家も便乗していく。それが本来の活性化になる。</p> <p>道の駅ができることによって行田市がどのように変わるのか。</p>
事務局	集客のための、ドライブインという役割にする。
町田委員	イメージで、必ず寄ってもらうという感覚。
	休憩。
小林委員長	議題（４）「導入機能について」説明をお願いします。
事務局	<p>資料6、施設意見をまとめたもの。</p> <p>物販、飲食店、直売所、テイクアウト、加工場、キッチン、体験といった意見をいただいている。市の職員からも産業交流拠点の施設機能について意見を概要としてまとめているので参考にしていきたい。</p> <p>その他、委員の皆様には埼玉県道の駅ガイドブックと農林水産省が発表している事業集の抜粋をお送りしている。これらの資料を基に事前に考えている施設機能の優先順位を委員全員ひとりずつ発表していただき、必要と思われる施設についてご検討いただき、施設の機能が出そろったところで本日は終了と考えている。</p>
事務局	<p>資料6説明</p> <p>簡単に機能と売り場と機能イメージ案を説明する。</p> <p>皆さんから伺った話とヒアリングで数件回った感覚で可能な施設。お店のイメージを浮かべながら入れたもの。中心になる行田ショップとなるものだけを入れてみた。</p> <p>行田の歴史と未来の発信拠点は皆さんの意見から考えたテーマである。このイメージは、行田の中にある歴史が財産的にあるのと、人材が優れているので、今までを大切にしつつ、これからの行田を発信しようとしているのを感じたため文化と未来をテーマにした。</p> <p>道の駅をどのように発信していくかは、歴史的なものを観光に来ている方たちに行田の今を共有してもらう。市民と歴史と今の新しい活動をもっと深めて</p>

	<p>もらいたい。期待を込めて歴史と未来の発信拠点というキーワードにした。具体的には一例なので、物産には行田の名物、漬物、お酒、洋菓子。青大豆ショップとしてお菓子、惣菜等。豆腐工房をオープンファクトリーとして見せて作ることできる。</p> <p>産業的には足袋。足袋をキーワードに今どきの足袋ショップ。蔵や城、時代をかたどった物。イチゴや卵。この二つはコーナーとして扱いやすく売れる。</p> <p>飲食は果物系でデザートカフェのようなもの。麺やパスタ、うどん等。古代米カレー。冷汁。ゼリーフライ定食。もともと地域にあるものを提供するお店。これを飲食店として出すのか、フードコートにするのかは今後考えていくことになる。</p> <p>直売所は、地元の生鮮品、加工品が中心になる。それ以外にも果物や花、川魚もキーワードになる。</p> <p>イベント型の軽トラ朝市。直売所と連動して定期的に動かせると面白いと思う。</p> <p>テイクアウトは、ドリンク、ソフト、アイス、コロッケの定番と地元の青大豆ソフトやゼリーフライを提供する。</p> <p>市内には加工場がないので、道の駅にそのような機能を持たせれば、生産者たちがその場で加工して販売することが可能になる。作り方によってはそこで体験や遊びができ、幅を広げることができる。</p> <p>建物以外に敷地内に、アグリファームやフルーツファーム、コンテナの設置によって、体験やオーナー制であれば一年かけて体験もできる。体験は長期に渡って人を呼ぶことができるので、いろいろな案を提案できればと思う。</p> <p>基本的には皆様から出てきた話を載せているだけで、足りないところもあると思うので、これに必要な機能を足して作っていかうと思っている。</p>
小林委員長	説明の中にあったが、優先する施設機能をお聞きしたい。一番欲しいものだけでもよい。
長谷川委員	<p>地元の食材を使ったものを飲食出来るレストラン。</p> <p>農産物を売る直売所も大切だが、農産物を加工したものが並んでいるところ。</p>
堀口委員	<p>一番は体験できる場。</p> <p>次に食料品が買える場。</p>
大澤委員	<p>一番がフードコート型の飲食店。</p> <p>二番は加工所、地元の野菜を使った料理が出来る場所。</p> <p>三番目は地元の野菜を使ったお弁当や惣菜がある直売所。</p>
伊藤委員	<p>第一にトイレは極端に綺麗にしてほしい。そうするとリピート率が高くなる。二つ目は玄関口として紹介できるような直売所で物を売るだけでなく、街の中にあるお店へ誘導するような建築や仕掛け。</p> <p>三番目は加工場、ただ作るだけでなく将来的には市立の小中学校の生徒が利用でき、職業体験が出来るような人材育成と、長期的に使えるような施設がよ</p>



	い。
西田委員	<p>しいたけの刈り取りもできて、BBQ ができる場所。レストランとは別に加工して食べるような場を設置してほしい。</p> <p>加工食品や惣菜を作ってみたり、販売ができる場所。</p> <p>足袋ショップ。販売だけではなく、着物を着て体験できる場所。</p>
市川委員	<p>一番は農産物や加工食品の販売所。</p> <p>二番はフードコート型の飲食施設。</p> <p>三番は子供が遊べる遊具施設。</p>
太田委員	<p>一位は全国各県からのアンテナショップ。その県に行かなくても特産物が購入できるようにする。大規模の施設を造るとなると初期投資のお金が相当かかるので、必ず集客力がある施設を造りたい。</p> <p>二位は農産物直売所。特徴は有機栽培や無農薬栽培の商品を販売する。</p> <p>三位は体験農園。集客力の高い大手の食品企業にやってもらいたい。</p> <p>道の駅を造るのにはお金がかかる。如何に回収できるような施設にするのか。8年後、市民も車も減少していくことを加味して施設を考えていくべきである。</p>
大篠委員	一番目はテイクアウト施設、二番目は飲食施設、三番目は直売所。
泉委員	物販の足袋ショップをメインに。城などを表に出して 125 号バイパスを通る人が気になるような、集客できるようにしたい。目立つようにしたい。
吉田委員	<p>一位は飲食施設。団体利用が可能。</p> <p>二番目は農産物を含む物販。</p> <p>三番目は屋外施設、BBQ のできる、デイキャンプ場。</p>
岩田委員	<p>一位は農産物の直売所、併せてレストランもできればよい。</p> <p>道の駅の産業交流を考えるうえで地域経済の活性化、雇用、定住につながり、行田のイメージアップになるようなもの。</p> <p>二位は南国フルーツ園。キウイ、パパイヤ、マンゴー等、高級品を育てる。直売所や加工・アイス、シャーベット、レストラン等。全国ネットによる展開。高級でデパ地下や高級ホテルでも素材にしてくれるような。9年後の行田の戦力にしてもいいのでは。</p> <p>第三位は子供、ファミリー向けのアスレチック場。</p>
告委員	<p>一位は行田らしいフードコート。</p> <p>二位は足袋ショップ、プラス健康にもよいことを発信していく。</p> <p>三位は直売所、イベント型、軽トラ市など。店員との交流ややり取りのできるような場所。</p>
戸塚委員	<p>野菜がメインになってくるのでは。行田の野菜が一番だと思う。</p> <p>飲食ではサラダバー、行田の野菜で出来たらよいのでは。</p> <p>後は物販全般。</p>
小池委員	<p>一番は目立つ建物を置き、誰が見ても気になるような建物にすべきである。</p> <p>レストランは他に類を見ないような、青大豆を使用した豆腐などのヘルシーな</p>

	ものが今の時代に合っているのではないか。豆腐料理の専門店のようなものがよいのではないか。
飯嶋委員	<p>一番は森の野外活動広場。コテージやポートサイド、アスレチック、釣り堀等。</p> <p>二番は飲食コーナー。</p> <p>三番は物産及び直売所。</p>
大野委員	<p>各交流都市と連動した直売所。交流都市が多いのでそれを含めて行う。</p> <p>交流スペース。新設することで季節関係なく空いているときは各団体のイベントスペースとして多目的に活用できるフリースペース。</p>
町田委員	コンビニと消防本部の移転を。消防本部も老朽化しているので。
西田委員	高齢者のための遊具、健康遊具。運動につながるような公園。
伊藤委員	ふるさと納税のお返しの品を扱う部署をそこに置く。
飯嶋委員	24 時間利用できる施設。ドライバーやライダーのための施設。
吉田委員	搾乳体験できる施設、加工に繋がり面白いと思う。
小林委員長	<p>次回までに整理させていただき、資料としてお渡ししたい。</p> <p>本日は意見交換までとさせていただく。</p>
事務局	その他として、事務局から説明。
事務局	今回は来月九月の予定。改めて調整する。

## 第3回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

### 次 第

日時：平成28年8月17日（水）

午後18時00分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

1. 開 会

2. 議 事

1) 検討委員会の開催回数の変更について【10分】

2) 第2回委員会のまとめと事業者ヒアリング結果の報告【10分】

3) コンセプトについて

（事務局説明【5分】・全体意見交換【25分】）

4) 導入機能について

（事務局説明【10分】・個別意見聴取【30分】・全体意見交換【20分】）

3. その他

4. 閉 会

## 平成 28 年度 行田市産業交流拠点基本計画検討委員会の変更について

	変更前（当初予定）	変更後
6 月	第 1 回検討委員会（23 日） ・ 調査研究、基本構想の報告 ・ 基本計画の検討内容、進め方	第 1 回検討委員会（23 日） ・ 調査研究、基本構想の報告 ・ 基本計画の検討内容、進め方
7 月	第 2 回検討委員会（26 日） ・ コンセプトの設定 ・ 施設機能の検討	第 1 回庁内検討委員会（6 日） ・ 第 1 回検討委員会の報告 第 2 回検討委員会（26 日） ・ 施設機能の検討
8 月	第 3 回検討委員会（17 日） ・ コンセプトの設定 ・ 施設機能の検討 ・ 整備図案の提示	第 2 回庁内検討委員会（4 日） ・ 第 2 回検討委員会の報告 第 3 回検討委員会（17 日） ・ 施設機能の検討 ・ コンセプトの検討
9 月		第 3 回庁内検討委員会 ・ 第 3 回検討委員会の報告 第 4 回検討委員会 ・ コンセプトの設定 ・ 整備図案の提示
10 月	第 4 回検討委員会 ・ 運営管理の方法 ・ 整備スケジュールの検討 ・ 概算整備費の提示	第 4 回庁内検討委員会 ・ 第 4 回検討委員会の報告 第 5 回検討委員会 ・ 運営管理の方法
11 月		第 5 回庁内検討委員会 ・ 第 5 回検討委員会の報告 第 6 回検討委員会 ・ 運営管理の方法 ・ 整備スケジュールの検討 ・ 概算整備費の提示 ・ 国土交通省企画提案書の確認
12 月		第 6 回庁内検討委員会 ・ 第 6 回検討委員会の報告 第 7 回検討委員会 ・ 基本計画案の確認
1 月	第 5 回検討委員会 ・ 基本計画案の確認 ・ 今後のスケジュールの確認	第 7 回庁内検討委員会 ・ 第 7 回検討委員会の報告 第 8 回検討委員会 ・ 基本計画案の確認
2 月		第 8 回庁内検討委員会 ・ 第 8 回検討委員会の報告 第 9 回検討委員会 ・ パブリックコメント結果の確認 ・ 今後のスケジュールの確認
3 月		第 9 回庁内検討委員会 ・ 第 9 回検討委員会の報告

## 第2回 行田市産業交流拠点整備基本計画 検討委員会 - 結果概要 -

日時：平成28年7月26（火）  
18時30分～20時30分  
場所：産業文化会館2階第2会議室  
出席者数：15名

### 1 開会

開会にあたり、はじめて出席される委員の方への委嘱状の交付、及び御挨拶をいただきました。

### 2 議事

#### (1) 事例紹介

関東道の駅連絡会 泉委員より「道の駅もてぎ」を紹介いただきました。  
ランドブレイン株式会社 石村より「道の駅川場田園プラザ」、「道の駅とみうら」を紹介しました。

#### (2) コンセプトに位置づけについて

行田市商工観光課 赤城氏より、資料に基づき「委員会で検討するコンセプトの位置づけ」を説明いただきました。

#### (3) 導入機能について（意見交換）

委員の方へ事前に配布した「コンセプト導出に係る事前記入シート」を基に、

##### ①施設のイメージ

##### ②機能

について、ポストイットにそれぞれ記入し、発表していただきました。

記入していただいた意見の中で、共通・似通ったものをグルーピングし、コンセプト導出のためのキーワードとしてまとめました。

意見概要・グルーピング結果については、次ページを参照。

#### ■意見交換シート

施設イメージ	機能
<p>＋グルーピング</p> <p>意見</p>	<p>意見</p>

### 3 その他

事務局より、第3回検討委員会の案内がありました。

### 4 閉会

#### ■委員会の様子



#### ■意見交換シート



「施設イメージ」の意見概要・グルーピング結果

	グルーピング	意見（施設イメージ）
テーマに関連	<b>和・足袋</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田足袋の</li> <li>・足袋を復活させる</li> <li>・外国人を呼ぶことのできる、和・歴史の魅力</li> </ul>
	<b>緑・水</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動サークル</li> <li>・全体を森で囲む</li> <li>・緑に囲まれた、コンパクトな、新しい</li> <li>・水の流れや噴水がある</li> <li>・利根川の水源を使った</li> </ul>
	<b>健康</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州パンケーキを真似て、健康でおいしい</li> <li>・健康増進できる</li> </ul>
	<b>農業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮安価な</li> <li>・生産者の顔が見える</li> <li>・野菜（食育）ソムリエのいる</li> <li>・市内を中心とした農産物や土産品を扱った（５）</li> </ul>
機能に関連	<b>食</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい（２）</li> <li>・ゼリーフライを知ってもらい、好きになってもらうための</li> <li>・行田フライ・ゼリーフライ、青大豆入りの</li> </ul>
	<b>地元の</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消の</li> <li>・地域イメージを活かす</li> <li>・地元では当たり前だが他にはない</li> <li>・地域の伝統文化に関する</li> <li>・地域資源を活用した</li> <li>・甲冑隊のショーを楽しめる</li> </ul>
	<b>体験できる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験できる</li> <li>・見学できる</li> <li>・オーナー制度の</li> <li>・行田にゆかりのもの（足袋・古墳・農産物）を体験できる</li> <li>・地場産物を１か所で体験できる（現在はバラバラ）</li> </ul>
	<b>加工できる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米粉、小麦粉、大豆粉（水田で作れるもの）を使った</li> </ul>
	<b>防災・安全安心</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難できる</li> <li>・災害時にも食糧を提供可能な</li> <li>・裸足でも安心して遊べる</li> </ul>
	<b>PR できる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田の良さをPR できるような</li> <li>・行田の歴史をアピールする</li> <li>・特別支援学校の施設の活動をアピールできる</li> </ul>

	グループینگ	意見（施設イメージ）
運営に関連	夜・24時間 いつでも	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間使用できる、24時間体制の（2）</li> <li>・車で気軽に泊まりに来ることができる</li> <li>・夜間に車中泊できる</li> <li>・夜間に集まることができる</li> <li>・いつでも通信可能な</li> </ul>
	連携・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の観光施設に関する</li> <li>・市内観光やイベントに関する</li> <li>・点を繋ぐ（行田はとバス）</li> <li>・桑名市、白河市との3都市交流を活かす</li> <li>・姉妹都市である桑名市、白河市の名産品を活用した</li> <li>・地域交流やイベントができる</li> <li>・総合公園と連携した</li> </ul>
ターゲットに関連	若者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代をターゲットに</li> <li>・地域の生産者と若者をマッチングする</li> </ul>
	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が利用する</li> </ul>
	女性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が利用する</li> </ul>
	子ども・家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと遊べる</li> <li>・乳幼児～小学生が対象の（できれば中学生も利用可能な）</li> <li>・子育て世帯がよく利用する</li> <li>・家族で使える</li> </ul>
ブランド化に関連	有名な・行列 のできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行列のできる</li> <li>・有名店</li> <li>・全国のすぐれもの</li> </ul>
	ブランド化・ 開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな名物となる</li> <li>・ブランド化できるような</li> </ul>
その他	手軽・ リーズナブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーズナブルな</li> <li>・無料を基本とした</li> <li>・手軽にまちに行きたくなる</li> </ul>
	便利な	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなものが売っている</li> <li>・交通利便性の向上に向けた</li> <li>・利便性の高い</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通の</li> <li>・思わずまちに行きたくなる</li> <li>・きれいな</li> <li>・小さなお店が両側に並ぶ</li> <li>・村のような（建物が点在する）</li> <li>・自転車族のための</li> <li>・人材育成ができるような</li> <li>・産業（事務所）に関する</li> </ul>

※（）内の数値は意見の数



「機能」の意見概要・グルーピング結果

グルーピング	意見（機能）
<b>物産館・直売所</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物直売所（５）</li> <li>・物産館</li> <li>・売店</li> <li>・スイーツ販売</li> <li>・菓子製造販売</li> <li>・地元加工品・地元ハンドメイド販売所</li> <li>・足袋の販売</li> </ul>
<b>体験施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまり場となる場所</li> <li>・キャンピングカーの聖地</li> <li>・RV パーク</li> </ul>
<b>飲食施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台村（夜食の提供）（２）</li> <li>・レストラン（ラーメン・そば・うどん・地元農産物を使ったもの等）（６）</li> <li>・大型フードコート（３）</li> </ul>
<b>体験施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合体験施設（農場・加工所含む）</li> <li>・食品加工場</li> <li>・日帰り体験農園・観光農園（２）</li> <li>・地場産業体験スペース</li> <li>・フラワーアレンジメント教室</li> <li>・料理教室</li> <li>・フライ・ゼリーフライ講座</li> <li>・パン工房・ピザ工房（２）</li> </ul>
<b>屋外広場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BBQ 場（３）</li> <li>・レジャー施設</li> <li>・屋外イベントスペース（ダンス・音楽・甲冑隊ショー等）（６）</li> <li>・コテージ</li> <li>・テントサイト</li> <li>・アスレチック広場（２）</li> <li>・芝生広場</li> <li>・水遊び場</li> <li>・遊び場</li> <li>・クラインガルデン（市民農園）</li> <li>・南国フルーツ園</li> <li>・電動ゴーカート</li> <li>・変わり種の自転車の貸し出し</li> </ul>
<b>健康増進施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉・足湯（２）</li> <li>・体カテスト・ボケ防止テスト・運動能力テストができる機能</li> </ul>
<b>宿泊施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的に CCRC を見越した宿泊施設</li> <li>・宿泊施設</li> </ul>
<b>W I - F I</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・W i - F i 機能（２）</li> </ul>
<b>観光案内所</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内所（３）</li> <li>・観光 PR の一環として、ふるさと納税を担当する部局の出張窓口</li> </ul>
<b>コンビニ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンビニエンスストア（３）</li> </ul>
<b>防災施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模発電機能（災害時に備え）</li> </ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内遊び場</li> <li>・市役所窓口出張所</li> <li>・充電施設（PHV 等）</li> <li>・高速バスターミナル</li> <li>・住宅展示場</li> </ul>

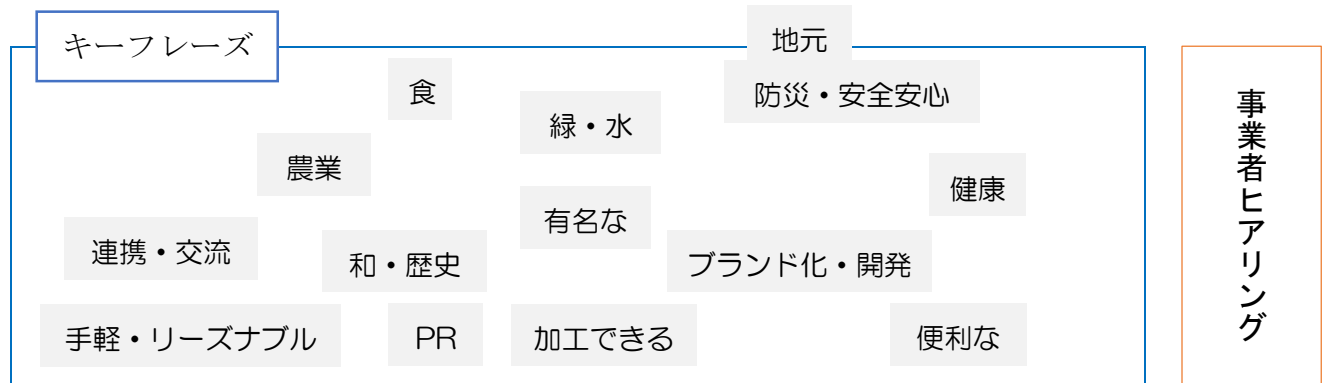
※（ ）内の数値は意見の数

## 事業者ヒアリング結果概要

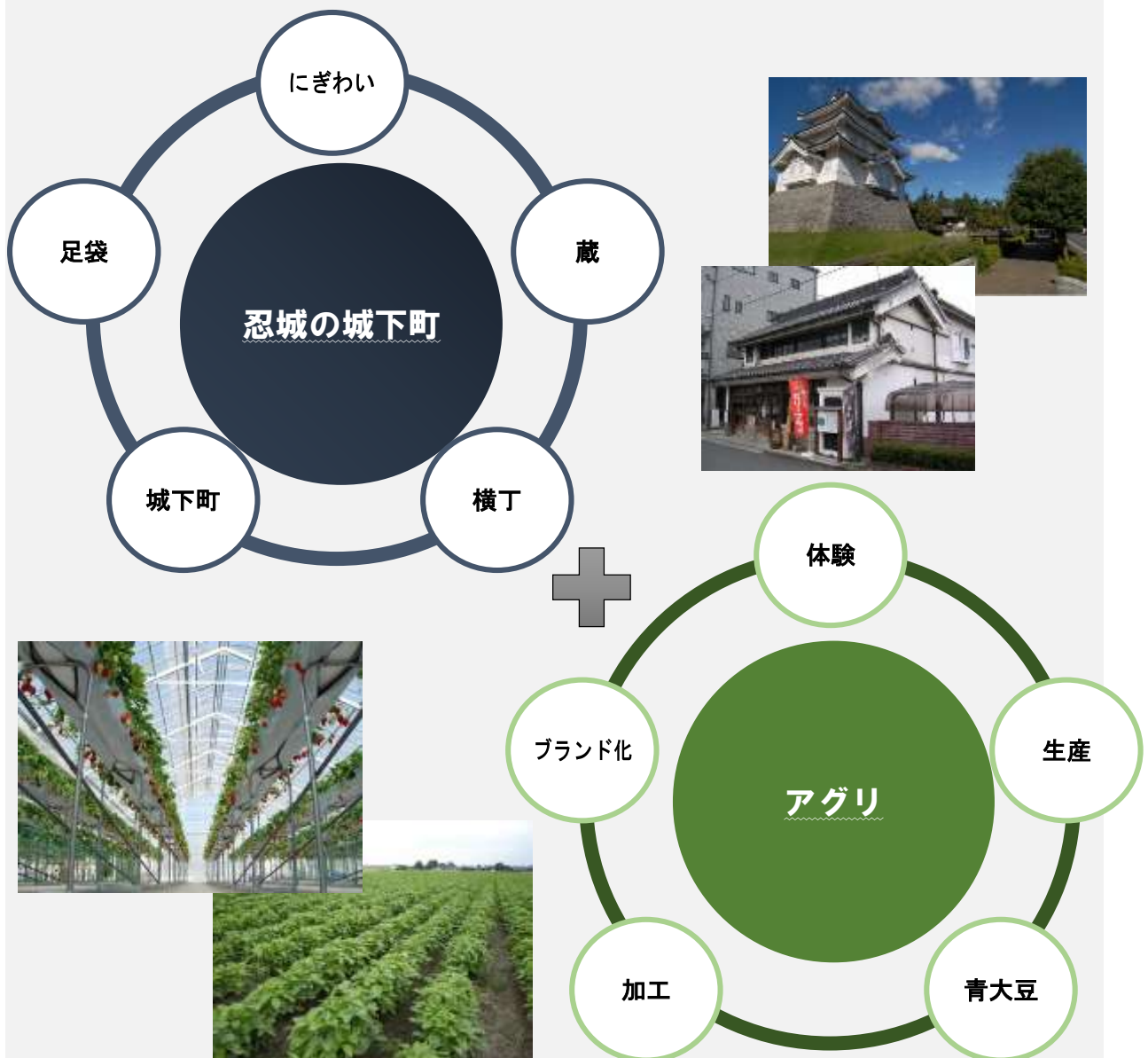
資料 4

事業者名	事業概要	道の駅計画への意見
株式会社ふくさや	和菓子・洋菓子・パンの製造販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化産業の拠点としてほしい。</li> <li>・女性客向けで、例えば足袋をテーマにカワイイイメージにしてはどうか。</li> <li>・足袋蔵を移築できると良い。</li> </ul>
株式会社吉野製麺	業務用生パスタ、生麺の製麺（うどんやそば、生パスタや乾麺など）。飲食店や学校給食などにも対応。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県北の情報の発信拠点にしてほしい。</li> <li>・県北の道の駅のネットワーク化（まとめてコーナー化など）。</li> <li>・商品卸は可能、飲食店を出すことも可能性はある。</li> </ul>
行田ゼリーフライ 本舗 たかお	フライ・ゼリーフライ、カレー・蕎麦等の提供。 青大豆のゼリーフライ、行田小麦粉のうどんなども提供。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森や公園にしてしまおう等、驚くようなものにしたらい。</li> <li>・テーマとしている「健康」もいいが、子供が遊べる場所にすれば、お金を使う祖父母等も集まるのではないかな。</li> <li>・道の駅へ出店可能。テイクアウト売場としては、4～5坪。</li> </ul>
株式会社せがわ農園	梨・米・行田在来青大豆の生産及び販売。また、関連商品の販売。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ、多くの人が関わると良い。</li> <li>・1次加工や2次加工の場所、設備機材が市内に無いので、道の駅内に加工場ができると良い。</li> <li>・道の駅で各種フルーツの提供が考えられる。フルーツ農園でリレー形式で栽培するのであれば、提案は可能。</li> </ul>
ベリーズファーム・ハセガワ	いちごの生産及び販売。 パリアフリーのいちご狩り体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリファームを作るのであれば、そこで体験や指導をすることは可能。</li> <li>・いちごデザートショップなどの出店や卸は可能。</li> </ul>
NPO法人魅力創造倶楽部	地域の活性化に関する事業 魅力発掘と発信事業 起業家の育成と支援事業 高齢者の支援事業 地域商品等の開発に関する事業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、市民が市内で買い物をしていないので、市民を集める場所にしてはどうか。</li> <li>・現状の「通過の街」を逆手に、北関東の日帰り観光の立ち寄り拠点にしてはどうか。125号を通るトラック運転手の立ち寄り＆休憩所など。</li> <li>・市民を対象にした、1坪ショップ的なミニショップの集積が良い。風が強いので、建物としては、一棟の中に小路をつくるイメージなど。</li> <li>・総合公園（運動公園）と連携して、子供の遊び場などを作れるといい。</li> </ul>

事業者名	事業概要	道の駅計画への意見
北埼玉 センター	生椎茸、干し椎茸の生産及び販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CCRCのために、宿泊施設などを安価なコンテナハウスで作るのはいかがか。</li> <li>・屋外にBBQはどうか。その場合の素材（茸）提供は可能。</li> <li>・菌床キットを作って土産品として販売することは可能。</li> </ul>
シャロン洋菓子店	ケーキ、パンの製造販売。 行田在来青大豆使用のラスク、 同枝豆使用のパンやケーキも販 売。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美味しいものを置いてもらいたい。</li> <li>・建物を行田らしい特徴にしてはどうか（城下町風、蔵の町風など）。</li> <li>・テーマに合わせた商品開発は可能。</li> <li>・ラスクやクッキーなど賞味期限2ヶ月のものの卸は可能。</li> </ul>
いまむら養魚場	ホンモロコの生産及び販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『田んぼ』をテーマに、体験型施設（つり堀等）にしてはどうか。 （ホンモロコ、なまず、金魚、書魚など）</li> <li>・果樹園にし、オーナー制度にすることも考えられる。</li> <li>・行田らしくて他に無い道の駅（施設も内容も）にしたい。</li> <li>・例えば忍城を模すとか、「行田」の発信を。</li> <li>・食堂での「川魚」提供は可能（ホンモロコ、どじょう、なまずなど）。</li> </ul>
行田観光物産会	地元農産物を使った商品開発（行 田独自のお土産）・観光ガイドマ ップ作成・農商工連携事業等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田にしかないテーマを見つけない。掘り出し観光地、小さな城下町など。</li> </ul>



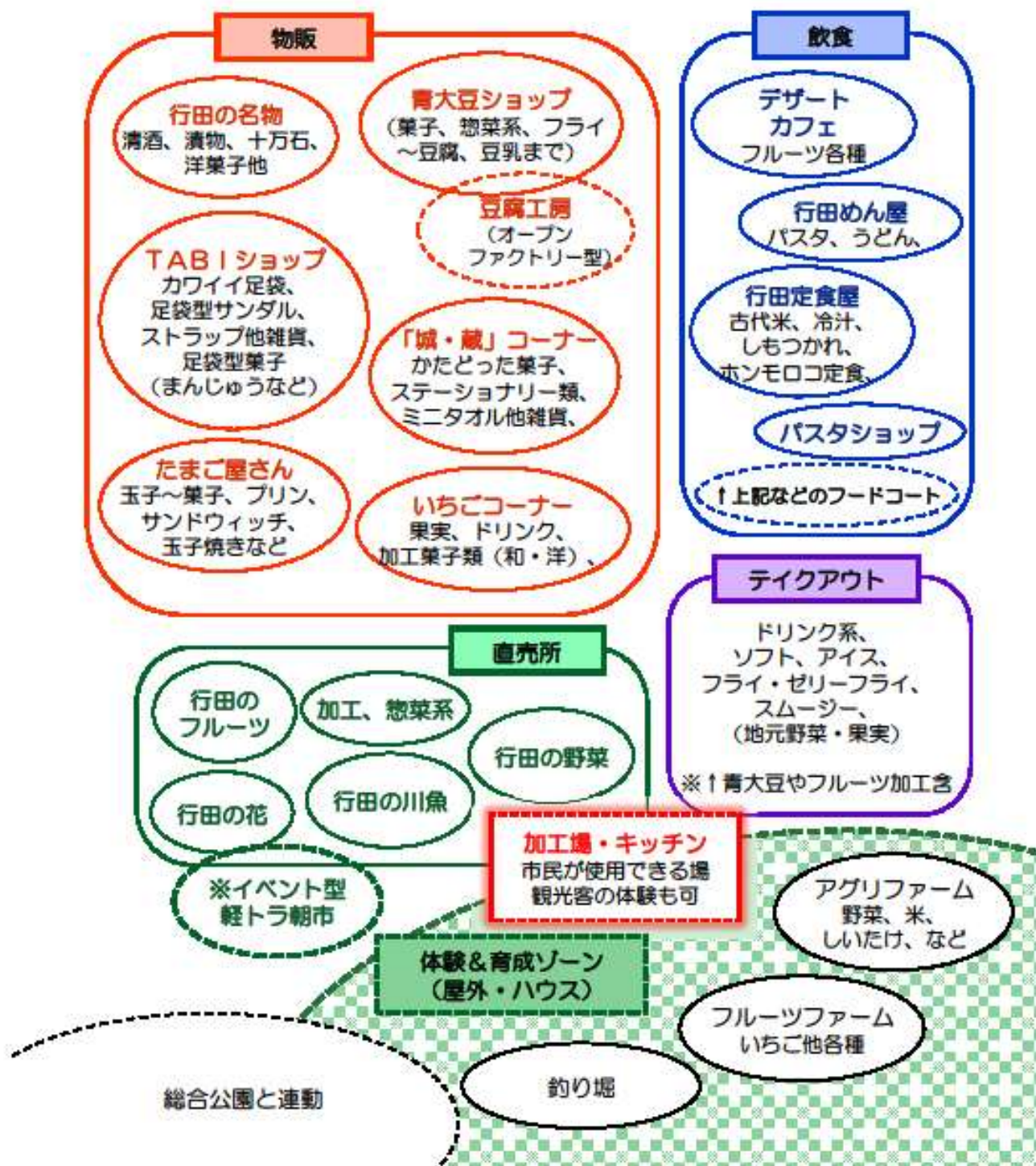
## “行田”の歴史（文化）と未来（産業）の発信拠点

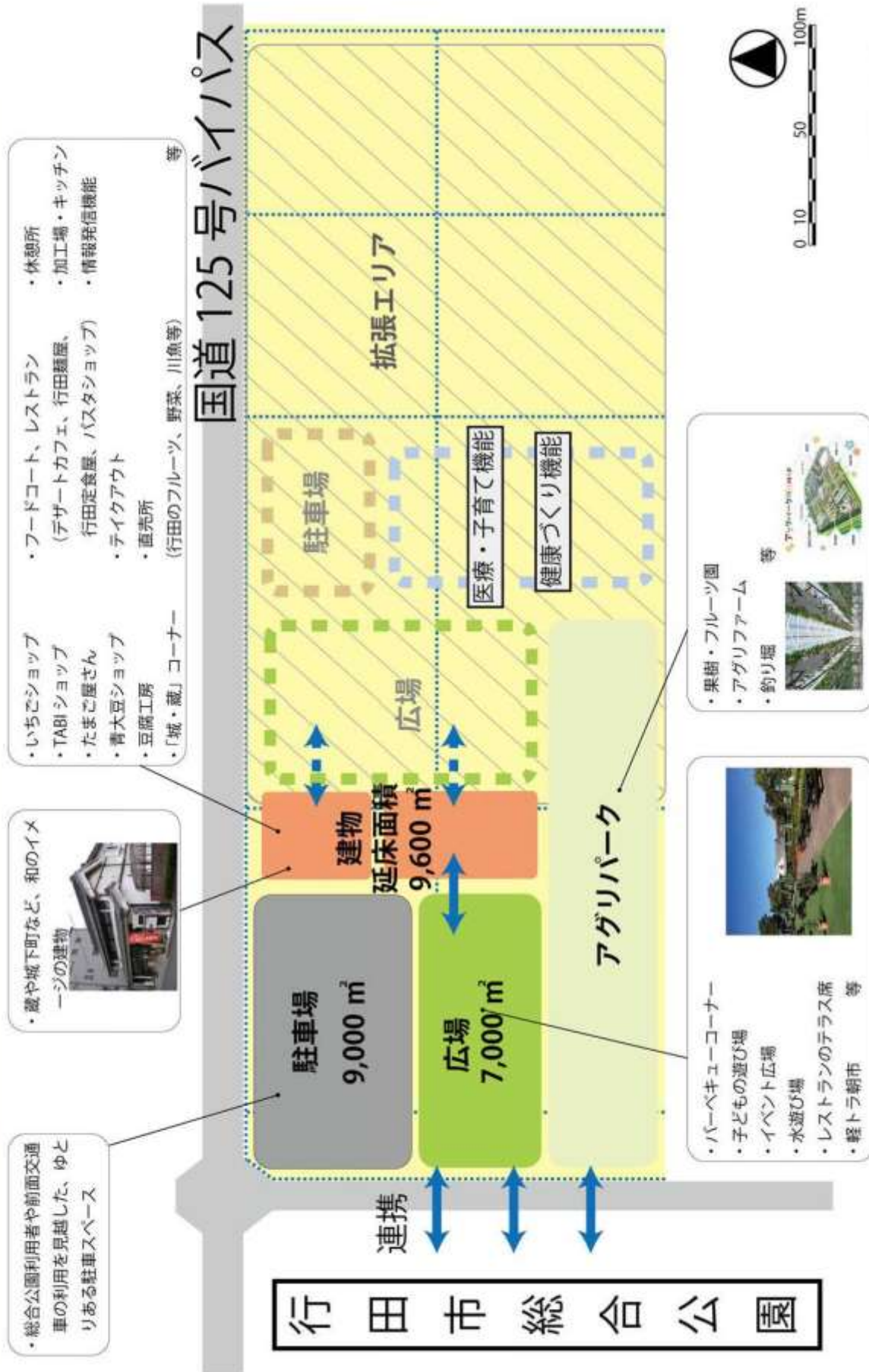




“行田”の歴史(文化)と未来(産業)の発信拠点

市民へ → 地元への誇り、愛着を深めてもらう  
観光客へ → “歴史の街行田の今”を共有してもらう  
(活動、産業など)





## ⑦第4回会議録

会 議 の 名 称	第4回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成28年9月29日（木） 開会：18時00分 閉会：20時30分
開 催 場 所	産業文化会館2階第2会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会）代理：坂本 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 市川ひろみ（星宮小学校PTA） 大澤和美（長野中学校PTA） 長谷川浩（農業従事者） 太田 彰（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
欠 席 委 員 氏 名	小池利昌（行田市商店会連合会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 告 広子（公募市民）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島、野沢 M&D研究所：濱田、杉村
会 議 内 容	・議 事 1) 全体整備コンセプトの確認について 2) 施設機能とゾーニングの確認について ・その他
会 議 資 料	・（資料1）次第 ・（資料2）コンセプト～整備図案 ・（資料3）全体整備コンセプト及びゾーン別テーマの体系図 ・（資料4）施設機能の意見集約について事務局案
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者11名



発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	開会 資料確認
チェックイン	委員からの近況報告
小林委員長	議題（１）「全体整備コンセプトの確認について」説明をお願いする。
事務局	資料説明（資料１：１～５ページ）（資料２）
小林委員長	今までの意見を一度集約した案となっているので、意見を伺いたい。
長谷川委員	柔らかい言葉でよくまとまっている。
太田委員	８年後、孫の時代になる。若い子が行くような施設にしないと、行田の人口も増えない。人口減少を食い止めるには、若い人にとっても魅力ある施設にしないといけないと思う。
伊藤委員	コンセプトとしては整合性が高いものになっている。
西田委員	特に気に入っているのが「文化、産業、生活の再発見」というフレーズ。 将来に対しての期待があり、また埋もれてしまったものが、この場を通して発見され、見直されていくのではないかな。 南河原地区に希少な花があることや、石の小さな橋があることなど、味があって面白い。いろいろな魅力の価値をこの場を通して創造し、発信していくような言葉である。 オープンした時に、このコンセプトが施設の末端にまでに行き渡ればいいと思う。
小林委員長	希少な花とはキタミソウのことですね。
伊藤委員	再発見という言葉には、２つの意味が込められていると思う。一般的には埋もれたものを再度、確認するということ。そうすると住民目線で住んでいるが気づいていないという意味合いが強くなる。例えば更に「」をつけることで多様性が増すのではないかな。外から来た人が発見するということと、住民がもう一度確認するという二つの意味になるのではないかな。検討していただきたい。
小林委員長	議題（２）「施設機能とゾーニングの確認について」説明をお願いする。
事務局	資料説明（資料１：６ページ以降） 意見を集約し事務局のほうで分類した。意見のうち移動した方がよいものがあればご意見いただきたい。イベントスペース、広場に記されている「整備しない」については、整備費用が莫大になってしまうため、このように分類させていただいた。
小林委員長	ご意見はあるか。 スポーツ施設については総合公園に機能をお任せすることになった。
西田委員	１坪ショップという意見があったと思う。常設できるほどのビジネスではないが、起業したい人がお試しで借りることの出来るような場となる感じかと思っていたが、どこにあるのか。賑わいエリアには記されているが、こちらには書いてない。
小林委員長	消してしまったようだ。入れる場合、どこに入れたらよいだろうか。

西田委員	<p>カフェやアクセサリもあれば色々な業種があると思う。女性勉強会で魅力的なものを作っている方がたくさんいた。目には見えない、看板やメニュー表を作っていたり、デザイナーなど魅力的な人が起業を目指していたり、インターネットを通して自宅で仕事をしている人がいる。物だけでなく、それらを全て含んだ一坪ショップだと思っていた。</p>
事務局	<p>賑わいエリアの中に、飲食店、フードコート、テイクアウトコーナー、直売所の並びで一坪ショップを入れるような形でよい。</p>
町田委員	<p>あまり括りを作らなくてよいのではないかと。人の流れの中で行っているもので、何か食べ物屋さんはあるか、何か売っているものはあるかの方がよいのではないかと。</p> <p>例えばふれあい動物園は要るのか。経費倒れしないか。道の駅にこういう物が欲しいというのは大事だが、全部を中に入れる必要があるだろうか。</p> <p>人が集まり経済活動が出来るとなれば、周りの農家にハウスを建てて行えばそれが一番の行田市の活性化に繋がるのではないかと。アグリパークに関してそうだが、どこまでやるのか。これだけの設備を作ったときに、どのように費用を捻出するのか。全てをなかにいれる必要があるのか。</p>
事務局	<p>割り振りは市民アンケートや検討委員会の意見を集約したものである。</p>
太田委員	<p>莫大な費用が掛かるので採算が採れるか採れないかで、線引きができてしまう。</p>
飯島委員	<p>前回アグリパークの時、そのような話は出た。田植えをしたいのなら田んぼはあり、いちご狩りも出来る場はある。周りの農家に連携してもらえばよい話。あの中に作る必要はないと思う。場所も広いわけではない。</p> <p>「整備しない」にあるが、オートキャンプサイトはあった方がよいと思う。</p>
泉委員	<p>決めたコンセプトは皆さんの意見を集めたものだから、行田らしさ、文化、産業を考えたうえでその中から取捨選択していくのだろうと解釈している。</p>
伊藤委員	<p>いきなり要らないものを削っていくとなると、様々な意見が出てしまう。この中で核となるものと周辺の施設でよい物と、ある程度示した上で必要なものは何かと議論していく方がまとめやすいのではないかと。</p>
西田委員	<p>家族とどんなものがよいかと話したときに、子どもが来ることが大事となった。子どもは動物がいると集まると聞くが、飼育などお金がかかる。</p> <p>したがって、月のイベントとして動物を呼ぶなどして一日動物園でもよいのではないかと。取捨選択ではなく、連休などを利用して試しで行ってみて、人気があるようだったら定着化するというやり方でもよいのではないかと。カルチャーにしても同じ意見である。</p>
坂本委員	<p>コンビニエンスストアが入ってしまうと、他の商業施設と競合してしまうのではないかと。他の道の駅は 18 時から 19 時ごろには閉まってしまうところが多い。</p> <p>営業時間を 21 時から 0 時頃までというように長めにとればよい。</p> <p>若い方、トラックの運転手など様々な方が寄れるような深夜の時間まで利用</p>

	<p>出来た方がよいと思う。</p> <p>コンビニエンスストアは必要なく、その分、お土産や物産、フードコートの営業時間を長めに取り、集客を狙った方がよいと思う。</p> <p>営業時間の延長を考えることで集客力が見込めるのではないのか。採算も考えて、お客様が喜べるような施設にしていかなければならない。</p>
太田委員	<p>一つの業種の周期は 40 年。イトーヨーカ堂は 48 年。セブンイレブンは 44 年で現在、コンビニの頂点になっている。</p>
町田委員	<p>125 号バイパスの利用を考えると、コンビニは 1 日の平均が 1,000～1,100 人。客単価は 650 円なので、セブンイレブンの場合は 1 日の売り上げは 65 万が平均。</p> <p>道の駅が早い時間で閉めるのは、採算がとれないから。販売状況を考えると夕方に関係するを得ないのが現状である。</p> <p>利用客が一番便利なのはコンビニである。行田市の通っている車のことを考えると、もう一つなにか目玉になるようなお店がないと集客力は弱いと思う。お金がかからないで寄ってくれるものならば、どんどん入れていってもよいと思う。</p> <p>例えば自転車やライダーの休憩所があれば、コミュニティがあるので口コミで広まり設備的にはお金もかからずできる。</p>
飯嶋委員	<p>バイクに乗っているが、夜休憩できる場所がない。そのような場所があればよい。</p>
太田委員	<p>そこにコンビニがあれば防犯にもなる。</p>
町田委員	<p>休憩の時は道の駅のお店が閉まっても問題はない。</p> <p>一坪でも従業員を雇うのにお金がかかってしまう。</p>
飯嶋委員	<p>フードコートにしたとして、全店が遅くまで営業するのは採算が合わない。</p>
坂本委員	<p>フードコートで遅くまで営業していると採算はとれない。</p> <p>それでも、21 時くらいまでは空いていてもよいと思う。</p>
太田委員	<p>施設を造っても、入ったお店の努力がないとどうにもならない。</p>
坂本委員	<p>フードコートも集客力があるような飲食店をこちらがピックアップして頼んで入ってもらえるのもよいと思う。行田市内だけでなく。</p>
西田委員	<p>友達が行田に来て連れていけるようなレストランが欲しいという意見があって、レストランという案がある。17 時などで閉まってしまったら連れていけないので、レストランは遅くまで開いてほしい。</p> <p>フードコートとレストランは別物として捉えている。</p>
飯嶋委員	<p>レストラン、喫茶店なら分かるが、パン屋、豆腐屋はできない。</p>
坂本委員	<p>フードコートでも 10 時から 14 時まで開けて、中休みをとって、17 時から 21 時まで営業すると経費削減ができると思う。利便性を考えた方がよい。</p>
坂本委員	<p>一般の飲食店ではなく、吟味した飲食店を入れる方が長続きするのではないのか。何か特化していかなければいけない。</p>
太田委員	<p>集客するにはそれなりの施設を作らないといけない。事業は利益を上げてい</p>

	かないといけない。
事務局	行政ではお店や集客のことは行わない。民間資本を入れていくので、造るのも民間、頑張るのも民間、行政としてはよい施設があればどんどん残していき、採算がとれるかはマーケティングのプロにお任せする。
小林委員長	役所は土地を用意するが、お店は何が入ってもよい。土地は用意するので内装や営業は各民間が行っていく。役所は固定資産税を納めていただければよい。
西田委員	一つずつやるかやらないかをはっきりしてもらえればスムーズに進むと思う。
小林委員長	何が必要かをイメージしてほしい。 麺類の種類や営業時間の問題ではなく、コンセプトにあった施設は何なのかということをご意見いただきたい。
西田委員	野菜の直売所はどこにあるのか。
事務局	漏れている。直売所の大枠に入ってしまった。
太田委員	トイレはどちらになるのか。
小林委員長	国である。道の駅の機能は国が作る。今回の道路管理は県である。
泉委員	アグリパークは農水省等の補助金がある。これから話が出てくると思うが駐車場の話が出たので皆さんにそういうところもあることをご認識いただきたい。
小林委員長	資金源は色々なところから、もらえる物はもらいたいと考えている。 他にはないような、良い案を出していただき、施設の素案を作り、国交省に出すと道の駅にランクがつく。トップランクになると、国が補助金を探してくれる。最高モデルの道の駅に指定を受けられるのが一番の目標地点である。儲かるか儲からないかについては、後の話であって、今は理想を並べればよい。理想を提案いただきたい。
西田委員	看板、モニュメントなど遠くから見ても分かるような物がほしい。 建物が目立つ形でもよいが、行田の直売所があるが、野菜の入り口が目立たない。何十年も通っていても知らない人もいる。
小林委員長	通る人が一目瞭然なものをやりたいと考えている。
	休憩
小林委員長	皆様からいただいたご意見を事務局で割り振ったので、入れ替えや修正という形で、今後進めさせていただく。 ウェルカムエリアからご意見いただきたい。 区分としてはロビー、アトリウム、その他となっているが、観光案内所など、行田市の情報を発信する場。Wi-Fi 関係。 その他、属さないものでウェルカムエリアに欲しいとなっているコンビニエンスストア、トイレ、バスターミナルがある。 ここに何か足した方がよいものがあればご意見いただきたい。
町田委員	ウェルカムエリアにコンビニエンスストアはいらない。コンビニエンススト

	アはどこのエリアにも属さない。別棟で置く。
小林委員長	<p>市で行うのは必要最小限度の形にしたい。</p> <p>コンビニエンスストアはいらないという意見が出たが、他にはいかがか。</p> <p>観光案内所は必要であり、ここで行田の情報を発信したい。</p> <p>バスターミナルについては、市のメイン基地にしたいと考えている。行田の真ん中に位置していることから、現在あるバスターミナルと連携をかけて、行田の弱点である交通網の利便性を高めたいと考えている。</p>
飯嶋委員	バスターミナルはあった方がよい。
小林委員長	北部方面のデマンドバスのターミナル基地にもしたいという考えがある。交通の弱点があるので、道の駅は交通の要でもあるので入れさせていただいた。
西田委員	東京から群馬へ行くときの通過点としてのバスターミナルになればよい。
小林委員長	<p>民間の高速バスが来てくれればよい。車でないと来られないという壁は消したい。</p> <p>現段階は素案の素案であるから、色々なものを仕分けした結果、建物配置など変わってくる可能性はある。</p>
飯嶋委員	素案といっても面積に限りがあると思う。
小林委員長	土地の規模も面積も決まっていない。内容によって面積が決まっていくので、面積には捉われないでほしい。
長谷川委員	<p>女性にはコンビニエンスストアのトイレは、安心感がある。</p> <p>綺麗にするほど広くなってしまって、閑散としていて人がいないところでは入りづらい。</p>
伊藤委員	コンビニエンスストアは賛否両論ということである。
小林委員長	<p>コンビニエンスストアは課題ということにする。</p> <p>ウェルカムエリアは、コンビニエンスストアを除いたもので整理させていただく。</p> <p>カルチャー&amp;コミュニティエリアについて議論させていただきたい。</p> <p>多目的スペースと食品加工キッチン、市が整備する貸施設をイメージするとこのふたつになるのかと思う。</p> <p>多目的スペースは市で作るべき施設だと考えている。お金にならない施設は民間での整備は難しいので、市で整備するものだと考えている。</p> <p>市の文化、歴史を紹介するコーナー、博物館的要素。後は貸しスペース、多目的ルームを造り、時間いくらかで貸すようなイメージである。</p>
飯嶋委員	食品加工キッチンのところだが、直売所で購入したものも調理できるとよい。
小林委員長	基本的には市で造る貸し施設なので、大中小の会議室的な部屋を用意して、そこで、ある人はフラワーアレンジメント教室やダンス教室を開くなどできる。その中に厨房を備えた部屋を用意しておけば料理教室もできる。自分で使いたいようにできる貸しスペースであり、公民館をイメージしていただきたい。

町田委員	<p>極端な話、これは必要なのか。</p> <p>物売る施設が中心になってくるところに公民館や集会場のような施設が必要か。多目的スペースとして様々な利用できるスペースがあればよいのではないか。</p> <p>125号バイパスの車の導入がメインで、住宅からの距離を考えた時に、公民館の拠点として必要なのか。多目的スペースというフリースペースだけでよいのではないか。</p>
岩田委員	<p>食品加工キッチンについて、公民館というイメージでは必要ないと思うが、理想としてアグリパークをどのように農業の柱として立てるかによるが、ロジックとしてアグリパークで作り、市内で採れたものをこの食品加工キッチンで加工し直売所で販売できれば、地元の利益を上げていくことができる。道の駅が地域循環サイクルとして地元の活性化にも繋がるのではないか。</p> <p>アグリパークという機能と地元の生産者とどのような形でシステムを作っていくのか議論の余地はあると思う。</p>
飯嶋委員	<p>買ったものを調理するならよいが、料理教室等の型にハマってしまったものは利用が難しい。</p> <p>ダンススタジオ、貸室のようなものは要らないと思う。</p>
小林委員長	<p>意見はどんどんしていただき、追加案をさらに出してほしい。</p> <p>道の駅の機能だけでなく、市民の交流拠点も必要である。コンセプトに市民にも有効な施設というものがある。現在、市には貸し施設がない。市民のための小さな拠点であってほしい。</p> <p>産業エリアについての話だが、それを生活交流エリアに持っていったとしてもよいと思う。</p>
伊藤委員	<p>カルチャー&amp;コミュニティは、体験してもらうのが誰なのか。</p> <p>観光客なのか市民なのか。</p> <p>カルチャーに関してはウェルカムエリアに入れて、コミュニティは市民をメインにして生活交流エリアに混ぜてしまうと、すっきりした施設になるのではないか。</p>
長谷川委員	<p>泉委員に質問だが、加工キッチンみたいなものが併設させている施設はあるか。</p>
泉委員	<p>聞いたことはない。独自産業的なことで生産加工しているところはあるが、料理教室等の話はなかなかない。</p>

事務局	<p>あるところもある。加工キッチンはいいろいろあり、ABCクッキングスタジオのようなキッチンがあり、季節の果物、例えばいちご等をジャムにする。体験の観光メニューにしてツアーで回った時にキッチンで調理をする。そのような使い方はある。</p> <p>もうひとつアグリパークで獲れたものを、加工する。地元の加工の許可を持っている方々が、商品を作って直売所で売る。地元の方を使って商品化するところもある。</p> <p>2パターンの加工場がある。</p> <p>加工体験のような使用をしているところは多い。今回は入れた方がよいのではないか。特にアグリ体験、芋掘り体験をやるとしたら、観光客にサービスとしての加工キッチンはあった方がよいのではないかと思う。</p>
長谷川委員	<p>ウェルカムゾーンではなくアグリの方になるのでは。</p>
事務局	<p>それは投資額に関係する。</p> <p>多目的スペースは造っておいたほうがよい。施設は成長していく。</p> <p>どのような客が増えていくかは分からない。何が収益を生み出すかも分からない。そのためには、イベント広場より多目的スペースを作っておいたほうがよい。人気になれば値段を上げればよい。外の人には高くする二重構造を作っておく。これらは機能の話であり、ソフトの話はこれからである。</p> <p>アトリウム、ロビーには観光協会とセットにするのかしないのか。Wi-Fiは当たり前。コンビニエンスストアは別棟。</p> <p>トイレは駐車台数と関係してくる。トイレのアイデアが出てくるとありがたい。計画の中で集客はトイレ勝負。例えば江戸風のトイレにするなど。</p> <p>ペットの扱いが必要。ペットのトイレも作るのか。</p> <p>5年先を見たときに、多目的スペースを多様化できるようにしておく。</p> <p>キッチンに関しては、食の安心、安全に関わるので大変な投資になるので道の駅には置けないと思う。体験は簡単なものにする。</p> <p>機能を考えていくと面積が見えてくる。</p> <p>いずれ補助金を引きずり出させる。いくつかの補助金をミックスさせて市の負担を軽減できるというような考え方をしていただく。</p> <p>直売所は自営や地元に関わる運営の話なので、今回は勝負になる。それ以外にアイデアとしてたくさんある。直売所と物販は分けないといけない。機能だけを見てほしい。</p> <p>議論してほしいのは、多目的の中に託児機能が必要かどうか。防災の考え方はどうするのか。市民として何を望んでいるのかを意見して欲しい。</p> <p>外国人対策がないが、どうするか頭に入れておいた方がよい。</p>
小林委員長	<p>インバウンド対策は他で行っている。ここでやっても仕方がない。</p> <p>大きくエリア分けした中に、ハードとして多目的スペースがあり、レンタル施設的なことで考えて頂きたい。</p>
長谷川委員	<p>あまり利用されない公民館のような料理教室ができてしまうのであれば、いらないのではないかとイメージを抱いてしまう。このような施設ができて活</p>



	用されていない。またここでもできてしまうのか。
飯嶋委員	忍・行田公民館にも新しくできる。 教室ではなく、団体で来た人が自由に利用できるような施設がよい。
長谷川委員	天気のよい日は東屋で BBQ を楽しめて、雨の日や寒い日でもやれるような要素があり、購入した農産物や自分で収穫した農産物がいじれるような感じであればよいのでは。敷居が高くなると利用しなくなるのではないか。BBQ 用だと利用率は上がる。
小林委員長	ここは施設として捉えてほしい。中身は先の議論になってくるので、このところは飛ばさせてもらいたい。 次に賑わいエリアについて、ここは核となるので、先ほど示したコンセプトに合うのか、地元の物を取り入れた店も必要であり、集客力も大切だと考えている。その中で色々なご意見を頂きたい。
長谷川委員	飲食店はお店のスペースを貸すぐらいの感じで、うどんやピザでもなんでもいいと思う。
小林委員長	なるべく建屋は市では作りたくないの、お店はなんでもよい。
飯嶋委員	飲食店街になるのですね。
小林委員長	地元の物を扱う場合は市で面倒を見なくてはいけないと考えている。 外食産業的なものは、資金力がある。地場産等は資金力のなく、地元のためになるものについて、市で最低限なものは作っていききたいと考えている。 集客を見込める施設と地元を育成する施設と大きく分けられると思う。有名な外食産業は土地をお貸しするので勝手にやってもらおう。例えば地元の忠次郎蔵が出たいとなれば、最低限は市で持つ。 資本力があるところはお任せする、市民のために自立してチャレンジしたいとなれば市が面倒をみる。 〇〇横丁という形でもよい。城下町なのでそのような感じにしてもよいのかと思う。賑わいエリアの中で施設として考えていきたい。テイクアウトは、飲食店が勝手に作ってくればよい。 フードコートであればオープンエリアが必要かと思う。直売所は最低限行田の農産物を売らないといけない。レストランは単独で建つ。 賑わいエリアとなっているが、食のコーナー、物販コーナーである。賑わいエリアはハード的にはこのような形でいいか。
市川委員	賑わいエリアは、マクドナルド等を含めると考えてよいのか。
小林委員長	それは連続性を含める。賑わいエリアとして土地だけ用意する。真ん中に広場があつてよい形になっている。 あくまでたたき台を検討していただいている。その先にまたそれを再度計画していくので、まとめというのは先の話である。 他に賑わいエリアにハード的なことで必要なものがあればご意見いただきたい。
大澤委員	食品加工所、惣菜、お弁当等を作ってもらい出せるようにしたい。

小林委員長	直売所と書いてしまうからおかしくなってしまう。物販施設として捉えていただいて、その中に加工を扱ってもら。また加工していない生の物も売る。
西田委員	地元加工品販売ではないか。地元の有名な食材を使ったものを販売している。
小林委員長	直売所のところに物販施設ということにすればよいと思う。
大澤委員	なかなか自分でやるのは大変なので、つくっているところがガラス張りで見えるようなものがよい。
小林委員長	大きく分けると、飲食関係とフードコートと物販施設になるということでしょうか。 イベントスペース広場、ここは市で用意しなくてはいけない。 あるとしたら簡単な雨除けの屋根程度で、子供たちが遊べる場所、芝生を一体的に作る。水遊びやふわふわドームが隅にあったりするようなイメージ。
太田委員	テイクアウトのものが食べられるような場所になるとよい。
小林委員長	整備しないに入ってしまったがオートキャンプサイトは、ここに作るのか駐車場の隅の芝生広場に近いところにするのか。 ここで整備しないとなっても、復活した方がよいというものがあればご意見いただきたい。
長谷川委員	ドックランがあればよいのでは。 広いスペースがあればよいという考え方になる。
町田委員	軽井沢のアウトレットには、真ん中に広い芝生があつてドックランと子どもが遊べるスペースがあった。スペースだけあればどうにでもなる。そこまで拘らなくてよい。
長谷川委員	問題は軽井沢のアウトレットと比べると滞在時間が違う。
小林委員長	これはスペース的なものなので、今日のところはここでまとめたい。 次にアグリパークの必要性について。 行田は市の面積の半分以上は農地なので大切にしなければならない。アグリパークなら農水省でも補助金が入る。 誰かに温室を作っていただくとかも考えている。
長谷川委員	ここには情報を発信できる場所があればよいと考える。 農地を市が一括で借り上げて、市内の農家に入札で貸す。自由にアグリパークの機能を利用する。農業者は自分の所有している農地でしか勝負できない。さきたまで参入したくてもできない。やる気やチャンスここに持っていかなないと、市の一番よい人材を集約できない。そういうことに市が介入して公平公正にチャンスを与える形での場の提供をした方がよい。 日本人はお花が好きなので365日花を楽しめるような一角を客寄せの施設として整備してはどうか。さきたまにお花農家さんもいるので、地産地消ということで販売してもら。お花をメインに考えて、他の体験は市民が参加する形にすれば、ゾーニングがしっかり分かれてよいのではないか。
小林委員長	周辺農地の利活用は、まず線引きしてからになる。

	<p>アグリパークは施設と考えて、エリア的に必要なのだと理解していただきたい。アグリパークは造る施設としてご了解いただきたい。</p> <p>生活交流エリアは、行田市民のための場。賑わいエリアとは別の施設として考えていただきたい。</p> <p>全体的な構想はこのような形で作っていきたい。それでご理解いただきたい。</p> <p>今日の議論はまた事務局でまとめる。以上で、議事を終わらせていただく。</p>
事務局	<p>次回は 10 月 18 日を予定する。</p>

## 第4回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

### 次 第

日時：平成28年9月29日（木）

午後6時00分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

- |                          |        |
|--------------------------|--------|
| 1. 開 会                   | 18：00～ |
| 2. チェックイン（委員からの近況報告）     | 18：05～ |
| 3. 議 事                   |        |
| 1）全体整備コンセプトの確認について       | 18：20～ |
| 2）施設機能とゾーニングの確認について      | 19：00～ |
| 4. その他                   | 20：00～ |
| 5. チェックアウト（本日の委員会を受けて感想） | 20：15～ |
| 6. 閉 会                   | 20：20  |

# 第 4 回行田市産業交流拠点 基本計画検討委員会 コンセプト～整備図案

## 目次

1. 検討経緯の整理.....	1
(1) これまでの経緯.....	1
(2) 行田らしい特性・資源・ニーズの抽出.....	1
(3) 基本構想のコンセプト.....	2
(4) 基本計画の役割.....	2
2. 整備コンセプト.....	3
(1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト.....	3
(2) ゾーン別テーマの設定.....	4
(3) 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ.....	5
(4) エリアの考え方と施設機能.....	6
3. 整備イメージ.....	8
(1) 配置の考え方.....	8
(2) 配置計画図.....	8
(3) 整備計画図（案）.....	9

平成 28 年 9 月

## 1. 検討経緯の整理

### (1) これまでの経緯

コンセプトの検討にあたっては、「市民意向調査」や「事業者ヒアリング」、「産業交流拠点基本計画検討委員会」にて、市内の方の意見を伺ってきました。

市民意向調査においては、他の調査結果とのSWOT分析の結果、「健康」というキーワードが導き出されました。

また、事業者ヒアリングにおいては、事業者の立場から行田市に必要なものや施設イメージ、産業交流拠点への協力可能性などについて意見を伺いました。そこでは、テイクアウト売場として、産業交流拠点への出店や種類などの商品卸、農業体験施設の指導員などの協力可能性があることが明らかになりました。

続いて、検討委員会においては、コンセプトに関する意見を委員の方に伺いました。意見としては、「緑・水」や「体験・加工」、「連携・交流」など様々な意見が挙げられ、特に「歴史・和」や「食」に関しては、多くの意見が挙げられました。

#### ■検討委員会の様子

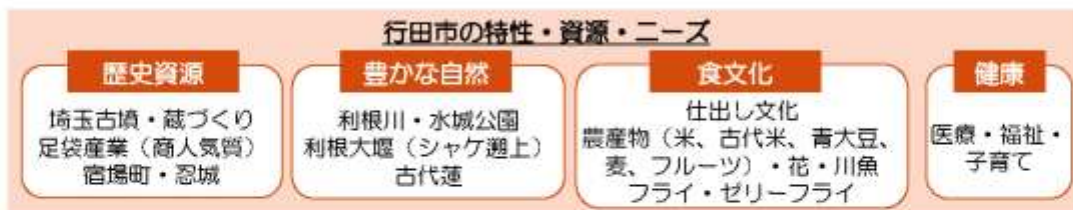


### (2) 行田らしい特性・資源・ニーズの抽出

これまでの検討結果を踏まえ、行田らしい特性・資源・ニーズとして

- ①埼玉古墳群、足袋蔵、忍城址といった「歴史資源」
- ②古代蓮、水城公園、利根川といった「豊かな自然」
- ③仕出し文化、農産物（青大豆、米、麦）、ゼリーフライといった「食文化」
- ④医療・福祉・子育てのニーズといった「健康」

の4つを抽出しました。



### (3) 基本構想のコンセプト

「行田市産業交流拠点整備基本構想」において、調査研究による SWOT 分析の結果から、コンセプトとして、『健康』をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から広域的な行田まるごと情報発信拠点へ』としています。

さらに、産業交流拠点は『産業交流拠点機能』、『生活交流拠点機能』、『情報発信拠点機能』の3つの機能を内包するものとして、ゾーンごとの方針を設定しています。

#### ■基本構想の位置づけと本計画の役割

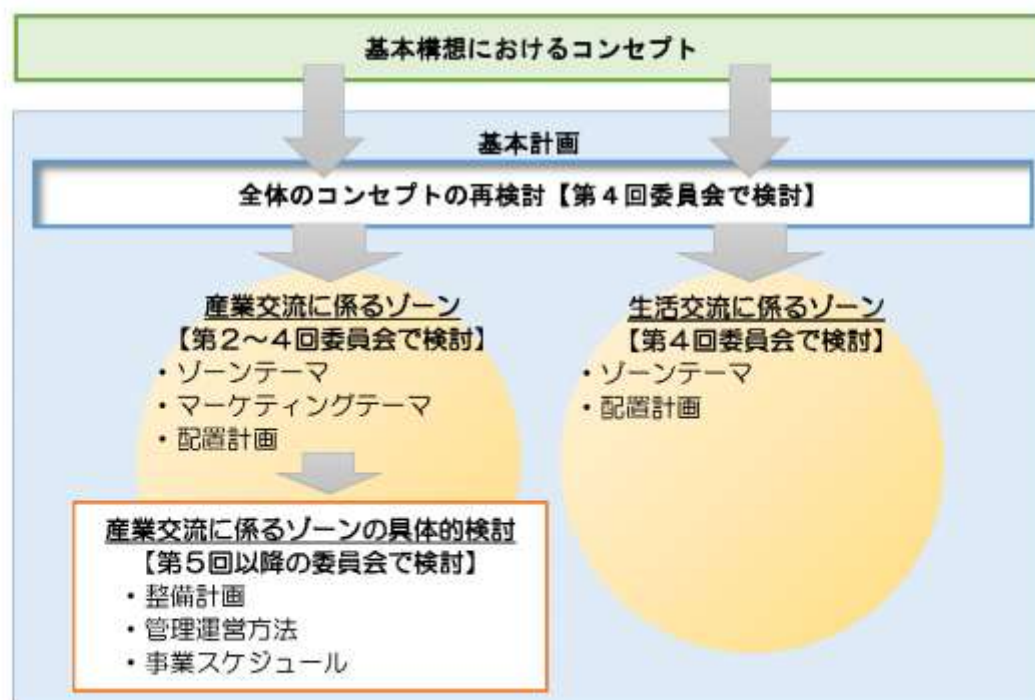
“健康”をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から  
広域的な行田まるごと情報発信拠点へ

“健康”をテーマとし、3つの機能を内包した産業交流拠点を形成します！

- ①地域のひと、もの、かねが循環する産業交流拠点機能
- ②地域の人の生活・福祉を支援する生活交流拠点機能
- ③広域的な行田まるごと情報発信拠点機能

### (4) 基本計画の役割

基本計画においては、基本構想におけるコンセプトを踏まえながら、産業交流拠点全体の整備コンセプトおよびゾーン別テーマを設定するとともに、マーケティング分析・整備計画を検討します。





## 2. 整備コンセプト

### (1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト

これまでの検討経緯と基本構想におけるコンセプトを踏まえ、産業交流拠点全体の整備コンセプトを

『行田のいいところまるごと発信拠点～行田らしい文化・産業・生活の再発見～』

とします。

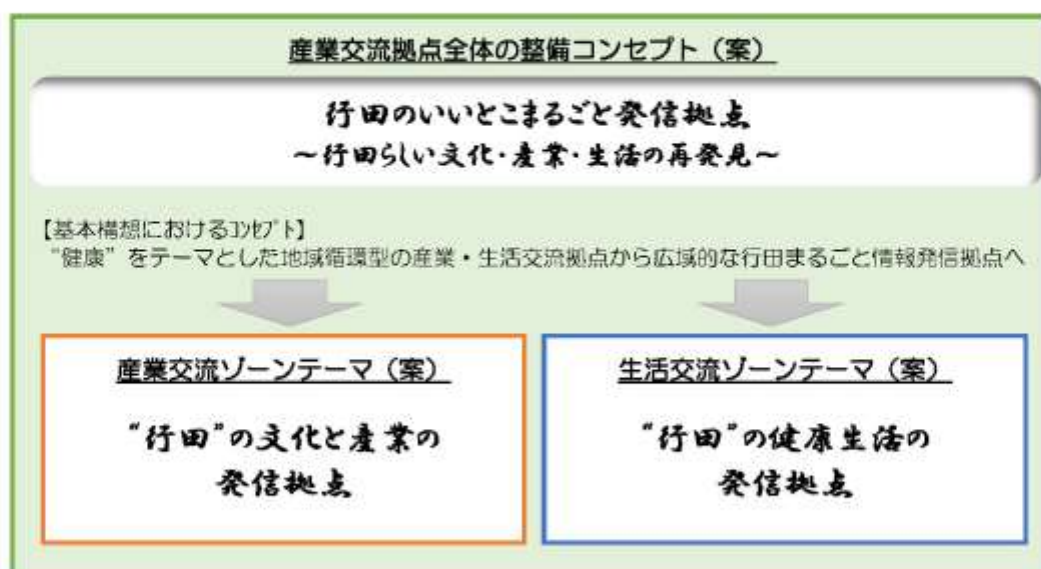
行田らしい文化とは、古代の「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の「忍城」を中心とした城下町の形成、近代における「足袋産業」の発展など、市内各所に残る歴史を、市民のかけがえのない誇りとして継承していくものです。

行田らしい産業とは、米や麦などの農業を中心に、農産物の生産や加工、食品づくりなど、個々の探求心や創意工夫から生み出される行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と多様な事業者の連携によって新たな6次産業として発展していくものです。

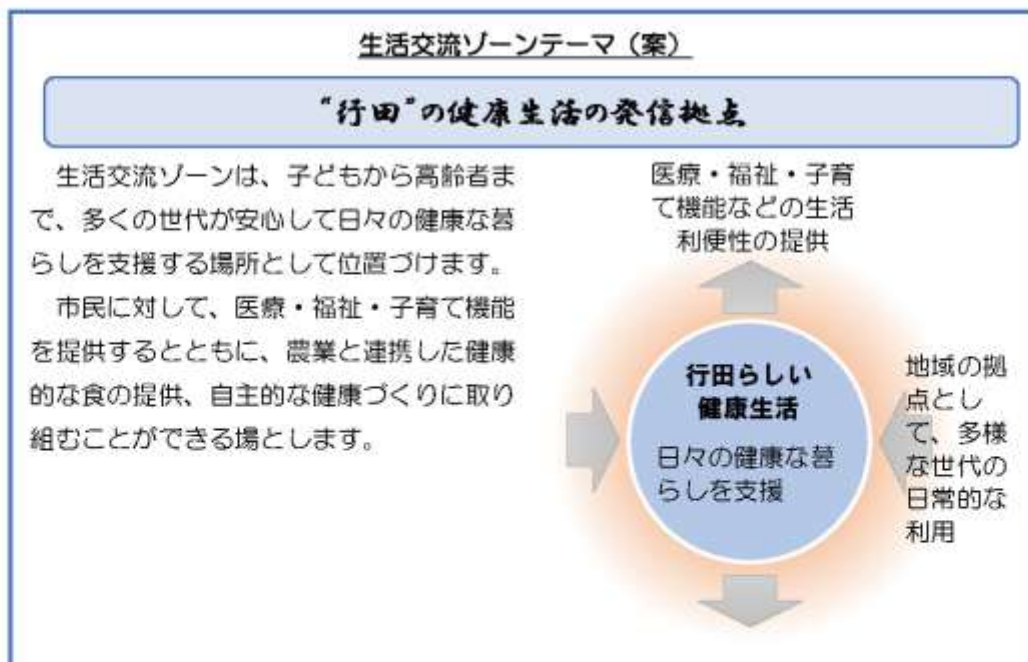
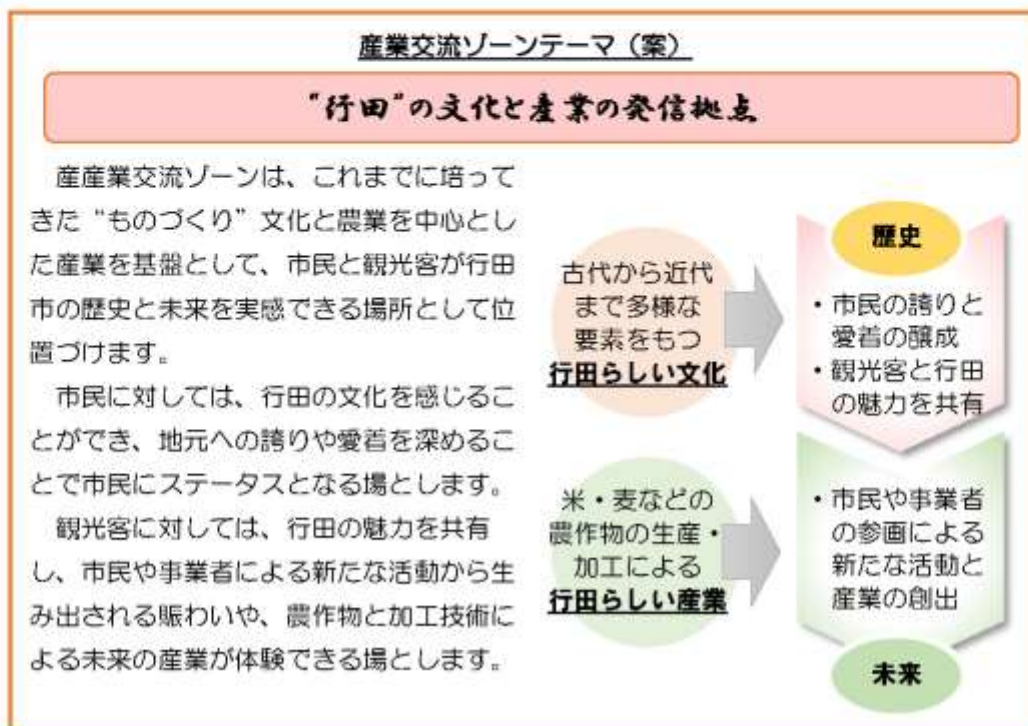
行田らしい生活とは、高齢化が進む中で、産業交流拠点を多くの世代が交流し、多様な機能が集積する小さな拠点として整備することにより、市民が健康で安心した生活を送ることを目指すものです。

産業交流拠点に訪れることで、利用者が行田らしい文化・産業・生活を体験することで“行田らしさ”を再発見することができ、それらの要素がコンパクトに集積し、まるごと発信できる拠点として、また、未来の行田市の発展につながる拠点として整備を進めます。

さらに、産業交流拠点全体を「産業交流ゾーン」と「生活交流ゾーン」の2つのゾーンに分け、それぞれのテーマを設定し、市民と観光客が交流できる拠点とします。



## (2) ゾーン別テーマの設定



### (3) 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ

「行田の文化と産業の発信拠点」としてのゾーンテーマを実現するためには、行田市の魅力的な歴史を継承し、新たな活動・産業により未来の発展につなげる必要があります。

そのためには、市民にとっては、地元への誇り、愛着を深めてもらう場所として、観光客にとっては「行田」を発見してもらう場所として、整備を進めます。

以上を踏まえ、マーケティングテーマを次のように設定します。

#### ■ マーケティングテーマ（案）

マーケティングテーマ（案）

## 行田再発見！

古代、戦国から現代、未来へと続く  
“人”と“技”の世界

行田市は「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の関東七名城に挙げられる「忍城」など、日本の歴史を語る上で欠かせない史跡を有し、江戸時代から近年にかけては、「足袋」の一大産地として栄えてきました。現在もその多くの史跡や街並み、大切な自然を残しながら、新しい産業基盤の整備を進めています。

また、行田市の産業交流拠点においては、歴史・文化を発信すると同時に、市民一人一人の積極的な活動を促し、地域振興の場である産業交流拠点だからこそできる事業へと発展させていくことが重要と考えます。

農産物の生産や加工、食品づくりなど、個々の探求心は、古くから培われてきた“行田気質”によるものです。多くの人の“行田気質”を集約・研究していくことで、それぞれの人が日本を代表するオンリーワンとなり、市内産業・経済の活性化、ひいては“行田”そのもののアピールへとつなげてまいります。



#### (4) エリアの考え方と施設機能

全体の整備コンセプトである「行田のいいところと発信拠点〜行田らしい文化・産業・生活の再発見〜」及び産業交流ゾーンと生活交流ゾーンのゾーンテーマを受け、本施設を配置し、それぞれ特色のある空間を目指します。

##### ウェルカムエリア

施設の玄関口、また、休憩場所として利用できる場所として、「ウェルカムエリア」を位置付けます。

機能としては、観光コンシェルジュ（情報コーナー）、ロビー、コンビニ、トイレなどを配置します。トイレ及び情報コーナー、コンビニは深夜利用を見越した配置とします。



##### カルチャー&コミュニティエリア

行田市のものづくりや歴史などを体験してもらう場所として、「カルチャー&コミュニティエリア」を位置付けます。

機能としては、ギャラリー、多目的スペース、加工キッチンなどを配置します。加工キッチンはアグリパークの生産物も加工することができる場所とします。



##### 賑わいエリア

市民と観光客、高齢者と子どもなど、様々な人々が集い、賑わいが生まれる場所として、賑わいエリアを位置付けます。また、イベントスペースも一体となって賑わいを生み出す場とします。

機能としては、レストランやフードコート、直売所、物販、テイクアウトコーナーなどを配置します。



##### イベントスペース・広場

賑わいエリアと一体となって、文化の発信や朝市など、多様な催しが開催できる場所として、イベントスペースを位置付けます。



##### アグリパーク

農業振興の場として、アグリパークを位置付けます。



##### 生活交流エリア

地域住民の日々の健康な暮らしを支えるための医療施設、福祉施設や、子育て世代を支援するための場として、生活交流エリアを位置付けます。

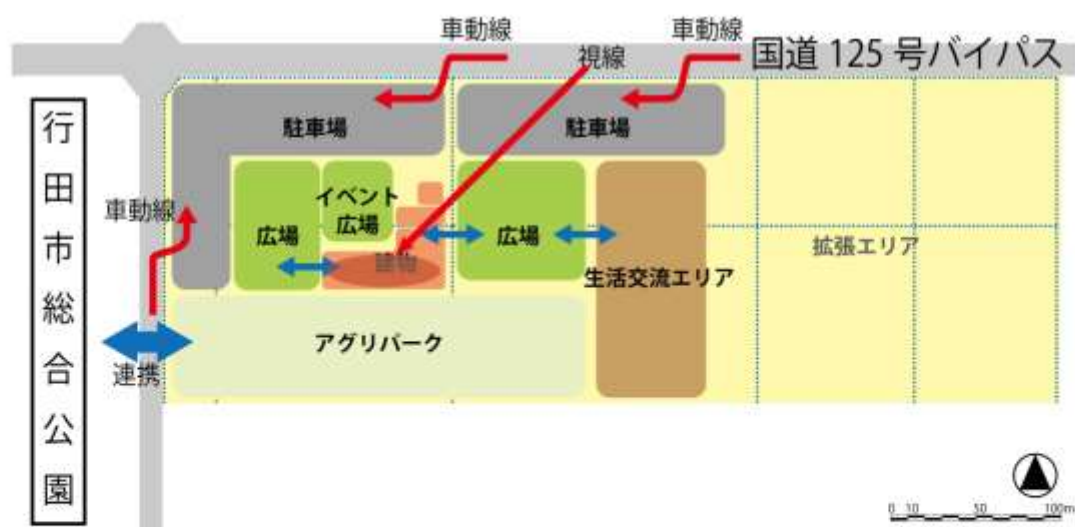
■検討委員会における施設機能の意見一覧	
ウェルカムエリア	観光コンシェルジュデスク、情報コーナー、ロビー、アトリウム、コンビニエンスストア、トイレ、フリーWi-fi、バスターミナル
カルチャー&コミュニティエリア	多目的スペース、食品加工キッチン、地場産業体験コーナー、ギャラリー、フラワーアレンジメント教室、料理教室、フライ・ゼリーフライ講座教室、昔遊び体験施設、アート工房、ダンススタジオ、室内遊具場、文化・歴史紹介ブース
賑わいエリア	レストラン、フードコート、直売所、物販、テイクアウトコーナー、スイーツ販売、菓子製造販売、地元加工品販売、ハンドメイド販売、足袋販売、屋台村、パン工房、ピザ工房、姉妹都市提携店、駄菓子屋、鮮魚市場、そば工房、うどん工房、喫茶店、ラーメン屋、たまごショップ、青大豆ショップ、豆腐工房、いちごショップ、パスタショップ
イベントスペース・広場	RVパーク、BBQ場、ダンス・音楽・甲冑隊ショーステージ、オートキャンプサイト、アスレチック広場、芝生広場、水遊び場、ゴーカート場、面白レンタ自転車、ボルダリング、ふれあい動物園、フットサルコート、スケボーリンク、ふわふわドーム、ドッグラン、ゴルフ場、釣り堀
アグリパーク	日帰り体験農園、観光農園、市民農園（クラインガルデン）、南国フルーツ園、牧場
生活交流エリア	医療施設、福祉施設、子育て支援施設、市役所窓口出張所、消防署、郵便局

### 3. 整備イメージ

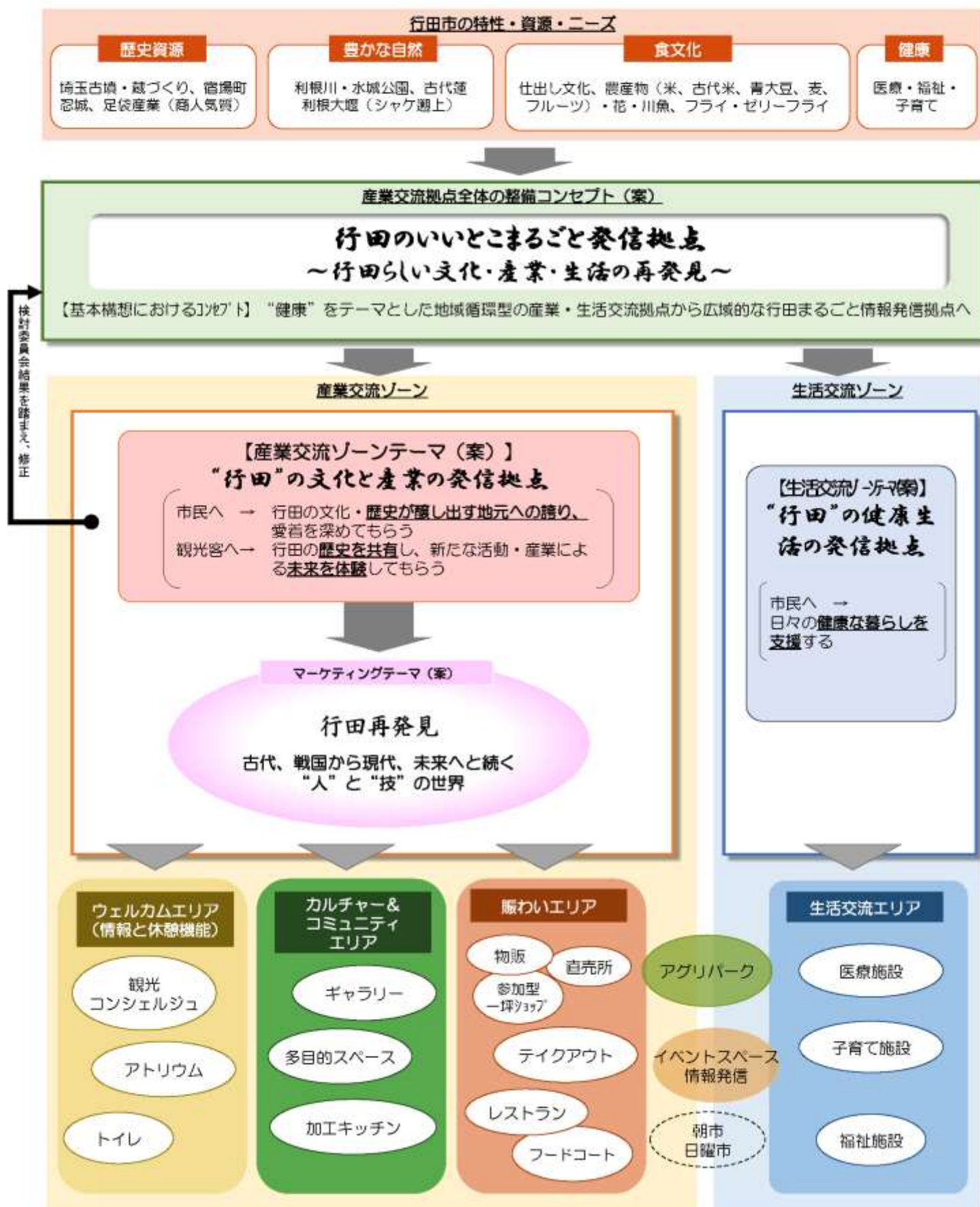
#### (1) 配置の考え方

建物	<p>○L字型に建物を配置することにより、イベント広場との一体性を確保します。</p> <p>○国道125号バイパスから建物正面が見える、視認性の高い配置とします。</p>
広場	<p>○大小様々なイベントに対応可能な広場とします。</p> <p>○広場を利用する人々の様子が国道125号バイパスから分かりやすい、視認性の高い配置とします。</p> <p>○建物と建物の間に広場を設け、一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p>
賑わい	<p>○アグリパーク、広場、建物を隣接配置し、一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p> <p>○総合公園と一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p>
駐車場	<p>○国道125号バイパスからのアクセスを考慮し、駐車場長辺を国道125号バイパス側に配置します。</p> <p>○総合公園と一体的に利用しやすいよう、駐車場を配置します。</p> <p>○生活交流エリアの駐車場は分離させ、各建物へアクセスしやすい配置とします。</p>

#### (2) 配置計画図









施設機能の意見集約について事務局案		
ウェルカムエリア	ロビー（アトリウム）	観光コンシェルジュデスク、情報コーナー、フリーWi-fi
	その他	コンビニエンスストア、トイレ、バスターミナル
カルチャー&コミュニティエリア	多目的スペース	ギャラリー、フラワーアレンジメント教室、昔遊び体験施設、ダンススタジオ、室内遊具場、文化・歴史紹介ブース、地場産業体験コーナー、アート工房
	食品加工キッチン	料理教室、フライ・ゼリーフライ講座教室
賑わいエリア	飲食店	レストラン（地産地消）、喫茶店、ラーメン屋、パスタショップ、屋台村、そば工房、うどん工房、スイーツ販売、パン工房、ピザ工房、豆腐工房
	フードコート	
	テイクアウトコーナー	
	直売所	菓子製造販売、鮮魚市場、たまごショップ、青大豆ショップ、いちごショップ、地元加工品販売、ハンドメイド販売、足袋販売、姉妹都市提携店、駄菓子屋
イベントスペース・広場	ステージ	ダンス・音楽・甲冑隊ショー
	芝生広場	水遊び場、ふわふわドーム、BBQ場、アスレチック場、面白レンタ自転車、スケボーリンク
	整備しない	RVパーク、オートキャンプサイト、ゴーカート場、ボルダリング、フットサルコート、ゴルフ場、釣り堀
アグリパーク		日帰り体験農場、観光農園、南国フルーツ園、市民農園（クラインガルデン）、牧場、ふれあい動物園、ドッグラン
生活交流エリア		医療施設、福祉施設、子育て支援施設、消防署、郵便局、市役所窓口出張所

## ⑨第5回会議録

会 議 の 名 称	第 5 回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成 28 年 10 月 18 日（火） 開会：18 時 00 分 閉会：19 時 30 分
開 催 場 所	産業文化会館 2 階第 2 会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 小池利昌（行田市商店会連合会） 戸塚昌利（NPO 法人 行田観光物産会） 町田 光（NPO 法人 魅力創造倶楽部） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 大澤和美（長野中学校 PTA） 長谷川浩（農業従事者） 太田 彰（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長）
欠 席 委 員 氏 名	大野真理（（公社）行田青年会議所） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 市川ひろみ（星宮小学校 PTA） 告 広子（公募市民） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島
会 議 内 容	・議 事 1) 施設機能の確認について 2) 管理運営手法の比較・確認について ・その他
会 議 資 料	・（資料 1）次第 ・（資料 2）第 4 回委員会を踏まえた施設機能の意見集約案 ・（資料 3）管理・運営手法の比較 ・（資料 4）エリア別運営管理手法
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者 9 名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	開会 資料確認
チェックイン	各委員からの近況報告
小林委員長	議題 1)「施設機能の確認について」説明をお願いします。
事務局	資料説明（資料 1）
小林委員長	ご意見あるか。
長谷川委員	前回話に出た、加工体験ができる施設が抜けていないか。
事務局	アグリパークの加工品キッチンと体験キッチンというのがある。2 か所に分散した形になっている。
太田委員	トイレや施設の具体的な規模は今後ということによいか。
小林委員長	はい。 議題（2）「管理運営手法の比較・確認について」説明をお願いしたい。
事務局	資料説明（資料 3, 4）
小林委員長	質問も含め何かあるか。
長谷川委員	前回、事務局から PFI と民間の活力を活用するという話があったが、例えば県内で道の駅に関わらず PFI で実際に立ち上げたものはあるか。
事務局	平成 9 年に、「アグリパークゆめすぎと」が PFI で行っている。
事務局	事業者を決めるときは、PFI の導入が可能かという調査を行い、可能であれば、事業者に手を挙げていただき参画してもらうことが多い。
戸塚委員	ウェルカムエリアは PFI ではやり手がいらないと思う。指定管理になるのではないか。
事務局	ウェルカムエリアだけで PFI でやろうとすると出来ないと思うが、施設全体として考えた場合に PFI の可能性があるということで載せている。
長谷川委員	B00 方式は、PFI とは違うのか。
事務局	PFI の手法のひとつにはなっているが、最終的に施設の所有権を民間がもつ形になる。PFI の契約期間が終わる 2、30 年後に道の駅ではないものになる可能性があるため、この方式で道の駅を運営している事例は国内にない。 期限付きの公共施設を整備する場合などに用いられる PFI の手法である。
大橋委員	運営のことを考えた時にどこと組むのかが大事になってくると感じた。 千葉県の道の駅保田小学校は㈱共立メンテナンスが入っている。ここはビジネスホテルや旅館系も運営しているが、日本の現風景をテーマパーク化することに長けた民間事業者だと思っている。小学校をリノベーションし、小学校の昭和観をうまくテーマパーク化しており、入った瞬間に他との違いが分かる施設で、思わずどこの運営なのか聞いてしまった。聞きたくなるくらい完璧なコーディネートであった。PR も上手で元の施設を残しつつテーマパーク化している。新しく作るのではなく施設を生かしていくということも大切である。自

	分たちのテーマにあった民間事業者の選び方が大事になると思っている。
町田委員	今回は説明ということで、その中に皆さんの意見が入り、今後絞られていき、新たなものは反映していくことでよいのではないか。
小林委員長	今後サウンディング調査等しながら話を聞き、やり方など皆さんのご意見を聞いていく。今後発展させるために、様々な内容を分割してチェックしていただく。
太田委員	ここに書いてあるものを想像したら、かなり大きなものになると思う。資金がすごくかかる。肥大すぎる気がする。
飯嶋委員	管理運営手法の①～③は最初から考えていないということだと思うが。
小林委員長	直営はないと思うが、手法として並べているだけである。
長谷川委員	用地買収は市が行うと考えてよいか。
小林委員長	とりあえず市で行う。その後売却や賃借を想定している。 できればそのあたりの話についても皆さんにご意見を聞いて、その内容を反映していきたいと思っている。 質問はないか。
大篠委員	行田市で PFI をやったことはあるか。
事務局	ない。検討しているものを含めても、この事業しかない。
小林委員長	ランドブレインさん補足はないか。
事務局	最近民間を活用することが主流となっている。運営に関しては民間が行った方が集客でき、行田市においては産業交流拠点なので民間施設をどれだけ作れるかがポイントになる。PFI は民間が収益を得られるようにしないといけない。アグリパーク等、上手く活用し、施設の配置や運営管理等、検討していく必要がある。
太田委員	候補地は地理的条件がよい。近くには熊谷のスタジアムもあるので、年間の利用者はかなりの数になると思う。そのような人達をいかに自然に中に入れられるような施設にすることが大事になってくるので、そこを重点的に話した方がよい。 施設を造るには膨大なお金がかかる。企業が出店したくなるような条件を考えなくてはならない。民間は利益が見込めなければ来ない。 今後人口は減少していき、若者は便利なところに出て行ってしまう。生活するには魅力ある場でないと定着しない。 例えば、トイレは 24 時間対応になっているが、一部は有料のトイレにしてもよいのではないか。
飯嶋委員	資料に事例が出ているが、実際どういう運営方法になっているか。 全体として運営する会社がひとつあり、そこが中のテナントなどを募集して家賃をとる形なのか、もしくは地元の事業者が出資金を集めて会社を作っていくのか。どのような方法なのか詳しく聞きたい。

事務局	<p>道の駅とみうらは、地元の方と手を組む形で、第三セクターの株式会社とみうらが行っている。</p> <p>中にはアイスクリームショップやレストランなどがあるが、テナント方式になっているのか分からない。</p> <p>道の駅田園プラザ川場では第三セクターを立ち上げて、そこが直営で行っているので、テナントは入っていないと思う。</p>
戸塚委員	<p>よっぽどのことがない限り、場所は決定なのか。熊谷市が近くに先につくるという話があるが、大丈夫か。</p>
小林委員長	<p>昨年度の調査結果より分析した結果、一番よいのは125号バイパスとなっている。先に熊谷市が建てるかも知れないが、全く性質が違う。また、整備まで時間がかかりそうだと聞いている。</p>
町田委員	<p>他の道の駅を参考にしても行田市の参考にはならないと思っている。</p> <p>どうやって民間を誘致するかが勝負だと思っている。いかに周辺で開発できる土地に民間企業が入ってこられるか。</p> <p>行田市に出来たから寄ってみたいではなく、ふらっと来たくらいのイメージで十分だと思う。何かを作ったから来るというより、行田市だからどうしなくてはいけないかを考えていかないと、経営的には成り立たない。</p> <p>熊谷市や羽生市に道の駅が出来ようが関係はない。あとは集客力や何を組み合わせるのか、どこを誘致してくるのが一番大切であり、その後に出来ることが広がっていくのではないのか。行田市自体に核なるものがないので、行田市としての道の駅の形を作っていくことを考えた方がよい。125号バイパスは通過地点だが、それだけ車が通っているので行田市としてうまく利用して、どのように集客していくのか考えていくと観光にも繋がり活性化にもなる。</p> <p>民間部分と公的部分について表として表記することにより、道の駅のイメージとして最初から考えられるのではないか。</p> <p>そうすれば「この部分は指定管理にする」など、形が見えてくるのではないか。</p>
小池委員	<p>町田さんの意見と同感だが、核になる企業がその場に工場を持ってきて工場見学をさせ、お菓子等、特徴あるものを出した方がよいのではないか。地元企業にしても第三セクターにしてもお金を出すところがあるのかどうか。一番基本となる問題が語られていない。どうしたらペイできるかなど、突っ込んで検討しないとならない。</p>
小林委員長	<p>前回までの検討で機能としての道の駅や、それ以外にクリニックモール等を配置し、相乗効果で集客できればよいと考えている。</p> <p>儲からないと思った企業は来ない。ファーストフード等は目を付けるのではないかと考えている。</p> <p>そのような中で、管理手法についていろいろ説明をさせていただき、この先どのような手法でやっていくのかをこれから見出していく段階である。</p>

小池委員	どういうところなら、企業が来るかなどの提案はないのか。
小林委員長	<p>まだこれからである。基本計画を作って、それを元に個々に企業をあたっていくのがこれからの流れである。</p> <p>大きな構想を作ったので、その中でより現実的に何がよいのかを決めていく。管理運営会社などこれから具体化していく。</p>
小池委員	形をつくったうえで出てくる企業があるのか。
小林委員長	<p>形はあくまでフリーである。市からこういう物だという押しつけはしない。あくまで自由で、やりたいものがあればお任せしていく。</p> <p>今日は前回までの取りまとめをして、管理手法の確認していただくことが目的である。</p> <p>これを踏まえ、これからつくる基本計画に反映していきたい。</p> <p>意見も出尽くしたようなので、これで閉会とする。</p>
事務局	事務局より事務連絡。
事務局	次回 11 月を予定しているが、未定である。追って通知をする。
チェックアウト	各委員の感想
町田委員	<p>道の駅に大きな企業が来てくれれば思っている。</p> <p>土地も利回りしない市町村は珍しいと思っている。行田市の評価が上がり地主が資産運用や空き家を利用できるような形に繋げていきたいと思う。</p>
堀口委員	始めて聞く言葉も多く理解することも難しいが、これから出来る道の駅の場所はあの場所であってほしい。羽生インターから秩父の間の休憩所としてはよいと思っている。行田市が盛り上がればよいと思う。
大澤委員	近所なので、早くできるようにこれからも参加していきたい。
長谷川委員	秩父から 140 号を走ってきて、花園のような集客施設等があるとみんなが寄ると感じた。いずれ道の駅が出来たときに、自分のお店も参加できるようにしていきたいと思っている。
大篠委員	よい部分を取り次いで、行田市の独自色が出せるように会議の中で皆さんのご意見を出していけば、よりよいものができるのではないかなと思う。
大橋委員	<p>行田市としての魅力が分散しているとの話があったが、他の観光施設をみていると、「〇〇の里」というように、言ったもの勝ちみたいなどころがある。</p> <p>認識がなくても言い切ることで魅力として定着していくことがあり、外の方が行田市の魅力に気づくこともある。第三者に見てもらうことでどの魅力が一番よいのか、研究材料になるのではないかな。</p>
戸塚委員	どこにでもあるのではなく、理屈とかではなく他にはない物ができていけばよいと思っている。
小池委員	<p>どのようにすれば魅力あるものがつくれるのか、これを考えていかないといけないが、財政を考えなくてはいけない。</p> <p>魅力の点について、自分たちで見つかるのか。企業に託してもいいのか、企</p>

	業がくるのか。どのようにしたら魅力ある集客力のあるものをつくれるのか が、キーポイントだと思う。ぜひ魅力を見つけない。
飯嶋委員	採算に合わないからと弾いていくと、殆どなくなってしまうと思うので、皆 さんで一坪ショップやテナントができればよいと思ったが、実際にはないとい うことで残念である。 やってみたいという物が実現できたらよいと思う。
吉田委員	施設機能についてある程度まとまったので今後イメージができると思う。次 回もイメージを膨らませて参加したいと思う。
太田委員	これはテーマパークである。何もないところから追及していくので難しい。 60代世代だと新聞を読むが10代、20代は読まない。 若者にひとつの商品を気に入ってもらえれば、ネットやSNSでパッと広がる。 新聞には書いてないが、ネット上で広がる。これをうまく使っていけば違った 面も出てくるのではないかな。もう一面もあり、若者は無駄なものには金を使わ ないが興味のあるものには投資する。 今の道の駅は空気がきれいである。山があり谷あり吊り橋あり、観光といっ てみんな寄ってくれる。ここは平坦の何もないところに作るのだから、何をし ようかということが必要だと思う。



⑩第5回会議資料

第5回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

次 第

日時：平成28年10月18日（火）

午後6時00分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

- |                          |        |
|--------------------------|--------|
| 1. 開 会                   | 18：00～ |
| 2. チェックイン（委員からの近況報告）     | 18：05～ |
| 3. 議 事                   |        |
| 1）施設機能の確認について            | 18：20～ |
| 2）管理運営手法の比較・確認について       | 19：00～ |
| 4. その他                   | 20：00～ |
| 5. チェックアウト（本日の委員会を受けて感想） | 20：15～ |
| 6. 閉 会                   | 20：20  |

(1)施設機能の確認について

第4回委員会を踏まえた施設機能の意見集約案

各エリア	施設(ハード)	機能(ソフト)
ウェルカムエリア	ロビー(アトリウム)	観光コンシェルジュデスク、情報コーナー、フリーWi-fi
	トイレ	
	バスターミナル	
カルチャー&コミュニティエリア	多目的スペース	ギャラリー、フラワーアレンジメント教室、昔遊び体験施設、室内遊具場、歴史・文化紹介ブース、地場産業体験コーナー、アート工房
	体験キッチン	料理教室、フライ・ゼリーフライ講座教室
賑わいエリア	飲食店	レストラン(地産地消)、喫茶店、ラーメン屋、パスタショップ、屋台村、そば工房、うどん工房、スイーツ販売、パン工房、ピザ工房、豆腐工房
	フードコート	
	物販施設	菓子製造販売、たまごショップ、青大豆ショップ、いちごショップ、地元加工品販売、ハンドメイド販売、足袋販売、姉妹都市提携店、駄菓子屋、一坪ショップ
	直売所	農産物直売所、鮮魚市場
イベントスペース・広場	芝生広場	水遊び場、ふわふわドーム、アスレチック場、面白レンタ自転車、オートキャンプサイト、ドッグラン、ステージ、BBQ場、スケボーリンク
アグリパーク	農場施設	日帰り体験農場、観光農園、南国フルーツ園、市民農園(クラインガルデン)、牧場、花園
	加工品キッチン	
生活交流エリア	各種必要施設	市役所窓口出張所、防災備蓄センター
		医療施設、福祉施設、子育て支援施設、託児所、消防署、郵便局
その他	コンビニエンスストア	

(2) 管理運営手法の比較・確認について

■管理・運営手法の比較				
区分		メリット	デメリット	事例
①直営方式 (地方公営企業)	自治体が資金調達から管理運営まで担う。いわゆる従来型の公共事業手法である。	直接コントロールが可能である。  自治体の行政意向が発揮できる。	経営ノウハウに乏しく維持管理経費の削減が期待できない。民間導入型と比べコストが高くなり易い。	
②地方独立行政法人方式		地方団体が直接行うのに準ずる公共性を確保しながら、地方独立行政法人の長により広範な権限行使を認め、経営責任の明確化をはかるとともに、予算執行における機動性、弾力性の向上が可能。	情報公開や住民監査などが保障されず、住民自治・住民参加が大きく後退するおそれがあり、事業の公共性・公平性・安定性を損なう恐れがある。	
③第三セクター方式	自治体が資金調達から設計、施工を行う一方で、管理運営について第3セクターを立ち上げ、運営する。	比較的組織設立が容易（一定の公的な出資金が確保） 自治体と民間との連携によるサービスが提供できるため、情報提供・イベント等での連携が比較的容易である。	官民の役割分担を明確化できないと、主体性をもたない管理運営となりやすい。また、第3者によるチェックを後退させ、事業の経営状態が不透明化するおそれがある。	・富楽里とみやま ・とみうら枇杷倶楽部 ・くろまつない ・上品の郷 ・川場田園プラザ ・豊前おこしかけ
④指定管理者制度	自治体が資金調達から設計、施工を行う一方で、管理運営は民間に委ねる。	業務の範囲、仕様等の協定により、地域の活性化及び地域住民と一体となった性能発注による施設の管理・運営が期待できる。 専門的なノウハウをもった民間業者を選定すると、質の高いサービスの提供、採算性の高い管理運営が期待できる。	業務の範囲、仕様等を詳細に協定しなければならず、弾力的な運営ができにくくなる可能性がある。また、手続き等に時間を要し、運営開始後もモニタリング（運営評価）を行う必要がある。	・瑞穂 ・保田小学校 ・越後出雲崎天領の里 ・サーモンパーク千歳 ・まくらがの里こが
⑤PFI手法	民間の資金・技術力・経営力を導入・活用し、設計・建設・管理運営までを一括で民間に委ねる。	民間資本により施設建設することにより、公共投資が抑えられる。	事業化に時間を要する。また事業化が不可能となった場合には、再検討を要する。	・いぶすき彩花菜(さかな)館 ・笠岡ベイファーム ・ようか但馬蔵
(BOO方式)		専門的なノウハウをもった民間業者による管理運営がなされるため、質の高いサービスの提供、採算性の高い管理運営が期待できる。	専門的な民間業者による管理運営となるため、地元密着型の管理運営になりにくい可能性がある。	

エリア	内容	運営管理手法
ウェルカム エリア	客をお迎えするおもてなしの場。／「道の駅」としての玄関機能 (※ショップなど、商業的なものは含まない)	-
情報コーナー	「道の駅」の必須機能、道路・防災情報、地域の観光情報など。	指定管理もしくはPFI
アトリウム (ロビー)	客をお迎えする玄関(ホール)的機能の場。 ソファなど休憩ゾーンにすることが多い。 上記の情報の内、地域情報はここで発信する方法もある。 イベントとの連動使用もあり。	指定管理もしくはPFI
トイレ	24時間対応トイレ使い易い&キレイなトイレが今の主流。	指定管理もしくはPFI
カルチャー& コミュニティエリア	公的サービスのスペース 住民用、観光客用に体験などのできる場 無料、有料どちらもあり	-
ギャラリー	地元の人の活動発表の場、または全国区レベルの展示を行うこともあり。 既存公的施設等にある場合が多いが、観光客の集まる道の駅に設置することにメリットがある。 <b>文化・歴史紹介ブース</b>	指定管理もしくはPFI
多目的 スペース	主に施設管理者が研修や打ち合わせに使う会議室。 観光体験など、客の使用も考えられる。 <b>香道体験、フラワーアレンジ教室、地場産物体験</b>	指定管理もしくはPFI
体験キッチン	地域メニューづくりなどの観光体験を行う場。 加工場としての機能を備えれば、直売所に出す加工品の加工場としても使える。 <b>料理教室、フライ・ゼリーフライ教室</b>	指定管理もしくはPFI

エリア	内容	運営管理手法
その他	「道の駅」施設内の公的機能、地域振興を目的とした商業機能以外のゾーン 屋外公園、その他市民向けサービス機能(病院、保育所)など	-
コンビニ	主に市民の利便施設としての位置づけ。 24時間対応、または深夜営業が望ましい。	民営
イベントスペース (公園)	屋外または屋内での市民活動の拠点(朝市、祭り、各種イベントなど)。 地元の人達の市や物産展などの他、地域イベント(祭りなど)の拠点の1つにもできる。 通常は遊び場の公園として開放できると良い。 <b>ドッグラン、水遊び場、BBQ場、アスレチック場</b>	指定管理もしくはPFI
アグリパーク	地元の生産者等と共同し、見せて体験する観光農園。 <b>体験農園、観光農園、クラインガルデン、フルーツ園、牧場、ふれあい動物園</b>	指定管理もしくはPFI または民営
※バスターミナル	必要に応じて整備する。	指定管理もしくはPFI
※生活交流エリア	<b>医療施設、福祉施設、子育て支援施設、消防署、郵便局</b>	民営
	<b>市役所窓口、防災備蓄センター</b>	指定管理もしくはPFI
※バックヤード	事務所、直売所の商品の在庫管理や生産者が搬入作業などを行う場、イベントなどの設備器具の倉庫など、それぞれ道の駅施設内とするか、別棟とするかは要検討。	-

エリア	内容	運営管理手法
賑わいエリア	直売所や物販、飲食など商業的収益機能の場 「行田」の無償の場	-
直売所	地元の生産者の販売の場。生産者の“顔”が見える販売手法。 管理はJA、または別の団体（生産者など）、施設管理者などが考えられる。 <b>野菜市場、花市場、鮮魚市場</b>	指定管理もしくはPFI または民営
物販	地元の銘菓や土産品、菓子、雑貨などオリジナル商品や地域商品の多い売り場か、一般的な土産品売り場かで、イメージが変わる。 直売所と一緒にすることも可。 <b>菓子製造販売、足袋ショップ、※姉妹都市提携店、「城・蔵」コーナー</b>	指定管理もしくはPFI または民営
参加型 一坪ショップ	地元の人達が出店するミニショップ。 商品販売や飲食など、横丁型（ラーメン博覧）に小さな店を配置。 管理は指定管理者が行う、全体計画に沿った運営など、出退店の管理が難しい。 <b>屋台村、そば工房、うどん工房、ピザ工房、豆腐工房、フライ・ゼリーフライショップ、スイーツ販売、いちごショップ、駄菓子屋、たまごショップ、青大豆ショップ、ハンドメイド販売</b>	指定管理もしくはPFI または民営
レストラン	地元の女性達や活動グループの運営の「農家レストラン」型の地域らしいタイプが多いが、その場合は指定管理者の管理下となる。 行田オリジナルメニューがあると話題性が高い。 民間テナント型にすると、地域らしさ（名物メニューなど）を出すのは難しい。 （※1店舗型かフードコート型かは今後の検討） <b>地産地消レストラン、喫茶店、ラーメン屋、パン工房、パスタショップ、行田絶屋、行田定食屋、デザートカフェ</b>	指定管理もしくはPFI または民営
テイクアウト	ドリンクやソフトクリームなど、一般的なメニューのみにするか、ゼリーフライやコロッケなどオリジナルをやるか否か。利益率は高いアイテムが多い。 （※テイクアウトとしては一般的メニューのみとし、一坪ショップで地域名物メニューの展開も考えられる）	指定管理もしくはPFI または民営

※「直売所」「物販」「参加型一坪ショップ」「レストラン」「テイクアウト」における各ショップやメニュー（赤字）は、店の作り方によって、どのエリアに入るかは変わってくる。  
例えば、道の駅エリアには一坪ショップ型（「行田横丁（案）」）のみで地元の“食”や“モノ”を集約、別エリアで大型飲食店や土産品ショップを設置（誘致）することも考えられる。

# ⑪第6回会議録

会 議 の 名 称	第 6 回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成 28 年 11 月 18 日（金） 開会：18 時 00 分 閉会：19 時 30 分
開 催 場 所	産業文化会館 2 階第 2 会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 戸塚昌利（NPO 法人 行田観光物産会） 町田 光（NPO 法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 市川ひろみ（星宮小学校 PTA） 大澤和美（長野中学校 PTA） 長谷川浩（農業従事者） 太田 彰（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長）
欠 席 委 員 氏 名	飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 小池利昌（行田市商店会連合会） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 告 広子（公募市民） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島、野沢
会 議 内 容	・議 事 1) 重点「道の駅」について 2) 企画提案書の確認について ・その他
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者 3 名
発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）

事務局	開会 資料確認
チェックイン	委員からの近況報告
小林委員長	議題（１）「重点「道の駅」について」説明をお願いします。
事務局	（資料２）重点「道の駅」について説明
長谷川委員	重点道の駅の中で、企画段階で選ばれているところはあるか。
事務局	<p>近くだと、桶川市が企画段階だが候補として選ばれている。</p> <p>その他の重点道の駅（以下「重点」）だと、千葉の睦沢町がまだ直売所しかないが認定されており、認定理由とすると広大なスマートウェルネスタウンという企画によるものである。</p>
西田委員	重点に選ばれるとどんなメリットがあるのか。
事務局	<p>行政的な話になるが、各調整で国の支援が受けられやすくなる。桶川市の副市長は国交省から出向しており、直に支援を受けている。国が総力をあげて道の駅を作ろうとしている。</p> <p>ぜひ行田市も素晴らしい計画を立ち上げて国の支援を勝ち取りたいと思っているので、よろしくお願いしたい。</p>
泉委員	<p>現在、重点の候補として桶川が挙がっている。関東では、ひとつだけ重点候補から重点になっている道の駅がある。</p> <p>重点になると様々な支援を受けられるのでメリットはある。</p>
小林委員長	<p>国交省の方に直接会ったが、行田でもぜひと言われている。</p> <p>計画段階で重点候補ではなく重点になることもあると言われている。そうすると国交省で色々バックアップしてくれるようになり、農地問題も国交省から農水省へ話をしてくれる。</p> <p>国交省が選出したからには責任をもって出来上がるよう支援するので、よい計画を作ってほしいと後押しされている。</p> <p>熊谷という近い場所にも道の駅ができる予定の話をしたが、企画内容が別であれば近くでも大丈夫である。自分たちが目指すよい道の駅を企画してほしいと話を聞いてきた。</p> <p>議題２「企画提案書の確認について」説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料３）企画提案書（案）様式１</p> <p>（資料４）企画提案書 概要説明シート 様式２ 説明</p>
西田委員	<p>この場所に行くには車かバスになると思うが、行田市で路線バスを整備していくのか。ここに集客をする物の提案はよいが、ここに人が来るまでの仕組みとしてバスなども載せてもよいのではないか。</p> <p>年配の方が自家用車に乗らなくても気軽に行けるようにバスを整備しようとしているのか、民間のバスを利用しようと思っているのか。人を運ぶ仕組みとしての提案がここに入ってくるとよいと思う。</p>



事務局	<p>提案は企画書（３）提案メニュー②具体的な提案メニューの交流拠点の所にまとめている。総合公園との連携と一緒に書かれているので、バスターミナルについては、分けて具体的に書くようにしたいと思う。</p> <p>羽生インターから花園インターまでの観光バスの中継拠点と考えており、今後、市内循環バスのほか、路線バスも追加をしていきたいと考えている。</p>
大野委員	<p>産業振興については書かれているが、子育て世代の意見として、どこに行けば子育ての情報が共有できるのかが分かるとよい。</p> <p>例えば病児保育は市内には１か所しかない。子どもを預かれる施設についての記載があるとよい。</p> <p>防災について、備蓄倉庫だけでは弱い。設置する設備について、災害時の活用方法等を記載した方がよりよいと思われる。</p>
事務局	<p>ご意見について、庁内の検討委員会でも同様の意見をいただいている。子育て支援施設と福祉施設、防災拠点に関して、さらに具体化させていきたいと考えている。</p> <p>そのため、現在ヒアリングを行い調整中であり、今後企画提案書に盛り込んでいきたい。</p>
泉委員	地域センター型かゲートウェイ型のどちらを目指しているのか。
事務局	両方を目指したい。
泉委員	そこが分かるように企画書に書き込むと、分かりやすくなる。
西田委員	ここは行田市を中心となる場所でありと思うが、それだけでは、多くの施設を運営していくのは難しいものがある。ここから様々な情報を発信することによって行田を知ってもらい、購買に繋がるとよい。両方が必要だと思う。
事務局	<p>整備スケジュールにサウンディング市場調査があり、そこで民間企業に来てもらえるか調査を行う予定である。</p> <p>昨年度の調査で通行量だけでも年間６０万人以上の集客できるのではないかと、という試算が出ているので、それも踏まえて民間にも協力していただき、道の駅を整備していきたい。</p>
町田委員	ここにある図面は仮であるのか。
事務局	これは仮の案である。今までの意見を入れたものであり、あまり詳しく書いてしまうと、それに縛られてしまうといけないので漠然とした案である。
町田委員	ここまで開発できるという目安なのか。
事務局	それも違う。まだ開発については未定であり、あくまでレイアウトの参考である。
町田委員	<p>道の駅を敷地の角に持っていくのではなく、道の駅の両側の土地を開けておく方がよいと考える。</p> <p>民間の誘致を考えると、国道と敷地の内側にもう１本広い道が必要になってくると思うが、交差点の傍に道の駅があるより、道の駅を真ん中に持ってきて周りに民間が来られるようにしておいた方がよいと思う。仮ということで、変</p>

	更ができるのであれば良いが。
小林委員長	<p>道の駅には単独型と一体型というのがあり、一体型は道路管理者がお金を出して設置する、単独型は市町村が自由に作ることが出来る。</p> <p>出来れば県と一緒にやりたいので、県の標準的なものになると角になってしまう。総合公園の交差点と羽生方面の道路から入れるようにして、24時間営業とするとこの場所になってしまう。道の駅を真ん中に入ると入り方が複雑になってしまう。</p> <p>単独型であれば自由であるが、一体型となると、どうしても県側の意見になってしまう。しかし、その点については今後の検討になると思う。</p>
町田委員	道の駅は国土交通省の補助金になるのか。
小林委員長	支出元は県になる。間接的に国から来ることになる。
町田委員	東北自動車道や関越道から近い。上越や信越にも行くことが出来る場所である。国に防災倉庫を建ててもらい、関東や東北への防災の拠点にならないか。国の事業を受けるようなことができないのか。
小林委員長	現在国交省に出せる範囲で書いているもので、決まっていないことを載せることは出来ない。また、裏付けのないものは書くことが出来ない。柔軟性があるような表現で書いている。
長谷川委員	様式2の連携を想定する機関等の中で、入っていない機関やNPOの足袋蔵ネットワークがここに入っていない理由はあるのか。
事務局	足袋の推進協議会は立ち上げたばかりで軌道に乗っていないので記載をしない。現在書かれている団体の最後に「等」とし、書ける範囲で書いていく。
西田委員	企業の応援という場合、商工会議所は必要になると思うが。
事務局	他の市町村では地元企業が合同で出資した特別目的会社を設立し、道の駅の管理運営をあたっている会社もあるので、商工会議所の連携も可能である。
西田委員	この中にある医療、子育て支援に市の窓口が出来ると思っている。
事務局	あまり想定していない。図面上で福祉総合施設が大きくなっているが、クリニックモールの方が大きくなっている。まだ案の段階なので大きさには縛られないで考えてほしい。
西田委員	<p>実際に市の窓口が入るとしたら、エリアは医療、福祉、子育て施設の中に入るのか。</p> <p>核のひとつは行田市の建物と捉えていたが、資料では民間事業者となっていたので聞いたのだが。</p>
事務局	<p>建物については、市の単独型になるのか、県との一体型によって変わってくる。</p> <p>PFIで行うとなると、どちらになるかは分からない。やってくれる民間がいないと出来ない。</p>
事務局	窓口が市単独の建物ということになるわけではないと思うので、民間が運営

	<p>する建物の一画でということになると思う。</p> <p>子育て支援施設については調整して検討していく必要はある。</p> <p>これからの協議で建物の大きさも変わってくることになる。</p>
太田委員	<p>要するにまだ何も決まっていないということであり、民間事業者が来たいと思うような場所にしたいということ。</p> <p>市民に対しては、医療、福祉、待機児童の対応をして人口増加を目指す。</p> <p>125号バイパスの利用者の財布から、如何に落とししてもらえるのか。</p> <p>行政が法律などの問題を解決してもらい、民間がやり易く、利益の上げられる環境づくりにできるように、この場で意見を出している。</p>
小林委員長	<p>国は企画・提案で選ぶことになるので、注目を浴びるような提案をしたい。</p> <p>細かい経営などについては今後のことである。</p>
西田委員	<p>今はステップ1にも行っていないということか。</p>
事務局	<p>現在は基本計画の検討委員会を立ち上げている段階で、来年度以降、民間の事業者もあたりをつけていきたい。</p>
小林委員長	<p>私と市長で農水省へ行ってきた。</p> <p>実際は動いているが、具体的な内容の前にまず国交省である。</p> <p>皆さんに企画提案書の内容はこのぐらいでよいということであれば、それを受けて新しい様式に合わせてすぐに提出したい。</p> <p>皆様にこの内容でよいのか総意をいただきたい。</p>
大野委員	<p>確認したいのだが、重点道の駅で共通しているところがあるのか。</p>
小林委員長	<p>他と違うということで重点道の駅が選ばれているので、共通しているところはない。</p>
町田委員	<p>病院はないのか。</p>
小林委員長	<p>病院は個人で出来ないので、クリニックモールとしている。</p> <p>情報が洩れて他にとられる前に早く提出したい。</p>
西田委員	<p>アグリパークも特化しているのではないか。</p>
小林委員長	<p>アグリパークはすでに事例がある。</p> <p>ご意見を生かし、国からの今年度の募集がありましたら、すぐにでも企画提案書を提出したいと思っている。</p>
事務局	<p>事務連絡。</p> <p>次回12月14日を予定している。</p>

## 第6回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会 次 第

日時：平成28年10月18日(火)

午後6時00分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

1. 開 会
2. チェックイン（委員からの近況報告） ～
3. 議 事
  - 1) 重点「道の駅」について
  - 2) 企画提案書の確認について
4. その他
5. チェックアウト（本日の委員会を受けて感想）
6. 閉 会

平成27年1月30日

道 路 局

## 重点「道の駅」の選定について

～地方創生の核となる「道の駅」を重点的に応援します～

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、現在では全国で1040箇所に広がり、地元の名物や観光資源を活かして、多くの人々を迎え、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上にも貢献しています。

国土交通省では、この「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、関係機関と連携して特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施します。

今般、有識者のご意見もいただき、選定対象を国土交通省として決定しましたので、以下のとおりお知らせします。

## 1. 選定結果

- 全国モデル「道の駅」 選定数 全 6 箇所
- 重点「道の駅」 選定数 全 35 箇所
- 重点「道の駅」候補 選定数 全 49 箇所

※ 選定対象の詳細は別添資料のとおりです。

## 2. その他

- 後日、選定証を交付する場を開催する予定です（別途お知らせします）。

選定結果の詳細等はホームページでも公表いたします。（<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/>）

（参考）政府広報オンライン「地方創生の拠点に！地域を元気にする『道の駅』」

（<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg11133.html>）

## [問い合わせ先]

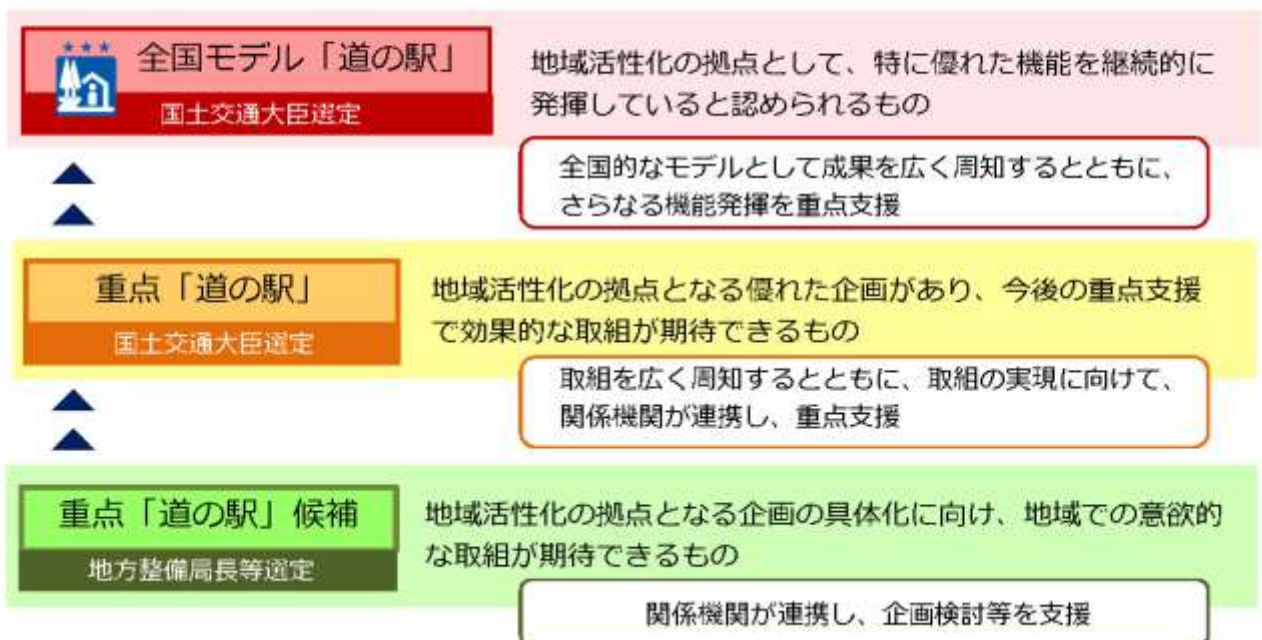
道路局 国道・防災課 企画専門官 四童子 隆（内線 37832）  
 課長補佐 山田 雅義（内線 37842）  
 企画課 課長補佐 小島 昌希（内線 37532）  
 代表 03-5253-8111  
 直通 03-5253-8492 FAX 03-5253-1620

## 重点「道の駅」制度の概要

- 全国各地で「道の駅」を地域活性化の拠点とする取組が進展しています。
- この動きを応援するため、国土交通省では、重点「道の駅」制度を創設し、優れた「道の駅」を関係機関と連携して重点支援する取組を実施します。



### 《重点「道の駅」に想定される機能》

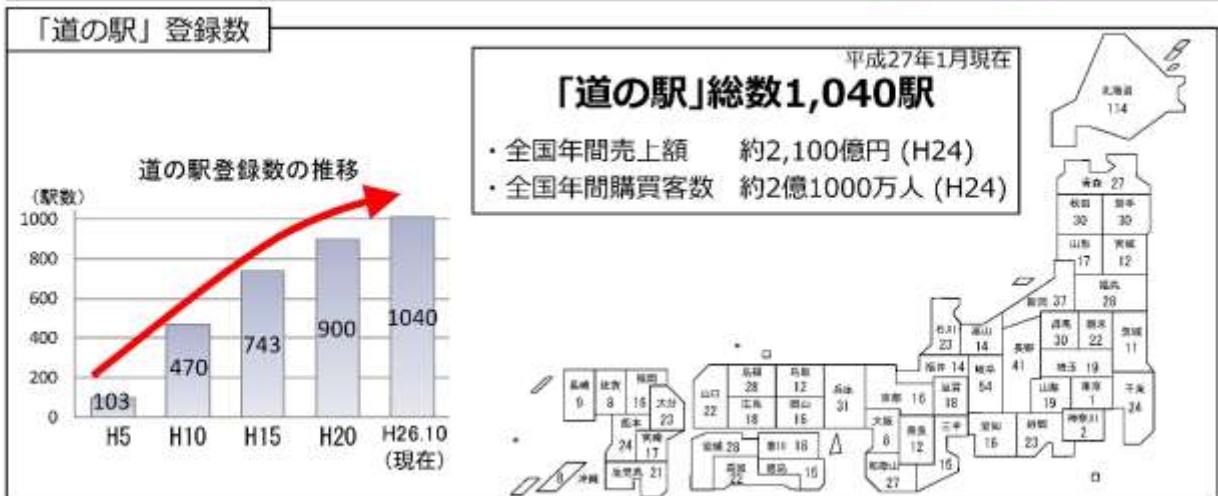
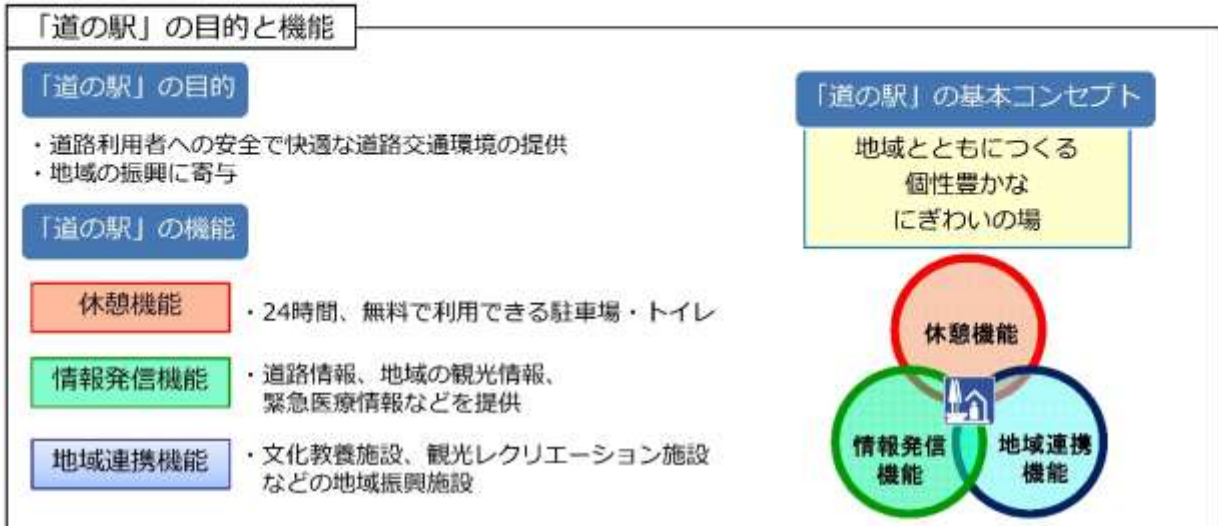




## (選定の流れ)

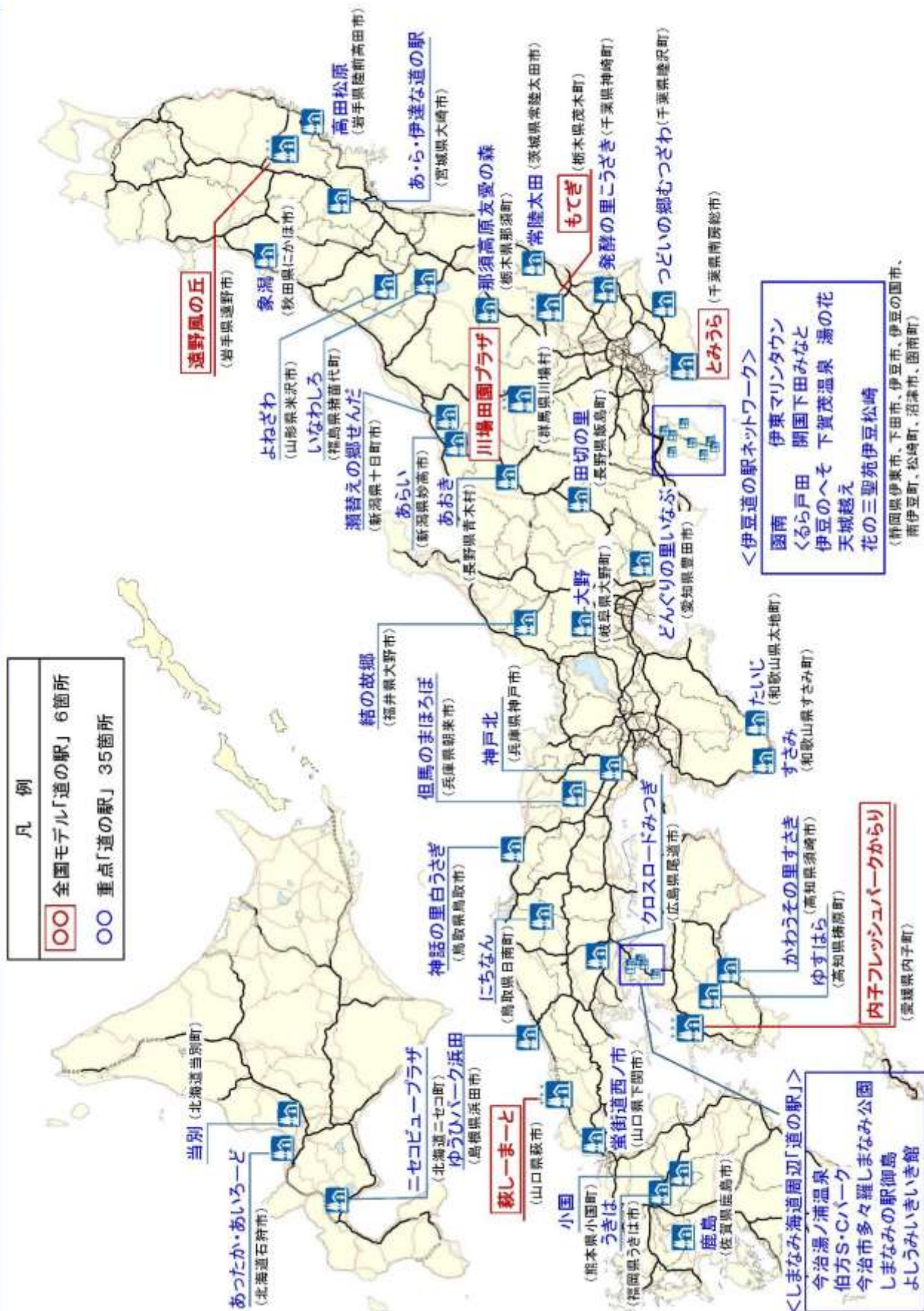


## (参考資料)





# 重点「道の駅」選定箇所（全国モデル「道の駅」、重点「道の駅」）



(様式1)

## 企画提案書(案)

平成28年11月 日作成

道の駅名	(仮) 道の駅 ギョウダ		
道の駅設置者	行田市		
提案者の役職、氏名	行田市長 工藤正司		
担当者の役職、氏名	行田市 環境経済部 商工観光課 柿沼誠		
連絡先	TEL: 048-556-1111      mail: syoko@city.gyoda.lg.jp		
道の駅の所在地	(仮) 埼玉県 行田市 谷郷		
整備手法	単独型／一体型	全体施設面積	82,650 m <sup>2</sup>
接する道路の路線名	国道 125 号バイパス	道路管理者	埼玉県行田県土整備事務所
提案の概要			
<b>(1)地域概要</b>			
<b>①本市の特性</b> <p>行田市は、東京都心から北北西に約 60km、埼玉県の北東部に位置しています。古代の「埼玉古墳群」に始まり、関東七名城に挙げられる戦国時代の「忍城」など、日本の歴史を語る上で欠かせない史跡を有し、江戸から近年にかけては、「足袋」の一大産地として栄えてきました。</p> <p>また、本市がお米の産地であることを活かした「田んぼアート」がギネス記録に認定されるなど、多くの地域資源を有しています。</p> <p>さらに、B 級グルメとして知られる「フライ・ゼリーフライ」などの昔ながらの食文化の継承とともに、近年は行政と市内事業者の連携のもと、新たな特産品の開発に力を入れています。</p>			
<b>②上位計画における位置づけ</b> <p>行田市都市計画マスタープランにおいては、「地域資源の活用による、にぎわいが生まれるまちをつくる」方針のもと、交流拠点の整備が、施策として位置付けられています。</p> <p>また、行田市産業振興ビジョンにおいても、「地域資源を活用した農商工連携による新産業の創出」にむけ、「①地域商圏を活かした交流拠点の整備」、「②地域ブランド商品の開発」の 2 つの戦略を進めることとしています。</p>			
<b>③まちづくりの方向性</b> <p>市の特性や上位計画の位置づけを踏まえ、基本構想において以下の方向性を定めています。</p> <p><b>「健康」をテーマとした地域循環型の産業・生活拠点から広域的な行田まるごと情報発信拠点の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域のひと・もの・かねが循環する産業交流拠点機能</li> <li>②地域のひとの生活・福祉を支援する生活交流拠点機能</li> <li>③広域的な行田まるごと情報発信拠点機能</li> </ul> <p>具体的には、市内でとれた野菜や米を地域の直売所として供給するなど、地域のものとお金が循環する拠点づくりを進めます。</p> <p>また、道の駅の整備対象地は行田市中央の市街化調整区域に位置しており、周辺に核となる施設が存在しないことから、周辺住民が日常生活の中で利用・交流できる、小さな拠点づくりを進めます。</p> <p>さらには本市の有する多くの観光資源と観光客を繋げる情報発信拠点づくりを進めます。</p>			



#### ④整備対象地

広域アクセス、商圏、土地利用、周辺施設との連携等を考慮し、国道 125 号バイパス沿いの行田市総合公園に隣接する、8.2ha の敷地を対象地として選定します。

#### <（仮）道の駅ぎょうだの整備計画>



#### <位置図>



#### (2)地域で発生している課題及びその要因

##### ■地域独自の農産物ブランドの確立

行田市の農業分野において、「米」が産出額の半数を占めています。現在、市内事業者を中心として「青大豆」を活用した特産品や「行田ブランド米」の開発に向けた6次産業化の取組みが進められており、農産物ブランド化の更なる推進が求められます。

##### ■地域資源間の回遊性向上とネットワーク化

行田市は、多くの観光資源や豊かな自然環境を有していますが、情報集約がなされていないことから、情報集約拠点の整備によるネットワーク化が求められます。

##### ■「行田らしさ」の創造

行田市には、戦国時代の「忍城」を中心とした城下町、近代における「足袋産業」、さらに近年では市内の事業者を中心に特産品の開発が行われるなど、特色ある歴史・資源を有しています。しかし、それぞれが十分に活かされていないことから、本市の歴史・資源を見つめ直し、「行田らしさ」の特色ある価値の創造が求められます。

##### ■周辺住民のための生活拠点の整備

行田市には、生活の核となる拠点がございません。今後、人口減少及び高齢化の進行が想定される中、住民が将来にわたって健康的に生き続けることができる生活拠点の整備が求められます。

#### <品目別農産物産出割合>



#### <青大豆を活用した特産品開発>



#### <観光施設の利用者数の推移>



### (3)提案メニュー

#### ①地方創生の拠点としてのコンセプト

地域で発生している課題及びその要因を踏まえ、拠点全体の整備コンセプトを以下のように設定します。

#### <拠点のコンセプト>



#### 行田のいいところとまるごと発信拠点 ～行田らしい文化・産業・生活の再発見～

拠点全体を「産業交流ゾーン」と「生活交流ゾーン」の2つのゾーンに分け、それぞれのテーマを設定し、市民と観光客が交流できる拠点とします。

拠点に訪れ、利用者が行田らしい文化・産業・生活を体験することで“行田らしさ”を再発見することができ、さらに、それらの要素がコンパクトに集積し、まるごと発信できる拠点として、整備を進め、未来の行田市の発展につなげていきます。

#### ②具体的な提案メニュー

具体的には以下の機能の整備を行います。

分類	提案メニュー
産業振興	<p><b>○新鮮で健康な食材と文化を提供するための市内事業者との連携</b> 農業と連携した健康な食品の提供、自主的な健康づくりに取り組む場の整備により、市民の健康促進を目指す。</p> <p><b>○農業振興・人材育成に資するアグリパーク、体験・加工工場の設置</b> アグリパークや体験・加工工場の整備により、市民をはじめとする来訪者が農業や行田市の文化に触れる機会を創出し、農業振興と人材育成を目指す。</p> <p><b>○行田らしいものづくり文化・食文化を提供する一坪ショップの設置</b> 行田特有の農産物を活用した商品開発、足袋をはじめとする行田の「ものづくり」文化に触れる機会を創出し、「行田らしさ」の販売・PRを目指す。 また、市内の起業家や事業者が参入しやすい施設を整備することで、市内産業の活性化を促進する。</p>
地域福祉	<p><b>○地域住民の生活拠点となるクリニックの誘致、市役所窓口の設置</b> 医療施設(産婦人科、小児科クリニックなど)、子育て支援施設、福祉施設等の整備により、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して健康的に住み続けることができるとともに、世代を超えて交流できる場所を目指す。</p>
防災	<p><b>○防災拠点としての整備</b> 備蓄倉庫等の防災設備の設置により、防災拠点として整備を目指す。</p>
観光総合窓口	<p><b>○市内観光資源の総合的な情報発信</b> 市内観光資源の情報発信によって、道の駅を観光総合窓口とした観光ネットワーク化を目指す。</p>
交流拠点	<p><b>○総合公園と連携した広場や広域連携に向けたパスターミナルの整備</b> 隣接する総合公園と連携した広場整備により、健康づくりの拠点として一体化を図るとともに、パスターミナルの設置により、住民の生活利便性の向上を目指す。</p>

#### (4)整備スケジュール

整備スケジュール				
Step1	Step2	Step3	Step4	Step5
○関係機関との調整	○サウンディング市場調査	○用地買収	○建設	○オープン
	○事業計画案公募	○施設決定	○運営準備	
	(計画付事業予定者公募)	○実施設計		
		○管理運営計画		

#### (5)提案実現のための実施体制

平成 27 年度より、具体的な調査研究、基本構想の策定を行い、平成 28 年度には「行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会」を立ち上げ、基本計画の策定に取り組んでいます。環境経済部商工観光課が事務局として、道路管理者との調整、市の農業施策や観光施策との連携を図っています。

また、平成 29 年度以降は、供用開始を見据えた、道の駅の指定管理者や民間活力を導入するための詳細調査を予定しているとともに、行田ブランド米や青大豆などの行田産農産物の生産及び消費拡大に向けて、「行田市地産地消応援団」による事業者登録を行うなど、新たな特産品開発や市内事業者との連携にも力を入れて取り組んでいます。

#### (6)効果把握の手法案及び効果目標

- 産 業 振 興…特産品開発、売上金額、雇用拡大を目標として、経年的に調査を実施し効果測定
- 地 域 福 祉…地域住民の満足度、利用者数を目標として、経年的に調査を実施し効果測定
- 防 災…防災設備基数を目標として、経年的に調査を実施し効果測定
- 観光総合窓口…市内の観光資源への来訪者数を目標として、観光入込客数による効果測定
- 交 流 拠 点…道の駅への来訪者数を目標として、経年的に調査を実施し効果測定

#### (7)道路管理者の協力

平成 28 年度に検討している「行田市産業交流拠点整備基本計画」及び「道の駅整備要望書」を、国道 125 号バイパスの道路管理者である行田県土整備事務所に提出し、今後、一体型道の駅整備に向けて協議を開始する予定です。



## ①(仮)道の駅 ぎょうだ

## ②行田市

- 市内各所に残る歴史を、行田らしい文化・市民のかけがえない誇りとして継承していく拠点
- 行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と多様な事業者の連携による6次産業と人材育成の拠点
- 多様な機能が集積する小さな拠点として、市民が健康で安心した生活を支援する拠点

産業	医療福祉	防災	観光総合窓口	交流
6次産業化・ブランド化	地域の医療・福祉支援	防災拠点の整備	まると情報発信	市内外の交流・観光連携
<p><b>行田のいいところと発信拠点</b> ～行田らしい文化・産業・生活の再発見～</p> <p>① “行田”の文化と産業の発信拠点</p> <p>古代から近代まで多彩な歴史をもつ 市内農作物の生産・加工による 行田らしい文化</p> <p>② “行田”の健康生活の発信拠点</p> <p>日々の健康な暮らしを支援による 行田らしい健康生活</p>				
駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設
ぎょうだ	埼玉県	行田市	国道125号 バイパス	新設
				設置年度
				平成35年度
				種別
				単独ノード型

### ① “行田”の文化と産業の発信拠点

古代から近代まで多彩な歴史をもつ  
市内農作物の生産・加工による  
行田らしい文化

行田らしい産業

“足袋産業”に代表される  
ものづくり文化や食文化の継承

市内観光資源の  
まると情報発信

アグリパークと事業者が  
連携した特産品開発

農・商・工業業体と  
人材育成の場

### ② “行田”の健康生活の発信拠点

日々の健康な暮らしを支援による  
行田らしい健康生活

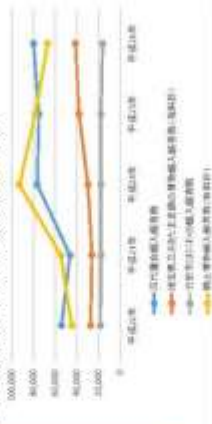
地域の拠点となる  
医療・福祉・子育て機能の集約

隣接する総合公園と一体となった  
健康づくりの場

■位置図



■観光施設の利用者数の推移（人）



### ＜提案の先駆性・ポイント＞

- アグリパークと連携した農業振興と特産品開発
- 産体協による未来の地場産業振興につながる人材育成
- 民間活力による賑わいのある産業交流拠点の形成
- 医療・福祉・子育て機能との一体的整備による小さな拠点の形成
- 総合公園と連携した健康づくり、観光資源の連携

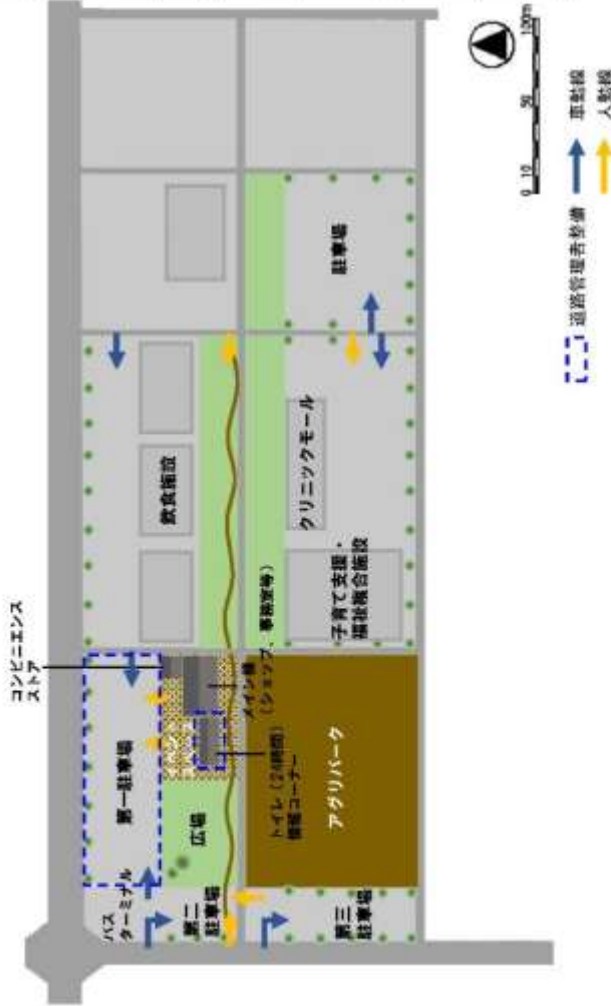
### ＜実施内容＞

- 行田らしいものづくり文化・食文化を提供する一坪ショップの設置
- 新鮮で健康な食材と文化を提供するための市内事業者との連携
- 農業振興・人材育成に資するアグリパーク、体験・加工工場の設置
- 地域住民の生活拠点となるクリニックの誘致、市役所窓口の設置
- 災害時避難所としての整備
- 市内観光資源の総合的な情報発信
- 総合公園と連携した広場や広域連携に向けたバスターミナルの整備

# ①(仮)道の駅 ぎょうだ

## ②行田市

＜(仮)道の駅ぎょうだの整備計画＞



＜検討経緯・整備計画＞

	実施内容
経緯	・調査研究、基本構想の策定(H27) ・基本計画検討委員会の立上げ(H28) ・基本計画の策定(H28年度予定)
Step1	・関係機関との調整
Step2	・サウンディング市場調査 ・事業計画案公募
Step3	・用地買収 ・実施計画 ・施設決定 ・管理運営計画
Step4	・建設 ・運営準備
Step5	・オープン

＜実施体制＞

・行田市環境経済部商工観光課(事務局)
・行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

＜連携を想定する機関等＞

・国土交通省 ・農林水産省 ・埼玉県関係各課(行田県土整備事務所等) ・行田市関係各課(企画政策課・農政課・都市計画課等) ・行田フレイ・ゼリーフライ友の会 ・行田軽トラ朝市実行委員会 ・NPO法人行田観光物産会 ・NPO法人魅力創造倶楽部
---

＜実施内容詳細＞

整備内容	面積	整備主体	運営主体
駐車場	11,420㎡	設置者	指定管理者
広場等	46,660㎡	設置者	指定管理者
トイレ・情報発信施設	250㎡	設置者	指定管理者
物販施設・直売所	820㎡	設置者	指定管理者
飲食施設・コンビニ等	4,700㎡	民間事業者	民間事業者
医療・福祉・子育て施設	5,900㎡	民間事業者	民間事業者
アグリパーク	12,900㎡	民間事業者	民間事業者



### ⑬第7回会議録

会 議 の 名 称	第7回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成28年12月14日（水） 開会：18時00分 閉会：20時00分
開 催 場 所	産業文化会館2階第2会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会） 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 長谷川浩（農業従事者） 市川ひろみ（星宮小学校PTA） 太田 彰（公募市民） 告 広子（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
欠 席 委 員 氏 名	小池利昌（行田市商店会連合会） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 大澤和美（長野中学校PTA） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島、野沢 M&D研究所：濱田、杉村
会 議 内 容	・議 事 1) 施設配置図について 2) 概算事業費について 3) 収支計画について ・その他
会 議 資 料	・次第 ・（資料1）行田市産業交流拠点における施設配置図 ・（資料2）産業交流拠点の概算事業費 ・（資料3）行田市産業交流拠点における収支計画
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者5名
発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）

事務局	開会 資料確認
チェックイン	委員からの近況報告
小林委員長	議題について関連があることから一括して説明をお願いします。
事務局	(資料1)「行田市産業交流拠点における施設配置図」、(資料2)「産業交流拠点の概算事業費」、(資料3)「行田市産業交流拠点における収支計画」について説明。
西田委員	市が運営をして、管理は管理会社に委託するのか。市が運営するところはどこになるのか。
事務局	運営管理は行田市では考えていない。あくまで指定管理かPFIを取り入れ、民間活力を入れていきたい。
西田委員	本棟の持ち主は行田市か。全ての建物が民間のものになるのか。
事務局	それも考えられるが、市で持つことも考えられる。現在決定できることはない。
西田委員	場合によってはすべてが民間になるのか。行田市が本棟だけを建てて管理だけを委託することもあるという捉え方でよいのか。
事務局	100%民間になると公共施設ではなくなってしまい、道の駅としての認定が取れなくなってしまうので、線引きは調整をしていく。
西田委員	トイレと駐車場は国からの助成金があるので持ち主は行田市になるのか。
事務局	その場合は県が持ち主になる。他の道の駅を見ると、トイレと農直の建物が分かれている。よく見ると駐車場の中に鉤が打っており、区画が分かれているのがわかる。
西田委員	資料2のトイレの部分は県の負担になるのか。
事務局	現在、想定は埼玉県と一体型で整備ができればと考えている。その他の建築部分は国交省や農水省からの補助金を考えている。全額市の負担とは考えていない。PFIなどで民間資本が入れられるようになれば、さらによいと思っている。
西田委員	アグリパーク等の管理は行田市か。
事務局	施設全体で指定管理やPFIならば、管理は運営会社で行っていただく。行田市での想定はしていない。
西田委員	そうすると建物や施設によって管理が別々になる可能性がある。面積の比率で分担して維持管理していくのか。
事務局	全体を大手企業等が管理し、そこからテナントとして分けることも考えられる。
西田委員	タイプBの場合、農家レストランだけで直売はないということか。
事務局	一坪ショップでの出店は可能である。そこは兼ね合いになる。
西田委員	直売所のない道の駅はあるか。

事務局	ある。大きな直売所がないところはある。
町田委員	配置図は決定ではないということでしょうか。
事務局	基本計画上の配置図なので決定ではない。最終的に整備を行っていく段階については整備計画を発表し、細かい測量をした上で寸法を測り、すべて図面に落としていく。
長谷川委員	本棟プランだが、民間開発の部分と本棟は別として配置も分かれるのか。民間施設と直売所などが連携しないとお客様側の利便性がよくない。足を伸ばさないこともありうる。
事務局	本棟については、道の駅部分として抽出しているが、本棟を飲食店と連結し、そこに直売所、一坪ショップ、その他飲食店を入れていくことも考えられる。
長谷川委員	民間との一体もあるということか。
事務局	そうである。ショッピングモールのように、すべてを一つの大きな施設の中に集約して建てることも今後の協議でありうる。
長谷川委員	以前、軽井沢のアウトレットモールの話があったが、ひたすら長く、飲食店を一周みて回った上でどこに入るか決める。飲食スペースが一体の方が、他の所にも足が伸ばせる。そのレストランで使用されていた地元野菜を買うこともありうる。決定でないなら、そういった形の方がより利便性も高まり物も動くような気がする。
西田委員	最終的には契約の民間や運営会社により変わると思うが、行田市の意向としての形を明確にしておくということでしょうか。
事務局	そうである。施設の検討をしていただく上で皆様の意見をいただき、できるだけ盛り込ませている。
告委員	トイレの入り口に情報コーナーとなっているが、情報は人が集まる農家レストランの場所の方が良いのでは。 赤ちゃんのおむつ交換台はあるのか。
長谷川委員	トイレだけの利用者もいる。その時に情報が入るという考え方もある。
小林委員長	トイレと情報コーナーは公の施設であり、併設を予定している。
大野委員	収支計画ではテナントが最大限入った仮定だが、空きブースもありうる。その際の見直しはどれほどで考えているのか。
事務局	基本的に、指定管理が直営でやればそのような問題は起こらない。テナントなど一坪ショップは、話を伺った人に入ってもらおう想定。 皆さんでここを作る、行田街のようなイメージ。出店がなくなり空き店舗になったときの数字は出していない。 基本市内の方に参加していただくお店なので、スムーズに引継ぎやすいのではという前提のもとであり、一般的な商業の考え方はしていない。
大野委員	テーマを決めてやってもよいかなと思う。管理は重要である。
事務局	地域還元の施設となっているので、指定管理者やあるいは裏についている行

	政と一緒に作るイメージである。
町田委員	<p>一坪ショップや農家の直売所にしても、だいたいの売り上げに対する割合の形で出店料とるのか。</p> <p>業者や行田の起業したい人がやるときに、大概売り上げの10～15%だが、割合は決まっているのか。</p>
事務局	<p>農産物や鮮度品は、JAでは10%。物販は雑貨系が粗利で35～40%、そこから人件費抜くと膨大にとれない。雑貨が20～25%まで売ればとれる。果物やシイタケがお店をやるとなると20%欲しいが取れない。地元の育成が裏側にはあるので、道の駅は地域振興が重要である。</p>
町田委員	固定費でやっているところはあるのか。
事務局	道の駅のテナント契約は、たいがい賃料坪1万である。
町田委員	この金額で計算すると、坪4万5千円になる。
事務局	<p>坪計算でもいい、運営団体が重要になる。民間なのか準民間なのか。</p> <p>地元の店を歩合にするのは、赤字にさせない配慮が大きい。</p>
町田委員	数字で追っていくと行田で坪4万5千円は高い。
事務局	5坪で1800万円の売り上げは高いと思う。しかし業種による。
町田委員	<p>15%で光熱費などが共同利用と考えたときに高いとは思わない。</p> <p>売り上げと坪単価と場所を考えたら、どこにどのお店を置かかこれからの問題ではあるが、今の状態では高い。</p>
事務局	坪単価より1,800万円売り上げるのが大変ということになる。
西田委員	<p>だいたい、JAでは10～15%、スーパーは19%ぐらいである。</p> <p>スーパーは売れ残ることがなく損をしない。地場野菜があればお客さんは来てくれる。利益も大きく数字も読めるのでよいが、なんでも売ってよいわけでもなく、市場とは違う企画があり地場野菜として新鮮さを求める。</p> <p>企業としてお試し一坪ショップということがあれば、一日いくらのような形の方が気軽にできる。チャレンジできればよい場になるのではないかな。</p> <p>市民が利用していく上で魅力あるものにしたい。誰が管理するかによって売上も変わってくる。</p>
事務局	指定管理の話をしているが、どの民間がやるとしても、市が後ろについて話を聞いてくれることが大切である。
泉委員	<p>ゾーニングと動線図をみると、総合公園に大きい交差点があるが右側には信号がない。</p> <p>クリニックモールは、交差点から入ってアグリパークの裏側から入っていくようになっているが、国道125号バイパスに信号を設けて、入りやすいような動線を検討してもよいのでは。今後の検討になると思うが。</p> <p>道の駅は情報コーナーと休憩施設は大前提であるので、休憩施設のスペースの規模が気になる。トイレも含めしっかり検討してほしい。</p>

戸塚委員	一坪ショップは塀で囲い、個人個人の店にするのか。それとも台を置いて商品をおくのか。
事務局	仕切りで考えているが、平面図のように必ずしもこういう形ではない。各店の特徴に合わせた大きさや壁もレイアウトできるようにしたい。
戸塚委員	<p>対面販売ということか。</p> <p>人件費とさらにテナント料15%がかかるということか。人件費に問題があると思う。農協だと商品を置いておくだけで人件費はかからず売ることができる。</p>
事務局	それはこれからの話。自由に考えて詰めていく。
戸塚委員	卸で道の駅の営業に行くが地元は10%~15%、他所は30~40%ということもある。
事務局	<p>卸し型で人を出さない話が多くなれば、直営のところに商品を置き、直営スペースを広げることも可能である。</p> <p>あくまで一坪ショップは自分でお店を出したいということになるので、今後の皆さんとの話し合いで決まっていく。</p>
長谷川委員	<p>125号バイパスを羽生方面に行ったところに歩道橋があるが、その先を行くと交差点があり、そこからはスピードを出しながら向かってくる車が多い。そこに急に入るところがあると危険な気がする。信号がないと危ないと思う。国道側が駐車場だと建物の視認性が落ちる。国道側に建物があり、壁があればPR広告を張り出せるようになるのでは。</p> <p>対向車線からは見えず入らない道の駅もあるという話もあった。建物が国道側にあり駐車場は中に入っていく方がよいのかと思う。</p> <p>国道から一本入った真ん中の東西に走っている道路は拡幅するのか。アグリパーク側の南側も拡幅することになると思うが。</p> <p>東西につながる真ん中の道路がメインになる方が使用者側からすれば使いやすいのではないか。安全性の確保も必要になる。</p> <p>国道はあくまでも通過する車がメインなので、敷地に入ってきてやっとうっくり中の様子が見えると思うので、入りやすいよう拡幅をし、車が入ってきても邪魔にならないような配慮が必要である。</p>
事務局	今の段階では、バイパスからのアクセスは、警察協議上かなり厳しい。道の駅は交差点から入るようにしている。真ん中の道路は歩行空間として行ったり来たりすることができるイメージをしていて、エリア内に車が行き来するのとはなるべく避けたいと思う。
長谷川委員	<p>国道からのアクセスが難しい場合、運動公園の交差点から左折して入ることとなる、そうすると西からのアクセスがメインなる。国道からが難しくなった場合の副案もあってもよいと思う。</p> <p>建物の後ろに駐車場がある場合、凍結の恐れがある。行田は雪が降る。除雪しないと解けないので使用できなくなるので、除雪用の施設も必要になるので</p>

	はないか。
小林委員長	あくまでこれはたたき台である。これから変わっていくものであると考えてほしい。動線は最終的に決定してからのことである。イメージを伝えていただくための図と理解いただきたい。
西田委員	直売所のみにするのか、農家レストランのみか、それとも折衷があるのか。直売所は地元の野菜だと端境期が出るので、管理によっては他市のものもあり得る。管理を考えると広ければ広いほど大変だと思う。農家レストランを後から作るようになった場合大変であるのならば、融通が効くような形にしてはどうか。折衷案にしてほしい。
戸塚委員	農家レストランのみはありうるのか。
事務局	想定はしている。しかし、道の駅といえば直売所なのであくまでパターンの一例である。
事務局	直売所をやりたい人がいるのであれば、一坪ショップの扱いでも対応可能。ここで書いてある直売所は指定管理の扱いでやるか、グループで直売所を出すか。いずれにせよ野菜なしということはないと思う。
戸塚委員	農協はやるのか。
長谷川委員	やらないと思う。任せてもダメになる。 オープンが目途が立ち、野菜をやっている農家が、この部屋くらい入れば端境期もなくなる。端境期がたくさんあるということは、ドル箱である。
町田委員	本棟の中に直売所を置かないとまずいのか。
事務局	そのようなことはない。
長谷川委員	アグリパークゆめすぎとは食堂と直売所の間に吹き抜けの屋根のようなスペースがあり、ここがイベントをやる時に雑貨や農産物を出している。外からも見えて賑わいを出せるようなスペースもあった方がよいと思う。北側に出るのではなく南側でないと寒い。そうすればトイレだけに来た人も覗いていこうかという動機付けにもなる仕掛けがあってもよい。
小林委員長	配置図は、既存の道路を動かさないという仮定で検討をしている。 実際300m道路は危険である。参考図であり、違う道路形態になることもありうる。ここではどういう施設を入れていくかということを示している。
西田委員	広場は人が入っても大丈夫な広場か。
事務局	広場となっているが、皆さんの意見からBBQ場やサイクリングコースなどすべて入れた形で想定している。人が入ってよい。場合によっては花壇等も考えられる。
西田委員	イベント広場は広くすることも可能と捉えてよいか。
事務局	よい。ご意見を文章で記録として残し、今後活かしたいと思う。
飯嶋委員	施設配置図となっているが、このように作るということではないということ でよいか。ショッピングモールみたいに行きたいと思わない。金を稼ぐだけの 場のような感じがする。緑が点在しており遊びに行きたいところがない。



長谷川委員	それは総合公園と棲み分けているのでは。緑はたくさんあった方がよいが。
小林委員長	配置図については、意見のイメージ化ということで参考にいただければと思う。
事務局	分かりやすさを考慮し、図を入れている。
小林委員長	意見をもとに、図や収支を出している。これらはあくまで参考である。
長谷川委員	図があるのはよいことである。
小林委員長	図があると意見が出やすい。意見を図面化したものであり、具体的な位置などすべて白紙である。今回提示したものは単純に並べたイメージである。
西田委員	アグリパークに小さなブースを借り、農家レストランでシイタケを獲り BBQ 等が出来るのは面白いと思うが、地元農家だけの運営だけでなく、市と小中学校で野菜を育てたりするなど、場を共有できるような形の契約にしておいた方がよいのではないか。お客様に苗植えイベントができる等、面白いイベントになる。そういった体験のニーズはある。
事務局	施設内容の意見を踏まえて、基本計画でも網羅的に施設を載せたい。市民農園やアグリパークなど。
長谷川委員	アグリパークも整理が必要。基本はお金が上がるものを選定すべき。年間を通してどのようにお客を楽しませるのか、集客するのか。施設全体でのマネジメントを考えると、この使い方の意見があってよいと思う。市内の水田は2,000ha、農地も入れればそれ以上あるので、体験などやるなら利便性のある場でやり、お金を取るべき。
小林委員長	<p>儲かる農業も考える必要があると思う。</p> <p>これは意見を集約したイメージである。年明けになると、文章が主体の案を示す。それをもとにパブリックコメントを実施し、市民の皆様からご意見いただき、最終的な基本計画を作り上げる。</p> <p>夢のある基本計画を作りたい。次回は素案を皆さんにお示しする予定である。</p>
事務局	次回は1月30日 月曜日。

## 第7回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会 次 第

日時：平成28年12月14日（水）

午後6時00分～

場所：産業文化会館2階第2会議室

1. 開 会
2. チェックイン（委員からの近況報告）
3. 議 事
  - 1) 整備計画について
  - 2) 概算費について
  - 3) 収支計画について
4. その他
5. チェックアウト（本日の委員会を受けて感想）
6. 閉 会

## 行田市産業交流拠点における施設配置図

## 1. 施設配置図について

- ・ウェルカムエリアは、別棟として24時間利用出来る情報コーナーとトイレを想定。駐車場や広場に近い位置に配置します。
- ・カルチャーカーコミュニティエリア。趣向いエリアは本棟として、農産物直売所や行田横丁等を配置します。
- ・アグリパークは、本棟南側に配置し、本棟内の多目的室・加工キッチンで、収穫した農産物を加工・料理体験できるように利用性を考慮します。
- ・民間開発を想定しているロードサイドの飲食施設は、国道125号バイパスからのアクセス性を考慮し、国道125号バイパス沿道に配置します。
- ・生活交流ゾーンは、地域住民の利用を第一に考え、南側からアクセスしやすい位置に、医療・福祉・子育て施設、クリニックモジュールを配置します。



## 2. ソーニング・動線図について

- ・産業交流拠点とは、産業交流ゾーン（ウェルカムエリア、カルチャー＆コミュニティエリア、緑わいエリア）と生活交流ゾーン（生活交流エリア）で構成し、隣接する行田市総合公園との連携を図ります。
- ・産業交流ゾーンにおいては、行田市総合公園との連携を考慮し、各エリア及び建物を西側に配置します。
- ・生活交流ゾーンにおいては、地域住民の利用アクセスを考慮し、建物を東側に配置します。
- ・自動車の動線は国道125号バイパスからのアクセスをメインに考え、東の羽生方面、西の熊谷方面、東西方向共に、行田市総合公園との間にある道路（行田市都市計画道路常盤通位間線 3.5.14）、「総合公園前交差点」からのアクセスを主要動線とします。
- ・生活交流ゾーンや民間開発のエリアには、東の羽生方面からアクセスしやすいように現状の道路を拡張し、動線を確保します。
- ・駐車場・出入口は、交差点からできる限り離れた位置に配置し、交差点付近の道路に緊密に接しないように配置します。



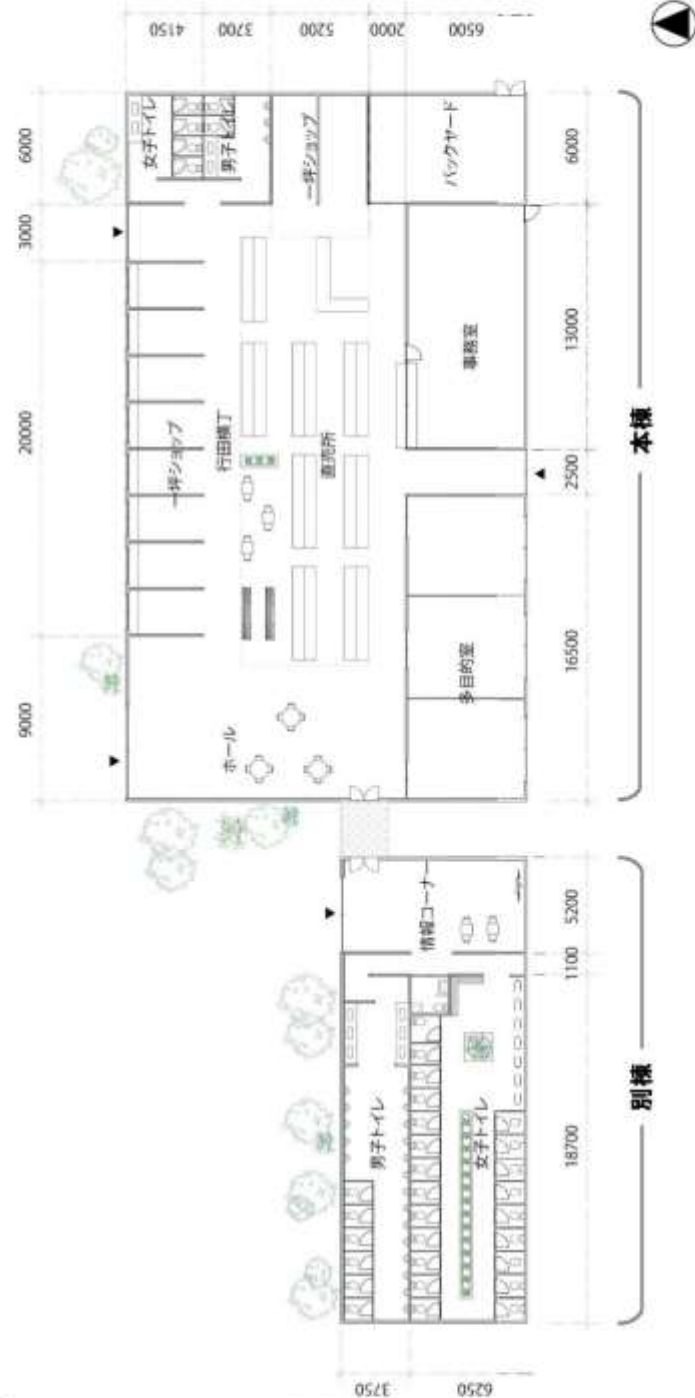
3. 本棟・別棟平面図について

・産業交流拠点となる本棟（多目的室・行田横丁等）と別棟（情報コーナー・トイレ）の施設内容は、次の3タイプにて検討を行います。

■施設内容（タイプA：中央に農産物直売所を設置）




施設機能	施設内容	施設イメージ
本棟 農産物直売所、 行田横丁（一坪ショップ等）、 加工キッチン、多目的室 等	・農産物直売所の棚は低く設計することで、店舗奥の景観しを良くする。 ・行田横丁は、各一坪ショップの特色を活かしつつ、統一感のある空間とする。 ・一坪ショップは屋外からのテイクアウトも可能とする。 ・加工キッチンは、6次産業化への活用も見据えた整備を検討する。 ・多目的室は可動壁とし、最大100㎡の利用可能な空間とする。 ・本棟のトイレは、敷地内に別トイレを整備することを踏まえ、最低限とする。	■直売所のイメージ ■一坪ショップのイメージ
別棟 情報コーナー、 トイレ	・24時間利用可能トイレ基盤については、別棟の通り前面道路交差箇所から算定する。 ・男子トイレは小便器19、大便器6とする。 ・女子トイレは便器22とし、化粧室の空間にゆとりをもたせて設計する。	■女子トイレのイメージ

種別	機能	面積(㎡)	備付
本棟	ホール	138	
	一坪ショップ	114	
	直売所	190	
	男子トイレ	22	小3基 大2基
	女子トイレ	25	4基
	多目的室	107	
	事務室	85	
	バックヤード	51	
	その他(廊下等)	119	
	計	819	
別棟	情報コーナー	52	
	男子トイレ	74	小19基 大6基
	女子トイレ	120	22基
	多目的トイレ	4	1基
	計	250	

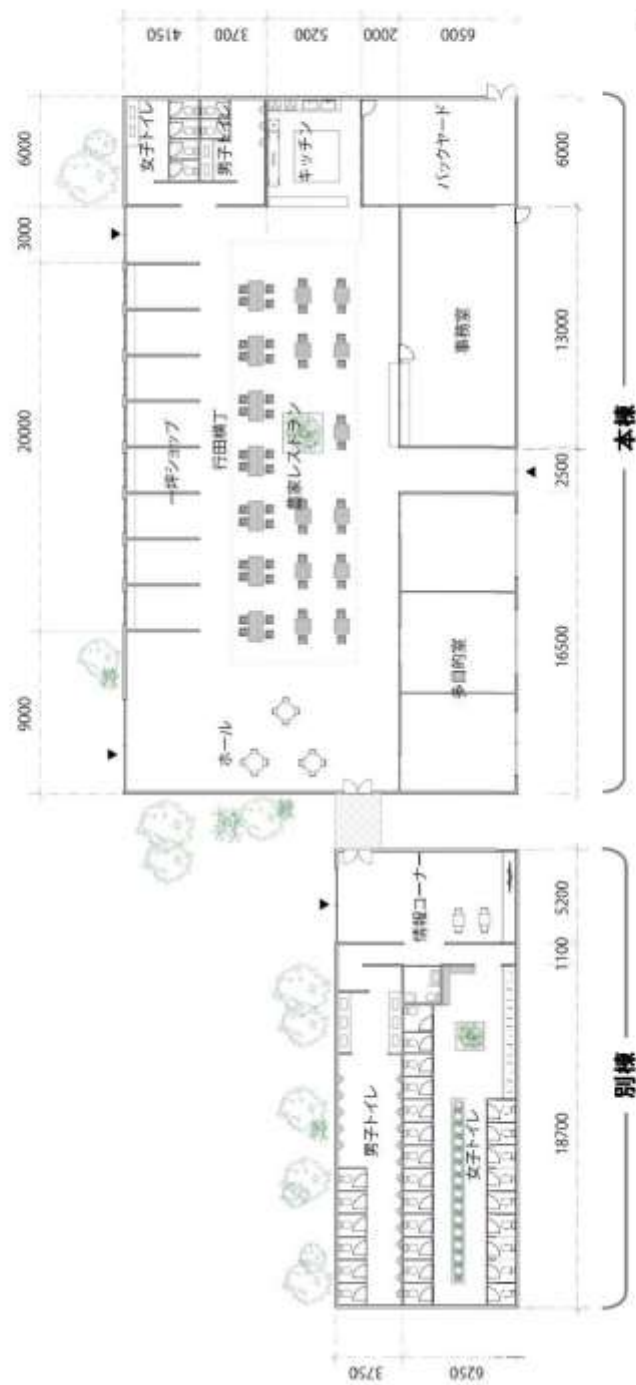




■施設内容（タイプB：中央に農家レストランを設置）

施設機能	施設内容	施設イメージ
<b>本棟</b> 農家レストラン、 行田横丁（一坪ショップ等）、 加工キッチン、多目的室 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家レストランは、地元の特産品を活かしたメニュー作りを目指す。また、建物中央に配置し、開放的な空間とする。</li> <li>・行田横丁は、各一坪ショップの特色を活かしつつ、統一感のある空間とする。</li> <li>・一坪ショップは屋外からのテイクアウトも可能とする。</li> <li>・加工キッチンは、6次産業化への活用も見据えに整備を検討する。</li> <li>・多目的室は可動壁とし、最大100㎡の利用可能な空間とする。</li> <li>・本棟のトイレは、敷地内に別トイレを整備することを踏まえ、最低限とする。</li> </ul>	 <p>■農家レストランのイメージ</p>  <p>■一坪ショップのイメージ</p>
<b>別棟</b> 情報コーナー、 トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間利用可能トイレは、別棟の通り前面道路交通量から算定する。</li> <li>・男子トイレは小建19、大建6とする。</li> <li>・女子トイレは建器22とし、化粧室の空間にゆとりをもたせて設計する。</li> </ul>	 <p>■女子トイレのイメージ</p>





棟	機能	面積(㎡)	備考
本棟	ホール	136	
	一坪ショップ	84	
	農家レストラン	160	50席
	キッチン	30	
	男子トイレ	22	小3基 大2基
	女子トイレ	25	4基
	多目的室	107	
	事務室	85	
	バックヤード	51	
	その他(廊下等)	119	
別棟	計	819	
	情報コーナー	52	
	男子トイレ	74	小19基 大6基
	女子トイレ	120	22基
	多目的トイレ	4	1基
	計	250	



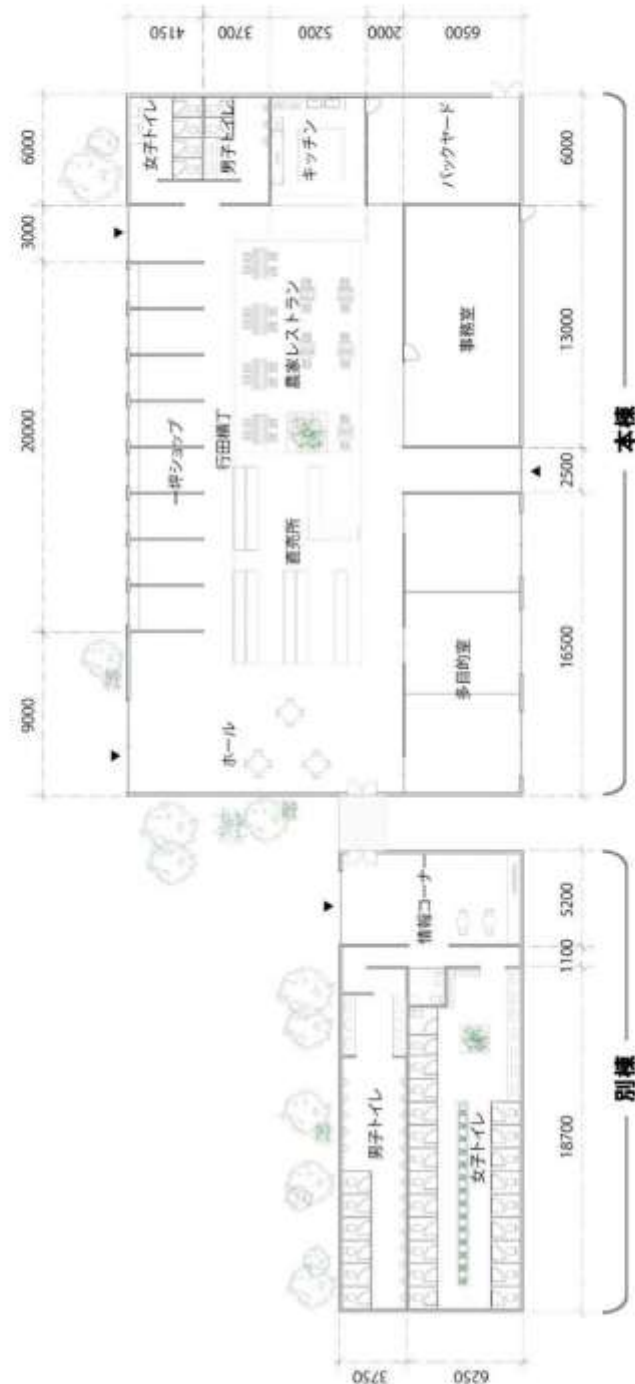
※キッチン、バックヤード、事務室の面積は調整が可能。



■施設内容（タイプC：中央に農産物直売所と農家レストランを設置）

施設機能	施設内容	施設イメージ
<b>本棟</b> 農家レストラン、 行田橋丁一坪ショップ等）、 加工キッチン、多目的室 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物直売所の棚は低く設計することで、店舗内の見通しを良くする。</li> <li>・農家レストランは、地元の特産品を活かしたメニュー作りを努める。また、建物中央に配置し、開放的な空間とする。</li> <li>・行田橋丁は、各一坪ショップの特色を活かしつつ、統一感のある空間とする。</li> <li>・一坪ショップは、型外からのテイクアウトも可能とする。</li> <li>・加工キッチンは、6次産業化への活用も図りえた整備を検討する。</li> <li>・多目的室は可動壁とし、最大100㎡の利用可能な空間とする。</li> <li>・本棟のトイレは、館内に別トイレを整備することを踏まえ、附設とする。</li> </ul>	   
<b>別棟</b> 情報コーナー、 トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間利用可能なトイレ基数については、別紙の通り前面道路交通量から算定する。</li> <li>・男子トイレは小便器19、大便器6とする。</li> <li>・女子トイレは便器22とし、化粧室の空間にゆとりをもたせて設計する。</li> </ul>	

機能	面積(㎡)	備考
ホール	136	
一坪ショップ	84	
直売所	80	
農家レストラン	80	20席
キッチン	30	
男子トイレ	22	小3基 大2基
女子トイレ	25	22基 4基
多目的室	107	
事務室	85	
バックヤード	51	
その他(廊下等)	119	
計	819	
情報コーナー	52	
男子トイレ	74	小19基 大6基
女子トイレ	120	22基
多目的トイレ	4	1基
計	250	



※キッチン、バックヤード、事務室の面積は調整が可能。

## (参考)トイレ器具数の算定式

### i) 立ち寄り人数ピーク時の算定

駐車マス、車種別乗車人員、平均駐車時間より、単位時間あたりの立ち寄り人数ピーク時間を算出します。

	小型	バス	貨物車
駐車マス	250.00	1.00	9.00
車種別乗車人員	2.30	27.00	1.30
ピーク時立ち寄り人数(人)	575.00	27.00	11.70
平均駐車時間(h)	0.25	0.25	0.33
立寄人数(人/h)	2300.00	108.00	35.10

※大型車（バス、貨物車）の駐車マス数割合は国道125号行田バイパスにおけるバス及び貨物車の交通量の割合を基に算出。

※出典：車種別乗車人数：東日本高速道路株式会社 設計要領 休憩用建築施設

**立ち寄り人数(人/h)の合計≒2300+108+35=2443人/時間**

### ii) トイレ基数の算定

男女比率、利用率、便器専用時間より、トイレ器具数を算定する。

立寄人数(人/h)	2443
男女比率	2:1
利用率	80%
便器占有時間(男子)	53秒/人
便器占有時間(女子)	2分/人

【男子】

・(小)  $2443 \times 2/3 \times 0.8 \div 60/0.87519 \approx 19$

・(大)  $19 \times 0.3 \approx 6$

※男子大便器数は、小便器×0.3とする。

【女子】

$2443 \times 1/3 \times 0.8 \times 60/2 \approx 22$

※参考：建築資料研究社 建築設計資料 道の駅

以上より、

**【男子】25器(小：19、大：6) 【女子】22器 【多目的トイレ】1器**

※身障者用トイレは、日本道路公団設計要領 公衆トイレ標準規模表より抜粋

## ■産業交流拠点の概算事業費

## ○建築・開業費

内訳	㎡	坪数	金額（円）	備考
建築	819	247.7	247,700,000	S 造平屋、100 万円／坪数
設備			74,310,000	30 万円／坪数
トイレ・情報	250	75.6	75,600,000	100 万円／坪数
（小計）			397,610,000	
設計費			31,808,800	小計 × 8 %
開業費			15,000,000	小計 × 3 ～ 4 %
合計			444,418,800	

## 行田市産業交流拠点における収支計画

### 1. 収支の算定エリアについて

#### (1) 収支の算定エリアの前提条件

- ・行田市産業交流拠点は、ウェルカムエリア・カルチャー&コミュニティエリア・賑わいエリアと、アグリパークや、医療・福祉施設（クリニックモールや子育て支援施設など）、パスターミナルなどを合わせた、約 83,000 m<sup>2</sup>におよぶ“行田のいいとこまるごと発信拠点”をコンセプトとしています。
- ・各開発や運営に関して、国や県などの各種補助金、民間資本を活用し、産業交流拠点全体での事業収支がプラスとなることを目指します。
- ・商業施設については、ロードサイド型商業施設の誘致も想定しており、賃料収入等で黒字となることを見込んでいます。
- ・公共的な機能部分や農産物直売所、農家レストラン、アグリパーク、福祉施設等は、地域の人達と協調する地域振興が目的であり、運営収支においては、管理運営事業者の負担や行政の協力（各種補助金など）も考慮します。

#### (2) 収支の算定エリア

- ・前述の前提条件のもと、収支の算定は公共での整備も考えられる賑わいエリア（農産物直売所、農家レストラン、一坪ショップ、テイクアウトコーナーなど）のみ算出することとします。
- ・他の施設については、民間整備を想定していることから算出しないものとします。

#### ■収支の算定エリア図



## 2. 収支計画の概要

---

### ■前提条件

- ・『農家レストラン』は、施設管理者（指定管理者または民間事業者）の直営で、地元の人達による“行田の味”を振舞う食堂として想定します。
- ・『行田横丁（一坪ショップ等）』は、行田の特色を活かしたミニ店舗を地元の人達が出店することを想定します。また、地元参入を促すため低賃料とし、行政の協力体制も含め検討します。
- ・各イベントについて、毎週土日開催、週2日で約50万円の売上を想定します。  
また、市内ですでに行われているイベントやお祭りとの連携も想定が可能となります。  
さらに、毎週イベントを行う事によって、「行けば何かしている」と印象づけることにより、来客が増え、施設全体が賑わい、各店舗の売上があがると予想できます。
- ・『多目的室』の賃借について、1室を半日単位で6割稼働として想定します。  
しかし、周辺に貸室のある公民館等がある場合、収入が下がることが想定されます。
- ・本収支計画は、大手事業者の出店ではないため、売上予測を低く想定します。
- ・支出における維持管理費は概算のため、事務費や委託業務費などは下がる可能性もあります。一方で人件費は増える可能性があります。また、賃料や減価償却費は除きます。

以上の前提条件を踏まえ、平面計画図の3タイプ（A・B・C）別に検討を行います。

(1) パターンの収支計画

(1) パターンの収支計画

■事業収支（タイプA）

※直売所にすることで、売上は上がるが手数料ではしストランの粗利と大差ない。



・バターン2は、講家レストランを中心としたバターンとして、事業成歩を算出します。

## 【単位：千円】

※支出には、宝飾品や肉類、野菜などの食品類は入っていない。

・パターン3は、農家レストランを中心に、直営ショッヅ1店のパターンとして、事業収支を算出します。

【單位：千円】

12

・バッテリー4は、バッテリー3をベースとし、レストラウ営業を夜間までとしたパターンとして、事業収支を算出します。

【單位：千円】

[illegible]

「バッテリー」は、農家レストラン（夜間）と農産物直売所を合わせたバッテリーとして、事業収支を算出します。

## 【単位：千円】

収支	科目	内容	金額	比率	備考
収入	行田町民会館	・主催イベントで、行田町民会館・市民会館・市民センターにて開催。 ・24時間営業70%、17時、20時、22時、24時、26時、28時、30時、32時、34時、36時、38時、40時、42時、44時、46時、48時、50時、52時、54時、56時、58時、60時、62時、64時、66時、68時、70時、72時、74時、76時、78時、80時、82時、84時、86時、88時、90時、92時、94時、96時、98時、100時、102時、104時、106時、108時、110時、112時、114時、116時、118時、120時、122時、124時、126時、128時、130時、132時、134時、136時、138時、140時、142時、144時、146時、148時、150時、152時、154時、156時、158時、160時、162時、164時、166時、168時、170時、172時、174時、176時、178時、180時、182時、184時、186時、188時、190時、192時、194時、196時、198時、200時、202時、204時、206時、208時、210時、212時、214時、216時、218時、220時、222時、224時、226時、228時、230時、232時、234時、236時、238時、240時、242時、244時、246時、248時、250時、252時、254時、256時、258時、260時、262時、264時、266時、268時、270時、272時、274時、276時、278時、280時、282時、284時、286時、288時、290時、292時、294時、296時、298時、300時、302時、304時、306時、308時、310時、312時、314時、316時、318時、320時、322時、324時、326時、328時、330時、332時、334時、336時、338時、340時、342時、344時、346時、348時、350時、352時、354時、356時、358時、360時、362時、364時、366時、368時、370時、372時、374時、376時、378時、380時、382時、384時、386時、388時、390時、392時、394時、396時、398時、400時、402時、404時、406時、408時、410時、412時、414時、416時、418時、420時、422時、424時、426時、428時、430時、432時、434時、436時、438時、440時、442時、444時、446時、448時、450時、452時、454時、456時、458時、460時、462時、464時、466時、468時、470時、472時、474時、476時、478時、480時、482時、484時、486時、488時、490時、492時、494時、496時、498時、500時、502時、504時、506時、508時、510時、512時、514時、516時、518時、520時、522時、524時、526時、528時、530時、532時、534時、536時、538時、540時、542時、544時、546時、548時、550時、552時、554時、556時、558時、560時、562時、564時、566時、568時、570時、572時、574時、576時、578時、580時、582時、584時、586時、588時、590時、592時、594時、596時、598時、600時、602時、604時、606時、608時、610時、612時、614時、616時、618時、620時、622時、624時、626時、628時、630時、632時、634時、636時、638時、640時、642時、644時、646時、648時、650時、652時、654時、656時、658時、660時、662時、664時、666時、668時、670時、672時、674時、676時、678時、680時、682時、684時、686時、688時、690時、692時、694時、696時、698時、700時、702時、704時、706時、708時、710時、712時、714時、716時、718時、720時、722時、724時、726時、728時、730時、732時、734時、736時、738時、740時、742時、744時、746時、748時、750時、752時、754時、756時、758時、760時、762時、764時、766時、768時、770時、772時、774時、776時、778時、780時、782時、784時、786時、788時、790時、792時、794時、796時、798時、800時、802時、804時、806時、808時、810時、812時、814時、816時、818時、820時、822時、824時、826時、828時、830時、832時、834時、836時、838時、840時、842時、844時、846時、848時、850時、852時、854時、856時、858時、860時、862時、864時、866時、868時、870時、872時、874時、876時、878時、880時、882時、884時、886時、888時、890時、892時、894時、896時、898時、900時、902時、904時、906時、908時、910時、912時、914時、916時、918時、920時、922時、924時、926時、928時、930時、932時、934時、936時、938時、940時、942時、944時、946時、948時、950時、952時、954時、956時、958時、960時、962時、964時、966時、968時、970時、972時、974時、976時、978時、980時、982時、984時、986時、988時、990時、992時、994時、996時、998時、1000時、1002時、1004時、1006時、1008時、1010時、1012時、1014時、1016時、1018時、1020時、1022時、1024時、1026時、1028時、1030時、1032時、1034時、1036時、1038時、1040時、1042時、1044時、1046時、1048時、1050時、1052時、1054時、1056時、1058時、1060時、1062時、1064時、1066時、1068時、1070時、1072時、1074時、1076時、1078時、1080時、1082時、1084時、1086時、1088時、1090時、1092時、1094時、1096時、1098時、1100時、1102時、1104時、1106時、1108時、1110時、1112時、1114時、1116時、1118時、1120時、1122時、1124時、1126時、1128時、1130時、1132時、1134時、1136時、1138時、1140時、1142時、1144時、1146時、1148時、1150時、1152時、1154時、1156時、1158時、1160時、1162時、1164時、1166時、1168時、1170時、1172時、1174時、1176時、1178時、1180時、1182時、1184時、1186時、1188時、1190時、1192時、1194時、1196時、1198時、1200時、1202時、1204時、1206時、1208時、1210時、1212時、1214時、1216時、1218時、1220時、1222時、1224時、1226時、1228時、1230時、1232時、1234時、1236時、1238時、1240時、1242時、1244時、1246時、1248時、1250時、1252時、1254時、1256時、1258時、1260時、1262時、1264時、1266時、1268時、1270時、1272時、1274時、1276時、1278時、1280時、1282時、1284時、1286時、1288時、1290時、1292時、1294時、1296時、1298時、1300時、1302時、1304時、1306時、1308時、1310時、1312時、1314時、1316時、1318時、1320時、1322時、1324時、1326時、1328時、1330時、1332時、1334時、1336時、1338時、1340時、1342時、1344時、1346時、1348時、1350時、1352時、1354時、1356時、1358時、1360時、1362時、1364時、1366時、1368時、1370時、1372時、1374時、1376時、1378時、1380時、1382時、1384時、1386時、1388時、1390時、1392時、1394時、1396時、1398時、1400時、1402時、1404時、1406時、1408時、1410時、1412時、1414時、1416時、1418時、1420時、1422時、1424時、1426時、1428時、1430時、1432時、1434時、1436時、1438時、1440時、1442時、1444時、1446時、1448時、1450時、1452時、1454時、1456時、1458時、1460時、1462時、1464時、1466時、1468時、1470時、1472時、1474時、1476時、1478時、1480時、1482時、1484時、1486時、1488時、1490時、1492時、1494時、1496時、1498時、1500時、1502時、1504時、1506時、1508時、1510時、1512時、1514時、1516時、1518時、1520時、1522時、1524時、1526時、1528時、1530時、1532時、1534時、1536時、1538時、1540時、1542時、1544時、1546時、1548時、1550時、1552時、1554時、1556時、1558時、1560時、1562時、1564時、1566時、1568時、1570時、1572時、1574時、1576時、1578時、1580時、1582時、1584時、1586時、1588時、1590時、1592時、1594時、1596時、1598時、1600時、1602時、1604時、1606時、1608時、1610時、1612時、1614時、1616時、1618時、1620時、1622時、1624時、1626時、1628時、1630時、1632時、1634時、1636時、1638時、1640時、1642時、1644時、1646時、1648時、1650時、1652時、1654時、1656時、1658時、1660時、1662時、1664時、1666時、1668時、1670時、1672時、1674時、1676時、1678時、1680時、1682時、1684時、1686時、1688時、1690時、1692時、1694時、1696時、1698時、1700時、1702時、1704時、1706時、1708時、1710時、1712時、1714時、1716時、1718時、1720時、1722時、1724時、1726時、1728時、1730時、1732時、1734時、1736時、1738時、1740時、1742時、1744時、1746時、1748時、1750時、1752時、1754時、1756時、1758時、1760時、1762時、1764時、1766時、1768時、1770時、1772時、1774時、1776時、1778時、1780時、1782時、1784時、1786時、1788時、1790時、1792時、1794時、1796時、1798時、1800時、1802時、1804時、1806時、1808時、1810時、1812時、1814時、1816時、1818時、1820時、1822時、1824時、1826時、1828時、1830時、1832時、1834時、1836時、1838時、1840時、1842時、1844時、1846時、1848時、1850時、1852時、1854時、1856時、1858時、1860時、1862時、1864時、1866時、1868時、1870時、1872時、1874時、1876時、1878時、1880時、1882時、1884時、1886時、1888時、1890時、1892時、1894時、1896時、1898時、1900時、1902時、1904時、1906時、1908時、1910時、1912時、1914時、1916時、1918時、1920時、1922時、1924時、1926時、1928時、1930時、1932時、1934時、1936時、1938時、1940時、1942時、1944時、1946時、1948時、1950時、1952時、1954時、1956時、1958時、1960時、1962時、1964時、1966時、1968時、1970時、1972時、1974時、1976時、1978時、1980時、1982時、1984時、1986時、1988時、1990時、1992時、1994時、1996時、1998時、2000時、2002時、2004時、2006時、2008時、2010時、2012時、2014時、2016時、2018時、2020時、2022時、2024時、2026時、2028時、2030時、2032時、2034時、2036時、2038時、2040時、2042時、2044時、2046時、2048時、2050時、2052時、2054時、2056時、2058時、2060時、2062時、2064時、2066時、2068時、2070時、2072時、2074時、2076時、2078時、2080時、2082時、2084時、2086時、2088時、2090時、2092時、2094時、2096時、2098時、2100時、2102時、2104時、2106時、2108時、2110時、2112時、2114時、2116時、2118時、2120時、2122時、2124時、2126時、2128時、2130時、2132時、2134時、2136時、2138時、2140時、2142時、2144時、2146時、2148時、2150時、2152時、2154時、2156時、2158時、2160時、2162時、2164時、2166時、2168時、2170時、2172時、2174時、2176時、2178時、2180時、2182時、2184時、2186時、2188時、2190時、2192時、2194時、2196時、2198時、2200時、2202時、2204時、2206時、2208時、2210時、2212時、2214時、2216時、2218時、2220時、2222時、2224時、2226時、2228時、2230時、2232時、2234時、2236時、2238時、2240時、2242時、2244時、2246時、2248時、2250時、2252時、2254時、2256時、2258時、2260時、2262時、2264時、2266時、2268時、2270時、2272時、2274時、2276時、2278時、2280時、2282時、2284時、2286時、2288時、2290時、2292時、2294時、2296時、2298時、2300時、2302時、2304時、2306時、2308時、2310時、2312時、2314時、2316時、2318時、2320時、2322時、2324時、2326時、2328時、2330時、2332時、2334時、2336時、2338時、2340時、2342時、2344時、2346時、2348時、2350時、2352時、2354時、2356時、2358時、2360時、2362時、2364時、2366時、2368時、2370時、2372時、2374時、2376時、2378時、2380時、2382時、2384時、2386時、2388時、2390時、2392時、2394時、2396時、2398時、2400時、2402時、2404時、2406時、2408時、2410時、2412時、2414時、2416時、2418時、2420時、2422時、2424時、2426時、2428時、2430時、2432時、2434時、2436時、2438時、2440時、2442時、2444時、2446時、2448時、2450時、2452時、2454時、2456時、2458時、2460時、2462時、2464時、2466時、2468時、2470時、2472時、2474時、2476時、2478時、2480時、2482時、2484時、2486時、2488時、2490時、2492時、2494時、2496時、2498時、2500時、2502時、2504時、2506時、2508時、2510時、2512時、2514時、2516時、2518時、2520時、2522時、2524時、2526時、2528時、2530時、2532時、2534時、2536時、2538時、2540時、2542時、2544時、2546時、2548時、2550時、2552時、2554時、2556時、2558時、2560時、2562時、2564時、2566時、2568時、2570時、2572時、2574時、2576時、2578時、2580時、2582時、2584時、2586時、2588時、2590時、2592時、2594時、2596時、2598時、2600時、2602時、2604時、2606時、2608時、2610時、2612時、2614時、2616時、2618時、2620時、2622時、2624時、2626時、2628時、2630時、2632時、2634時、2636時、2638時、2640時、2642時、2644時、2646時、2648時、2650時、2652時、2654時、2656時、2658時、2660時、2662時、2664時、2666時、2668時、2670時、2672時、2674時、2676時、2678時、2680時、2682時、2684時、2686時、2688時、2690時、2692時、2694時、2696時、2698時、2700時、2702時、2704時、2706時、2708時、2710時、2712時、2714時、2716時、2718時、2720時、2722時、2724時、2726時、2728時、2730時、2732時、2734時、2736時、2738時、2740時、2742時、2744時、2746時、2748時、2750時、2752時、2754時、2756時、2758時、2760時、2762時、2764時、2766時、2768時、2770時、2772時、2774時、2776時、2778時、2780時、2782時、2784時、2786時、2788時、2790時、2792時、2794時、2796時、2798時、2800時、2802時、2804時、2806時、2808時、2810時、2812時、2814時、2816時、2818時、2820時、2822時、2824時、2826時、2828時、2830時、2832時、2834時、2836時、2838時、2840時、2842時、2844時、2846時、2848時、2850時、2852時、2854時、2856時、2858時、2860時、2862時、2864時、2866時、2868時、2870時、2872時、2874時、2876時、2878時、2880時、2882時、2884時、2886時、2888時、2890時、2892時、2894時、2896時、2898時、2900時、2902時、2904時、2906時、2908時、2910時、2912時、2914時、2916時、2918時、2920時、2922時、2924時、2926時、2928時、2930時、2932時、2934時、2936時、2938時、2940時、2942時、2944時、2946時、2948時、2950時、2952時、2954時、2956時、2958時、2960時、2962時、2964時、2966時、2968時、2970時、2972時、2974時、2976時、2978時、2980時、2982時、2984時、2986時、2988時、2990時、2992時、2994時、2996時、2998時、3000時、3002時、3004時、3006時、3008時、3010時、3012時、3014時、3016時、3018時、3020時、3022時、3024時、3026時、3028時、3030時、3032時、3034時、3036時、3038時、3040時、3042時、3044時、3046時、3048時、3050時、3052時、3054時、3056時、3058時、3060時、3062時、3064時、3066時、3068時、3070時、3072時、3074時、3076時、3078時、3080時、3082時、3084時、3086時、3088時、3090時、3092時、3094時、3096時、3098時、3100時、3102時、3104時、3106時、3108時、3110時、3112時、3114時、3116時、3118時、3120時、3122時、3124時、3126時、3128時、3130時、3132時、3134時、3136時、3138時、3140時、3142時、3144時、3146時、3148時、3150時、3152時、3154時、3156時、3158時、3160時、3162時、3164時、3166時、3168時、3170時、3172時、3174時、3176時、3178時、3180時、3182時、3184時、3186時、3188時、3190時、3192時、3194時、3196時、3198時、3200時、3202時、3204時、3206時、3208時、3210時、3212時、3214時、3216時、3218時、3220時、3222時、3224時、3226時、3228時、3230時、3232時、3234時、3236時、3238時、3240時、3242時、3244時、3246時、3248時、3250時、3252時、3254時、3256時、3258時、3260時、3262時、3264時、3266時、3268時、3270時、3272時、3274時、3276時、3278時、3280時、3282時、3284時、3286時、3288時、3290時、3292時、3294時、3296時、3298時、3300時、3302時、3304時、3306時、3308時、3310時、3312時、3314時、3316時、3318時、3320時、3322時、3324時、3326時、3328時、3330時、3332時、3334時、3336時、3338時、3340時、3342時、3344時、3346時、3348時、3350時、3352時、3354時、3356時、3358時、3360時、3362時、3364時、3366時、3368時、3370時、3372時、3374時、3376時、3378時、3380時、3382時、3384時、3386時、3388時、3390時、3392時、3394時、3396時、3398時、3400時、3402時、3404時、3406時、3408時、3410時、3412時、3414時、3416時、3418時、3420時、3422時、3424時、3426時、3428時、3430時、3432時、3434時、3436時、3438時、3440時、3442時、3444時、3446時、3448時、3450時、3452時、3454時、3456時、3458時、3460時、3462時、3464時、3466時、3468時、3470時、3472時、3474時、3476時、3478時、3480時、3482時、3484時、3486時、3488時、3490時、3492時、3494時、3496時、3498時、3500時、3502時、3504時、3506時、3508時、3510時、3512時、3514時、3516時、3518時、3520時、3522時、3524時、3526時、3528時、3530時、3532時、3534時、3536時、3538時、3540時、3542時、3544時、3546時、3548時、3550時、3552時、3554時、3556時、3558時、3560時、3562時、3564時、3566時、3568時、3570時、3572時、3574時、3576時、3578時、3580時、3582時、3584時、3586時、3588時、3590時、3592時、3594時、3596時、3598時、3600時、3602時、3604時、3606時、3608時、3610時、3612時、3614時、3616時、3618時、3620時、3622時、3624時、3626時、3628時、3630時、3632時、3634時、3636時、3638時、3640時、3642時、3644時、3646時、3648時、3650時、3652時、3654時、3656時、3658時、3660時、3662時、3664時、3666時、3668時、3670時、3672時、3674時、3676時、3678時、3680時、3682時、3684時、3686時、3688時、3690時、3692時、3694時、3696時、3698時、3700時、3702時、3704時、3706時、3708時、3710時、3712時、3714時、3716時、3718時、3720時、3722時、3724時、3726時、3728時、3730時、3732時、3734時、3736時、3738時、3740時、3742時、3744時、3746時、3748時、3750時、3752時、3754時、3756時、3758時、3760時、3762時、3764時、3766時、3768時、3770時、3772時、3774時、3776時、3778時、3780時、3782時、3784時、3786時、3788時、3790時、3792時、3794時、3796時、3798時、3800時、3802時、3804時、3806時、3808時、3810時、3812時、3814時、3816時、3818時、3820時、3822時、3824時、3826時、3828時、3830時、3832時、3834時、3836時、3838時、3840時、3842時、3844時、3846時、3848時、3850時、3852時、3854時、3856時、3858時、3860時、3862時、3864時、3866時、3868時、3870時、3872時、3874時、3876時、3878時、3880時、3882時、3884時、3886時、3888時、3890時、3892時、3894時、3896時、3898時、3900時、3902時、3904時、3906時、3908時、3910時、3912時、3914時、3916時、3918時、3920時、3922時、3924時、3926時、3928時、3930時、3932時、3934時、3936時、3938時、3940時、3942時、3944時、3946時、3948時、3950時、3952時、3954時、3956時、3958時、3960時、3962時、3964時、3966時、3968時、3970時、3972時、3974時、3976時、3978時、3980時、3982時、3984時、3986時、3988時、3990時、3992時、3994時、3996時、3998時、4000時、4002時、4004時、4006時、4008時、4010時、4012時、4014時、4016時、4018時、4020時、4022時、4024時、4026時、4028時、4030時、4032時、4034時、4036時、4038時、4040時、4042時、4044時、4046時、4048時、4050時、4052時、4054時、4056時、4058時、4060時、4062時、4064時、4066時、4068時、4070時、4072時、4074時、4076時、4078時、4080時、4082時、4084時、4086時、4088時、4090時、4092時、4094時、4096時、4098時、4100時、4102時、4104時、4106時、4108時、4110時、4112時、4114時、4116時、4118時、4120時、4122時、4124時、4126時、4128時、4130時、4132時、4134時、4136時、4138時、4140時、4142時、4144時、4146時、4148時、4150時、4152時、4154時、4156時、4158時、4160時、4162時、4164時、4166時、4168時、4170時、4172時、4174時、4176時、4178時、4180時、4182時、4184時、4186時、4188時、4190時、4192時、4194時、4196時、4198時、4200時、4202時、4204時、4206時、4208時、4210時、4212時、4214時、4216時、4218時、4220時、4222時、4224時、4226時、4228時、4230時、4232時、4234時、4236時、4238時、4240時、4242時、4244時、4246時、4248時、4250時、4252時、4254時、4256時、4258時、4260時、4262時、4264時、4266時、4268時、4270時、4272時、4274時、4276時、4278時、4280時、4282時、4284時、4286時、4288時、			

※レストラン、直売所の両方を行うタイプ、施設総面積は変えないため、それぞれ80㎡づつと狭くなる。

## ⑮第8回会議録

会 議 の 名 称	第8回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成29年1月30日（月） 開会：18時00分 閉会：19時30分
開 催 場 所	産業文化会館2階第2会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 長谷川浩（農業従事者） 市川ひろみ（星宮小学校PTA） 大澤和美（長野中学校PTA） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 太田 彰（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 告 広子（公募市民） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）
欠 席 委 員 氏 名	小池利昌（行田市商店会連合会） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：水嶋、福島、野沢
会 議 内 容	・議 事 1）行田市産業交流拠点整備基本計画 素案の確認について ・その他
会 議 資 料	・次第 ・（資料1）行田市産業交流拠点整備基本計画
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者3名
発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）

事務局	開会 資料確認
チェックイン	委員からの近況報告
事務局	議題（１）「行田市産業交流拠点整備基本計画（素案）」資料説明。
小林委員長	１～３章は基本構想等の内容となる。事前に目を通していただいた中で、ご意見いただきたい。
西田委員	来年度に予定している、民間業者と打ち合わせの意図は募集になるのか。
事務局	まだ募集ではない。参入できそうな民間企業に基本計画を見てもらい、市で考えている内容で、事業者側が賛同できるかどうかを伺うもので、サウンディング調査のようなものではない。
西田委員	実際運営していく人に意見をいただくためのものか。
事務局	会社によって全てできるところと、部分的にできるところがある。どこの会社がどの程度できるかを確認するものである。
長谷川委員	パブコメの内容を検討委員は見られるのか。
事務局	パブコメ期間は２月６日～１７日まで設けている。パブコメに出された意見は集約して次回の検討委員会でお配りしたい。そのときに見ていただく予定である。
泉委員	１２１頁、ステップでスケジュールが書いてあるが、大まかな期間は話せるか。それぞれのステップ期間のスケジュール感はあるか。
事務局	開業目標は平成３５年度である。来年度以降の調整によって変わってくるので、年度を入れることは避けている。
大篠委員	パブコメで寄せられた意見は、どのように対応するのか。意見を出すだけか。意見によって何か修正をするのか。
事務局	いただいた意見は事務局でまとめ、反映出来るものは反映する。趣旨にそぐわないものは参考とさせていただく。神奈川県や千葉県のように、５０個ぐらいになったら検討委員会の中では一覧をお見せするだけになると思う。その後、事務局で対応という形を取らせていただく。
長谷川委員	素案は全部ネットで閲覧できるのか。
事務局	インターネットで全て公開予定である。現在インターネットで全ての資料、議事録を公開中である。
長谷川委員	基本計画はすごい量である。
事務局	当初は議事録と資料は入れる予定ではなかったが、検討経緯が分かるようにすべて基本計画に載せている。
太田委員	パブコメは、当初我々が勘違いしたように、多種多様の意見が出ると思う。その辺はどう考えているのか。
事務局	いただいた意見は全て確認する。対応については、意見によって異なる。
太田委員	全部読んだ。よくできている。しかし、全体像のイメージが沸いてこない。建物のイメージ図を入れてはどうか。



事務局	検討委員会では、参考にゾーニング図や動線図等を示したが、図面を見せると決定事項という認識が先行してしまうので、文章で示している。図やゾーニングを入れた方がよいという意見もあると思うが、今申し上げた通りとしたい。
太田委員	整備スケジュールについて、確定出来ることはないか。
事務局	確定出来る段階なのがステップ3の実施設計のときとなる。この時にはゾーニングも施設も全て確定し、工事や完成までの詳細も示せる。
太田委員	それは何年度の計画か。
事務局	35年度の目標をもって、この基本計画で民間企業に賛同していただけたところを探す。現在すでに営業に来る会社もある。相談し可能性を詰めていく。
太田委員	パブコメは、法人、個人関係ないか。
事務局	ない。行田市に関係する方であれば自由にコメントできる。
大篠委員	パブコメの資料は、検討委員会として出すのか。市として出すのか。
事務局	市として出す。委員会は検討委員会であり、策定委員会ではないのため。
伊藤委員	施設管理の方針について、全体像として指定管理者とPFIの併記という形になるかと思うが、最終的には議会議論の結果、策定するという事でよいのか。
事務局	基本計画は議決を得ない。PFI等の事業方式決定の際は、議会承認を得る形となる。
伊藤委員	施設全体のイメージは指定管理かと思っていたが。
事務局	まだ決定ではない。
伊藤委員	望ましい運営管理手法について、内容によって変えている。生活交流エリア等で、ウェルネスサポート施設、市役所窓口、防災備蓄センター等がそれぞれ分かれている。このあたりは問題ないのか。先行事例等にならって可能性を出しているのか。
事務局	そうである。
伊藤委員	ウェルネスサポート施設は、民営の場合、事業者が集まるかどうかという課題がある。民営だけでよいのかということで質問させていただいた。今後検討していただきたい。
小林委員長	今回お示しした運営管理方針は素案中の素案である。もう少し詳しくした方がよいのではということで、現在修正しており、文章を加えるなどして、より分析的に分かりやすくしているところである。
伊藤委員	運営部分は、市民が気になる費用負担もあるので、丁寧に書いた方がよいと思う。
小林委員長	パブコメまでには、改定後の内容とする。委員の皆さまにもお示しする。 基本計画としてはよい内容になっていると思う。しっかりと煮詰めてやっている。皆様のご協力のおかげである。最終的にパブコメ等も反映する。家に帰って気づいたこと等があれば、お知らせいただきたい。
西田委員	7ページの（ア）核となる施設の整備、5行目から下はビジョンについての記載

	であるが、はっきりと現状の課題がこうなので、こうした方がよい、このような形にしていくといったビジョンを盛り込んだ方がよいのではないかと。
事務局	こちらは平成 25 年 3 月に作成した行田市産業振興ビジョンの抜粋である。政策として、核となる施設の整備について示されており、これを進めるために、今回産業交流拠点を改めてクローズアップして、調査研究と基本構想として市の内部でまとめ、市民の方々の意見を交えながら、基本計画を策定してそれを持って示していくものである。
西田委員	ページの割振りの問題であり、そのあたりの内容を分かりやすくまとめて説明をしていただければと思う。
事務局	産業振興ビジョンはこの委員会では検討していない。
西田委員	言葉の中で雇用促進や産業の創造が出てきたらよいという話だったと思う。全てを通した現状とビジョンがあるが、なんの為にするのか、そこを分かりやすくするか、説明をして欲しい。
事務局	検討させていただく。
小林委員長	ここに記載しているのは、産業振興ビジョン策定時の現状と計画、ビジョンである。
西田委員	具体的に書いてあるので、割合の図は後ろに持っていき図参照とした方が、分かりやすいのかもしれない。ビジョンは大切だと思う。
事務局	参考にさせていただく。
太田委員	現在、道の駅は 1100 以上ある。そのうち 6 割 5 分が山間部。残りは平野部。行田市は平野部になる。防災の視点に力を入れてほしい。直下型地震が遠からず起きる確率が高い。一時避難所等に役立てるような道の駅を作ってほしい。防災と医療。これから高齢者も増える。若い人が減る。地震が起きると再生が中々難しくなる。その場合に道の駅において、避難誘導等がうまく活用でき、施設づくりに生かされればよい。防災とは言葉だけ出て、具体には書いてないと思うが。
事務局	109 頁に防災機能について盛り込んである。
太田委員	防災施設によっては、事業者候補も変わると思う。地震に対応した建物を検討いただきたい。
小林委員長	基本計画なので、努めます、想定しますという形になる。実施計画等で具体的に出てくる。
太田委員	防災は強く推したい。
大野委員	99 ページ、テーマで「未来を体験してもらおう」とあるが、具体的にどこの部分のイメージしているのか。
事務局	具体的なものはないので、事業者との調整の中で決定していく。
大野委員	夢まつりなどで、「未来」をテーマとしたものをやってもよいと思った。
西田委員	17 ページ、市内循環バス。現状として 1 日に 4 便しかない。6 路線が運営しているとあるが、1 日 4 便なので、将来年配者がバスで来られるビジョンもあれば

	よい。
事務局	<p>路線図について、観光拠点循環、南大通りが一番多く 1 時間に 2～3 本出ている。所管課から現在見直しをしている段階であると聞いている。</p> <p>将来的な公共交通に関しては 102 ページのバスターミナルで、整備方針として所管課と調整し、市内循環バス、デマンド交通を盛り込んだものに修正する。</p>
伊藤委員	<p>計画が具体化する中で検討願うが、101 ページあたり、ウェルカムエリア、情報発信機能を考えてもらいたい。情報発信拠点がコンセプトにあるが、行田の中の様々な産業を結びつけ活性化させることが念頭にあったと思う。そういった時に新しい商品開発がここに入る。道の駅だけでなく、事業として成り立つために、より多くの情報としてより広く届く仕組みが必要となる。独立して商品が売れることが重要。そのためにマーケティングに繋がる広報活動がないと広がらない。訴求力に関する機能をどうするのか。道の駅だけではなく、その後の事業展開を考えた時の位置付けをどうするのか検討していただきたい。</p>
大野委員	<p>地域の商品をよりいろいろな地方に対して広めるために、広報戦略につながる提携を結んでほしい。</p>
大橋委員	<p>他の道の駅と比べた時に、この道の駅の何が違うのかとパッと見て分かるかという視点が必要と考える。行田らしさが伝わる道の駅であるということ。エリアの考え方から行田らしさを伝えていくのか、どのエリアが何と繋がるものか、何をテーマに接続していくのかももっと盛り込まれればと思う。今のままでは伝わりにくいのではないかと。一般に公開する前に繋がればいい。それが広報にも繋がるのではないかと考える。</p> <p>販売路線の拡大が重要。インターネットを活用し、HP や販売サイトなど作り見せていくなど、そういったことをやっていけば、今までやってなかったものが 6 次産業に繋がってくる。</p>
小林委員長	そのあたりも検討させていただく。
事務局	事務連絡。

## 第8回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会

### 次 第

日時:平成29年1月30日(月)

午後6時00分～

場所:産業文化会館2階第2会議  
室

1. 開 会
2. チェックイン (委員からの近況報告ひとこと)
3. 議 事
  - 1) 行田市産業交流拠点整備基本計画 素案の確認について
4. その他
5. チェックアウト (本日の委員会を受けて感想)
6. 閉 会

## ⑰第9回議事録

会 議 の 名 称	第9回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成29年2月23日（木） 開会：18時00分 閉会：19時00分
開 催 場 所	産業文化会館2階 2B会議室
出 席 委 員 氏 名	小林乙三（行田市環境経済部長） 飯嶋隆夫（行田フライ・ゼリーフライ友の会） 大野真理（（公社）行田青年会議所） 戸塚昌利（NPO法人 行田観光物産会） 町田 光（NPO法人 魅力創造倶楽部） 西田信子（行田軽トラ朝市実行委員会） 堀口貴子（星河地区自治会連合会） 市川ひろみ（星宮小学校PTA） 太田 彰（公募市民） 吉田明夫（環境経済部農政課長） 岩田樹一良（総合政策部企画政策課長）代理
欠 席 委 員 氏 名	小池利昌（行田市商店会連合会） 泉 達也（関東道の駅連絡会） 大橋菜央（リクルートじゃらん統括編集部） 長谷川浩（農業従事者） 大澤和美（長野中学校PTA） 伊藤徹哉（立正大学地球環境科学部） 大篠一也（埼玉県行田県土整備事務所） 告 広子（公募市民）
事 務 局	商工観光課：柿沼産業振興推進幹、赤城主事、西山主事 ランドブレイン株式会社：石村、福島、野沢
会 議 内 容	・議 事 1) パブリックコメントの結果について 2) 産業交流拠点整備事業の今後について ・その他
会 議 資 料	・次第 ・（資料1）パブリックコメント意見一覧 ・（資料2）産業交流拠点整備事業の今後について
そ の 他 必 要 事 項	・傍聴者0名
発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）

事務局	開会 資料確認
チェックイン	委員からの近況報告
小林委員長	パブリックコメントについて説明をお願いします。
事務局	(資料1)「パブリックコメント意見一覧」について説明。
町田委員	行政が経営をするという考えのものと意見である。今回は行政が主体となるのはトイレ、駐車場であり、その他は民間もしくは指定管理での経営をしていく。市民の税金がそこにつぎ込まれるという誤解がある。市民に誤解がないように細やかに説明する必要があるのではないかと。
西田委員	道の駅がポツンとできるだけではなく、それぞれの施設ごとに管理運営も多岐にわたる。パブリックコメントの期間では理解しづらかったのかと思う。ほとんどが否定的意見である。市民が得るものや、その為のビジョンや、将来性を感じられる魅力が伝わっていないように思った。市民にもっと道の駅の魅力を伝えるべきである。
堀口委員	総合公園に防災施設があるからいらないとのことだが、道の駅にも市民以外が使用できる場所として必要である。
町田委員	この検討に関するHPをみんな見ている。見ている方は、道の駅というと観光地のイメージをしている。
太田委員	<p>私は会議の始めの頃は何がなんだか分からなかった。そのため、書いた方の気持ち分かる。実際何もない状態である。「道の駅」という言葉だけが独り歩きしている。パブリックコメントも必然的にそうなると思う。</p> <p>知り合いや友達、なぜあそこに作るのかと言う。住居が埼玉地区なので遠い。17号バイパスの方がよい土地があるのではないかと、熊谷市の道の駅の近くに作って大丈夫かという意見もある。</p> <p>しかし、やり方によっては、近くてもその分お客さんが来るのでやり方次第である。</p>
西田委員	<p>市では予算組みはしていないとのことであるが、市で母体を作るのであれば、ここまで基本を作ったのだから、最終的には市はこれくらいの予算が必要であり、収益費や管理費といった数字もコンサルティング会社に出してもらった方がよいのではないかと。</p> <p>この意見を伝える時、世代、男女、地域の人に合わせたものにしたと思うが、核となる魅力を明確にした方がよいのではと思った。魅力ある施設が予定される中、ここの核となる一番の売りを明確に打ち出すべきではないか。お金がかかったものではなくても、農業体験ができるなど。売りを明確にすべきだと思う。</p>
飯嶋委員	総合公園との連携の利用見込みだが、年間の公園利用者が約30万人、飲食利用したい市外利用者が13パーセントとなっているが、実際はこの1/10



	である。29万人は行田の人間がほとんどである。
事務局	6～7割は市民である。総合公園は全国規模の大会もしている。
飯嶋委員	市内の人は飲食施設を利用せず、ほとんど持参する。市外の人はお金を使うが、平日は皆無である。1年間総合公園内で営業したが、平日は赤字である。土日大会があると、3万～4万円の売上という現状なので、見込みということだが、数字は全然違う。
西田委員	どんな風にやればよいと思うか。
飯嶋委員	土日祝日だけということを検討してはよいのではないかと。それに伴ってテナントも安くする。人件費を考えていない。従業員を使うと赤字になる。道の駅は別かもしれないが、総合公園に来る見込みは違うように感じる。
西田委員	総合公園との融合という意見か。
町田委員	<p>道の駅に来る人は総合公園に行かない。公園の利用者は可能性がある。野球場は高校野球の予選ができないので、それをできるようにするなど。産業交流拠点ができることによって周りが活性化し、近隣が事業を起こしていくことが本来の目的と考えた方がよいのではないかと。</p> <p>今の状態から考えると、集客は難しい。防災施設、子育て支援施設等、人が呼べる業態がいくつ来るか。道の駅という形に行田の物産が入ったときに、人が流れ込んでくるのか。実際に行田の物産館を作っても人は来ない。</p> <p>千葉の小学校が道の駅になっているが、過疎化していることを利用してプラスに転じている。行田の場合、人が来る立地ではない。産業交流拠点を整備する事で、周りが波及していくことが重要である。平成35年完成付近からどう周りを動かせるか。そういった連携が出来て初めて成功する。連携や、周りをどう活性化するかが大切である。</p>
小林委員長	基本計画が出来上がり、公開する。基本計画を変更するのかというのが本日の趣旨である。出てきたパブリックコメントによって素案を変更することはないと考えている。この基本計画で了承いただければ、完成ということになる。素案について変更ないということで問題ないか。
全委員	異議なし。
小林委員長	それでは続いて議事2、今後についての説明をお願いします。
事務局	(資料2)「産業交流拠点整備事業の今後について」説明。
小林委員長	意見はあるか。
太田委員	今後、ステップ1～5までの時期は決定しているのか。
事務局	ステップ5の平成35年オープンは決定している。その間は民間企業が持つてくるものによって中身がずれてくるので、未決定とさせていただいた。
町田委員	前倒しの可能性はあるのか。
事務局	民間が小さなことから始めるということになればあり得るが、用地確保や県との調整があり、事務的手続きに時間がかかるので、早くとも平成35年にな

	る。
小林委員長	<p>民間企業と直接話をした。HP で検討委員会の資料等も見っていて、ぜひ参加したいという話も聞いている。</p> <p>各ステップについて、はっきりした時期が言えない。土地がらみ、開発行為の法手続きなど、やることがたくさんある。今のところ事業展開のたたき台としてであり、実現するには土地が必要、法律的な制約の調整が必要となる。土地の確保について、10ha 欲しいといって準備できるわけではない。当初の段階で何 ha、と決まってしまう。約30ha までは用意できると想定している。〇〇を作るから何 ha 必要という理由が必要となる。必要面積が明らかにならないと用地も確保できない。</p> <p>市が入り込み、市が責任をもって土地の調整をするので民間も入ってきたくなる。企業として採算性がとれるということで営業の方が来ていると思う。</p>
町田委員	<p>今1丁目1番地は存在しない。1丁目1番地を作らなくてはならない。</p> <p>ショッピングモールは、どこが出るかによって、くつついてくる業者が違う。また、一つの街になる。インターから遠いとかではなく、そこに集客拠点を作るという話があると、企業は見ている。</p> <p>実際、中で撤退していくのは民間であり、くつついてきた飲食店がなくなっても新しい企業が入ってきて、景色が変わるので活性化にはよい。</p> <p>ただ整備までに年数がかかりすぎる。</p>
小林委員長	頑張って詰めても1年程度しか縮まらない。
町田委員	羽生市のカインズホームはすぐできる。羽生市は乱立しすぎていると聞く。
小林委員長	<p>今後については、最終は平成35年、中間段階はまだ不明確である。</p> <p>平成29年度、拠点の具体的な予算はとってない。これから民間と調整しながら、予算が動くのは平成30年からとなるかと思う。基本計画が大切である。</p> <p>全9回、これで終わりとなる。</p> <p>今後基本計画をもとに進めていきたい。検討委員会の議事については以上となる。</p>
チェックアウト	委員から本委員会の感想報告。

## 第9回行田市産業交流拠点整備基本計画検討委員会 次 第

日時：平成29年2月23日（木）

午後6時00分～

場所：産業文化会館2階 2B会議室

1. 開 会
2. チェックイン（委員からの近況報告ひとこと）
3. 議 事
  - 1) パブリックコメントの結果について
  - 2) 産業交流拠点整備事業の今後について
4. チェックアウト（本日の委員会を受けて感想）
5. 閉 会

## 資 料

### 産業交流拠点整備事業の今後について

今後の産業交流拠点整備事業については、関係機関との調整を行いながら、サウンディング市場調査、民間事業者からの事業計画案の公募を行います。

また、行政と民間事業者が連携しながら、設計・建設に取り組むとともに、市内の各種団体や農業者等と連携して開業に向けた管理運営体制を検討します。

開業は平成35年度を目標とし、段階的な整備を行ってまいります。

整備スケジュール	
S t e p 1	関係機関との調整
S t e p 2	サウンディング市場調査 事業計画案（計画付事業予定者）公募
S t e p 3	用地の確保 施設詳細決定 実施設計 管理運営計画の策定
S t e p 4	建設 運営準備
S t e p 5	オープン